

琵琶湖博物館 年報

第 28 号

2023 年度（令和 5 年度）

滋賀県立琵琶湖博物館

2024 年（令和 6 年）7 月

目次

ごあいさつ	1
I 博物館活動の概要	
1 研究・調査活動	
1. 研究推進	2
2. 研究発信	8
3. 研究交流	12
4. 研究部活動	15
2 交流活動	
1. 利用者主体の事業	17
2. 一般利用者へのサービス事業	44
3. 学校連携	49
4. 地域との交流事業	52
5. 琵琶湖博物館環境学習センター	57
3 情報発信・広報PR活動	
1. インターネットを利用した館外への情報提供	60
2. 情報システムの整備・更新	63
3. デジタルサイネージ	64
4. 印刷物一覧	65
5. 広報PR活動	65
4 資料整備活動	
1. 収蔵資料	87
2. 資料の活用	93
3. 資料の保管	99
5 展示	
1. 展示活動	101
2. 展示交流	121
6 館外連携	
1. 博物館連携	123
2. 企業連携	124
3. 研修・実習	124
4. 共催事業	126
5. 地域発見！参加型移動博物館	127

II 利用状況

1. 令和5年度入館者数	128
2. 来館者アンケート調査	130
3. 利用者用施設の整備	138

III 組織および運営

1 組織	139
2 職員	140
3 決算	143
4 寄付／びわ博サポーター	143
5 滋賀県立琵琶湖博物館協議会	144
6 企画・計画等	144

ごあいさつ

2023年度は、前年度の2月に発生した水族展示室のビワコオオナマズ水槽の破損事故をうけ、その原因究明と安全確認から始まりました。事故後設置された第三者委員会による調査が行われ、9月には報告書を提出していただきました。並行して、展示室の水槽の安全確認を行い、補修の必要性が認められた複数の水槽でアクリルの交換を行いました。また、来館される皆さまには、以前と同じように水族展示を楽しんでいただけるよう、事故前に展示していた生き物は全種ご観覧いただけるよう工夫するとともに、水族トピック展やイラスト展なども開催しました。

そのような中、多くの方々から温かい応援メッセージをいただき、本当に私たちスタッフの大きな励みとなりました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。応援して下さる多くの方々とともに新しい水族展示をつくっていこうと、「みんなでつくる新水槽」を合言葉にクラウドファンディングも実施させていただき、目標額を大きく上回るご支援を賜り、大変感謝しております。

2023年度には、新たにデジタルミュージアム推進事業にも着手しました。デジタル技術を用いて、博物館の所蔵資料や情報を、現場のフィールドや展示室などでより一層活用していただけるようにしていきたいと考えています。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられたこともあり、館外との連携活動も活発になりました。韓国国立洛東江生物資源館との相互交流の再開、また「滋賀県と伊藤忠商事株式会社との社会貢献連携協定」の一つとして、希少淡水魚の保全に関する協働研究も進めました。日本画家、越智明美さんと高知みらい科学館との共催によるギャラリー展「ブッカプカ美小生物展」では、日本画と微生物という異色のコラボレーションにより、微生物愛にあふれた大変魅力的な展示を行うことができました。

2024年度には、ビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の設計と工事を進めます。安全、安心な空間で、より充実した展示をお楽しみいただけるよう尽力して参りますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

2024年 5月 31日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 亀田佳代子

I 博物館活動の概要

1 研究・調査活動

1. 研究推進

琵琶湖博物館は研究活動を全ての博物館活動の基礎として位置づけ、その成果をもとに交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業を展開している。

研究部では2021年3月に策定された琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に従い、特に事業目標1に掲げる「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」することを目指して、以下の3つの重点事業を推進している。

- 重点事業 1-1 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進
- 1-2 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える
- 1-3 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしぼった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究が行われている。総合研究・共同研究。申請専門研究については、当館の研究評価実施要綱（2017年更新）に従い、館長・副館長と外部有識者の審査委員から成る研究審査委員会による審査で採択の可否を決定している。また、専門研究については、研究部内に内部評価委員会を設置し、研究課題及び進め方についての検討と助言を行いながら推進している。2023年度は、次の研究課題が実施された。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次の総合研究1件を行った。

- ・過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明
代表者：亀田佳代子，研究期間：2019～2025年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の9件であった。

- ・琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築
代表者：大塚泰介，研究期間：2021～2024年度
- ・歴史景観生態学からみた森と人の関係
代表者：妹尾裕介，研究期間：2021～2023年度
- ・水資源の利活用と地域再生－水をめぐる環境活動の維持と生活組織の再編を通じて地域社会の再生を考える－
代表者：楊平，研究期間：2021～2023年度
- ・琵琶湖南湖堆積物中のアルカンによる水生植物生産量と陸上植物流入量の推定に関する基礎的研究
代表者：里口保文，研究期間：2021～2023年度
- ・フナズシの歴史的な位置付けについての研究Ⅱ－「古フナズシ」の再現実験－
代表者：橋本道範，研究期間：2022～2024年度
- ・日本産ニゴイ類の比較形態学的研究
代表者：川瀬成吾，研究期間：2022～2024年

- ・鮎河および綴喜層群産化石群による前期中新世後期の古環境について
代表者：山川千代美，研究期間：2023～2024年
- ・日本産希少淡水魚類の自然産卵による繁殖技術確立と生息域外保全のあり方に関する研究
代表者：金尾滋史，研究期間：2023～2026年
- ・ドローンを活用した琵琶湖生態系のモニタリングー植生・河川・土地利用の時空間変動解析ー
代表者：美濃部諭子，研究期間：2023～2025年

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

＜申請専門研究＞

- ・山陰地域における遺跡花粉分析データベースの構築ー琵琶湖地域との比較と日本海の花粉化石が記録する植生範囲の推定ー（林 竜馬）
- ・ホールマウント免疫染色を用いたニゴロブナ卵・仔魚の判別手法の確立（米田一紀）
- ・水流散布型海浜植物の世代更新に関する昆虫群集は琵琶湖を渡るのか？（大槻達郎）

＜専門研究＞

環境史研究領域

- ・滋賀県多賀町四手の下部更新統産植物化石群におけるブナ属とスギ属（山川千代美）
- ・古琵琶湖層群下部～中部の火山灰層露頭の現状調査（里口保文）
- ・地域環境史の理論的構築（橋本道範）
- ・溜池の利用と保全（楊 平）
- ・琵琶湖周辺地域の産出粘土をつかった土器製作実験と使用実験（妹尾裕介）
- ・琵琶湖博物館水族資料を用いた繁殖および特異な生態行動観察（田畑諒一）
- ・19世紀中期以降の滋賀における治水に関する文書・図面類の資料学的研究（島本多敬）
- ・湖沼に関する民俗知の基礎的研究（加藤秀雄）
- ・古琵琶湖周辺を中心としたアジアにおける陸生哺乳類化石相の変遷解明（半田直人）

生態系研究領域

- ・鳥の視点から見た鳥類と人との関係：鶺鴒のウミウペアの性別と行動（亀田佳代子）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（榎永一宏）
- ・沈水植物除去手法の効率に関する研究（芳賀裕樹）
- ・MT法を用いた外来珪藻の計量形態学的研究（大塚泰介）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン ジェームス スミス）
- ・「MLGsを介した環境への学び」と「農山村ツーリズム」（中川信次）
- ・グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究（片山大輔）
- ・琵琶湖湖岸におけるイタチムシの多様性（鈴木隆仁）
- ・森林環境学習「やまのこ」事業のプログラム評価について（美濃部諭子）
- ・コイ科カマツカ亜科ムギツクの骨格系（川瀬成吾）
- ・生態観察池における二枚貝イシガイ科の成員の定着に関する研究（菅原巧太郎）

博物館学研究領域

- ・滋賀県の中山間地域における水田利用魚類の分布と生態（金尾滋史）
- ・琵琶湖周辺の水生植物の分布と生態（芦谷美奈子）
- ・からすま半島周辺のカヤネズミの保全的管理（中村久美子）

- ・バイカルアザラシの生理学的解析（松岡由子）
- ・子ども主体の視点から見た博物館の利用～part3～（安達克紀）
- ・博物館の学習をより深くするための現状把握とその工夫（渡邊俊洋）
- ・コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科の分類学的研究（今田舜介）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
足立 重和	追手門学院大学社会学部 教授
浦部美佐子	滋賀県立大学環境科学部 教授
齊藤 純	天理大学文学部 教授
高橋 美貴	東京農工大学農学研究院 教授 (2023/8 辞退)
林田 明	同志社大学理工学部 教授
深町加津枝	京都大学大学院地球環境学堂地球親和技术学廊 准教授
細谷 和海	近畿大学 名誉教授
澤 寿朗	滋賀県総合教育センター 科学教育係長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
梶 一哉	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長
亀田 佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

琵琶湖博物館では、研究費用として外部資金を獲得することを推進している。その代表的なものは文部科学省科学研究費助成事業で、今年度は新規3件の採用と継続10件を合わせ計13件が採択された。学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

亀田佳代子

- ・岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査委員会・関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会「全国鵜飼習俗基礎調査」調査者（2019～2024年度）
- ・京都大学野生動物研究センター 研究助成「鵜飼のウミウの遺伝的背景の解明」代表者（2023年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤C）「湖環境への人為的影響をはかるための歴史時代における湖内植物生産量変動」研究代表者（2021～2023年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤C）「テフラ粒子の数値化による新たな広域テフラの検出：500万年間の破局噴火の発生頻度」研究分担者（2021～2023年度）

橋本道範

- ・食と農の総合研究所 研究助成「淡水魚消費をめぐるシーフードシステムの地域間比較研究ーナレズシに着目して」研究分担者（2022～2023年度）
- ・サントリー文化財団「学問の未来を拓く」研究助成「ナレズシはいかに「洗練化」したのかー乳酸菌分析にもとづく環境史へのアプローチ」研究代表者（2022年7月～2023年6月）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤C）「湖環境への人為的影響をはかるための歴史時代における湖内植物生産量変動」研究分担者（2021～2023年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤C）「過去50万年の琵琶湖・海洋花粉分析からみる温暖期の森の脆弱性と日本海効果の評価」研究代表者（2023～2026年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」研究代表者（2019～2025 年度）

田畑諒一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（国際共同研究強化 B）「カタツムリにおける左右二型現象の起源と進化動態」研究分担者（2020～2024 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「ゲノミクス系統地理情報を基にした淡水魚類の保全戦略マップの作成」研究代表者（2021～2024 年度）
- ・公益財団法人河川基金 研究助成「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明」共同研究者（2022～2023 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守るー琵琶湖淀川水系産モロコ類を例にー」研究分担者（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守るー琵琶湖淀川水系産モロコ類を例にー」研究分担者（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館における分類学の再考と再構ー生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦ー」研究分担者（2023～2025 年度）

島本多敬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」研究代表者（2021～2025 年度）

加藤秀雄

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「琵琶湖産アユ種苗の流通ネットワークに関する広域民俗誌の試み」研究代表者（2022～2024 年度）

梶永一宏

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」研究代表者（2022～2024 年度）

大塚泰介

- ・公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」研究担当者（2022～2023 年度）

大槻達郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「海流散布植物を基盤とする昆虫群集における生物間相互作用の維持・創出機構の解明」研究代表者（2021～2023 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守るー琵琶湖淀川水系産モロコ類を例にー」研究分担者（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守るー琵琶湖淀川水系産モロコ類を例にー」研究分担者（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）

米田一紀

- ・公益財団法人河川基金研究助成「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明」研究代表者（2022～2023 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精

度を向上させ、絶滅危惧種を守る－琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に－」研究分担者（2022年10月1日～2023年9月30日）

- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る－琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に－」研究分担者（2023年10月1日～2024年9月30日）

川瀬成吾

- ・公益財団法人河川基金研究助成「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明」共同研究者（2022～2023年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る－琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に－」研究代表者（2022年10月1日～2023年9月30日）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る－琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に－」研究代表者（2023年10月1日～2024年9月30日）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館における分類学の再考と再構－生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦－研究代表者（2023～2025年度）

菅原巧太郎

- ・公益財団法人中辻創智社研究助成「希少淡水魚ヨドゼゼラの系統保存手法確立に向けた脂肪酸分析による餌資源の解明」（2023年8月～2024年3月31日）

金尾滋史

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究」研究代表者（2023～2025年度）

中村久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」研究代表者（2019～2025年度）

桑原雅之

- ・タカラ・ハーモニストファンド研究助成「琵琶湖固有ビワマスを新種として記載する保全学的研究」研究代表者（2021年6月～2023年6月）

中井克樹

- ・環境省生物多様性保全回復施設整備交付金「滋賀県生物多様性保全回復整備事業」実施担当者（2017年度～）
- ・環境省生物多様性保全推進交付金および滋賀県侵略的外来水生植物戦略的防除事業費「琵琶湖外来水生植物対策協議会事業、ならびに環境省生物多様性保全回復施設整備交付金「滋賀県事業」事務局担当者（2014年度～）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「侵略的外来水生植物の生態解明及び防除手法の評価を踏まえた早期対応社会技術の確立」研究代表者（2021～2023年度）

戸田 孝

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発」研究代表者（2021～2024年度）

根来 健

- ・公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」連絡担当者（2022～2023年度）

<研究調査業務受託>

- ・京都府いなべ市 天然記念物ネコギギ飼育増殖業務 田畑諒一

(6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・辻川智代 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
- ・柏尾珠紀 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村の暮らしとジェンダーの社会学的考察、および、滋賀におけるなれずしの多様性に関する調査・研究
- ・廣石伸互 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：蛍光抗体法によるアオコ単独細胞の検出に関する研究
- ・天野一葉 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究、および琵琶湖博物館の総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」
- ・寺本憲之 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：ブナ科植物を寄主とする鱗翅目昆虫相と食性に関する研究、伝統文化産業「蚕糸業」の指導と研究 /地域ぐるみによる野生動物管理などの指導/環境保全型農業などの指導
- ・山本充孝 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：琵琶湖の魚貝類の飼育技術ならびに生態に関する研究
- ・根来 健 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：浄水処理に障害を及ぼすプランクトン等（水道障害生物）の体系の再構築
- ・今井一郎 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：有毒アオコ *Microcystis aeruginosa* の制御に有効な水生植物由来の殺藍藻細菌の生態に関する研究
- ・柏谷健二 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：湖沼堆積物を利用した長期環境変動の解析
- ・桑原雅之 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：ビワマスを中心とした琵琶湖水系に生息する固有種の生態学的、遺伝学的研究
- ・井内美郎 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：琵琶湖湖底堆積物を対象とした過去数万年間の湖水位変動に関する研究
- ・戸田 孝 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発
- ・増田啓祐 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：「里」のレジリエンスと「里山」のあり方についての研究
- ・山本綾美 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：森林環境学習における児童の感想文を用いたプログラム効果測定方法の開発
- ・中井克樹 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：琵琶湖の生物相の変遷と現状、および外来種管理と希少種保護にかかる対策の社会実装に関する研究

- ・八尋克郎 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：琵琶湖岸砂浜の昆虫の分布と生態に関する研究
- ・小松原 琢 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：鮮新生後期以降の近江盆地周辺の活構造の発達過程と応力場の変遷
- ・上中央子 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：植物遺体群からみた古代都城における植物相と植生景観復元に関する基礎的研究
- ・大久保卓也 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：琵琶湖における漁獲量の長期変動と環境条件との関連性に関する研究/琵琶湖の水質の長期変化と環境条件との関連性に関する研究/琵琶湖の魚網付着物増加の原因に関する研究
- ・岩木真穂 2023年4月1日～2024年3月31日
テーマ：琵琶湖の水位変動に関する研究

<名誉学芸員>

- ・布谷知夫 2019年4月1日～2024年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・前畑政善 2021年4月1日～2026年3月31日
テーマ：水田魚類の研究
- ・中島経夫 2020年4月1日～2025年3月31日
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・用田正晴 2021年4月1日～2026年3月31日
テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究
- ・マーク J グライガー 2022年4月1日～2027年3月31日
テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにすむエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

2. 研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<https://www.biwahaku.jp/publication/report/>) に掲載している。

<学術論文>

- 渡部圭一・加藤秀雄 (2023) 研究者旧蔵資料のデジタルアーカイブ化の課題—地域博物館の取り組みを事例に—。 *アジア民族文化研究*, 22号 : 163-178.
- 半田直人・加藤敬史・高橋啓一・馬場理香・北林栄一 (2023) An additional remain of Pliocene Rhinocerotidae from Ajimu, western Japan. *Historical Biology*, p.1-p.7.
- 半田直人 (2023) 直良コレクションのサイ科化石。 *国立歴史民俗博物館研究報告*. 243集 : 71-79.
- Naksri, W., Nishioka, Y., Duangkrayom, J., Metais, G., Handa, N., ほか7名 (2023) A new Miocene and Pleistocene continental locality from Nakhon Ratchasima in Northeastern Thailand and its importance for vertebrate biogeography. *Annales de Paleontologie*, vol. 109, 1-20p. online ver.
- Mengfan Chu, Rui Bao, Michael Strasser, Ken Ikehara, Jez Everest, Lena Maeda, Katharina Hochmuth, Li Xu, Ann McNichol, Piero Bellanova, Troy Rasbury, Martin Kölling, Natascha Riedinger, Joel Johnson, Min Luo, Christian März, Susanne Straub, Kana Jitsuno, Morgane Brunet, Zhirong Cai, Antonio Cattaneo, Kanhsi Hsiung, Takashi Ishizawa, Takuya Itaki,

Toshiya Kanamatsu, Myra Keep, Arata Kioka, Cecilia McHugh, Aaron Micallef, Dhananjai Pandey, Jean Noël Proust, Yasufumi Satoguchi, Derek Sawyer, Chloé Seibert, Maxwell Silver, Joonas Virtasalo, Yonghong Wang, Ting-Wei Wu & Sarah Zellers (2023) Earthquake-enhanced dissolved carbon cycles in ultra-deep ocean sediments. *Nature Communication*, [Http://doi.org/10.1038/s41467-023-41116-w](http://doi.org/10.1038/s41467-023-41116-w).

橋本道範 (2023) コード化された自然と村落—琵琶湖地域のヨシをめぐって—. *歴史学研究*, 1042:2-14.
芳賀裕樹・芦谷美奈子・酒井陽一郎・石川加奈子 (2023) 琵琶湖南湖の2022年8月末の沈水植物の現存量分布、ならびに著しい沈水植物相の変化について. *陸水学雑誌*, 68:175-185.

泉野央樹・洲澤多美枝・大塚泰介 (2023) 西日本3河川からの *Cymbella compactiformis* の出現. *Diatom*, 39:47-53.

Kojima, T., Megumi Saito-Kato, M., Ohtsuka, T. and Satoguti, Y. (2023) Two new species of the diatom genus *Praestephanos* from the Pliocene Ueno formation. Kobiwako Group Mie Prefecture, Japan. *Paleontological Research*, 28(3): 292-306.

Strasser, M., Ikehara, K., Everest, J., and the Expedition 386 scientists (2023) Proceedings of the International Ocean Discovery Program, Volume 386, Japan Trench Paleoseismology. *Proceedings of the International Ocean Discovery Program, Volume 386, Japan Trench Paleoseismology*, doi:10.14379/iodp.proc.386.2023.

Tamaki, I., Mizuno, M. Ohtsuki, T., Shutoh, K., Tabata, R., Tsunamoto, Y., Suyama, Y., Nakajima, Y., Kubo, N., Ito, T., Noma, N. and Harada, E. (2023) Phylogenetic, population structure, and population demographic analyses reveal that *Vicia scpium* in Japan is native and not introduced, *Scientific Reports*, Springer Nature, volume 13, Article number: 20746.

Milagrosa R. Martinez-Goss, Ohtsuka, T., Inoue, H., Eldrin DLR. Arguelles, Tohru Ikeya, Elfritzson M. Peralta, Rey Donne S. Papa, and Okuda, N. (2023) *Gomphonema* species (Bacillariophyceae) from Marikina River, Rizal (Luzon), Philippines, *Philippine Journal of Science*, 152(5): 1653-1676.

Robin, J. Smith (2023) Descriptions of two Cypridopsinae (Ostracoda, Crustacea) species from the Nansei Islands, Japan, with the first records of non-marine ostracods from the Daito Islands, *Zootaxa*, 5293(2): 294-316.

星野 亨・群馬県立尾瀬高等学校理科部・大高明史・スミス ロビン J (2023) 群馬県菅沼におけるウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus* と共生ヒルミズおよび貝形虫の新記録. 群馬県立自然史博物館研究報告. 27: 99-106.

大塚泰介・鈴木隆仁・辻彰 洋(2023) 琵琶湖辺の池におけるラン藻 *Raphidiopsis raciborskii* のブルーム形成. *日本水処理生物学会誌*, 48(2): 41-45.

川瀬成吾・山本義彦・鶴田哲也・田中耕司 2023) 大阪府淀川におけるツチフキ(コイ科カマツカ亜科)の再発見. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 33: 14-20.

川瀬成吾・中江雅典・篠原真人 (2023) 石川千代松が収集した魚類標本から見る明治中期の琵琶湖の魚類相. *魚類学雑誌*, 70: 147-159.

川瀬成吾・山本義彦・鶴田哲也・田中耕司 (2023) 大阪府淀川におけるツチフキ (コイ科カマツカ亜科) の再発見. *Ichthy*, 33: 14-20.

<専門分野の著作>

今田舜介 (2023) ギンネムヒゲナガゾウムシの新寄主記録. 月刊むし, (632): 37-43.

今田舜介 (2023) 沖縄県産ヒゲナガゾウムシ科の研究の現状と今後の展望. 昆虫と自然, (780): 21-25.

加藤秀雄 (2023) 「妹の力」から女のための民俗学へ—瀬川清子の関心をめぐる一考察—. 永池健二『女性

の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程 (アジア遊学)』勉誠社, 220-231.

加藤秀雄 (2023) 神を助けた俵藤太と猿丸太夫 (2) —二荒山信仰と小野猿丸—. 淡海文化財論叢, 15 輯: 252-256.

加藤秀雄 (2023) 神・人・動物の境界を揺るがすもの—動物の言語使用と人間的な振る舞いについて—. 志村真幸『動物たちの日本近代: ひとびとはその死と痛みに向きあってきたのか』ナカニシヤ出版, 245-266.

楊平・ほか (2023) 琵琶湖地域的環境治理与政策. CHEN A JIANG 編『環境社会学』社会科学文献出版社, 第1期:141-158.

泉野珠穂・川瀬成吾 (2024) ハシブトガラスに捕食された産卵期のホンモロコ. 淡海生物, 5: 4-5.

中村久美子 (2023) 未就学児のふりかえりによる学びを補助する絵本作り. 全科協 News (全国科学博物館協議会), vol. 53 No. 4, p9.

戸田孝・芦谷美奈子・大塚泰介 (2023) アイキャッチとしての数式—琵琶湖博物館での実践例—. 博物館研究, 48(2): 41-45.

大塚泰介 (2023) 特集:『視えない』外来種問題 公開シンポジウム『『視えない』外来種問題』企画趣旨. 地域自然史と保全, 45(1): 3-4.

大塚泰介・根来健・佐藤晋也・石川可奈子・辻彰洋 (2023) 特集:『視えない』外来種問題 要注意!琵琶湖とその集水域の「マイクロ外来生物」. 地域自然史と保全, 45(1): 25-38.

Hashimoto, M. (2023) Regional Environmental History: The lake biwa Region. Fujihara, T. (ed.) Handbook of Environmental History in Japan, MHM Limited, 161-175.

大槻達郎 (2023) 琵琶湖岸に成句する絶滅危惧種ハマエンドウの種子発芽について. 滋賀県植物研究会 会報, 16号: 29-30.

里口保文 (2023) 書評 大阪市立自然史博物館監修: 見るだけで楽しめる! 日本の氷河時代 化石でたどる気候変動. 第四紀研究, 63(1): 43-44.

(2) 研究調査報告の J-STAGE 掲載とアクセス数

琵琶湖博物館の研究成果をまとめて出版している「琵琶湖博物館研究調査報告」は、2021年11月より、「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)への掲載を始め、これまでの発行号も含めて、対象のインターネットページでの閲覧が可能になった。これ以降の最新号は基本的に公開をし、過去の号についても順次公開作業を進めている。2023年3月までに、24号~35号を公開。

今年度は、最新号である36号と、過去号の19、20、22号を公開した。アクセス数は以下の通り。

2023年4月~2024年2月のアクセス数 (いずれもクローラー除く)

- ・書誌情報閲覧: 6,337件
- ・PDFファイルダウンロード: 13,258件

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

学芸職員および特別研究員の研究発表と研究交流の機会として、セミナー室にて毎月第3金曜日13:15~15:15に、研究セミナーを開催している。2023年度は以下の通り実施した。なお、特別研究セミナーの開催はなかった。

第1回 4月21日 34人

- ・戸田孝「科学館と自然史館の境界領域作」
- ・橋本道範「15世紀~16世紀における首都京都の淡水魚消費」
- ・柏尾珠紀「全国のなれずしと滋賀のなれずし」

- 第2回 5月19日 37人
- ・里口保文「琵琶湖南湖泥質堆積物の平面分布」
 - ・加藤秀雄・山本充孝「湖産アユ種苗の需要と供給体制の展開をめぐって」
 - ・辻川智代「農閑期副業における籠生産の技術—小原籠を中心に—」
- 第3回 6月16日 37人
- ・半田直人「日本のサイ化石研究と今後の展望」
 - ・今田舜介「ヒゲナガゾウムシ科（コウチュウ目：ゾウムシ上科）の多様性研究」
 - ・菅原巧太朗「淡水二枚貝タテボシガイを用いた生態工学的な水質浄化手法の構築」
- 第4回 7月21日 29人
- ・林 竜馬「UAV（ドローン）-SfM 測量による西の湖ヨシ群落の群落高および地上部バイオマスの簡易推定手法の開発」
 - ・中川信次「農泊地域の現状の分析と今後の展開に関する研究—CSV（Creating Shared Value: 共通価値の創造）理論からのアプローチ—」
 - ・亀田佳代子「総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」の概要と進捗状況」
- 第5回 8月18日 34人
- ・楊 平「人と水のかかわりについて」
 - ・山川千代美「中部中新統二上層群産植物化石群について」
 - ・大塚泰介ほか「要注意！琵琶湖と集水域の「ミクロの外来生物」」
- 第6回 9月15日 22人
- ・米田一紀「ホールマウント免疫染色を用いたフナ卵判別手法の検討」
 - ・大槻達郎「希少種の保全活動評価とリスク分散のための域外保全」
- 第7回 10月20日 31人
- ・鈴木隆仁「琵琶湖周辺の水域におけるイタチムシ類の分布」
 - ・川瀬成吾「日本産ニゴイ類の形態的特徴」
 - ・芦谷美奈子「希少種ムサシモの南湖への定着と琵琶湖の水生植物相」
- 第8回 11月17日 24人
- ・美濃部諭子ほか「ドローンを活用した簡易な森林モニタリングに向けた間伐後人工林における樹冠判読の検討」
 - ・天野一葉「特定外来生物ソウシチョウの遺伝情報に基づく管理ユニット」
- 第9回 12月15日 37人
- ・田畑諒一ほか「琵琶湖のツチフキは本当に外来種なのか？」
 - ・桑原雅之「ビワオオウズムシの生物学的特性の解明に向けて」
 - ・山本充孝「琵琶湖における外来魚駆除の変遷」
- 第10回 1月19日 27人
- ・R. J. スミス「ペットショップや家庭の水槽から収集したカイミジンコについて：在来種か外来種か？」
 - ・妹尾裕介「実験考古学から探る弥生ナベの製作技術と機能」
 - ・片山大輔「中小河川の課題と水制工による河床変動特性」
- 第11回 2月16日 36人
- ・島本多敬・鈴木康久「『城州江州土砂留場絵図』にみる淀藩の土砂留め管理—絵図の機能論的検討—」
 - ・上中央子「植物遺体からみた古代都城における植物相の特徴」
 - ・榎永一宏「日本から発見された東アジアと北米東部に隔離分布する *Hypochaerassus* 属のアシナガバエ」
- 第12回 3月15日 32人
- ・池田 勝「幼児期の自然体験活動や自然保育について—滋賀の指導者育成と認定制度—」

- ・渡邊俊洋「滋賀県内小中学校の琵琶湖博物館の利用状況と利用状況から見える課題」
- ・安達克紀「子ども主体の視点から見た博物館の利用 part3 ～滋賀県内小学校における琵琶湖学習の実態～」

(4) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館の研究成果発信の一環として、「新琵琶湖学セミナー」を開催している。2023年度は全体のテーマを「研究を展示する：びわ博展示の裏話」とした。これは、2014年度から約6年間、3期にわけて実施してきた常設展示リニューアルについて、背景にある研究成果や展示制作の秘話などを紹介するもので、展示の担当学芸員が博物館の内側から、調査研究や展示制作にご協力いただいた外部講師が博物館の外側からの視点で、展示にまつわるトピックを講演した（1人約30分）。

また、今年度は座学のほかに、各回とも講演の後に取り上げた展示の解説（約15分、セミナー参加者自由参加）をおこない、参加者が講演によって得られたより深く新しい視点で常設展示を見る機会とした。展示解説では、参加者が目の前の展示をもとに、学芸員・外部講師と熱心に質疑を交わし、展示を介した参加者と研究者の交流の場となった。

総申込者数は83人。具体的内容は下記の通り。

第1回 1月27日（土） 13:30～15:30 参加者 15名
 テーマ「第1期リニューアル C展示室（TNB48）」
 大塚泰介（当館生態系研究領域・総括学芸員）
 北野大輔氏（滋賀県農業技術振興センター環境研究部／淡海生物研究会）

第2回 2月24日（土） 13:30～15:30 参加者 23名
 テーマ「第2期リニューアル 樹冠トレイル」
 林 竜馬（当館環境史研究領域・専門学芸員）
 宇野君平氏（成安造形大学美術領域教授）

第3回 3月23日（土） 13:30～15:30 参加者 21名
 テーマ「第3期リニューアル A展示室（うつり変わる気候と森）」
 山川千代美（当館上席総括学芸員）
 齊藤 毅氏（名城大学理工学部准教授）

(5) 琵琶湖博物館ブックレット

「琵琶湖博物館ブックレット」（サンライズ出版）は、2016年からシリーズ出版されている。2023年度は、4月に1冊が刊行された。

第17号 「シーボルトが持ち帰った琵琶湖の魚たち」 細谷和海（近畿大学名誉教授）

3. 研究交流

(1) 協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）に基づく連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定（MOU：Memorandum of Understanding）の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化している。協定の締結内容としては、次の5項目である。このほかに、研究および資料、展示についての具体的な協力が行われる場合は、別途協議して協定を結ぶものとしている。

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2021年度までに、フランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、中国の中国科学院水生生物研究所と湖南省博物館、韓国の国立洛東江生物資源館、京都大学野生動物研究センターの7つの博物館・研究機関とMOUを締結している。今年度は次の連携活動が実施された。

1) 京都大学野生動物研究センター（京都府京都市）

京都大学野生動物研究センター（センター）は、絶滅の危機に瀕している大型哺乳類を中心に、野生動物に関する教育研究を行っている施設である。2016年11月25日に、野生動物の生態・行動の理解と保全に関わる情報及び技術の相互交換、並びに共同学術研究を基に、野生動物の教育的展示をより一層発展・促進することを目的として、協力協定(MOU)を締結した。2023年度は、センターの主催する2023年度第5回動物園水族館大学シンポジウム「動物園・水族館が『野生への窓』となるために」（3月9日・10日）の共催を行った。

2) 韓国洛東江生物資源館

新型コロナ禍により中断していた相互交流を再開するため、9月19～21日に高橋館長以下4名が洛東江生物資源館を訪問し、また12月6～8日に先方より7名（うち3名は7～8日）が当博物館を訪問して、今後の協力について話し合った。検討された項目は相互の研究の理解を深めるための合同セミナーの実施方針、企画展等での協力の確認などである。

(2) 伊藤忠商事株式会社との連携

2022年10月28日に滋賀県と伊藤忠商事（東京都港区）との間で締結された「滋賀県と伊藤忠商事株式会社との社会貢献連携協定」の中の連携項目の1つである「(1) 環境・生物多様性保全に関すること」の具体的な連携・協働の取り組みとして、伊藤忠商事による支援の下「琵琶湖地域の生物多様性総合保全に関する連携研究プロジェクト」を2022年11月より開始した。

「琵琶湖地域の生物多様性総合保全に関する連携研究プロジェクト」

1) 希少淡水魚の飼育技術確立に関する研究

琵琶湖博物館の保護増殖センターにて系統保存を行っている希少淡水魚のうち、琵琶湖淀川水系にも生息し、水族展示の前身である琵琶湖文化館の時代から40年にもわたって系統保存がなされてきたアユモドキについては、この数年繁殖がうまくいっていなかった。そのため、非繁殖期における摂餌量の増加や冬季における低水温の経験など飼育条件の変更を行うことで個体の成熟を促す試みを行った。また、東日本に分布し、秋に二枚貝の中に産卵し、貝の中で仔魚が越冬するゼニタナゴについては、インキュベーターの導入により冬期の仔魚の生育温度管理が行えるようになり、翌春に多くの稚魚を得ることができた。これは同じ産卵生態を持つ琵琶湖淀川水系に生息するイタセンパラの繁殖事業にも貢献する。

2) 希少淡水魚保全に向けた「ため池」環境改善の実証実験

博物館屋外展示にある生態観察池を「ため池」環境改善の実験場とし、環境改善前の状況を知るため水質、底質、プランクトン、水生動物等の事前調査を定期的に行ったうえで2月26日より、環境改善のための池干しを開始した。

(3) 研究機関との連絡活動

1) 県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議（事務局：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）が設置運営されている。

各機関が行っている研究やその成果について広く一般に知ってもらうための研究発表会（公開）は、前年度に引き続きオンラインで2023年12月22日（金）に実施された。発表会のテーマは「令和5年度滋賀県試験研究機関研究発表会～滋賀の未来を創る試験研究～」であり、当館からは島本多敬学芸員が「地図から読み解く近江の治水史」と題して発表を行った。幹事会は2024年1月9日（木）にオンラインで開催され、本会議・勉強会・見学会は2023年3月26日（月）に対面・オンライン併用で開催された。本会議では、発表会の報告とともに次年度の行事予定が承認された。

(4) 海外交流活動

1) 研究に関する国際用務

半田直人

- ・2023年10月26日～11月2日，ミャンマーヤンゴン市，科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)「森林減少に伴う脊椎動物工事分類群の多様性共変動パターンの解明（研究代表者：富谷 進）」の研究の一環として、ヤンゴン考古局とザイガバー博物館にあるミャンマー国内で発見されたほ乳類化石を調査する
- ・2024年2月26日～3月6日，タイ ナコンラチャシマ市，科研費基盤研究(C)「東南アジア 中新世紀後期におけるヒト上科・オナガザル上科の進化と生息環境の解明（研究代表者：國松 豊）」の研究の一環として、タイ北東部で発見されたほ乳類化石を観察する

川瀬成吾

- ・2023年9月19日～21日，韓国，国立洛東江生物資源館，MOU協定に基づく研究並びに事業の協力に関する打ち合わせ
- ・2023年11月3日～11月14日，イギリス ロンドン自然史博物館，科研費基盤研究(C)一般「博物館における分類学の再考と再構－生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦－（研究代表者）」タナゴ亜科魚類およびカマツカ亜科類の系統分類学的研究、明治時代の琵琶湖産魚類標本調査

榭永一宏

- ・2023年6月17日～23日，韓国，科研費基盤研究(C)「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」韓国における水生双翅目昆虫類を主とした分布調査およびDNA解析用アルコール標本の収集
- ・2023年7月11日～27日，アメリカ，セントオーガスチン，科研費基盤研究(C)「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」，国際双翅目会議の参加・口頭発表および米国における水生双翅目昆虫類を主とした分布調査およびDNA解析用アルコール標本の収集

大塚泰介

- ・2024年2月18日～2月24日，フィリピン、フィリピン大学ロス・バニョス校，招へい、フィリピンの若手珪藻研究者を対象として、珪藻研究のトレーニングを行う

大槻達郎

- ・2023年9月19日～21日，韓国，国立洛東江生物資源館，MOU協定に基づく研究並びに事業の協力に関する打ち合わせ

妹尾裕介

- ・2023年8月31日～9月26日，レバノン，ティール市，科研費基盤研究(B)「レバノン南部の都市ティールにおけ

るアルバスサイトの発掘調査」(研究代表者：前野弘志 2023-2025)、世界遺産アルバス遺跡の未調査区域を発掘調査することにより、古代ローマ都市テュロスの変遷過程を解明し、人類史的に古代文明の発展を追究すること、および日本隊の学術調査を通じて、遺跡を整備し、レバノン国の文化財活用に寄与すること

- ・2024年1月4日～1月11日、タイ、ゾミア山地、科研費基盤研究(B)「和食の成立過程の解明：湯取り法炊飯からウルチ米蒸しへの転換過程(研究代表者：小林正史)」の中での、伝統的な暮らしと文化の実態解明を目的に、タイのゾミア山地において現地調査および聞き取り調査を行う

高橋啓一

- ・2023年9月19日～21日、韓国、国立洛東江生物資源館、MOU協定に基づく研究並びに事業の協力に関する打ち合わせ

田畑諒一

- ・2023年9月19日～21日、韓国、国立洛東江生物資源館、科研費若手研究「下のミクス系統地理情報をもとにした淡水魚類の保全戦略マップの作製」MOU協定に基づく研究協力に関する打ち合わせ

4. 研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版(平成25年1月25日)および「博物館関係者の行動規範」(日本博物館協会平成23年3月)に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」(2016年7月)を定め、公正な博物館活動を推進している。また、研究活動の不正行為を防止する一環として、毎年研究倫理研修を行っている。2023年度は次の研修を実施した。

1) 第1回研究部研修「研究倫理研修」 参加者：33名

日時：11月10日(金) 13:30～15:30

場所：琵琶湖博物館ホール

内容：「調査地被害のないフィールドワークは可能か」

講師：安溪遊地氏(生物文化多様性研究所、山口県立大学 国際文化学部(名誉教授))

博物館における調査研究では、地域の人々と関わることが多い。その中で、調査を受ける側の「誰のため、何のため、どこからのお金で行われる研究なのか」といった素朴な疑問やより複雑な心情を含む調査地被害に対して、どのようにすれば軽減できるのか、調査する側として気をつけるべきことを今一度確認する必要がある。今回は、人類学専攻の講師より、「調査地被害のないフィールドワークは可能か」というテーマで講演いただき、博物館における日々の調査研究活動において気を付けておきたいことについて再確認した。

2) 日本学術振興会 研究倫理 eラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

実施期間：1月10日～3月30日まで

受講時間：約1時間半

受講人数：44名(学芸職員その他、特別研究員13名を含む)

(2) 薬品類の管理

滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程(2017年4月1日より施行)の第4章に記述されている通り、化学薬品の保管状況および毒劇物等の使用状況について確認を行うことを目的に、薬品棚卸し作業を年度内に2回行った。その結果、毒物、劇物、有害物質、指定物質、第一種指定化学物質について、すべての在庫を確認した。毒劇物の薬品瓶の重量(容器込み)を測定し、薬品管理使用簿に記入した。棚卸しの結果は、化学薬品管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。

また、古くなったり使用見込みがなくなった薬品類をリストアップし、廃棄を進めた。

(3) 研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしている。今年度も、備品台帳の情報を元に、取得金額により対象を区分して備品の確認を行った。その結果に基づき、特に取得年代の古い備品の動作確認や処分等の検討を行っている。

(4) 研究環境の整備

新たに着任した学芸職員への対応も含め、各研究室・実験室の再整備を順次進めている。

(5) 研究・事業専念時間設定

事業と研究のバランスをとるための研究専念日の設定と運用は今年度も引き続き実施した。制度も3年目となり、運用ルールも定着してきたところであるが、水槽破裂やその後の復興事業・クラウドファンディングなどにより、職員によっては十分な研究専念が行えない事例があった。このため、業務の見直し等によるバランスの再構築が課題となった。

2 交流活動

1. 利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2023年度の登録者数は189名であった。

フィールドレポーターの主な活動は、年2回のフィールドレポーター調査である。そのため、月2回（原則毎月第1・3土曜日）の定例会、アンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・発行、館内の展示および更新、「自由交流型調査」のまとめと「掲示板」の編集・発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施を行っている。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。

2023年度は、アンケート型調査として「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」と「近江のナレズシ県民大調査」を実施した。

「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」は、2012年度に実施した「スクミリンゴガイとタニシ類の分布調査」の結果を踏まえ、11年間経過した現在、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ、滋賀県指定外来種）の分布が広がっているかどうか、また、タニシ類の分布はどうかを調査したもので、スタッフ 梶島昭紘氏、担当学芸員鈴木隆仁で実施した。その結果、147地点で調査することができた。結果については、「フィールドレポーターだより」で公表するほか、2024年6月1日の交流会で発表する予定である。

「近江のナレズシ県民大調査」は、県内でいまどのくらいの方々がナレズシを食べたり、作ったりしているのかなどについて調査したもので、スタッフ前田雅子氏、担当学芸員橋本道範で実施した。調査票の配布とともに、琵琶湖博物館ウェブサイトから調査票をダウンロードできるようにし、グーグルフォームでも回答できるように工夫した。また、滋賀県職員や龍谷大学農学部学生にも協力を要請して、2893の回答を得た。結果については、「フィールドレポーターだより」で公表するほか、2024年6月1日の交流会で発表する予定である。

自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計1号（通巻103号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、スタッフの梶島昭紘氏が務めた。なお、web掲示板として、掲示板アプリslackを利用し、オンラインでも掲示板の情報を集めている。

また、11月18日（土）、19日（日）に行われたびわ博フェス2023では、18日には「近江のナレズシ県民大調査について」と題して前田雅子氏が発表し、両日にわたって「葉っぱでアート」というワークショップも実施した。

なお、フィールドレポータースタッフ定例会等の会合・行事を計22回開催している。

	月 日	出席数	内 容	
1	4月8日	5	定例会	①2023年度第1回調査（スクミリンゴガイとタニシ類）の案内状、調査票発送 ②第1回交流会の内容検討
2	4月22日	7	定例会	①FRだより55号（ヒガンバナ）原稿検討 ②第1回交流会の内容検討
3	5月13日	5	定例会	第1回交流会の内容、役割分担協議
4	5月20日	20	交流会	第1回交流会（生活実験工房）
5	6月3日	5	定例会	FRだより55号（ヒガンバナ）発送

	月 日	出席数	内 容	
6	7月1日	5	定例会	FR だより 56号 (ヌートリア) 検討
7	8月5日	5	定例会	FR だより 56号検討
8	9月2日	5	定例会	FR だより 56号発送
9	9月16日	6	定例会	びわ博フェス参加決定、内容検討
10	10月7日	5	定例会	①2023年度第2回調査 (ナレズシ) 内容検討 ②びわ博フェス準備
11	10月21日	5	定例会	①2023年度第2回調査 ②びわ博フェス準備
12	11月4日	5	定例会	びわ博フェス準備
13	11月11日	5	定例会	びわ博フェス準備
14	11月18日 -19日	5	びわ博フェス 2023	① FR 紹介発表 ②FR 活動紹介展示 ③葉っぱでアートのワークショップ
15	12月2日	5	定例会	掲示板 103号検討
16	12月16日	5	定例会	掲示板 103号発送
17	1月6日	6	定例会	①FR だより 57号 (スクミリンゴガイとタニシ調査) 検討 ②ナレズシ調査検討
18	1月20日	6	定例会	①FR だより 57号検討 ②ナレズシ調査検討
19	2月3日	7	定例会	①ナレズシ調査受付終了 ②次回調査テーマ候補金石文検討 ③FR だより 57号検討
20	2月17日	6	講演会参加	小泉武夫氏「滋賀の発酵文化」(びわ湖ホール)
21	3月2日	5	定例会	①ナレズシ調査まとめ ②金石文の検討
22	3月16日	5	定例会	掲示板 104号検討

(3) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていかうとする利用者のための登録制度として、2000年8月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらうことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1年毎に何回でも更新できる。

2023年度は登録講座をオンラインで3回、対面式で1回実施した。オンラインの開講期間は4月30日(日)～5月14日(日)、9月10日(日)～9月24日(日)、2月25日(日)～3月10日(日)で、受講生にはこの期間のうち任意の時間に受講いただいた。対面式では9月24日(日)に実施した。5月開催後には11名、9月開催後には27名の新規登録者があり、2023年度末の会員数は393人となった。なお、3月開催分の新規登録者20名は2024年度より会員となる。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の理念実現への推進力となっている。2023年度は25のグループが活動を展開した。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行 担当学芸員：田畑諒一、川瀬成吾 会員数：80名

[設立の趣旨]

「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、

その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、魚採りが大好きな人々が集まって結成された。2000年の発足以来、琵琶湖博物館を活動拠点として、「魚つかみ」を楽しみながら、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の姿として記録に残すことを目指している。

[活動の概要]

4月から7月と9月から12月に月一回、定例調査を琵琶湖流域の各地で開催し、その他に臨時的な活動や県内各地での観察会支援を実施している。また各会員は日常的に調査活動を実施し、うおの会のデータとして記録を残している。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、13名の運営委員が中心となって行っている。

2023年度は定例調査で47地点、個人調査で22地点の採集データを残すことができた。定例調査での魚類の総採集尾数は3225尾で、出現種数は36種であった。なお4月の活動は悪天候のため中止となった。定例調査では、6月までは感染症対策として車での乗り合いを避け、1ないし数地点を徒歩で移動して調査を実施した。7月以降は数班を編成して車で移動し、調査を実施した。1月には、うおの会のデータを元にして出版・発表された書籍・論文の内容を紹介する勉強会を実施した。2月には各会員が持参した、魚や琵琶湖に関する本やこだわりの採集道具を相互に紹介し、同定できていない魚の写真を持ち寄り意見交換する会を開催した。

その他、県内各地での自然観察会や講演会に講師として参加し、参加者へ魚や生息環境についての解説を行った。また「外来魚情報交換会」にて、うおの会のデータから滋賀県内の外来魚の分布状況を整理し、過去の状況と比較する内容の発表を行った。

「うおの会」のおもな活動

・2023年度 定例調査などの活動一覧 (のべ参加人数 197名)

活動日	内 容	参加者数
4月16日	(中止) 第173回定例調査 日野川(蒲生町)	
5月21日	第174回定例調査 天神川、御呂戸川(大津市)	21名
6月18日	第175回定例調査 琵琶湖博物館周辺水路(草津市、守山市)	18名
7月16日	第176回定例調査 野田沼周辺水路(長浜市)	18名
8月5日	南湖湖岸でのテナガエビ釣り、採り(草津市)	14名
9月17日	第177回定例調査 伊佐々川(草津市)	19名
10月15日	第178回定例調査 姉川周辺の水路、小河川(米原市)	15名
11月12日	水資源機構「お魚里帰り大作戦」への参加 新浜ビオトープ(草津市)	9名
11月18日	びわ博フェス2023出展 ※ワークショップ参加者36名+保護者(11月は定例調査を実施せず)	12名
12月17日	第179回定例調査 野洲川(旧石部町付近)	17名
1月21日	勉強会「うおの会の歴史と、データから分かったこと」	20名
2月18日	勉強会「私の1冊・私の逸品・みんなで同定しよう」	12名
3月31日	総会 場所:琵琶湖博物館	16名

※上記以外に運営会議を2回開催

※収集したデータの数: 定例調査47地点、個人調査22地点

・各種行事等への参加・協力一覧

活動日	内 容	参加者数
5月28日	第22回「琵琶湖外来魚駆除の日」展示出展(草津市・烏丸半島多目的広場)	2名
5月28日	淡海淡水生物研究所「長浜MLGs CAFE」講演 「水中から見た琵琶湖の外来魚」(長浜市・長浜まちづくりセンター)	1名
6月4日	高島市針江みずすまし水田自然観察会 講師(高島市・みずすまし水田)	1名

活動日	内 容	参加者数
6月11日	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会 生き物観察会 講師 (東近江市・栗見出在家町の水田)	1名
7月22日	エコノボイス滋賀「エコぶん寄席」 講演 「水中写真・映像でみる琵琶湖の魚たち」(草津市・道灌蔵)	1名
7月23日	琵琶湖ネット草津「水辺のふれあい楽校」 自然観察会 講師 (草津市・草津川)	2名
11月25日	びわこベース「サイエンスカフェ」にて講演 「魚つかみから、こんなことが分かった！琵琶湖博物館うおの会の調査研究 & ちょっとだけ琵琶湖の水中写真紹介」(大津市・びわこベース)	1名
2月 18・19日	外来魚情報交換会 参加・発表 「滋賀県内の外来魚分布状況－琵琶湖の“まわり”はどうなっている？琵琶湖博物館うおの会の調査結果より」 (千葉県流山市・江戸川大学)	1名

○近江 巡礼の歴史勉強会

世話役：福野憲二、吉井 隆、関谷和久、長 昭男 担当学芸員：橋本道範 会員数4名

[設立の趣旨]

近江の巡礼について、歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、宗教、郷土史、教育文化、行政など各種専門分野の人々と勉強会、見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を設立した。「近江の祈り」をテーマに、甲賀市で発見された福野家文書「甲賀准四国設置由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八ヶ所(注)の調査活動を行う。

(注)甲賀准四国八十八ヶ所は、滋賀県の四国巡礼として明治45年に設立された唯一の「写し四国八十八ヶ所」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多くの寺院には設立当時の掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録することに意義があると考えられる。

[活動の概要]

- ・「甲賀准四国設置由来」に基づき8名の発起人の現在を訪ね甲賀准四国に関する資料等の発掘を行い設立の経緯と巡礼の拡がりを調べる。
- ・札所の寺院を訪問し住職と面談することで、甲賀准四国の現在の状態を把握し、あわせて新たな資料を発掘する。
- ・朱印帳などを手掛かりに拡がり具合を調査し人々を巡礼に駆り立てる要因を探る。
- ・西国三十三所や近江西国三十三所の観音信仰との関連について調査し巡礼の実態を探る。
- ・専門分野だけでなく広く一般に活動の展開を図る。

[2023年度活動結果報告] 活動会員数(のべ)26名、一般参加者数(のべ)176名

- ・甲賀准四国対象寺院の住職との面談と調査は、対象98ヶ寺のうち、調査可能な寺院数は兼帯の寺院も合わせて92ヶ寺、廃寺・老朽化で調査不可能な寺院数は6ヶ寺である。その中で2024年3月までに住職との面談が実施できた寺院数は27ヶ寺(進捗率30.4%)である。
- ・甲賀市くすり学習館で登録有形民俗文化財の「甲賀売薬の製造・販売用具」企画展を見学。
甲賀の薬業は、中世に山伏が、火伏の神・愛宕神社や疫病退散の祇園社のお札とともに広めたとされ、甲賀地域の産業として発展した。配札が禁止された明治以降は「おきぐすり」として地域に定着し、配置売薬として富山や奈良に並ぶものである。館長との山伏と忍者に関する意見交換を行った。
- ・甲南町で札所石碑を発見。七ツ池地蔵堂・大師堂の道案内看板が新設されたことで、本来の参道が明確になり、その結果、甲賀准四国第19番札所の石碑を発見することができた。対象寺院92カ寺のうち55カ寺で石碑の存在を確認した。

- ・立命館大学食・マネジメント学部のフィールドワークを今郷棚田で実施。
みなくち子どもの森自然館学芸員の解説で今郷棚田の生き物観察を行い、生物多様性を実感した。また、竹の食器を使った新米の食比べなど食に関する調査や体験も行った。
- ・今郷棚田の活動で自然環境の保護保全活動を行っていることから、BBCびわ湖放送の番組「琵琶湖まんだら」のインタビューを受けた。今郷棚田の希少種や生物多様性について話した。
- ・「比叡山延暦寺」叡山文庫を再訪、飯道寺関連の古文書を閲覧
大津市坂本にある天台宗資料の宝庫「叡山文庫」を小森大僧正とのご縁から閲覧させていただく機会を得た。甲賀准四国にも属する甲賀市の飯道寺や湖南市の善水寺と奈良県吉野の竹林院の古文書を中心に閲覧した。飯道寺分限書や数種類の縁起書、岩本院と梅本院に関する書類はとても興味深い。また、吉野竹林院の書類でも新しい発見があった。
- ・雷門で有名な金龍山浅草寺に参拝
浅草寺は聖観世音菩薩を本尊とする坂東三十三箇所第 13 番札所である。甲賀准四国の発願者の納経帳では大正 6 年（1917 年）3 月に確認することができ、107 年という時間に感慨深いものがある。発願者の甲賀准四国設置までの巡礼の経過を見てみると、明治 43 年に拾壺州西国霊場と近江西国霊場。明治 44 年は南海道の四国と伊賀国の新四国。続いて明治 45 年に甲賀西国を巡拝するうちに、巡礼の有難さを深く感じ、地元にも写し霊場を設置したいとの思いから、4 月に甲賀准四国八十八箇所を設立している。その後も発願者の巡拝は続き、5 月には淡路西国を巡っている。大正 2 年には尾張国知多郡の新四国、讃岐国小豆島の新四国と続き、大正 6 年 3 月に秩父坂東三十三所を巡拝している。発願者の熱意と信心の深さを感じた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初計画の下記 3 項目が実施できなかった。
 1. 甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示を実施して調査結果を発表する。
 2. 甲賀准四国の関係者や巡礼の専門家との第二回目勉強会を開催する。
 3. 年度末に近江 巡礼の歴史勉強会の報告会を開催する。

「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4 月 20 日	甲賀市土山町鮎河の栖碧院（せいへきいん）再訪	甲賀市土山町
5 月 5 日	「甲賀売薬の製造・販売用具」文化財登録記念企画展	甲賀市甲賀町
5 月 18 日	甲賀衆大原氏一族の大原同苗講について懇談会	甲賀市水口町
5 月 28 日	第 19 番札所七ツ池地藏・大師堂の石碑発見	甲賀市甲南町
6 月 18 日	石馬寺で十一面千手観音像の御開帳	東近江市
7 月 2 日	甲賀准四国 77 番札所、善水寺笈渡し会	湖南市岩根
7 月 8 日	甲賀准四国 52 番札所、巖峨千光寺を再訪	甲賀市水口町
7 月 30 日	今郷棚田の自然観察会を実施	甲賀市水口町
9 月 26 日	ミホミュージアム企画展「金峯山の遺宝と神仏」	甲賀市信楽町
10 月 14 日	立命館大学フィールドワーク、生物多様性の調査	甲賀市水口町
10 月 16 日	大原同苗講の墓石調査（大原篠山氏）	甲賀市水口町
11 月 15 日	今郷棚田の活動で、びわ湖放送「琵琶湖まんだら」出演	甲賀市水口町
11 月 22 日	甲賀忍術研究会で大原同苗講の講演を聴講	甲賀市水口町
1 月 18 日	比叡山延暦寺の叡山文庫を再訪し古文書を閲覧	大津市坂本
2 月 26 日	湖北野鳥センター周辺で山本山のオオワシ観察	長浜市湖北町
3 月 1 日	坂東三十三所 13 番札所、金龍山浅草寺を訪問	東京都台東区

※「近江 巡礼の歴史勉強会」活動の参加人数について

年	活動日数	活動会員数	一般参加者数	合計
発足前	25	51	0	51
2017年	37	76	82	158
2018年	21	42	*627	669
2019年	19	44	*543	587
2020年	3	12	95	107
2021年	9	20	110	130
2022年	22	38	*576	614
2023年	16	26	176	202
合計	152	309	2209	2518

*甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示実施して調査結果を発表した。岩上自治振興会の歴史講座や研修を実施した。(2018年・2019年)

*「近江のなれずし製造技術」と「甲賀売薬の製造・販売用具」の民族文化財登録の記念講演会参加人数を含む。(2022年)

○淡海スケッチの会

担当学芸員：榊永一宏 会員数：9名

[設立趣旨]

「外へ誘う博物館」を実践し、滋賀県内の各所へ赴き、絵画等により風景やものを観察、写生することで記録を残すことを目的とする。

[活動概要]

月1回(基本的に第3日曜日)、滋賀県内各地でスケッチ会等を開催。また、気候が厳しい真夏や真冬、雨天時は琵琶湖博物館内でスケッチおよび吟行を行う。2015年秋に設立。風景に限らず植物や、博物館内の剥製、水族展示室の魚などをスケッチし、専門家の話を伺う機会も設けている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月23日	写生会	西教寺(大津市)	2名
5月21日	吟行	堅田(大津市)	2名
6月18日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	3名
7月16日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	3名
8月21日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	3名
9月19日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	3名
10月15日	写生会	花緑公園(野洲市)	2名
11月19日	中止		
12月17日	ミーティング	琵琶湖博物館	3名
1月21日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	3名
2月18日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	3名
3月17日	スケッチおよび吟行	琵琶湖博物館	2名

※総活動人数29名

○近江はたおり探検隊

運営：辻川智代 担当学芸員：橋本道範

[設立の趣旨]

2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要]

博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縮柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月15日	織姫の会	生活実験工房	2名
4月26日	織姫の会	生活実験工房	4名
5月10日	織姫の会	生活実験工房	5名
5月27日	織姫の会	生活実験工房	5名
6月7日	織姫の会	生活実験工房	4名
6月24日	織姫の会	生活実験工房	4名
7月12日	織姫の会	生活実験工房	5名
7月29日	織姫の会	生活実験工房	4名
9月13日	織姫の会	生活実験工房	8名
9月30日	織姫の会	生活実験工房	5名
10月14日	織姫の会	生活実験工房	2名
10月25日	織姫の会	生活実験工房	6名
11月8日	織姫の会	生活実験工房	6名
11月26日	びわ博フェス「毛糸で袋を織ってみよう」	生活実験工房	6名 体験者10名
12月9日	織姫の会（わく探と共催「綿に触れてみよう」）	生活実験工房	5名 体験者13名
12月16日	織姫の会	生活実験工房	2名
1月13日	織姫の会	生活実験工房	4名
1月31日	織姫の会	生活実験工房	4名
2月7日	織姫の会	生活実験工房	4名
2月24日	織姫の会	生活実験工房	5名
3月6日	織姫の会	生活実験工房	5名
3月23日	織姫の会	生活実験工房	5名

○大津の岩石調査隊

代表者：斉藤文字 担当学芸員：里口保文 会員数：20名

[設立の趣旨]

市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要]

隊員各自が野外調査を担当し、計画立案から調査後の報告までを行った。初めての調査地もあり、多様な岩石の見識を深めることができた。また、長年の継続調査から学会誌への論文発表の成果があった。室内勉強会では、採取岩石を持ち寄り、情報交換と岩石の同定を試みた。さらに、宇宙についての魅力ある発表

もあった。またびわ博フェスでは「岩石標本を作ってみよう」というワークショップを行い、多くの子供たちの参加があり大変賑わった。

「はしかけ大津の岩石調査隊」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4月2日(日)	奥永源寺神崎川沿い地質調査	東近江市	9名
5月28日(日)	瀬田川鹿跳橋周辺の路頭調査	大津市	11名
6月10日(土)	比叡山衣掛岩周辺のハイキング	大津市	11名
8月27日(日)	勉強会 隊員による研究発表	琵琶湖博物館	8名
10月22日(日)	常楽寺から阿星山周辺の路頭調査	湖南市	10名
11月18・19日(日)	びわ博フェス参加 ワークショップ「岩石標本を作ってみよう」	琵琶湖博物館	6名
12月23日(日)	勉強会 隊員による発表	琵琶湖博物館	8名
1月20日(日)	勉強会 鉱物化石展へむけての準備、岩石検討など	琵琶湖博物館	9名
2月18日(日)	第37回 地学研究発表会へ参加	琵琶湖博物館	5名
3月16日(土)	野洲花崗岩体の花崗岩観察	野洲市・湖南市	8名

○温故写新

担当学芸員：加藤秀雄 会員数：21名

[設立の趣旨]

写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様子を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動概要]

2023年度は「駅前風景」をテーマとして、急速に変わりゆく県内の駅前風景の「いま」を残すことを目的として、撮影を行いました。

「温故写新」のおもな活動

<2023年度の活動日と内容>

- 7月12日 企画展示「おこめ展」オープニングセレモニーの様子の撮影を行いました。
- 8月27日(日) おでかけ撮影会 in 石山 石山駅周辺および瀬田の唐橋周辺の風景を撮影
- 9月16日(日) おでかけ撮影会 in 守山 守山駅前の風景を撮影
- 10月29日(土) おでかけ撮影会 in 水口 貴生川駅前の風景を撮影
- 11月18日(土)～19日(日) びわ博フェス 2023 撮影クルーとして貢献

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子 担当学芸員：中川信次 会員数：1名

[設立の趣旨]

地域の生活のあり方を考えながら地域の生活話を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要]

2023年度は活動休止

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：堀田博美 事務局長：安原輝 担当学芸員：山川千代美 会員数：28名

[設立の趣旨]

多賀町四手で計画された 180～190 万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、市民参加の方々を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

〔活動の概要〕

本年度も「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」が実施され、発掘調査に参加した。今回の発掘調査においても、古琵琶湖発掘調査隊のメンバーが組分けされたグループの組長を担い、円滑に発掘調査が進むよう心掛けた。発掘調査には、遠方で研究や仕事をしているメンバーも駆けつけた。また、発掘調査中に行われた屋外での勉強会では、古琵琶湖発掘調査隊からも、2名のメンバーが勉強会を担当した。発掘調査では、実践を通じて、世代や立場の異なる方々と連携・協力しながら調査し、学び合うという、貴重な経験を積むことができた。

屋内活動では、「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石(昆虫化石・咽頭歯化石・植物化石)のクリーニングに重点的に取り組んだ。採集の際に一時保存された化石の状態確認を行い、クリーニングの方針を検討しながら、丁寧にクリーニングを行った。採集された化石は、小さい化石や壊れやすい化石が多いため、クリーニングの経験を積み上げつつ、各自、さらなるクリーニング技術の向上に努めている。

また、専門の先生方が活動に来て下さることもあった。八尋克郎先生が昆虫化石のクリーニングの進め方について教えて下さったり、中島経夫先生がフナ属の咽頭歯化石を見分けるポイントについて教えて下さるなど、標本を見ながら、直接教えていただいたり質問させていただける貴重な機会となった。

屋外活動では、服部川にて化石の観察・採集を行った。

「びわ博フェス 2023」では、アトリウムでのポスター掲示の他、本年度もワークショップ「粒度表作り」を行った。前年度も実施した経験を踏まえ、ワークショップスタッフと体験される方との双方向の交流を意識するなど、本年度も無事にワークショップを実施することができた。発表会Ⅱの3分間トークでは、メンバー2名がインタビュー形式での発表を行った。

その他、情報誌「びわはく」第7号の「フィールドからの新発見」のコーナーに、古琵琶湖発掘調査隊の活動の様子が掲載されるなど、本年度も充実した活動を行うことができた。

〔定例活動〕

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」への参加

日時：4月22日(土)～4月30日(日)9:00～16:00 (4月25日・26日は中止)

場所：滋賀県犬上郡多賀町四手 参加者(のべ)：33名

〔屋内活動〕

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング〔昆虫化石・咽頭歯化石・植物化石〕

- ①日時：5月17日(水)13:00～16:30 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：5名

作業内容：化石の確認作業・作業方針の検討

- ②日時：5月23日(火)13:00～16:00 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：2名

作業内容：昆虫化石の仕分け

- ③日時：6月7日(水)13:00～16:00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：4名

作業内容：昆虫化石の仕分け 八尋克郎先生が来て下さり、昆虫化石のクリーニングの進め方についてアドバイスをして下さった

- ④日時：6月14日(水)13:00～16:00 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：2名

作業内容：昆虫化石のクリーニング

- ⑤日時：6月18日(日)13:00～16:00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：2名

作業内容：昆虫化石のクリーニング

- ⑥日時：7月5日(水)13:00～16:00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：4名

- 作業内容：昆虫化石のクリーニング 植物化石などの状態確認と保存状態維持作業
- ⑦日時：7月12日（水）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：2名
作業内容：昆虫化石と植物化石のクリーニング
- ⑧日時：7月16日（日）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：4名
作業内容：咽頭歯化石と植物化石のクリーニング 昆虫化石のスケッチ2枚
- ⑨日時：7月28日（金）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：3名
作業内容：主に植物化石のクリーニング
- ⑩日時：8月26日（土）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ
参加者：4名 作業内容：咽頭歯化石と植物化石のクリーニング
- ⑪日時：9月12日（火）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ
参加者：3名 作業内容：植物化石のクリーニング
- ⑫日時：10月6日（金）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ
参加者：4名 作業内容：植物化石のクリーニング
- ⑬日時：12月23日（土）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ
参加者：6名 作業内容：植物化石のクリーニング
- ⑭日時：1月21日（日）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：6名
作業内容：植物化石のクリーニング
- ⑮日時：2月10日（土）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ
参加者：4名 作業内容：植物化石のクリーニングと作業状況の確認
- ・「びわ博フェス 2023」で行うワークショップ『粒度表作り』の準備①
日時：10月10日（火）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ
参加者：2名
 - ・勉強会①「粒度表の作成」（「びわ博フェス 2023」でのワークショップに向けての準備及び勉強会）
②「フナ属の咽頭歯化石を見分けるポイントについて」
中島経夫先生が来て下さり、フナ属の咽頭歯化石を見分けるポイントについて教えて下さった
日時：10月22日（日）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：7名
 - ・「びわ博フェス 2023」で行うワークショップ『粒度表作り』の準備②
日時：11月14日（火）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ
参加者：2名
 - ・「びわ博フェス 2023」への参加
①ポスター展示(11月18日・19日) アトリウムに、活動紹介のポスター2枚を掲示した
②ワークショップ『粒度表作り』の実施
日時：11月18日（土）13：00～13：45（1回目）14：00～14：45（2回目）
場所：琵琶湖博物館 実習室1
参加者：古琵琶湖発掘調査隊5名 ワークショップ体験者6名（付き添いの方の人数は含まず）
 - ③発表会Ⅱ(3分間トーク)に参加
日時：11月18日（土）15：15～16：00 場所：琵琶湖博物館 セミナー室 参加者：5名
 - ・古琵琶湖発掘調査隊 総会
日時：3月2日（土）13：00～17：00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：5名
- 〔屋外活動〕
- ・服部川にて化石の観察会(中止)(前々日に降った雨で観察可能な場所が冠水していたため中止)
日時：5月21日（日）10：00～14：00 場所：服部川(三重県伊賀市)
 - ・服部川にて化石の観察・採集(5月21日の代替日)

日時：5月28日（日）10：00～14：30 場所：服部川(三重県伊賀市) 参加者：2名

- ・服部川にて化石の観察・採集

日時：11月26日（日）10：00～13：00 場所：服部川(三重県伊賀市) 参加者：6名

活動内容：現地にて服部川に詳しいメンバーから服部川で観察できる化石について説明を受けた後、服部川河床にて化石の産状の観察・採集

[その他]

- ・情報誌「びわはく」第7号への掲載

情報誌「びわはく」第7号の「フィールドからの新発見」のコーナーに、古琵琶湖発掘調査隊の活動の様子が掲載された

○ザ！ ディスカバはしかけ

担当学芸員：妹尾裕介、米田一紀 会員数：5名

[設立の趣旨]

子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることを目指している。

[活動の概要]

2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動。大人と子どもと一緒に楽しむイベント作りを目指している。

今年度の活動はなかった。

○里山の会

担当学芸員：美濃部諭子 会員数：37名

[設立の趣旨]

交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ方」を模索している。

[活動の概要]

里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の散策、夏の昆虫・生物観察、秋の散策、不輸のたき火など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動の地域での認知度も高まってきている。

「里山の会」のおもな活動

活動日	行事名	場所	参加人数
4月15日	里山体験教室(春)下見	野洲市大篠原地先	3名
4月23日	里山体験教室(春)本番「里山の春を探そう」	野洲市大篠原地先	28名
5月23日	潮干狩り	三重県御殿場浜	7名
7月1日	里山体験教室(夏)下見	野洲市大篠原地先	5名
7月9日	里山体験教室(夏)本番「里山の夏を楽しもう」	野洲市大篠原地先	中止
8月19日	そうめん流し	琵琶湖博物館	
9月23日	ハンモック虫干し・道具整備	琵琶湖博物館	8名
10月7日	里山体験教室(秋)下見	野洲市大篠原地先	6名

活動日	行事名	場所	参加人数
10月15日	里山体験教室(秋)本番 「里山の秋を探そう」	野洲市大篠原地先	14名
11月5日	はしかけの森整備&お楽しみ	野洲市大篠原地先	5名
11月19日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	6名
12月24日	凧作り凧上げ	琵琶湖博物館	8名
1月13日	里山体験教室(冬)下見	野洲市大篠原地先	5名
1月21日	里山体験教室(冬)本番 「里山の冬遊び」	野洲市大篠原地先	中止
3月2日	総会・キノコ菌打ち	琵琶湖博物館	

○植物観察の会

代表者：辻いずみ 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：12名

[設立の趣旨]

2004年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、「はしかけ」本来の自主的活動とするため、2017年からメンバー登録し、月に1度「定例会」、年に数回「お出かけ観察会」を行う形とした。

[活動の概要]

2017年4月から登録制とし、月に1回定例会を行っている。

定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、外部へのお出かけ観察、芦谷先生に水草について教えて頂くなど、季節や天候によって変えながら行った。はしかけ登録者全体へ呼びかけていた「お出かけ観察会」は、新型コロナ発生時の2020年度から行っていない。

外部へのお出かけ観察も登録メンバーのみで行い、新型コロナやインフルエンザ感染者数が県内で増える傾向にあるときには、活動を停止したり、室内での活動をやめて屋外での観察を行ったりした。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4月2日(日)	博物館周辺の観察	琵琶湖博物館周辺、樹冠トレイル	3名
5月7日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	2名
6月4日(日)	お出かけ観察	みなくち子どもの森(甲賀市)	6名
7月2日(日)	博物館周辺の観察	琵琶湖博物館周辺、樹冠トレイル	3名
8月	猛暑のため 例年お休み		
9月3日(日)	お出かけ観察(水草観察④)	長浜市 豊公園	4名
10月1日(日)	博物館周辺の観察	琵琶湖博物館周辺、湖岸、みずの森	3名
11月5日(日)	都合によりお休み		0名
12月3日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 オープンラボ	4名
12月24日(日)	特別定例会(初心者向けコケ講座)	琵琶湖博物館 オープンラボ	5名
1月7日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	4名
2月	例年お休み		
3月3日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	3名

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

- ・今年度も初めてのものを見たり教えてもらったりすることができた。1人でも歩いて観察はできるが、メンバー同士で植物の話をしながら歩くのも楽しいと感じる。この季節にはあそこの花が咲いているとか、この木の名前の由来はとか、一人ひとりの知識共有出来るのも有り難い。
- ・一人で調べていても分からないことでも、博物館の種類の違う図鑑をみんなで見比べることで分かってくることが多かった。他種類の図鑑を芦谷先生に準備して頂けること、実習室やラボの実態顕微鏡、顕微

鏡を使えることは、この「はしかけ」活動の大きな利点である。

- 日程調整が上手くいかず昨年度行えなかった「水草観察 IV」（芦谷先生に教えていただく）を、今年度は行うことができた。以前教えていただいたのに忘れてしまっていることが多く、先生を質問攻めにしてしまった。水の中に生息するからこそできる水草たちの戦略には、いつも驚かされる。これからも、芦谷先生に教えていただきながら行う「水草観察」をできる限り続けていきたい。
- 他の「はしかけ」活動を兼ねているメンバーが多く、視点を変えた新しい観察ができ個々でも楽しめた。それぞれの活動日が重なることがあり、どちらを優先して選ぶかで参加人数が減ってしまう結果となっているが、またそこで得た新しい情報を聞かせてもらえるので楽しい。
- 12月3日に参加メンバーでコケの観察に興味を持ち、博物館の外へ出てコケの採取をしたが、自分たちでは全く分からないことを痛感した。コケ（主に蘚類）について教えていただける方があると聞き、芦谷先生にお世話になり講師依頼をしていただいた。念願叶い、12月24日、お忙しい中を小林亮平さんに初心者向けのコケ講座をしていただいた。標本で実物を見せていただきながら、蘚類の主な部分の名称や見方を教えていただくことができた。そのおかげで、実物と図鑑を見比べたりしたときにも、この部分を見てみよう、と思えるようになり、種名まではなかなかたどり着けないが観察の楽しみが増えた。



○たんさいぼうの会

会長：津田久美子 担当学芸員：大塚泰介

会員数：21名（年度内に何らかの活動に関わった延べ人数）

[設立の趣旨]

珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要]

2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞）の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。

前年度に引き続き、集まって活動を行うのが難しい状況が続いていたため、個人で進められる顕微鏡写真撮影や珪藻の同定などを進めるとともに、成果を論文として発表することに努めた。ただし、会長、影の会長とも今年度から急激に忙しくなったため、同定の確認や論文の仕上げが進んでいない。それでも、会員を主著者とする論文（短報）1本が出版された。

泉野央樹・洲澤多美枝・大塚泰介（2023）西日本3河川からの *Cymbella compactiformis* の出現. *Diatom*, 39: 47-53. <https://doi.org/10.11464/diatom.39.47>

また、会員を主著者あるいは共著者とする研究発表がいくつか行われ、そのうち以下の発表がたんさいぼうの会名義で行われた。

富 小由紀・堂満華子・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト（2023年5月14日）滋賀県犬上郡多賀町四手産の珪藻化石に基づく古環境，日本珪藻学会第44回大会，文教大学東京あだちキャンパス（東京都足立区），[口頭発表]。

会としては、かつての「たんさいぼうの旅」「たんさいぼうの小さな旅」で採集された、瀬田公園（滋賀県大津市）、愛知県の鉾質土壌湿原群、野田沼・曾根沼（滋賀県彦根市）、安曇川（滋賀県大津市・高島市）な

どの現生珪藻植生の研究を進めており、順次、論文として発表していく予定である。このほかに、会員の様々な個人研究も進められている。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月1日	たんさいぼうの会 第73回総会	研究交流室／オンライン	担当：石井千津 参加者：7名
5月13・14日	日本珪藻学会第44回大会に参加	文教大学東京あだちキャンパス(東京都足立区)	参加者：4名
5月27日	ミズワタクチビルケイソウ調査	安曇川葛川地区(大津市)	参加者：4名
7月23日	たんさいぼうの会第74回総会	研究交流室／オンライン	担当：西坂一成 参加者：8名
10月15日	たんさいぼうの会第75回総会	研究交流室／オンライン	担当：根来 健 参加者：10名
10月18・19日	「びわ博フェス」でマイクロアクアリウムを占拠、ワークショップ開催(琵琶湖の小さな生き物を観察する会と共催)	オンライン	担当：大塚泰介 参加者：4名
1月20日	たんさいぼうの会第76回総会	オンライン	担当：安達 誠 参加者：5名

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：鈴木隆仁 会員数：12名

[設立の趣旨]

滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、そこに生息する大型鰓脚類などの生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要]

毎年5月、6月に、滋賀県各地の水田においてハウネンエビ、カブトエビ類、カイエビ類の分布を調査して標本を同定するとともに、採集データを登録して分布図を作成する活動を行っている。本年度も、3次メッシュコード単位で未調査になっていた東近江市の旧八日市市西部と五個荘地区の16メッシュとその周辺で、大型鰓脚類の分布調査を実施した。

五個荘地区では、調査筆の74%でハウネンエビ、カイエビ、タマカイエビのいずれかの生息を確認した。また、五個荘木流町から五個荘金堂町にかけての計7筆でトゲカイエビの生息を確認した。いずれも愛知川左岸から1km前後西にある水田であり、湖南から湖東地区でトゲカイエビの生息が確認された最も東の地域にあたる。一方、旧八日市市西部でエビ類の生息が確認された水田は、調査筆の41%にとどまったが、太郎坊宮の南に位置する小今町でヒメカイエビが、また、船岡山の北西に位置する近江八幡市内野でアジアカブトエビの生息が確認された。大津市南部以外の滋賀県内でアジアカブトエビが見つかった初めての例になるが、船岡山の東側ではアメリカカブトエビの生息も同時に確認されており、周辺の水田におけるカブトエビ類の生息状況をより詳細に調査する必要があると考えられる。なお、5月21日に旧八日市市西部で実施した調査では、滋賀県立大学生生き物研究会に所属する大学生3名の見学を受入れた。

2種のカブトエビが共存している大津市月輪三丁目、大江四丁目・五丁目、石山寺三丁目・四丁目、赤尾町の約50筆の水田において、2023年度もカブトエビ類の追跡調査を実施した。その結果、これまでと同様に、月輪三丁目、石山寺三・四丁目ではアジアカブトエビが徐々に優勢になっているのに対して、赤尾町ではアメリカカブトエビとアジアカブトエビの生息比率がほぼ2:1という状態を維持していることが確かめられた。大江四丁目・五丁目では、既にアジアカブトエビが大勢を占めているものの、アジアカブトエビの生息する水田が開発等により減少したため、アメリカカブトエビの比率が1割程度に回復した。なお、琵琶湖博物館の金尾滋史主任学芸員より、大津市芝原二丁目で採集したアジアカブトエビの標本が提供された。

これらの結果より、大津市南部での追跡調査は一旦終了し、今後はカブトエビ類の分布の広がりを探ることに調査の力点を移すことが適切であると考えられる。

2022年度より、隣接する京都府南部においても2種のカブトエビ類を中心に大型鰓脚類の分布調査を行っている。2023年度は、木津川市山城町、綴喜郡井出町、久世郡久御山町、京都市伏見区の計11筆でアジアカブトエビの生息を確認した。そのうち、久世郡久御山町の1筆では、アメリカカブトエビと共存していることも確認した。

2種のカブトエビが共存する地域での勢力圏の変化の要因を探るために、2022年度から琵琶湖博物館屋上に40cm四方、深さ30cm程度の大きさのミニ水田を2個設置して飼育実験を行っている。本年度も、4月末に注水し5月10日に稲の苗を植えたところ、5月24日に一方のミニ水田で大きさ5mm程度のアメリカカブトエビが1個体のみ確認された。しかし、大きく成長するまでには至らなかったため、近隣の水田で採取したアメリカカブトエビとアジアカブトエビをそれぞれのミニ水田に再度放流し、飼育実験を継続した。

ところで、2015年から2017年にかけて滋賀県内各地で実施した分布調査の結果には、ヒメカイエビの記録が60件余り含まれているが、その後5年間の調査結果には、ヒメカイエビが7件しか記録されていない。そこで、2015年から2017年にかけてヒメカイエビの生息が確認された水田とその周辺に現在もヒメカイエビが生息しているかを確認する調査を行った。その結果、大津市の唐崎学区内の8筆、高島市の旧高島町、安曇川町、新旭町内の計4筆、甲賀市の旧信楽町内の1筆で、現在もヒメカイエビが生息していることを確認した。

そのほか、7月12日から23日まで近鉄百貨店草津店で開催された「夏休み！自由研究応援展」に、田んぼの生きもの調査グループの活動を紹介するポスターと動画を掲出した。さらに、7月15日から11月19日まで開催された琵琶湖博物館企画展示「おこめ展」に、本年度までの調査結果をもとに作成した滋賀県と京都府南部における大型鰓脚類の分布図などを掲載したポスター2枚を展示した。

「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月2、4、9、14、18、22、24日	東近江市の五個荘地区、および、近江鉄道八日市線、近江鉄道本線、名神高速道路、滋賀県道41号線で囲まれた旧八日市市西部の水田を下見し、調査筆の確定作業を行った	近江八幡市、東近江市	1名
4月8、30日 5月3、10、19日	琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナに作成したミニ水田で、田起こし、注水、代掻き、田植えを順次行い、カブトエビ類の発生を確認した。また、新たに採集したカブトエビを放流し、飼育実験を継続した	琵琶湖博物館	2名
5月2、17、24日	近江八幡市武佐町、安土町内野、東近江市糠塚町、小脇町、小今町、市辺町、三津屋町、上平木町、平田町の水田で、5月20、21、27日実施予定の合同調査の下見を兼ねて、大型鰓脚類の分布調査を行った	近江八幡市、東近江市	1名
5月7日	5月20、21、27日および6月4日実施予定の合同調査の班分けを行い、集合場所、調査地などについて打ち合わせを行った。また、調査に用いる採集瓶の準備、マニュアルとGPSの配布を行った	琵琶湖博物館	8名
5月12、13、16、26、28日	大津市柳川一丁目、高砂町、南志賀二丁目・四丁目、見世一丁目・二丁目、滋賀里四丁目、坂本六丁目・七丁目、高島市高島、安曇川町青柳、新旭町新庄、甲賀市信楽町牧・勅旨の水田において、ヒメカイエビの分布調査を行った	大津市、高島市、甲賀市	1名
5月17日	大津市桜野町一丁目、見世一丁目の水田において、大型鰓脚類の分布調査を行った	大津市	1名

活動日	内 容	場 所	参加者
5月20日	東近江市上羽田町、市辺町、布施町の水田において、大型鰓脚類の分布調査を行った	東近江市	3名
5月21日	東近江市柏木町、三津屋町、野口町、市辺町、糠塚町、小今町の水田において、大型鰓脚類の分布調査を行った	東近江市	5名
5月23、31日	大津市伊香立上在地町、和邇今宿、月輪三丁目の水田において、大型鰓脚類の分布調査を行った	大津市	2名
5月23日 6月7日	大津市北大路二丁目の水田において、大型鰓脚類の分布調査を行った	大津市	1名
5月27日	東近江市五個荘地区の水田において、大型鰓脚類の分布調査を行った	東近江市	4名
6月4日	大津市石山寺三丁目・四丁目、赤尾町の水田で、カブトエビ類の分布調査を行った	大津市	5名
6月6日 6月7日	大津市大江四丁目・五丁目の水田で、カブトエビ類の分布調査を行った	大津市	1名
6月14、16、17、 18、20日	京都府相楽郡和束町中、木津川市山城町綺田、綴喜郡井出町井出・多賀、城陽市奈島、久世郡久御山町森・島田、京都市伏見区羽東師・久我の水田で、カブトエビ類の分布調査を行った	京都府相楽郡和束町、木津川市、綴喜郡井出町、久世郡久御山町、京都市伏見区	1名
7月8日	採集した標本の同定作業（1回目）を行った	琵琶湖博物館	5名
7月15日	採集した標本の同定作業（2回目）を行った	琵琶湖博物館	7名
8月6日	採集した標本の同定作業（3回目）を行った	琵琶湖博物館	5名
12月9日	本年度の調査を分析した結果を報告し、検討した	琵琶湖博物館	9名
3月3日	総会：本年度の活動報告を承認するとともに、来年度の活動計画を立案した	琵琶湖博物館	7名

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：2名

〔設立の趣旨〕

「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。

〔活動の概要〕

2023年度は広域調査の実施年度ではなく、グループでの行事は実施しなかった。

○ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」

担当：中村久美子（2023年9月より産休育休中）、山川千代美、松岡由子 会員数：5名

〔設立の趣旨〕

幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指している。

〔活動の概要〕

2012年度環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」、そして2016年9月からはしかけ活動として立ち上がった。毎月おおそ第3水曜日に、約10組の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理して食べたり、

五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施している。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいるが、時にはお腹が大きくなったお母さんが来られ、しばらくして産まれてすぐの赤ちゃんを連れてきてくださることもあり、0歳児から小学生高学年までと年齢幅広く、自然の中で遊んでいる。

2021年度から始まった琵琶湖博物館ホームページ経由の申込みも定着した。10時から14時までに設定して、親子の都合に合わせて、長く遊んだり、時間内で自由に来場できるようにしている。

コロナ禍で控えていた野草や農産物の調理も行い、子どもが初めて食べる野草や保護者さんが農産物の美味しさを感じる機会を提供した。その農産物は、工房の畑でジャガイモ、サツマイモ、サトイモなど作りやすく、収穫が楽しいイモ類を中心に栽培した。しかし、今年は夏場の高温と虫等の影響で、寂しい収穫だった。ネズミサイズのサツマイモを焼き芋にして、それでも「美味しい」と話している親子がいてくださるのが嬉しかった。来年度はなんとか大きくたっぷり収穫したい。

中村学芸員が中心となって進めたちこあその「絵本」ができあがった。タイトルは「おいでよちこあそはくぶつかんのもりで」である。読むと、まるでちこあそに来ているような気持ちなるよう、子どもの姿や工房の周りの自然を切り絵で表現している。持ち帰って早速読んでくださった親子から絵本に登場する子どもを見つけて「これぼくや」や「バンダナおじさんや」「またちこあそ行こ」とおしゃべりしていますと連絡をくださった。子どもが実際のちこあその体験と、絵本の世界でお家でも想像することが、成長の一助となると考えている。手作りのスタンプカードを用意して、3回来てくださったらプレゼントしている。ちこあそは月1回の活動だが、お家と博物館がつながる形ができた。

中村学芸員が産休育休を取られて、そのお子さんを連れてちこあそに来てくださったり、大久保学芸員もお子さんと来られたりと、博物館の子育てニーズにも応える機会もつくっている。中村学芸員の代わりに、山川学芸員や松岡学芸員が担当くださって、ちこあそを見てくださる機会になった。細々とやっているはしかけであるが、広く認知くださって嬉しい。

写真で振り返る「ちこあそ」の1年



4月 たけのこ収穫



5月 田んぼの生き物探し



絵本ができあがりました



7月 ミシシippアカミガメを発見



9月 水遊びでピチャピチャ



10月 クルミ拾い



11月 びわ博フェス クズとカ比べ



12月 焼き芋



1月 フキ探し



2月 お店屋さんごっこ

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎 担当学芸員：大塚泰介 会員数：33名

[設立の趣旨]

私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

[活動の概要]

琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。月に1回集まって、琵琶湖などの小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察を行う。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4月28日	採集・観察会	琵琶湖博物館	9名
5月21日	採集・観察会	琵琶湖博物館	5名
6月24日	採集・観察会	琵琶湖博物館	13名
7月22日	採集・観察会	琵琶湖博物館	8名
8月27日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7名
9月23日	採集・観察会	琵琶湖博物館	5名
10月14日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7名
11月18日・19日	びわ博フェスワークショップ	琵琶湖博物館	7名
11月25日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7名
1月13日	採集・観察会	琵琶湖博物館	10名
2月10日	採集・観察会	琵琶湖博物館	12名
3月30日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7名(予定)

○びわたん

担当学芸員：安達克紀 会員数：13名

[設立の趣旨]

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィ

ールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要]

「琵琶湖博物館わくわく探検隊（通称：わくたん）」事業は、第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業の運営や参加者との交流などに関わっている。

今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数や回数を制限することになったが、全7回の計画をすべて実施することができた。

2023年度 「びわたん」のおもな活動「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	一般参加者	びわたん
5月13日	春の草花でしおりをつくろう！	19名	4名
6月10日	プランクトンを見よう！	16名	4名
7月8日	骨にふれてみよう！	22名	6名
12月9日	綿にふれてみよう！	15名	2名
1月13日	水鳥を観察しよう！	17名	7名
2月10日	ミニ水族展示をつくろう！	16名	7名
3月9日	火を起こしてみよう！	17名	4名

○ほねほねくらぶ

会長：西村有巧 副会長：榎本、納屋内 広報担当：宇野 担当学芸員：半田直人

会員数：大人22名 子ども1名 計23名

[設立の趣旨]

現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要]

2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれる哺乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1～2回の例会が活動の中心である。

2023年度は、ニホンザルやバイカルアザラシ、ツキノワグマなどの標本制作を行いながら、7月には、はしかけグループの『びわたん』さんと協力して、わくわく探検隊のプログラムとして「骨にふれてみよう！」を実施しました。

また、例年同様、琵琶湖博物館で開催された、琵琶博フェス2023に参加、来館者との交流活動を行いました。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	9日 ニホンザルの解剖、シロハラの仮剥製の制作	琵琶湖博物館
	22日 ニホンザルの解剖、チョウザメの解剖	
5月例会	14日 ニホンザルの解剖、テンの解剖、シロハラの仮剥製の制作	琵琶湖博物館
	27日 イタチの骨のクリーニング、カワウの骨のクリーニング	
6月例会	10日 ニホンザルの解剖、カワウの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	25日 カルガモの骨のクリーニング、カワウの骨のクリーニング	
7月例会	8日 わくわく探検隊のプログラム「骨にふれてみよう！」をはしかけグループの『びわたん』さんと共催	琵琶湖博物館
	30日 ニホンザルの解剖	
8月例会	19日 アカミミガメ 2体の解剖	琵琶湖博物館
	27日 アカミミガメの解剖、ツキノワグマの解剖	

活動日		内 容	場 所
9 月例会	3 日	ツキノワグマの解剖	琵琶湖博物館
	16 日	ツキノワグマの解剖	
10 月例会	1 日	ツキノワグマの解剖	琵琶湖博物館
	14 日	バイカルアザラシ、ミシシippアカミミガメの解剖	
11 月例会	11 日	バイカルアザラシの解剖	琵琶湖博物館
	19 日	琵琶博フェス 2023 にて来館者の方との交流活動	
12 月例会	2 日	バイカルアザラシの解剖	琵琶湖博物館
	17 日	ハクビシンの解剖 テンの骨のクリーニング	
1 月例会	6 日	ミシシippアカミミガメの解剖、ハクビシンの解剖、ハクビシンの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	21 日	カミツキガメの解剖、ハクビシンの解剖、ハクビシンの骨のクリーニング	
2 月例会	4 日	カミツキガメの解剖、鳥の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	24 日	ハクビシンの解剖、猿の骨のクリーニング	
3 月例会	6 日	カミツキガメの解剖、ハクビシンの解剖	琵琶湖博物館
	19 日	鳥の骨のクリーニング	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ 担当学芸員：大槻達郎 会員数：28名

[設立の趣旨]

薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト 8 名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

[活動の概要]

琵琶湖博物館と協力して実施している「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」は、春と秋の 2 回となった。4 月から 7 月は館外での活動が主であった。昨年のびわ博フェスは、子供向けに開催したワークショップだったので、今年は大人の方を対象に体験してもらうワークショップができ、ゆっくりとした時間を過ごしていただけたかと思う。今年度初めての試みで、餅花作りと七味作りを行った。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4 月 30 日	山菜摘み体験	甲賀市鳥居野	担当者：山本綾・吉野ま 参加者：15 名
5 月 13 日	お茶摘み体験	甲賀市鳥居野	担当者：山本綾・吉野ま 参加者：6 名
5 月 16 日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（春：ヨモギ）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：7 名
6 月 10 日	和のハーブを使ったワークショップ	守山市商業施設	担当者：深田・吉野ま 参加者：10 名
6 月 25 日	手作り蒸留器で蒸留体験	琵琶湖博物館 実習室 2	担当者：十塚・山本道・巻藤 参加者：5 名
①7 月 21 日 ②7 月 25 日	藍染め体験（湖南市下田）	湖南市下田	担当者：加藤・深田・木下 参加者：17 名
11 月 18 日	びわ博フェス（こんにやく湿布体験）	琵琶湖博物館 生活実験工房 （和室）	担当者：全員 参加者：15 名
11 月 21 日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（秋：フウ）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：6 名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
12月3日	アロマクラフト	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：吉野ま・江間 参加者：15名
12月23日	“緑のくすり箱らしい” 餅花作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：柳原・青木環・青木 春・元廣 参加者：17名
2月17日	七味作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：山本道・大羽幸・坪井 参加者：13名
2月17日	廃油石鹸作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：堀田・山本 参加者：13名
3月9日	木のスプーン作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：大羽利・久国 参加者：10名
3月17日	年度末総会	琵琶湖博物館 研究交流室	担当：吉野ま 参加者：一名
3月17日	環境学習センター・研修会	琵琶湖博物館 実習室1	担当：吉野ま 参加者：一名

○虫架け

代表者：八尋克郎 担当学芸員：今田舜介 会員数：22人

[設立の趣旨]

昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。また、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えている。2017年設立。

[活動の概要]

今年度は10回の定例会を開催した。延べ参加人数は、77名であった。野外活動については、ライトトラップを含む滋賀県内の昆虫の分布調査を計6回行った。

また、生活実験工房行事「田んぼ体験 昆虫採集」をサポートした。

びわ博フェスでは、「あなただけの昆虫コレクションを作ろう（プラ板作り）」のイベントを行った。定員10名で2回実施したが、各回とも満席になり盛況であった。好きな昆虫の絵をもとに楽しみながらオリジナルのプラ板作りを行い、子供や大人が昆虫に親しむいい機会になった。

さらに、「虫架け通信」第55号から第65号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有した。

「虫架け」のおもな活動

定例会

活動日	内 容	場 所	参加者
4月8日	野外調査	長浜市余呉町、姉川河口	11名
6月24日	ライトトラップ	大津市北比良イン谷口	9名
7月15日	ライトトラップ	高島市朽木小入峠	5名
7月30日	生活実験工房行事「田んぼ体験 昆虫採集」サポート	琵琶湖博物館	5名(一般参加者26名)
8月20日	ライトトラップ	高島市朽木小入峠	3名
9月23日	ライトトラップ	大津市北比良イン谷口	8名
10月21日	びわ博フェスの準備	琵琶湖博物館	7名
11月19日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	7名(一般参加者20名)
12月9日	冬の虫探し	栗東市金勝	8名
3月16日	総会	琵琶湖博物館	14名

虫架け通信の発行

発行日	号数	おもな内容
4月28日	虫架け通信 55号	長浜市余呉町調査報告、ギフチョウ、ナナフシ、挨拶
5月19日	虫架け通信 56号	5月例会報告、昆虫豆知識(52)、LBM虫日記(19)、記録・報告
7月2日	虫架け通信 57号	6月例会報告、LBM虫日記(20)、昆虫豆知識(53)、記録・報告
8月1日	虫架け通信 58号	7月例会報告、昆虫豆知識(54)、LBM虫日記(21)
8月30日	虫架け通信 59号	8月例会報告、昆虫豆知識(55)、LBM虫日記(22)、記録・報告
10月4日	虫架け通信 60号	9月例会報告、昆虫豆知識(56)、LBM虫日記(23)、記録・報告
10月29日	虫架け通信 61号	10月例会報告、昆虫豆知識(57)、LBM虫日記(24)、記録・報告
11月24日	虫架け通信 62号	11月例会報告、昆虫豆知識(58)、LBM虫日記(25)、記録・報告
12月23日	虫架け通信 63号	12月例会報告、昆虫豆知識(59)、LBM虫日記(26)、記録・報告
1月19日	虫架け通信 64号	1月例会報告、昆虫豆知識(60)、LBM虫日記(27)、記録・報告
2月17日	虫架け通信 65号	3月例会予定、昆虫豆知識(61)、LBM虫日記(28)、記録・報告

○森人(もりひと)

代表者：福岡敏雄 担当学芸員：林 竜馬 会員数：10名

【設立の趣旨】

2015年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人(もりひと)として「はしかけ」に登録し2016年度から活動を開始した。

【活動の概要】

2023年度の活動は前年度の16回に対し下記の通り18回(3月23日実施予定を含む)を実施することができた。例年どおり観察会や屋外展示の森の除草などの活動の他、交流活動では京都新聞主催のTOYOTA SOCIAL FES2023に初めて参加した。解説を交えながら9つのクイズとミッションを体験してもらった。びわ博フェスでは昨年同様のクイズラリーを実施した。いずれも良い感触を得たのでさらにブラッシュアップしたい。

2023年度「森人」の活動実績

活動日	内容	場所	参加者
4月8日(土)	植物観察会	近江富士花緑公園(野洲市)	3
4月22日(土)	植物観察会	鳴谷溪谷、鏡山(蒲生郡竜王町)	3
5月13日(土)	植物観察会	大津市北比良	3
5月27日(土)	植物観察会	こんぜの栗東東～金勝寺(栗東市)	3
6月10日(日)	トヨタ関係イベントの打合せ	研究交流室(琵琶湖博物館)	6
6月24日(土)	植物観察会	鳴谷溪谷(蒲生郡竜王町)	4
7月22日(土)	トヨタ関係イベントの打合せ	屋外展示(琵琶湖博物館)	4
8月	暑さ対策のため活動を中止		
9月9日(土)	トヨタ関係イベント、びわ博フェス2023関係の打合せ	研究交流室(琵琶湖博物館)	7
9月23日(土)	トヨタ関係イベント、びわ博フェス2023関係の打合せ	屋外展示(琵琶湖博物館)	6
10月14日(土)	トヨタ関係イベントの準備作業	研究交流室(琵琶湖博物館)	4
10月28日(土)	トヨタ関係イベント参加(注1)	屋外展示(琵琶湖博物館)	7
11月4日(土)	びわ博フェス2023関係の打合せ	研究交流室(琵琶湖博物館)	5
11月19日(日)	びわ博フェス2023(注2)	樹冠トレイル(琵琶湖博物館)	5

活動日	内 容	場 所	参加者
12月9日(土)	つる植物などの除草作業	太古の森(琵琶湖博物館)	4
1月27日(土)	つる植物などの除草作業	樹冠トレイル(琵琶湖博物館)	6
2月24日(土)	2024年度計画、ツタの除去	研究交流室、太古の森(琵琶湖博物館)	7
3月9日(土)	森の保全、植物観察	樹冠トレイル、太古の森(琵琶湖博物館)	3
3月23日(土)	植物観察会(実施予定)	屋外展示(琵琶湖博物館)	4
3月	はしかけ2023年度年報および 2024年度計画提出		
<p>(注1) 京都新聞主催のTOYOTA SOCIAL FES2023に参加した。</p> <p>(注2) ポスター掲示、活動紹介及び「子供向けのクイズラリー」を実施した。 はしかけニューズレター(171~176号)原稿提出</p>			

○琵琶湖梁山泊

代表者：坂本大介 担当学芸員：安達克紀・大塚泰介 会員数：5名

[設立の趣旨]

地域の自然や文化を研究する中高生の若者を中心として、2018年に設立されたグループである。研究が進みすぎてご家族や学校のサポートが及ばなくなった若者が、博物館の学芸員や大人メンバーのサポートを受けてさらに研究を進めるとともに、興味・関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間を見つけて互いに切磋琢磨する場になることを目指している。

[活動の概要]

若者の研究活動を進めるため、博物館の学芸員や大人メンバーが相談対応や助言などの支援を行い、研究のレベルアップを目指す。2020年3月以降はCOVID-19感染拡大のため、以前のような活動は十分にできない状況が続いた。2021年5月には新しい試みとしてZoomによる「オンライン総決起集会」を開催し、中高生会員および卒業生による4題の研究の成果が発表された。その後も2022年度までは細々と活動が続いていたが、2023年度には中高生の会員がいなくなり、ほぼ完全に活動休止状態となった。

「琵琶湖梁山泊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
10月18・19日	「びわ博フェス」でポスター掲示	琵琶湖博物館アトリウム	担当：大塚 参加者1名

○サロン de 湖流

会長：岩木真穂 担当学芸員：中川信次 会員数：7名

[設立の趣旨]

琵琶湖や周辺地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象(湖流・河川流・地下水流などや気象現象など)について気軽に語り合いながら、フィールドでの観測・背景原理を確かめる実験・数学や統計などの勉強会・生物現象や化学現象あるいは人文社会事象との関連の考察・物理現象を理解するための自分なりの方法の探究などへ発展を目指す。

[活動の概要]

一部メンバーの体調不良もあり、コロナ禍で中断した実際に湖上で観測を行う活動を系統的に再開するには至っておらず、新たな活動の方向を探ろうとしているが議論は進んでいない。その中で、夏休みの課題について博物館に相談してきた中学生が実施しようとしている内容が本グループの活動に合うものであったため紹介を受け、実験指導を行った。この実験はびわ博フェスの3分間トークでも披露した。

「サロン de 湖流」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
6月24日	新メンバーを迎えての打合せ	琵琶湖博物館会議室	2名
8月19日	夏休みの課題について博物館に相談してきた中学生への実験指導	琵琶湖博物館研究交流室	1名
11月5日	びわ博フェス3分間トークの予備実験	琵琶湖博物館実習室2	2名
11月19日	びわ博フェス参加（3分間トーク）	琵琶湖博物館セミナー室	1名

○水と暮らし研究会

代表者：杉田 薫 担当学芸員：楊 平 会員数：7名

[設立の主旨]

琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間、様々なエリアにおいて、人々は湧水、山水、川水などのさまざまな地表水、地下水と密接な関係にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながり「文化」をみることができる。

古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地移動が困難であった時代に土地を守り、生き抜くために、各集落で各家庭の生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水含め山水、川水など、水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし「文化」の継承状況を調査し先人たちの水に対する「想い」を発信し記録とし、また、他地域との交流の一助とならんことを願い、研究会を立ち上げた。

[活動の概要]

【活動方針】

テーマ1：古人の想い。暮らしと川とのかかわりを探る。

：暮らしと川とのかかわりあいの歴史から未来を探る。

テーマ2：琵琶湖博物館行事に参加、協力。

【活動の概要】

水とかかわりあって生きていく暮らしに焦点を当て、その暮らしの実態を現地調査し、地域でのヒアリングを通じ、先人たちから受け継いだ現代人の生活の実態を記録し発信していく。また活動テーマに関連する講座、シンポジウム等あれば、積極的に参加する。活動計画は、事前に調査先のリストを作成し、情報収集の効率アップに努め、調査終了後には各人の担当に基づく記録作成を速やかに実施する。また、博物館行事への積極的参加は、はしかけ活動の一環として重要事項との認識に基づくものであると考える。

「水と暮らし研究会」のおもな活動

テーマ1

活動日	調査地域	参加者
4月13日	東近江市乙女浜町非常災害用井戸 現地調査	7名
5月11日	東近江市下一色町・勝堂町 現地調査	7名
6月8日	東近江市勝堂町・小田刈町・鯉江町・妹町他 現地調査	7名
7月13日	東近江市栗見出在家町一帯 現地調査	7名
8月10日	東近江市青山町一帯 現地調査	6名
9月14日	東近江市池之尻町（旧愛東町） 現地調査	6名
10月11日	東近江市園町一帯 現地調査	7名
11月17日	東近江市大林町一帯 現地調査	5名
12月14日	東近江市小倉町一帯 現地調査	6名

活動日	調査地域	参加者
1月11日	東近江市大萩町一帯 現地調査	7名
2月8日	東近江市鯉江町一帯 現地調査	7名
3月14日	東近江市上岸本町集落内 現地調査	6名

テーマ2

活動日	調査地域	参加者
6月18日	わくわく知恵さがし・楽しく学びあい	2名
7月7日	魚食文化と水環境発表会	3名
8月18日	琵琶湖博物館研究セミナー	4名
11月12日	日野原重明記念新老人滋賀の会講演会	4名
11月18～19日	びわ博フェス2023 ポスター発表	6名
2月24日	新琵琶湖学セミナー	2名

○海浜植物守りたい

会長：百木義忠 担当学芸員：大槻達郎 会員数：5名

[設立の趣旨]

本来海岸に生育する海浜植物が何故か、淡水の琵琶湖に生育している。これらの植物は独自の進化をしており貴重であり、保護活動をすることにした。

[活動の概要]

主に新海浜(彦根市)における海浜植物の保護活動を行う。

活動する公園名：湖岸緑地 新海薩摩地区

「海浜植物守りたい」のおもな活動

活動日	活動時間	内 容	参加者
4月4日	9:30～11:30	①ツルニチニチソウの除草 ②コマツヨイグサ、スイバ等の除草 ③松葉散布 ④レンゲソウのプランター1個追加設置	5名
4月11日	9:30～12:30	①レンゲソウプランター水やり	2名
4月21日	9:30～11:30	①ツルニチニチソウの除草 ②コマツヨイグサ、スイバ、チガヤの除草 ③レンゲソウをプランターから地植え ④ゴミ拾い	7名
5月2日	9:30～11:30	①ツルニチニチソウの除草	6名
5月26日	9:30～11:30	①しがNPO取材対応 ②ツルニチニチソウの除草 ③スズメノテッポウ、ハコベ、ツユクサ、メマツヨイグサの除草	4名
6月6日	9:30～11:45	①コマツヨイグサ、メマツヨイグサの除草 ②アメリカネナシカズラ 1か所駆除 ③ムシトリナデシコ、オオキンケイギクの除草 ④枯れた松1本伐採	8名
6月16日	9:30～11:45	①コマツヨイグサの除草 ②アメリカネナシカズラ 2か所駆除 ③ムシトリナデシコ、メリケンムグラ、メドハギの除草	6名
7月4日	9:30～11:45	①チガヤ、コマツヨイグサ、メリケンムグラの除草	4名
7月21日	9:30～11:30	①ツルニチニチソウの除草 ②管理区域柵外(駐車場側)の草刈り(刈払い機にて) ③管理区域内の雑草との共生エリアのハマエンドウ生育確認	4名

活動日	活動時間	内 容	参加者
8月1日	9:30～11:30	①ツルニチニチソウの除草 ②ツルニチニチソウ草むらの竹や丸太の片付け、ゴミ拾い ③ハマエンドウの生育状況観察 ④ハマエンドウ保護区内の地温分布測定	5名
8月18日	9:30～11:30	①ツルニチニチソウの除草	6名
8月25日	14:25～14:45	レイ大草津校にて寄付講座（海浜植物守りたい活動について）	2名
9月5日	9:20～11:10	①ツルニチニチソウの除草 ②アメリカネナシカズラ 1か所駆除 ③管理区域内の雑草との共生エリアのハマエンドウ生育確認	5名
9月15日	9:30～11:00	①オオフタバムグラの除草	7名
10月3日	9:20～11:00	①枯れた松の伐採（17本） ②松葉の散布 ③アメリカネナシカズラ見当たらず	7名
10月20日	9:30～11:30	①枯れた松の伐採（13本）	3名
11月7日	9:30～11:30	①保護区内外の草取り ②アメリカネナシカズラ見当たらず ① びわ博フェス打ち合わせ	5名
12月5日	9:30～11:30	①メドハギ、コマツヨイグサ、チガヤの除草	4名
2月6日	9:30～11:00	①保護区内の除草	4名
2月16日	9:30～12:00	①ツルニチニチソウの除草	4名
2月22日	14:00～15:00	いであ（株）様から我々の活動についてヒアリング（活動経緯、活動内容、課題等）	3名
3月8日	9:30～11:30	①伐採した松の松葉回収	4名
3月15日	9:30～11:30	①伐採した松の松葉回収 ②ツルニチニチソウの除草 ③ツルニチニチソウ拡散防止に波板追加設置（仮設） ④防風ネット設置準備（寸法測定、支柱用竹切だし）	5名

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター（登録者数189名（うちスタッフ5名））

楠岡 泰 松田 道一 辻 いずみ 梶島 昭紘 小野 麻代 松本 勉 矢野 典子
前田 雅子 桑垣 瑞 熊谷 明生 熊谷 明美 宇野 啓明 保科 秀行 保科 雅子
保科 政秀 保科 明俊 山田 美智子 奥村 恵子 中野 敬二 中村 一馬 矢野 修
矢野 としこ 土生 陽子 山本 篤 小篠 伸二 上田 修三 中場 弘二 鈴木 正範
松村 順子 吉居 晴美 一瀬 諭 猪飼 徹 平井 政一 山本 皓一郎 和田 至博
角井 俊明 加藤 美由紀 福岡 敏雄 市原 龍 山川 栄樹 山川 佳那子 中井 大介
北村 美香 遠藤 吉三 吉本 由花 吉本 瀧侍 吉本 凜花 楠居 里奈 寺田 誠
前田 博美 後藤 真吾 杉田 薫 宮本 直興 川北 浩史 濱道 秀 佐々木由巳子
佐々木遼太郎 佐々木亜弥子 寺澤 孝之 青木 環 青木 春乃 堀田 修身 堀田 博美
畑中 清司 片山 慈敏 井野 勝行 中井 民子 谷村 啓子 大橋 義孝 三田村緒佐武
福嶋 佳子 福嶋 啓志 青山 喜博 片岡 庄一 手良村 知央 手良村 昭子 手良村 知功
飯田 俊宏 岡田 宗一郎 津田 國史 村上 義信 村上 瞳 筈井 美智子 岡田 徹
北側 忠次 水戸 基博 水戸 涼乃 水戸 涼介 久国 正吉 矢原 功 阿部 一広
津田 久美子 北川 眞造 松本 隆 坂本 大介 山崎 千晶 小林 隆夫 吉野 和夫
小山 勝 岸田 教敬 大河原 秀康 中尾 博行 江間 瑞恵 宮崎 猛 宮崎 真
宮崎 晴香 宮崎 哲 杉江 ミサ子 井上 修一 百木 義忠 山口 瑞彦 今井 洋

向田 直人	川村 絵美	川村 実愛	川村 郁人	川村 梓月	佐藤 良太郎	尾原 直行
間所 忠昌	土田 正文	谷口 雅之	西岡 陸	三村 武士	十塚 正治	吉川 秀司
堀江 夏妃	飯田 隆行	飯田 貞美	青木 重樹	本村 香澄	本村 彦太郎	菅原 和宏
菅原 拓斗	榘元 智子	稲葉 光太郎	稲葉 瑞穂	河原 豪	河原 絵里	成子 邦夫
三浦 真紀	坂本 颯太	山内 孝子	西木 正枝	榎本 博紀	榎本 絢子	榎本 航生
榎本 樹希	榎本 菜晴	浦畑 龍司	浦畑 美加	浦畑 里帆	安達 誠	西上 直純
西上 潤	西上 慶	森田 存	的場 悠希	木林 理	須原 育美	ダニエル フォルスター
中井 賀津雄	粟田 久仁和	真崎 健	浅野 泰輝	木下 恵理	木下 桂典	橘川 洸
橘川 温子	木本 裕也	村上 優生	古田 晴也			

◇はしかけ (登録者数 393名)

楠岡 泰	藤田 成子	山本 阿子	榎本 真司	山本 真里子	芦田 弘美	松田 道一
辻 いづみ	谷本 正浩	谷本 由美	北田 稔	小野 麻代	中川 優	川田 裕元
笹生 正則	松本 勉	若代 隆行	若代 智子	石上 三雄	根来 健	矢野 典子
前田 雅子	井上 晴絵	桑垣 瑞	熊谷 明生	熊谷 明美	宇野 啓明	酒井 陽一郎
山田 美智子	奥村 恵子	川口 涼	松川 郁子	中野 敬二	辻川 智代	中村 一馬
矢野 修	矢野 としこ	土生 陽子	小篠 伸二	上田 修三	斉藤 文子	中場 弘二
村山 和夫	樽本 祥子	樽本 直	山野井 邦彦	齊藤 眞琴	齊藤 眞由美	鈴木 正範
吉居 晴美	一瀬 諭	石田 勉	猪飼 徹	安原 輝	井上 聖花	山本 皓一郎
和田 至博	岡 隼斗	加藤 美由紀	大沢 果那	清田 輝夫	福岡 敏雄	草加 伸吾
西村 有巧	木村 誠二	木村 爽	市原 龍	石井 千津	山川 栄樹	山川 佳那子
西川 美喜	中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三	吉本 由花	吉本 瀧侍	吉本 凜花
楠居 里奈	前田 博美	後藤 真吾	杉田 薫	吉井 隆	吉岡 伸子	富田 久仁枝
宮本 直興	伊東 文彦	伊東 彬良	安井 加奈恵	池田 勝	川北 浩史	濱道 秀
村田 博之	竹元 冴矢	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	國分 政子	寺澤 孝之
神谷 悦子	竹谷 満弘	梅澤 正夫	青木 環	青木 春乃	堀田 修身	堀田 博美
黒柳 信之	堀田 恵子	片山 慈敏	福永 和馬	水谷 智	山田 正樹	山田 恵美
山田 和毅	三田村緒佐武	杉山 國雄	川南 仁	福嶋 佳子	福嶋 啓志	青山 喜博
田中 治男	田中 雅也	片岡 庄一	手良村 知央	手良村 昭子	手良村 知功	大堀 忠厚
肥田 嘉文	北野 大輔	大橋 洋	寺尾 尚純	吉野 千栄子	飯田 俊宏	津田 美佐子
岡田 宗一郎	津田 國史	村上 義信	村上 瞳	北村 明子	金山 正之	金山 美佐子
北野 英子	鈴木 直子	岡田 徹	柳原 徳子	山本 由里子	飯住 達也	水戸 基博
水戸 涼乃	水戸 涼介	山本 道子	大岡 紀彦	深田 元子	久国 正吉	立石 文代
森田 光治	矢原 功	阿部 一広	津田 久美子	北川 眞造	大喜 のぞみ	田中 喜久
松本 隆	坂本 大介	小林 隆夫	神戸 道典	徳永 義利	徳永 成美	小西 慎一
小山 勝	岸田 敬敬	大河原 秀康	中尾 博行	江間 瑞恵	畠山 寿枝	吉野 まゆみ
宮崎 猛	宮崎 真	宮崎 晴香	宮崎 哲	井上 修一	百木 義忠	山口 瑞彦
中島 財	今井 洋	遠藤 浩子	山本 藤樹	宇野 翔	向田 直人	綺田 万紀子
川村 絵美	川村 実愛	川村 郁人	川村 梓月	荒川 忠彦	尾原 直行	福野 憲二
三輪 祐子	間所 忠昌	谷口 雅之	高田 昌彦	西岡 陸	中西 寛子	中西 春陽
中西 優一	佐々木 信幸	佐々木 則子	佐々木 満保	佐々木 幹朗	佐々木 結衣	武田 広志
澤田 知之	三村 武士	十塚 正治	渡辺 圭一郎	吉川 秀司	堀江 夏妃	山中 裕子
木下 多津江	飯田 隆行	飯田 貞美	吉田 達矢	吉田 範香	富 小由紀	中村 聡一
岩西 紗江子	納屋内 高史	大橋 正敏	菅原 和宏	菅原 拓斗	稲葉 光太郎	稲葉 瑞穂
坪井 一代	坪井 修生	岡谷 崇宏	河原 豪	河原 絵里	小松原 正志	成子 邦夫

西坂 一成	北村 純平	松田 征也	鈴木 崇大	三浦 真紀	南條 花菜子	安川 浩史
長田 忠	吉崎 早苗	井ノ口 昭雄	坂本 颯太	中川 信次	中川 歩	中川 柚葉
河原 滯	石田 大典	石田 美穂	石田 藍子	正木 紫苑	戸田 孝	山内 孝子
木下 ゆみか	西木 正枝	榎本 博紀	榎本 絢子	榎本 航生	榎本 樹希	榎本 菜晴
浦畑 龍司	浦畑 美加	浦畑 里帆	卷藤 美重	大嶋 陽子	大嶋 信介	大嶋 了爾
大嶋 千恵	井原 順司	井原 理恵	井原 凜子	井原 翠子	河野 芳明	安達 誠
西上 直純	西上 潤	西上 慶	藤岡 康弘	熊谷 弥生	森田 存	新岡 良平
的場 悠希	木林 理	木林 小春	木林 あさひ	木林 大地	須原 育美	中村 宜弘
田中 良平	田中 周	ダニエル フォルスター	中井 賀津雄	栗田 久仁和	鈴木 幸子	鈴木 悠季野
八尋 克郎	矢守 永生	矢守 永和	前島 弘貴	上田 博康	上田 陽喜	真崎 健
江島 凡子	加山 基	山下 直子	山下 悟 ケイ	浅野 泰輝	近藤 由隆	近藤 暁悠
市野 慎次	市野 翔大	魚住 敏治	塩谷 えみ子	木下 恵理	木下 桂典	木下 大輔
木下 雄介	関戸 ユキ	関戸 慧	関戸 悠人	橘川 洸	橘川 温子	木本 裕也
田中 芙実	村上 優生	吉田 満				

2. 一般利用者へのサービス事業

(1) 観察会・見学会等

2023年度は博物館や県内各地で観察会・見学会・講座等50件の事業を実施した。そのうち40件は事前参加申込によるもので、ほかの10件は当日受付、1件はオンラインによる運営を行った。観察会・見学会・講座等4件は中止となった。はしかけ講座はオンラインでも実施した。事前参加申込手続きには「しがネット受付システム」及び往復はがきによって運営している。

開催日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4月19日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・4月	10組	23	ちこあそ(はしかけ)
4月23日(日)	里山体験教室	30	21	里山の会(はしかけ)
5月5日(金)	あなたも描こうミジンコたちの絵	20	21	越智明美
5月6日(土)	顕微鏡であるプッカプカが超見える	20	18	カールツァイス株式会社 公益社団法人日本顕微鏡学会
5月7日(日)	田んぼ体験 田植え【雨天中止】	20	-	
5月13日(土)	わくたん 春の草花	15	19	
5月14日(日)	琵琶湖のプッカプカ微小生物を捕まえてみよう	24	25	越智明美
5月17日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・5月	10組	18	ちこあそ(はしかけ)
5月16日(火)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう!	5	7	みどりのくすり箱(はしかけ)
5月28日(日)	プランクトン観察会プッカプカプランクトンってなあに?午前の部	20	19	一瀬 諭
5月28日(日)	プランクトン観察会プッカプカプランクトンってなあに?午後の部	20	13	一瀬 諭
6月10日(土)	わくたん プランクトンを見よう	15	16	びわたん(はしかけ)
6月17日(土)	須原魚のゆりかご水田オンライン観察会2023	-	50	せせらぎの郷須原
6月18日(日)	ふらっと自然観察	15	15	水と暮らし研究会(はしかけ)
6月21日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・6月	10組	25	ちこあそ(はしかけ)
7月8日(土)	わくたん 骨にふれてみよう	15	22	びわたん(はしかけ)
7月9日(日)	里山体験教室【雨天中止】	30	-	里山の会(はしかけ)

開催日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
7月19日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・7月	10組	31	ちこあそ(はしかけ)
7月22日(土)	水辺の生き物観察会	15	17	湖北野鳥センター
7月29日(土)	川の生き物観察会	15	15	多賀町立博物館
7月30日(日)	田んぼ体験 昆虫採集	20	31	
7月30日(日)	ヨシ灯りをつくろう	24	22	西の湖ヨシ灯り展実行委員会
9月2日(土)	湖探検	20	21	カワセミ自然の会
9月3日(日)	田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(1)	20	31	
9月20日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・9月	10組	28	ちこあそ(はしかけ)
9月24日(日)	プランクトンでビンゴ	20	16	
9月30日(土)	初心者のための生き物写真撮影講座	20	8	温故写新(はしかけ)
10月15日(日)	田んぼ体験教室「稲刈り・ハサ掛け」(2)	20	25	
10月15日(日)	里山体験教室	30	10	里山の会(はしかけ)
10月18日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・10月	10組	17	ちこあそ(はしかけ)
10月29日(日)	ふらっと自然観察【中止】	15	-	水と暮らし研究会(はしかけ)
11月4日(土)	観察会「下物ビオトープの水だいたい抜く」【中止】	30	-	琵琶湖保全再生課
11月14日(水)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	4	緑のくすり箱(はしかけ)
11月15日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・11月	10組	27	ちこあそ(はしかけ)
11月18日(土)	びわ博フェス	-	-	
11月19日(日)	びわ博フェス	-	-	
12月9日(土)	わくたん 綿にふれてみよう!	15	15	びわたん(はしかけ)
12月17日(日)	田んぼ体験 しめ縄づくり	20	27	
12月20日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・12月	10組	22	ちこあそ(はしかけ)
1月13日(土)	わくたん 水鳥を観察しよう!	15	17	びわたん(はしかけ)
1月17日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・1月	10組	10	ちこあそ(はしかけ)
1月21日(日)	里山体験教室【雨天中止】	30	-	里山の会(はしかけ)
2月4日(日)	耳石すごいぜ	20	20	
2月4日(日)	田んぼ体験 わら細工	20	17	
2月10日(土)	わくたん ミニ水族展示をつくろう!	15	16	びわたん(はしかけ)
2月14日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・2月	10組	18	ちこあそ(はしかけ)
3月9日(土)	わくたん 火を起こしてみよう!	15	17	びわたん(はしかけ)
3月20日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・3月	10組	12	ちこあそ(はしかけ)

(2) 講座・セミナー

2023年度は、以下に示した講座を実施した。

	内容	開催日	募集数	参加者数	講師
1	はしかけ登録講座 (オンライン)	4月30日～5月14日 9月10日～9月24日 2月25日～3月10日	なし	20 29 33	
2	はしかけ登録講座 (対面)	9月24日(日)	なし	11	
3	琵琶湖地域の水田生物 研究会	12月17日(日)	なし	155 (うちオンライン 80)	口頭発表 11件 ポスター発表 14件 シンポジウム 3件

	内容	開催日	募集数	参加者数	講師
4	新琵琶湖学セミナー	1月27日(土) 2月24日(土) 3月23日(土)	なし	15 23 21	北野大輔・大塚泰介 宇野君平・林 竜馬 齊藤 毅・山川千代美

(3) 体験教室

1) 里山体験教室

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ってない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」との共催により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しみながら知ってもらうため、春・夏・秋・冬の年4回実施している。

春は里山を歩き、春を感じるような植物を中心に観察を行った。午後は丸太切りを行い、木の名札を作成した。

夏は、虫取りや昆虫の観察会を予定していたが、天候不良のため中止とした。

秋は、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」を行った。午後は、里山整備をしたり、ツルや木の実を使ってリースづくりをした。

冬は、たき火と花炭づくりを予定していたが、天候不良のため中止とした。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月23日	里山の春を見つけよう	28	美濃部、加藤
2	7月9日	里山の夏を楽しもう	中止	美濃部、武政、鷺見
3	10月15日	里山の秋さがし	14	美濃部、鷺見
4	1月21日	冬の里山を楽しもう	中止	美濃部、武政、青木



散策



丸太切り



里山整備

2) 生活実験工房 田んぼ体験

生活実験工房では年間を通して、一般の参加者とはしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施している。5月から10月初旬までは主に水稻栽培に関する体験を行い、12月初旬から翌年2月までは藁など収穫した材料や工房周辺にある材料を使って体験活動を実施している。

水稻栽培の体験活動では、田植え、稲刈りまでを手作業で行っている。農閑期となる冬季には工房内でしめ縄やわら細工など、主に藁を有効活用した体験活動を行っている。つまり、生活実験工房では農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んでいる。

コロナ禍により、ここ数年は活動の制限を余儀なくされていた体験活動も、2023年度は感染症対策など工

夫を凝らしながら雨天による中止の田植えを除き全て実施できた。本年度の引き続き予約制とし、参加人数に制限を設けているが、定員はやや多めに設定した。しかし、少人数による深い体験も重要であり、今後は定員について最適な人数を模索していく必要がある。

体験活動自体は、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める良い機会として頂き、参加者の多くに満足頂いた。

「生活実験工房 田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内 容	イベント	参加者数
4月7日	種まき、苗代づくり	—	職員対応
5月7日	田植え	雨天で中止	
7月30日	昆虫採集	実施	26名
9月3日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	実施	29名
10月15日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	実施	25名
12月17日	しめ縄づくり	実施	27名
1月15日	どんど焼き	—	職員対応
2月4日	わら細工	実施	17名



10月 稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け



12月 しめ縄づくり

(4) 体験学習

1) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営している。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届けるため、第2土曜日の午後に開催している。滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対する興味・関心を深めてもらうことを大切にしながら「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに関わっている。今年度は、年間7回、計122名の参加者に楽しんでもらうことができた。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	5月13日	春の草花でしおりをつくろう！	19名
2	6月10日	プランクトンを見よう！	16名
3	7月8日	骨にふれてみよう！	22名
4	12月9日	綿にふれてみよう！	15名
5	1月13日	水鳥を観察しよう！	17名
6	2月10日	ミニ水族展示をつくろう！	16名
7	3月9日	火を起こしてみよう！	17名

(5) 質問コーナー・フロアトーク

琵琶湖博物館では、開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、おとなのディスカバリー内に設置された「質問コーナー」において博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーには学芸職員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に応えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっており、学芸員からの一方通行の情報伝達だけではなく、利用者からもたらされた情報が科学的に重要な知見に繋がった事例もある。その日に担当する学芸職員の予定は博物館ホームページやおとなのディスカバリー入口壁に掲示されており、専門分野の担当者がある日に質問ができる仕組みとなっている。それぞれの質問は、担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、分野が異なったり、専門的な内容で質問コーナー担当学芸員が回答できない質問等はそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べて後日メールや電話で回答している。博物館への質問については、質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

質問コーナーの当日担当学芸職員が行う展示解説「フロアトーク」は、コロナ禍で休止していたが、2023年度は新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」へ移行したことから、6月1日よりフロアトークを再開した。フロアトークでは、質問コーナーの当日担当学芸職員が月1回の学芸会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回約30分間、展示等を使ってレクチャーを実施した。フロアトークの場所や内容、時間は当日担当の学芸職員が決定して実施した。

質問コーナーおよび電話における質問受付数

期間	2023年4月1日～2024年3月31日（うち質問コーナー実施308日）	
総質問数	853件	
質問形態	来訪による質問	720件
	その他による質問	133件

(6) 電子メール「Query」による対応

博物館の情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付けるための専用電子メールアドレス（query@biwahaku.jp）を設定している。これらのメールは受付担当者が受信し、メールの内容に応じて専門の学芸職員や関連職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2023年度の総数866件であった。届いたメールのうち、専門的な質問については各学芸員が対応している。これらの中には、このような質問をきっかけとして自由研究に取り組んだり、身近な自然に興味をもつようになり、リピーターとなる方もいた。本年度では、AIを使ったカメラによる同定で、この虫は外来種ではないかという問い合わせが数件あった。いずれも在来種であり、AIの学習不足に起因するものであるが、このようなツールを元にした問い合わせが増える可能性を考えておかないといけない。年々営業メールや迷惑メールが増える傾向があり、実に62%が質問と関係のないメールになる事態が発生している。ただし、ウイルスメールはセキュリティによりしっかり対処されており、本サービスの継続にはセキュリティ対策が不可欠である。

専門的な内容を含む質問 生物（魚類 37・その他水生生物 7・プランクトン 10・昆虫 25・哺乳類 1・鳥類 7・両生類 9・爬虫類 5・植物 14）、琵琶湖・湖沼 8、地学 7、歴史・民俗・考古 3、博物館関係 9、研究 7	149
講師依頼、研究依頼、写真利用など 34件	13
施設利用や行事の問合せ・予約確認・案内資料請求 34件	80
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ 5件	48

広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む） 18 件	24
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等） 19 件	11
営業関係のメール 51 件	538
その他の問い合わせ等 52 件	3

3. 学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。昨年度と比較すると、学校団体による来館者数は減少した。特に県外の小学校・中学校は、団体数・児童生徒数ともに大きく減少している。これには、活動制限がほとんど無くなったことで学校の校外での活動の選択肢が増えたことが影響していると考えられる。

1) 学校団体の受け入れ（担当：渡邊俊洋、安達克紀、樋上和史、黒川 明）

地域	校 種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		R4 年度	今年度	増減	R4 年度	今年度	増減
県内	小学校	185	195	10	13,477	12,968	-509
	中学校	18	13	-5	1,747	1,084	-663
	高等学校	12	14	2	744	338	-406
	特別支援学校	26	16	-10	430	202	-228
	大学など	11	12	1	707	944	237
	合 計	252	250	-2	17,105	15,536	-1,569
県外	小学校	222	185	-37	18,207	15,206	-3,001
	中学校	87	58	-29	9,955	7,451	-2,504
	高等学校	35	29	-6	3,620	3,450	-170
	特別支援学校	19	16	-3	488	396	-72
	大学など	14	16	2	635	537	-98
	合 計	377	304	-73	32,885	27,040	-5,845
総合計		629	554	-75	49,990	42,576	-7,414

2) 学校団体向け体験学習（担当：渡邊俊洋、安達克紀、樋上和史、黒川 明）

学校団体向け体験学習は、展示室見学をより深く学ぶための手助けとなることを目的に行っている。今年度は、多くの学校に体験してもらうことができた。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、昔の暮らし、博物館の展示についてなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップづくり、昔暮らし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）、フローティングスクール連携、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、シジミストラップづくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり、よし笛づくり、シジミストラップ作り

■体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	48	3,376	26	1,804	74	5,180
中学校	6	958	13	786	19	1,744
高等学校	2	158	2	172	4	330
特別支援学校	2	10	1	9	3	19
大学など	1	6	0	0	1	6
合 計	59	4,508	42	2,771	101	7,279

■体験学習のようす



3) ミュージアムスクールの運営 (担当: 渡邊俊洋、安達克紀)

2023年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生174名が参加し、1回の展示見学と講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。「発展型琵琶湖学習」というプロジェクトで環境学習だけでなく多方面に学習の場を広げ、「社会参画分野」「自然科学分野」「経済観光分野」に分かれて活動され、学習発表会でそれぞれの活動の発表をされました。

○ 2023年7月11日(火) 於: 琵琶湖博物館

・9:45~10:30 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」(渡邊): ホール

4) 自然調査ゼミナール (担当: 渡邊俊洋、安達克紀)

この活動は、毎年夏休みに滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、滋賀県内の中学生に対し、自然調査の手法を身につける機会の提供をしている。自然環境とじっくり向き合い、身に付けた自然調査の手法を自らの得意分野やフィールドで活かすことができる滋賀の子どもを育てることを目指し、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。主催: 琵琶湖博物館、共催: 滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援: 滋賀県教育委員会で行っている。※2020-2022年度は新型コロナ感染拡大防止のため中止

■内容 (2023年度)

午前の部		午後の部	
9:00 ~ 9:30	受 付	12:45~14:15	班別調査活動Ⅱ
9:30 ~10:00	開講式・オリエンテーション		(各活動場所)
10:00 ~12:00	班別調査活動Ⅰ (各活動場所)	14:15~15:30	調査結果のまとめ
		15:40~16:40	調査報告会 (ホール)
12:00 ~12:45	昼食および休憩 展示室見学	16:40~17:00	講評・閉講式

■班別テーマ (2023年度)

調査班	テーマ	講師	生徒数	教員数
昆虫班	昆虫の生態を調べ、標本をつくろう	今田舜介 (学芸員)	5名	3名
植物班	採集や種類分けを通して生態を調べよう	大槻達郎 (学芸員)	5名	3名
ほ乳類班	巣の調査や映像資料から生態を調べよう	中村久美子 (学芸員)	4名	3名
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて調べよう	鈴木隆仁 (学芸員)	9名	3名
魚類班	魚の解剖を通して、生態を調べよう	宮崎亮平 (教員)	11名	3名
貝類班	貝の採集を通して生態を調べよう	菅原巧太朗 (学芸員)	5名	3名

■自然調査ゼミナールのようす



(2) 教育指導者等研修 (担当：渡邊俊洋、安達克紀)

1) 教職員研修

本年度もフローティングスクール連携に関わる教員研修や県総合教育センターなどと連携した研修を行った。特別支援学校の初任者研修は昨年引き続き2回目の実施となり、県内の学校の先生方に琵琶湖博物館を知っていただくよい機会となった。また、CST (コア・サイエンス・ティーチャー) という小中学校の理科教育推進リーダーとして認定されている教員に向けた研修会を実施し、琵琶湖に関する講義やプランクトン観察など、体験的な学びの場を提供した。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
8月2日	水	F S連携 教員研修会	27	滋賀県フローティングスクール
10月10日	火	初任者研修 (特別支援学校)	28	滋賀県総合教育センター
10月12日	木	初任者研修 (特別支援学校)	26	滋賀県総合教育センター
11月7日	火	初任者研修 (小学校)	47	滋賀県総合教育センター
11月9日	木	初任者研修 (小学校)	45	滋賀県総合教育センター
11月14日	火	初任者研修 (小学校)	46	滋賀県総合教育センター
11月16日	木	初任者研修 (小学校)	46	滋賀県総合教育センター
1月11日	木	滋賀県 CST 教員研修会	29	滋賀大学教育学部

■教員研修の様子 (初任者研修)



4. 地域との交流事業

(1) 地域連携（館内）

実施月日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	対応者	参加者数
6月10日	亀岡市市民力推進課地球環境子ども村 植木 永子	琵琶湖を支えるプランクトンたち	鈴木隆仁	33
7月1日	立教大学歴史学部 綱島塾	博物館資料の熟覧、バックヤード見学	島本多敬	12
7月12日	大津市社会福祉協議会	外来魚について	米田一紀	15
7月13日	レイカディア大学 雁林 剛	琵琶湖に生息する水草の分布と実態	芦谷美奈子	18
7月28日	ライトピアおおやまだ子ども会	ミエゾウと大山田、そして琵琶湖とのかかわりについて	高橋啓一 安達克紀 渡邊 俊洋	25
7月29日	大阪滋賀県人会	次世代育成研究会	中井克樹	
7月29日	岐阜県立大垣養老高等学校	希少淡水魚の生態・調査と人工繁殖技術	川瀬成吾	4
8月5日	守山市教育委員会	米作りにかかる技術や文化について	妹尾裕介	20
8月7日	県立河瀬中学高等学校	小鮎に関する研究のアドバイス	米田一紀	25
8月16日	奈良県地歴教員	地歴教員研修	里口保文	18
9月13日	八尾市立大畑山青少年野外活動センター	琵琶湖博物館についての概要と展示において工夫されていることや見どころについて	川瀬成吾	50
9月17日	北之庄沢を守る会	琵琶湖にとっての北之庄（内湖）の役割と可能性	川瀬成吾 寺嶋伊武樹木	30
9月28日	愛知県美術館友の会	琵琶湖の微小生物と博物館の展示	鈴木隆仁	80
10月20日	全国川サミット	琵琶湖（赤野井湾）の再生	金尾滋史	30
10月24日	SC 富田林研修会	フナズシについて	橋本道範	80
10月25日	フェニックス工業 上野孝弘	琵琶湖の水質及び周辺環境の保全について	楊平	11
11月5日	豊中高校生物部	プランクトン採集・同定実習	鈴木隆仁	11
11月7日	近江八幡市福祉委員 奥西	八幡市地学教員研修	里口保文	30
11月12日	特定非営利活動法人自然と緑	第28期自然大学	大塚泰介 鈴木隆仁	40
11月28日	滋賀大学教育学部	ヨシ笛づくり体験	渡邊俊洋	10
12月6日	近畿工業化学教育研究会	近畿工業化学教育研究会体験学習	大塚泰介 鈴木隆仁	10
12月6日	JAKO 韓国森林治癒士	ヨシ笛づくり体験	安達克紀	12
2月10日	京都外国語大学卒業生滋賀支部（皆黒和明）	琵琶湖生物や水産資源に対する濁水および濁水（水位低下）の影響について	米田一紀	10
2月27日	さくらサイエンスプログラム	琵琶湖地域における自然資源利用に関する講義	加藤秀雄	4
3月5日	吹三地区公民館	タガメ、ゲンゴロウに関する講義	榊永一宏	40
3月10日	読売テレビ	24時間テレビ びわ湖プロジェクト 2024「琵琶湖の外来生物」に関する講義	中井克樹	50
3月14日	東海自然学園	昔のびわ湖にいた生きものたち	高橋啓一	
3月26日	ダイハツ工業	外来種に関して	中井克樹	36

(2) 地域連携 (館外)

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
5月13日	守山市小津公民館指導員(岩村小菊)	滋賀の植物学の歴史から保全まで	小津公民館	大槻達郎	25
5月14日	TANAKAMI こども環境クラブ(安部尚子)	カヤネズミプロジェクト1	大津市市民運動場内 教育キャンプ場周辺の天神川	中村久美子	12
5月20日	食まなび館(堀越昌子)	江戸時代のふなずし漬	長浜市食まなび館	橋本道範	20
5月27日	大阪府立高津高等学校(立川猛士)	台湾サイエンスツアー	あくあびあ芥川	川瀬成吾	20
6月7日	たねや	水田調査	ラコリーナ近江八幡	鈴木隆仁 今田瞬介	3
6月3日	栗東市教育委員会生涯学習課(小林・田中)	ホテル観察学習会1	コミセン金勝	榊永一宏	
6月9日	栗東市教育委員会生涯学習課(小林・田中)	ホテル観察学習会2	コミセン葉山	榊永一宏	
6月11日	琵琶湖放送 海と日本プロジェクト in 滋賀	魚のゆりかご水田で生き物観察	東近江	大塚泰介 橋本道範	20
6月15日	たねや	水田調査	ラコリーナ近江八幡	鈴木隆仁 今田瞬介	3
7月2日	上平町地域環境保全会	生きもの調査	御澤神社横農村公園	金尾滋史	30
7月2日	たねや	水田調査	ラコリーナ近江八幡	鈴木隆仁 今田瞬介	20
7月8日	佐波江地区自治会	絶滅危惧種の保全活動	佐波江浜湖岸動植物生息・生育地保全地区	大槻達郎	28
7月8日	伊香立香の里資料館	田んぼの生き物	香の里資料館2階研修室	金尾滋史	30
7月16日	蒲生コミュニティセンター(日永伊久男)	江戸時代のフナズシに挑む	蒲生コミュニティセンター	橋本道範	50
7月17日	たねや	田んぼの生きもの調査方法の指導	ラコリーナ近江八幡	鈴木隆仁 今田瞬介	6
7月17日	勝部自治会	第15回かつべ水フェスタ	守山市生涯学習・教育支援センター、かつべホテル南の道	金尾滋史	150
7月21日	琵琶湖放送 海と日本プロジェクト in 滋賀	鯖の養殖見学と海の生き物調査	小浜	大塚泰介 橋本道範	20
7月22日	琵琶湖放送 海と日本プロジェクト in 滋賀	カッター体験と伝統料理まとめ	小浜	大塚泰介 橋本道範	20
7月22日	針江生水の郷委員会	針江生水の郷主催 川遊び塾	針江公民館	川瀬成吾 楊平	25
7月27日	守山市立守山中学校科学部	卒業発表の講評	守山市立守山中学校	鈴木隆仁	40
8月1日	快適環境づくりをすすめる会(平林 光)	川の生き物観察会	犬上川 南青柳橋付近	金尾滋史	40
8月5日	TANAKAMI こども環境クラブ(安部尚子)	カヤネズミプロジェクト2	大津市市民運動場内 教育キャンプ場周辺の天神川	中村久美子	13

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	
9月8日	滋賀県視覚障害者センター(小寺信子)	琵琶湖に生息する哺乳類	キラリエ草津 401 会議室	中村久美子	33
9月21日	膳所歴史サークル 山下	ゆりかご水田に関する講義	膳所市民センター	金尾滋史	20
9月24日	サップガーデン(佐山)	サップしながら観察ツアー	サップガーデン(白髭神社付近)	川瀬成吾	10
8月26、27日、9月30日、11月19日	守山市教育委員会	弥生人養成講座「弥生土器づくり」	守山市下之郷史跡公園多目的室	妹尾裕介	各回20
10月11日	近畿大学	特別演習	近畿大学農学部(奈良キャンパス)	川瀬成吾	30
11月9日	栗原雄介	火を噴く大地、語る大地	高島市立高島中学校	里口保文	50
12月6日	migakiba 長浜	江戸時代のフナズシに挑む	オンライン	橋本道範	30
1月17日	叶匠寿庵(角田 徹)	イチモンジタナゴ池の水抜きと魚類・貝類のパンライトへの避難	叶匠寿庵 寿長生の郷	川瀬成吾	5
1月24日	叶匠寿庵(角田 徹)	イチモンジタナゴ池の泥上げと貝拾い	叶匠寿庵 寿長生の郷	川瀬成吾	5
2月7日	叶匠寿庵(角田 徹)	隣接池(イチモンジタナゴ・ニゴロブナなどが生息)の錦鯉駆除	叶匠寿庵 寿長生の郷	川瀬成吾	5
2月12日	叶匠寿庵(角田徹)	イチモンジタナゴ等魚類・貝類の池への戻し(放流)	叶匠寿庵 寿長生の郷	川瀬成吾	5
2月15日	成安造形大学(加藤賢治)	琵琶湖の民俗史	成安造形大学	加藤秀雄	90
2月17日	滋賀植物同好会	自然セミナー	キラリエ草津	大槻達郎	34
2月24日	滋賀大学教育学部化学教室理科教育研究会	学校での博物館利用	滋賀大学大津サテライト	渡邊俊洋	29
2月24日	石川植物の会	琵琶湖に生息する海浜植物の来歴を探る-DNAの塩基配列を用いた解析からわかってきたこと-	石川県立自然資料館	大槻達郎	20
3月1日	堅田観光協会	鮒ずしと堅田	しづか楼(大津市本堅田)	橋本道範	40

(4) びわ博フェス 2023 ～みんなで出会い学びあえる場～

【趣旨】

琵琶湖博物館が目指す「みんなで学びあう博物館へ」を実現するために、博物館に関わって活動しているフィールドレポーターや各はしかけグループ、および地域で様々な活動を実施している個人・団体・企業などが出会い、学びあえる場とその機会をともに作り上げていく。びわ博フェスは、このような博物館を中心として活動するグループのみならず、地域で活動している個人・団体・企業などが活動やそこから得られている地域の情報を紹介し、相互に交流を行うとともに博物館来館者など一般の方へ向けて発信する。

【日時】

2023年11月18日（土）10：00～19：00 発表会（3分間トーク、学芸員のスペシャルトーク他）、ポスター展示、ワークショップ、企画展ツアー、交流会

2023年11月19日（日）10：00～17：00 発表会（3分間トーク、学芸員のスペシャルトーク他）、ポスター展示、ワークショップ、

【会場】 滋賀県立琵琶湖博物館

【発表会】 2023年11月18日（土）13：00～17：00 会場：琵琶湖博物館セミナー室

11月18日（土）	
13：00～17：00	総合司会 山川 千代美 事業部長
13：05～13：10	開会挨拶 高橋 啓一 館長
13：10～13：15	発表「クラウドファンディングの実施について」
13：15～14：00	発表3分間トークⅠ×6団体
14：00～	休憩・交流、スペシャルフロアトーク「今日の琵琶湖のプランクトン」
14：20～14：50	学芸員のスペシャルトーク「フナズシ研究最前線」
14：50～15：00	発表「近江のナレズシ県民大調査について」前田雅子（フィールドレポーター）
15：00～15：15	休憩・交流
15：15～16：00	発表 3分間トークⅡ×6団体
16：00～17：00	休憩・企画展ツアー
17：00～19：00	交流会（会場：琵琶湖博物館・セミナー室） 開会挨拶 梶 一哉 副館長 閉会挨拶 高橋 啓一 館長

11月19日（日）	
10：30～16：10	総合司会 楊 平 専門学芸員
10：30～10：35	開会挨拶 山川 千代美 事業部長
10：35～10：40	発表「クラウドファンディングの実施について」
10：40～12：00	発表 3分間トークⅢ×11団体
12：00～13：30	休憩・交流
13：30～14：30	発表 3分間トークⅣ×9団体
14：30～15：00	休憩・交流
15：00～15：20	学芸員のスペシャルトーク：半田直人「琵琶湖の周りにいた遠い昔の動物たち」
15：20～15：40	学芸員のスペシャルトーク：菅原巧太朗「淡水にすむ二枚貝について知ろう！」
15：40～16：00	学芸員のスペシャルトーク：今田舜介「コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科の分類と生態」
16：00～16：10	閉会挨拶 亀田 佳代子 副館長

【ポスター展示】 日時：2023年11月18日（土）～19日（日）10：00～17：00

会場：琵琶湖博物館・アトリウム

【ブース展示】 日時：2023年11月18日（土）～19日（日）10：00～17：00

会場：琵琶湖博物館・ホール前、会議室

【ワークショップ】2023年11月18日（土）～19日（日）10：00～17：00

11月18日 10：00 ～ 11：45	緑のくすり箱	こんにやく湿布体験	生活実験 工房	小学生以上対 象
	ちっちゃなこどもの 自然遊び	ちこあそ びわ博フェ ス特別版	生活実験 工房前	6歳以下保護 者同伴
11月18日 13：00 ～ 14：45	古琵琶湖発掘調査隊	粒度表作り	実習室1	小学5年生以 上対象、小学 生以下保護者 同伴
	うおの会	お魚キーホルダーを作 ろう	実習室2	10歳以下保護 者同伴
	ちっちゃなこどもの 自然遊び	ちこあそ びわ博フェ ス特別版	生活実験 工房前	6歳以下保護 者同伴
	近江はたおり探検隊	糸で袋を織ってみよ う	生活実験 工房	12歳以下保護 者同伴
	たんさいぼうの会 琵琶湖の小さな生き 物を観察する会	小さな生き物の顕微鏡 観察	マイクロ バー	どなたでも (入館者)
	株式会社 SCREEN ホー ルディングス・ 成安造形大学	微小生物カードゲーム	会議室	小学5年生以 上対象、小学 生以下保護者 同伴
11月19日 10：00 ～ 11：45	大津の岩石調査隊	わたしの岩石標本を作 ってみよう	実習室1	10歳以下保護 者同伴
	びわたん	いろんな葉っぱを見て みよう！	実習室2	9歳以下保護 者同伴
	虫架け	あなただけの昆虫コレ クションを作ろう（プラ バン作り）	生活実験 工房	10歳以下保護 者同伴
	たんさいぼうの会 琵琶湖の小さな生き 物を観察する会	小さな生き物の顕微鏡 観察	マイクロ バー	どなたでも (入館者)
11月19日 13：00 ～ 14：45	たんさいぼうの会 琵琶湖の小さな生き 物を観察する会	琵琶湖とその周辺の小 さな生きものを観察し よう	実習室1	10歳以下保護 者同伴
	フィールドレポータ ー	葉っぱでアート	実習室2	10歳以下保護 者同伴
	里山の会	竹のけん玉づくり	生活実験 工房	12歳以下保護 者同伴
	ほねほねくらぶ	骨格標本の制作過程の 実演	オープン ラボ	制限なし
	森人	屋外展示 クイズラリ ー	屋外展示	6歳以下保護 者同伴
11月19日 15：00 ～ 16：45	たんさいぼうの会 琵琶湖の小さな生き 物を観察する会	小さな生き物の顕微鏡 観察	マイクロ バー	どなたでも (入館者)

11月19日 10:00 ～ 14:00	(公社)滋賀県獣医師 会	動物とのふれあい教室	うみっこ 広場	7歳以下保護 者同伴
-------------------------------	-----------------	------------	------------	---------------

5. 琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやSNSなどにより発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 222件 教材貸出件数 73件
(昨年度実績 相談件数 181件 教材貸出件数 17本)

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

教えてくれる人登録者 136人 学習プログラム 180本 学べる場所 29か所

3) SNS フォロワー数

Twitter 412人 Instagram 295人 Facebook 81人

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

「淡海こどもエコクラブ活動者交流会」

期日：2024年3月17日（日）

場所：琵琶湖博物館 会議室・実習室1

内容：前半は県内小・中学校および淡海こどもエコクラブ参加団体に向けて、絵日記・壁新聞コンクールの情報提供および制作するうえでのポイントの説明。後半はアロマウォーター作りの実習

参加者：7名（大人5名、子ども2名）

2) こどもエコクラブ事業

こどもエコクラブ登録団体：58団体、メンバー：5,447人

・絵日記・壁新聞コンクール

募集期間：2023年9月1日（金）～11月15日（水）

展示場所：琵琶湖博物館 企画展示室

壁新聞応募数：10作品（8団体） 絵日記応募数：110作品（4団体）

展示期間：2023年11月28日（木）～2024年1月8日（月）

内容：こどもエコクラブに登録しているクラブの活動成果をまとめた壁新聞・絵日記の展示および表彰を実施。

・淡海こどもエコクラブ活動交流会

期日：2023年12月3日（日）

場所：琵琶湖博物館 ホール・樹冠トレイル

参加クラブ数：9クラブ 参加人数：123人（大人：61人、子ども：62人）

壁新聞発表団体：6団体

内容：絵日記・壁新聞コンクールの壁新聞の発表および表彰（壁新聞：大賞1件、奨励賞2件
絵日記：優秀作品賞3件）。樹冠トレイルでのバードウォッチングの実施

- ・「こどもエコクラブ全国フェスティバル2024」

2024年3月24日（日）国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催予定

3) 環境学習への誘い事業

- ・2023年度ギャラリー展「プッカプカ美小生物展 ミクロでアートな生きものたち」

会期：2023年5月5日（金）～6月11日（日）※開館日数33日

場所：琵琶湖博物館企画展示室

共催：越智明美 高知未来科学館

後援：カールツァイス株式会社 公益社団法人日本顕微鏡学会

内容：環境学習へのきっかけづくりとして、これまで微小生物に関心がなかった方々に、微小生物に興味を持ってもらうために、微小生物とアートがコラボした展示を行った。また、環境学習センターで貸し出しを行っている環境学習用具の展示もおこなった。

関連イベント：5件 琵琶湖博物館実習室1にて実施

「あなたも書こうミジンコたちの絵」

日時：5月5日（金） 13：30～14：30

参加人数：21人（大人：14人、子ども：8人）

「顕微鏡であのプッカプカが見える見える超見える」

日時：5月6日（土） 13：30～15：00

参加人数：18人（大人10人、子ども8人）

「琵琶湖のプッカプカ微小生物を捕まえてみよう」

日時：5月14日（日） 10：00～12：00

参加人数：25人（大人12人、子ども13人）

「プランクトン観察会 プッカプカプランクトンってなあに？ 午前の部」

日時：5月28日（日） 10：30～12：00

参加人数：19人（大人9人、子ども10人）

「プランクトン観察会 プッカプカプランクトンってなあに？ 午後の部」

日時：5月28日（日） 13：30～15：00

参加人数：13人（大人7人、子ども6人）

- ・「夏休み！環境学習応援展」

会期：2023年7月12日（水）～7月23日（日）

場所：近鉄百貨店 草津店

内容：環境学習センターで貸し出しを行っている環境学習用具の活用促進と博物館の交流の場の周知を目的として、環境学習用具の展示、「はしかけ」紹介の展示を行った。

関連イベント

「顕微鏡でプランクトンを見よう！」

日時：7月16日（日）、23日（日） ①11：00～12：00、②15：00～16：00 計4回実施

参加人数：

7月16日 11：00～12：00 6組（約15名）

7月16日 15：00～16：00 5組（約15名）

7月23日 11：00～12：00 5組（約15名）

7月23日 15：00～16：00 6組（約20名）

- ・イナズマロックフェス2023「おいでーな滋賀 体感フェア」への出展

会期：2023年10月7日～9日 9：30～19：00

場所：イナズマロックフェス2023会場の無料エリア（烏丸半島 琵琶湖博物館駐車場）

場所：環境学習のきっかけ作りとして、環境学習センターの紹介を行ったほか、移動博物館を利用し、来場者に博物館のPRを行った。環境政策課企画・環境学習係と協働出展。

4) その他

- ・2024年1月30日（火）～2月25日（日） 琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」 ー生物多様性びわ湖ネットワークー 展示活動支援

琵琶湖博物館アトリウムにおいて、企業連携による生物保全活動の成果発表展示

3 情報発信・広報 PR 活動

1. インターネットを利用した館外への情報提供

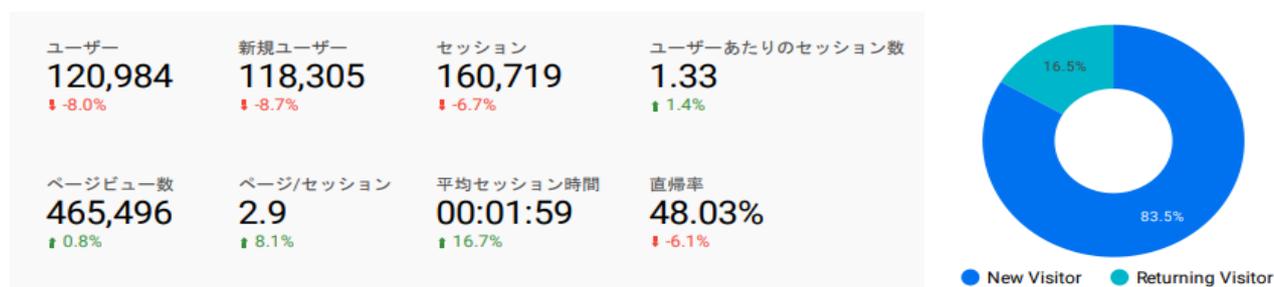
当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週 15 回程度である。このほか、収蔵資料の情報の公開もしている。今年度は水槽破損に関する情報の提供（クラウドファンディングや水族イラスト展示）や、SNS の発信に力を入れることで、多角的な博物館情報の発信を推進した。また、博物館のホームページだけではなく Google map の情報（臨時休館日の変更等）も併せて変更することで、利用者の利便性向上をはかった。

(1) ウェブページの閲覧状況

ウェブページの閲覧状況については、グーグルアナリティクス(6月30日まで)とGA4(Google アナリティクス 4プロパティ)を利用したアクセス解析を行った。2023 年度に当館ウェブサイトアクセスしたユーザー数の推移は、下掲のグラフの通りである。

計測期間 2023/04/01 - 2023/06/16

ユーザー概要



2023 年 4 月 1 日～6 月 16 日はユーザー数 120,984(前年度同時期と比べ 8.0%↓)・セッション数 160,719(6.7%↓) で、ページビュー数は 465,496(0.8%↑) であった。また、新規ユーザーの訪問率が 83.5% であった。4 月 27 日-28 日にユーザー数が急上昇しているのは、水族展示の部分再開を資料提供したためである。

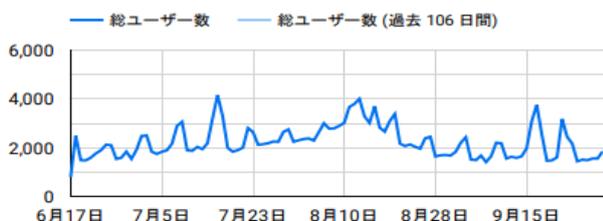
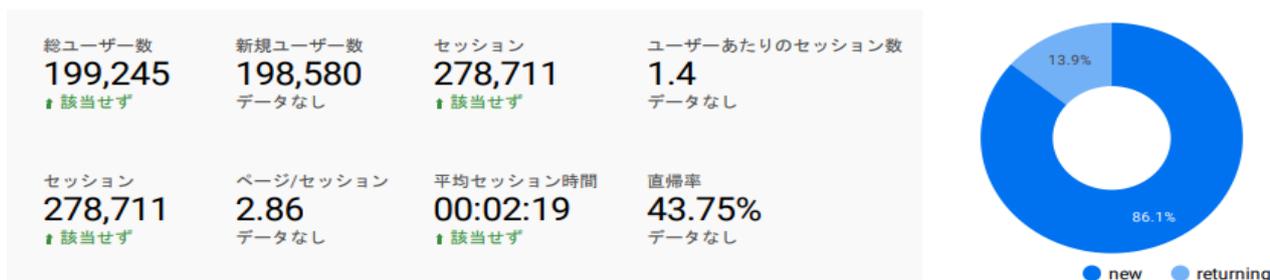
人気コンテンツ

ページタイトル	ページ別訪問数
1. 滋賀県立琵琶湖博物館 世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	104,975
2. 料金について 滋賀県立琵琶湖博物館	34,410
3. 展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館	24,655
4. アクセス 滋賀県立琵琶湖博物館	19,186
5. 水族展示室 滋賀県立琵琶湖博物館	18,270
6. 利用案内 滋賀県立琵琶湖博物館	14,558
7. 開館情報 滋賀県立琵琶湖博物館	11,749
8. 令和5年(2023年)5月9日より水族展示室を部分再開します 滋賀県立琵琶湖博物館	10,017

閲覧されているウェブページの上位は、トップページをはじめ、料金、展示紹介、アクセスなど、当館の基本的な情報を掲載したページが中心であったが、水族展示室関連のもの（部分再開を含む）のページ訪問数が上位にランクした。水族展示の再開に関する情報はゴールデンウィークの来館を考えているユーザーにとって、有益な情報だったと考えられる。その点において、適切な時期の情報発信は広報として効果的であることが実証されたともいえる。

計測期間 2023/06/17 - 2023/09/30

ユーザー概要



2023年6月17日～2023年9月30日はユーザー数 199,245 (GA4 への移行のため、前年度同時期と比べることができない)・セッション数 278,2711 であった。また、新規ユーザーの訪問率が 86.1%であった。ユーザー数は水族展示でのイラスト展示や企画展の告知後に上昇しえることが明らかとなった。

人気コンテンツ

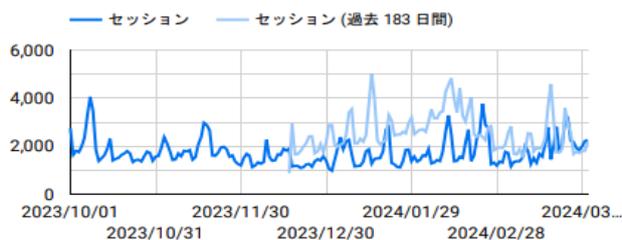
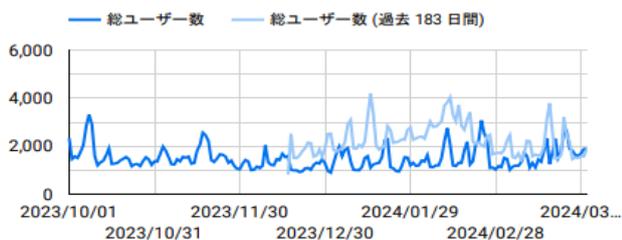
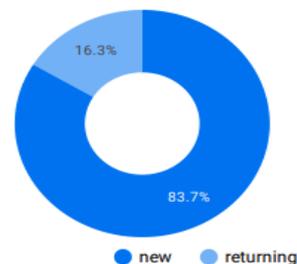
ページタイトル	セッション
1. 滋賀県立琵琶湖博物館 世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	176,518
2. 料金について 滋賀県立琵琶湖博物館	67,737
3. 展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館	44,247
4. アクセス 滋賀県立琵琶湖博物館	38,634
5. 利用案内 滋賀県立琵琶湖博物館	29,309
6. 開館情報 滋賀県立琵琶湖博物館	28,542
7. 水族展示室 滋賀県立琵琶湖博物館	27,276

閲覧されているウェブページの上位は、トップページをはじめ、料金、展示紹介、アクセスなど、当館の基本的な情報を掲載したページが中心であった。

計測期間 2023/10/01 - 2024/03/31

ユーザー概要

総ユーザー数 224,805 ↑ 12.8%	新規ユーザー数 222,139 ↑ 11.9%	セッション 326,214 ↑ 17.0%	ユーザーあたりのセッション数 1.46 ↑ 4.0%
ページビュー数 876,280 ↑ 9.8%	ページ/セッション 2.69 ↓ -6.2%	平均セッション時間 00:02:49 ↑ 21.6%	直帰率 35.82% ↓ -18.1%



2023年10月1日～2024年3月31日はユーザー数 224,805 (前年度同時期と比べ12.8%↑)・セッション数 326,214 (17.0%↑) で、ページビュー数は876,280 (9.8%↑) であった。また、新規ユーザーの訪問率が83.7%であった。10月と1月後半から2月にかけてユーザーが上昇しているのは、クラウドファンディング開始・終了の告知のタイミングであった。

人気コンテンツ

	ページタイトル	セッション
1.	滋賀県立琵琶湖博物館 世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	199,629
2.	料金について 滋賀県立琵琶湖博物館	67,907
3.	展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館	48,249
4.	アクセス 滋賀県立琵琶湖博物館	42,200
5.	開館情報 滋賀県立琵琶湖博物館	32,073
6.	利用案内 滋賀県立琵琶湖博物館	28,931
7.	水族展示室 滋賀県立琵琶湖博物館	27,576

閲覧されているウェブページの上位は、トップページをはじめ、料金、展示紹介、アクセスなど、当館の基本的な情報を掲載したページが中心である。

(2) ウェブページの更新

琵琶湖博物館の公式ホームページで、様々な情報発信を行っている。日常のお知らせなどの情報発信のほか、臨時休館や関西文化の日で常設展無料など、多くの利用者にとって広く発信すべき内容については、トップページ上部へ掲載するバナーを作成、掲載した。

以下に主な更新内容を示す。

- ・「公表した研究成果の解説」項目を新設

「学ぶ・調べる」の項目の中に「公表した研究成果の解説」項目を追加し、論文等になった研究成果をわかりやすく解説・紹介するページを作成した。

・びわ博サポーターページの変更

寄付等の支援制度を紹介するページについて、現在募集を行っている制度やその内容、支援いただいている企業などの方々を紹介するページを整理し、過去にあった制度なども整理した。

・クラウドファンディング支援者の紹介ページ

水族展示室再生のための「みんなでつくる新水槽」クラウドファンディングについて、支援いただいた方のお名前を紹介する（希望しない方を除く）ページを作成した。

・琵琶湖の概要を紹介するページの作成

琵琶湖博物館の英語でのページにある琵琶湖の概要を紹介するページと同等の内容で、日本語による紹介ページを作成した。琵琶湖の大きさなどのほか、生息する固有種等の紹介をした。

・トップページのレイアウトをやや変更

スマートフォンなどの携帯端末でみたトップページは、本日の開館状況などがわかりやすい位置になるように設定を変更した。

主な情報発信件数は以下のとおり（日常的な修正を除く）。 合計 151 件

項目	件数
びわ博ニュース	62 件
企画展示・その他の展示	14 件
イベント情報	68 件
出版物掲載	7 件

2. 情報システムの整備・更新

(1) 情報システムの整備

【滋賀県自治体情報セキュリティクラウドを利用したシステムへの更新】

今年度は滋賀県自治体情報セキュリティクラウドを利用したシステムの更新を行なった。これは、LBM 情報システムのセキュリティ対策と監視体制の強化、さらにシステム管理のコストと労力削減を目的としたもので、この更新にともない、メールサービスも刷新した。収蔵品データベースおよび図書データベースについては、クラウド型の民間サービスを引き続き利用し、データベースの公開を行なった。

【プラグイン (MTAppjQuery) サポートライセンス更新】

新 SC の更新にともない、琵琶湖博物館ホームページに関する管理画面に「MTAppjQuery」プラグインを導入し、管理できるようにした。「MTAppjQuery」は、JavaScript や CSS を使って Movable Type の管理画面を簡単・自由自在にカスタマイズすることができるプラグインである。本館のような Movable Type の管理画面をユーザーのニーズに合った形にカスタマイズできるようになり、管理画面の機能追加や利便性の向上、運用の負荷の軽減のため使用することにした。

(2) 中枢機器の更新

今年度に更新して参加している滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの継続的な利用を進めるために、安全性の高い中枢機器に更新した。昨今の地政学的なリスクにより、半導体価格が不安定になっていることから、今回の更新では国内産の機器にリプレイスすることにした。

(3) セキュリティ等

情報システムについては、滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの中で常時監視を行っている。また、端末のセキュリティについては、Microsoft Defender と連携した、EDR (Endpoint Detection and Response :

ユーザーが利用するパソコンやサーバーにおける不審な挙動を検知し、迅速な対応を支援するセキュリティソリューション）である FFRI yari をインストールすることで、ウィルス等への頑強性を高めた。

(4) ホームページ等

今年度は中長期計画の一環として本館で掲げている「ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」を推進するべく、ホームページトップ画面の修正が行った。具体的には、トップ画面で本日の開館状況が一目で分かるとともに、アクセスや料金、年間の開館日のページに移動しやすいレイアウトにした。また、スマートフォン画面内で文字情報が多くならないように折りたたみ構造を追加し、博物館のコンテンツにスムーズに到達できるようにした。また、観覧予約サイトの「アソビュー」と連携したチケットレスサイトへのリンクを追加し、ICT を活用した展示室への誘導を実現した。さらに、「びわ博サポーター」ページも改修し、今年度を実施したクラウドファンディングをはじめとしたサポーターの表示と企業サイトへのリンクを再構築することで、企業や大学との連携の「見える化」を推進した。

次に、出版された論文を解説するページを新たに設け、「研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える」という中長期計画の目標を達成した。今年度は2本の論文の解説を掲載した。

さらに、来年度に実施予定であった「琵琶湖に関する紹介ページ」を先行して開設した。リニューアルも落ち着き、「琵琶湖そのものの魅力」の発信をすることで、その入口としての琵琶湖博物館の魅力も伝える事もすすめている。本ページは、琵琶湖の概要を「一般の方にも分かりやすく」配置し、かつ、研究の蓄積が「見える」構成にすることで（例えば、固有種や外来種の説明は研究成果を反映させる）、琵琶湖の魅力を伝えるとともに、館内および館外からも利用しやすくなることを狙っている。

(5) 音声ガイドの更新

中長期事業目標 4「もっと使いやすい博物館へ」に従い、琵琶湖博物館では視覚障がい者と外国語使用者へも対応できる「ポケット学芸員」を用いた音声ガイドを導入している。これまで常設展示室の合計 91 カ所の展示に日本語と英語の音声ガイドを導入、運用している。これに加えて、今後は外国語使用者に向けて四か国語（中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語）の音声ガイドを導入する。

3. デジタルサイネージ

琵琶湖博物館では、来館者向け利用案内の向上を目的としてデジタルサイネージを導入、運用している。今年度は8台のサイネージを運用している（表）。表示している情報は一般的な利用案内情報（利用料金、利用案内）を発信している。券売カウンター横の2台では、企画展示のほか館内で実施している様々な事前申込を要さないイベントを案内している。今年度は企画展示情報、クラウドファンディングのお知らせ、経過、結果報告を追加した。現時点では長期的なイベント情報を中心に情報を更新し、更新頻度は10回程度となっている。券売カウンターの3台については、観覧料のみを表示している。

【デジタルサイネージの設置場所と運用状況】

	設置場所	画面サイズ	形式	表示内容
1 2	券売カウンター横	55 インチ	固定	展示案内（企画展示など）、感染対策や水槽の破損のために休止しているサービスの案内、YouTube 動画、クラウドファンディングの募集・経過報告・結果発表
3 4 5	券売カウンター	43 インチ	固定	観覧料の案内
6	1階エスカレーター前	43 インチ	可搬	エスカレーター案内
7	正面入口	55 インチ	可搬	利用料金、利用案内
8	C 展示室	55 インチ	可搬	展示物紹介（ナゴヤダルマガエル）

4. 印刷物一覧

2023年度の印刷物は以下のとおり。

品名	サイズ	ページ数	発行部数
第31回企画展示「おこめ展」図録	B5	160	500
第31回企画展示「おこめ展」図録（増刷分）			150
第31回企画展示「おこめ展」ポスター	A1		1,000
第31回企画展示「おこめ展」チラシ	A4		30,000
琵琶湖博物館チラシ「びわこのちからの博物館」	A4		60,000
びわはく第7号	A4	12	5,500
ギャラリー展示「プッカプカ美小生物展」チラシ	A4		2,000
びわ博フェスチラシ	A4		2,250
琵琶湖博物館「招待券」			10,000
琵琶湖博物館「共通券」一般			10,000
琵琶湖博物館「共通券」高大			1,000
環境学習センター	A4	1	1,000
淡海こどもエコクラブチラシ	A4	1	1,000
びわこ博物館学校向け学習ガイド	A4		5,000
琵琶湖博物館リーフレット	210×395		100,000 100,000
クラウドファンディングチラシ	A4		30,000
クラウドファンディングチラシPR お魚チラシ	A4		1,500
クラウドファンディング特別感謝状（「琵琶湖と川の魚」）	A1		380
クラウドファンディング特別感謝状（「よみがえれ！！日本の淡水魚」）	A1		80

5. 広報PR活動

広報活動は、琵琶湖博物館ウェブページでの発信以外に、当館からの情報を資料提供や記者発表として発信するほか、今年度はYouTubeチャンネルやSNSプラットフォームを使った博物館活動や屋外展示を含む展示紹介、学芸職員等の紹介、周辺環境の季節感のある紹介などを積極的に発信することに注力した。とくに今年度から英語による記事での発信を行い、英語話者への情報発信を行った。

YouTubeチャンネルは13件の動画と8件のショート動画を公開し、Facebookは303件、Instagramへ271件、Xへ298件の記事の投稿を行った。有料広告は1件、資料提供・記者発表を52件、テレビ等放送が94件、新聞掲載357件、雑誌等掲載37件、学校等団体への広報活動として、32件の会合等への出席と学校302校へ訪問して博物館の紹介等を行った。

また、広報業務委託による広報活動を実施し、パブリシティ活動や認知度向上に向けた各種事業を展開した。その内容は下記の通りである。

- ・PR事務局設置（メディア問い合わせ対応）*
- ・メディアリストメンテナンス
- ・配信業務*
- ・PRツール作成
- ・メディアプロモート活動*
- ・メディアコンタクトレポート作成
- ・月次露出報告書作成
- ・露出記事クリッピング

- ・水族展示室復旧に向けた PR 活動（水族イラスト展の企画・演出案の立案、展示に関わる造作物準備）
 - ・テレビ制作協力
 - ・YouTube 動画制作*
 - ・ミーティング実施
 - ・認知度調査実施
- （*のついた項目の件数等は、表を参照。）

（件）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	掲載・放映に至った件数
PR 事務局問い合わせ対応	15	13	15	23	23	12	19	20	5	6	7	5	—
配信業務（回）	2	6	7	4	2	1	4	9	5	9	3	4	—
-メール	552	1932	1932	1104	550	265	1100	522	1405	2810	843	1124	—
-FAX	138	1004	966	273	242	110	473	918	585	1123	349	458	—
-PRTIMES [プレスリリース配信サービス]	25	125	175	75	50	25	75	225	100	225	75	100	—
メディアプロモート-TV・通信社	0	2	0	5	0	1	0	3	1	0	1	2	7
-新聞・雑誌	2	4	3	2	1	2	3	5	4	6	3	2	18
-WEB	6	3	4	1	5	3	1	1	0	2	2	2	13
-YouTuber	0	0	2	0	2	3	3	0	3	1	2	1	3
YouTube 動画の公開 [委託業務による制作本数]	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	3	8	17

(1) YouTube による発信

1) 公式 YouTube チャンネル「びわこのちからチャンネル」での発信

琵琶湖博物館の認知度向上や活動内容について詳しくより深く知ってもらうために、研究活動や博物館事業に関する動画を中心に公開した。

	登録者数	閲覧回数	再生時間	インプレッション数
総数	2,723 人	907,708 回	56,517.1 時間	990,794
2023 年度	+404 人	444,726 回	21,903.6 時間	451,428

以上、2024 年 3 月 31 日現在

2023 年度は、以下の 19 件の動画を作成し、13 件について公開した。また、8 件のショート動画を作成し、公開した。YouTube 動画には、英語による字幕をつけ、海外に向けた発信を意識した。

タイトル（※印については広報委託事業による制作）	公開日	担当
カラスがホンモロコを食べる！？～烏丸半島におけるホンモロコの産卵とカラスによるホンモロコ捕食映像～	7月21日	川瀬成吾
あなたの近くにも住んでいる！？日本一小さなネズミを追え！！ I live near you too!? Chasing Japan's smallest mouse!! ※	10月6日	中村久美子
【タイムラプス】企画展示「おこめ展」ができるまで【琵琶湖博物館】	10月27日	川瀬成吾
江戸時代の藻とり（藻刈り）に挑戦！ Harvesting water plants from Lake Biwa using a method from the Edo period. ※	11月17日	芳賀裕樹
みんなで作る新水槽：館長からのお願い*	11月21日	里口保文
みんなで作る新水槽クラウドファンディング：応援メッセージその1*	12月5日	里口保文
みんなで作る新水槽クラウドファンディング：館長よりお礼のメッセージ*	12月13日	里口保文
【タイムラプス】めったに見ることのできない！トンネル水槽の水抜き【琵琶湖博物館】	12月22日	川瀬成吾
全部で〇〇種類！？バケツ1杯の微小生物を数えてみた How many types!? Counting the plankton in one bucket of Lake Biwa water. ※	2024年1月12日	鈴木隆仁

タイトル (※印については広報委託事業による制作)	公開日	担当
まさかの巨大魚が！！沖島の伝統漁、地引網にチャレンジしてみた A huge fish!! I tried Okishima's traditional seine fishing ※	2月9日	加藤秀雄
タイムトラベル！地層でめぐる琵琶湖のうつり変わり Time travel! Changes in Lake Biwa seen through geological formations ※	3月15日	里口保文
神秘！水中ドローンで琵琶湖を探索してみた	3月25日	妹尾裕介
五感で体感！デカ盛り天井！ ※	3月27日	米田一紀
第1期水族イラスト展お礼動画	未公開	川瀬成吾
第2期水族イラスト展お礼動画	未公開	川瀬成吾
第3期水族イラスト展お礼動画	未公開	川瀬成吾
バイカルアザラシの紹介動画	未公開	川瀬成吾
カヤネズミの紹介動画	未公開	川瀬成吾
オオサンショウウオの紹介動画	未公開	川瀬成吾

(YouTube ショート動画)

タイトル	公開日	担当
【琵琶湖博物館】水族イラスト展第二期イラスト募集中！テーマは『みんなが見たいびわ博水槽！』	10月13日	川瀬成吾
江戸時代の藻とりに挑戦！	2024年2月16日	芳賀裕樹
日本一小さなネズミを追え！！	2月23日	川瀬成吾
バケツ1杯の微小生物を数えてみた！	3月21日	鈴木隆仁
沖島の伝統漁、地引網にチャレンジしてみた	3月22日	加藤秀雄
地層でめぐる琵琶湖のうつり変わり	3月23日	里口保文
水中ドローンで琵琶湖を探索してみた	3月30日	妹尾裕介
五感で体感！デカ盛り天井！	3月31日	米田一紀

2) 動画配信者への依頼による情報発信

琵琶湖博物館の認知度の向上による来館者や利用の増加を目的として、広報委託事業の一環として、一定のフォロワー数を有する動画配信者に依頼し、そのアカウントを通じて公開される動画を通じた当館の魅力の発信をおこなった。2023年度に依頼し公開された動画は下記のとおりである。

公開時期	チャンネル名	動画タイトル	取り上げた主な内容
2023年 11月24日	HOWELL vlog (YouTube)	【滋賀旅】秋の滋賀観光！ 行きたかったお店を巡って きた 滋賀のおすすめ観光 スポット紹介	水族・A・B・C展示室、屋外展示等を観 覧。ブラックバス・ビワマスを使ったレ ストランメニューの紹介。
2024年 3月23日	みやたび (YouTube)	【滋賀県観光スポット】琵琶 湖博物館の楽しさ知る！ ビワイチコース！	各展示室を観覧。ふなずしやびわ湖カレ ーなどレストランメニューの紹介。
2024年 3月30日・ 31日	りょうまい夫婦 (YouTube・TikTok・ Instagram)	【滋賀県】大阪から1時間 で行けるちょっと変わった 博物館？	A(ツダンスキーゾウ)・水族(バイカル アザラシ、トンネル水槽)・おとなのディ スカバリー(哺乳類剥製)の紹介

(2) SNSによる発信

琵琶湖博物館の様々な活動などをより深く知ってもらうために、展示をはじめとする様々な活動や学芸職員紹介、研究活動などの紹介記事の他、館内の展示室や、屋外展示、周辺地域などでその時期に観察できるものなどに関する時期限定などの即時性が求められる内容についての記事を写真や動画も含めて公開した。

	フォロワー	いいね!	2023年度投稿数
Facebook	5,046人 (4,444人)	4,295件 (4,003件)	303件 (*英文70件)
Instagram	3,389人 (2,765人)		271件 (*英文70件)
X(旧Twitter)	5,992人 (4,702人)		298件 (*英文70件)

以上、2024年3月31日現在

()内の人数は2023年5月13日時点

(3) 有料広告の掲載

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数	内容
12月1日 発行	『フリーペーパー 道の駅 VOL.08・ 2023冬号』	A4判	本文カラー 2頁	県	50,000	博物館の展示紹介お よびクラウドファン ディングについて

(4) 資料提供・記者発表

本年度は下記の52件について実施した。

	提供日	件名
1	4月18日	琵琶湖博物館研究調査報告書38号が刊行されました
2	4月20日	ギャラリー展「プッカプカ『美』小生物展」開催につきメディア向け内覧会を開催します
3	5月8日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します (株式会社伊藤園・滋賀県民共済生活協同組合・東レエンジニアリング株式会社・株式会社村田製作所)
4	5月9日	水族展示室部分再開に合わせて2つの水族トピック展示を開始!! ～常設展示レイアウト変更や新しい魚種など、たくさんの変化が～
5	5月12日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します (大阪ガス株式会社・株式会社三東工業社)
6	5月16日	故・石川千代松博士が収集した魚類標本から約130年前の琵琶湖の魚類層を推定
7	5月19日	<滋賀県立琵琶湖博物館 B 展示室>第17回学芸員のこだわり展示 新しい県指定文化財「北比良の石屋用具」を展示します
8	5月31日	琵琶湖博物館ブックレット17 『シーボルトが持ち帰った琵琶湖の魚たち』を出版しました
9	6月2日	滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第3回第三者委員会を開催します
10	6月6日	7月15日(土)から第31回企画展示開催 テーマはおこめ!!
11	6月14日	滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会第3回会議概要について
12	6月16日	令和5年6月17日(土)より水族展示室のすべての通路が開通します
13	6月20日	大分県の 安心院 地域から発見された 約350万年前のサイの化石を報告しました
14	6月20日	大阪淀川で約30年ぶりに絶滅危惧種ツチフキを再発見
15	6月23日	「みんなでつくろう水族展示!水族イラスト展」 琵琶湖にすむいきものをテーマにイラスト募集を開始
16	7月5日	第31回企画展示「おこめ展」開催につき メディア向け内覧会を開催します
17	7月5日	「夏休み!自由研究応援展」を開催します! 貸出キットを用いたプランクトン観察ワークショップも実施します!近鉄百貨店草津店にて
18	7月27日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和5年度第1回会議を開催します
19	7月28日	みなさまから募集した「琵琶湖の魚」イラストを琵琶湖博物館水族展示室にて展示します

	提供日	件名
20	8月4日	滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会第4回会議を開催します
21	8月30日	滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会原因調査報告書の提出および公表について
22	9月15日	水族イラスト展第二期イラスト募集を開始します！ テーマは『みんながみたいびわ博水槽』です
23	10月23日	「展示資料ウェブ図鑑」を新しく公開しました！
24	10月23日	福井県年縞博物館の収蔵資料を展示します！
25	10月31日	みなさまから募集した「みんながみたいびわ博水槽」のイラストを琵琶湖博物館にて展示します！
26	11月2日	第14回琵琶湖地域の水田生物研究会 開催のご案内と発表者の募集
27	11月7日	びわ博フェス2023を開催します（11月18日（土）・19日（日））
28	11月15日	水族展示復活へ！トンネル水槽再生にご支援を クラウドファンディングを11月15日（水）より開始
29	11月17日	第31回企画展示「おこめ展ーおこめがつなぐ私たちの暮らしと自然ー」来館者数が3万人を突破しました！
30	11月17日	ナレズシの実態調査を行います
31	11月22日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（YouTuber マーシーの獲ったり狩ったり）
32	11月28日	「淡海こどもエコクラブ 絵日記・壁新聞コンクール応募作品展」および「淡海こどもエコクラブ活動交流会」を開催します！
33	11月28日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（株式会社 ブリヂストーン彦根工場）
34	12月1日	びわ博イチ押し！今が旬！氷魚（ヒウオ）の展示
35	12月5日	織田信長の薬草園の謎：伊吹山の希少植物イブキノエンドウは日本の在来種であることを明らかにしました
36	12月8日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（株式会社 ダイフク）
37	12月13日	トンネル水槽再生にかかるクラウドファンディングの目標金額を達成しました！ネクストゴールに挑戦します
38	1月5日	水族トピック展「龍になったといわれるコイ」を開催します
39	1月11日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（積水樹脂株式会社）
40	1月12日	琵琶湖の在来ナマズ3種の環境DNA解析法を新たに開発：分布や生息数、生態の解明に期待
41	1月19日	約6年にわたるリニューアルで生まれた常設展示のこだわりを新琵琶湖学セミナーで語ります！
42	1月19日	水族展示の復旧に関するクラウドファンディング 第二目標の目標金額1,000万円を66日間で達成！～第三目標として1,500万円を目指し挑戦中～
43	1月26日	トピック展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！」を開催します
44	1月29日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和5年度第2回会議を開催します
45	1月29日	江戸時代に描かれたゾウ化石出土記録絵巻「龍骨図」 実物資料を期間限定で展示します
46	2月1日	水族イラスト展 第3期展示開始！ テーマは『守りたい水辺の生き物』
47	2月1日	水族展示の復旧に関するクラウドファンディング 目標の倍以上となる1,159万円を達成しました！
48	2月16日	琵琶湖博物館にて 全国科学博物館協議会第31回研究発表大会が行われます
49	3月13日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（日本メンテナンスエンジニアリング株式会社）

	提供日	件名
50	3月15日	琵琶湖博物館に対するご寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します (巖本金属株式会社・株式会社佐藤医科器械製作所・夏原工業株式会社)
51	3月22日	世界農業遺産「琵琶湖システム」の魅力を知ってもらうため ルートマップを初めて学生さんと作成しました！
52	3月26日	ヨシ刈り活動による炭素回収量についての研究論文が「四手井綱英記念賞」を受賞しました！

(5) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	局名	担当者
4 15	琵琶湖まんだら	各分野の学芸員が琵琶湖とのかかわりを解説	びわ湖放送	里口、林、川瀬、妹尾、加藤、橋本、亀田
5 2	ニュース滋賀いろ (2回放送)	水族展示室再開へ	びわ湖放送	川瀬
5 2	ニュース滋賀いろ (2回放送)	雨上がりの田んぼに貴重な生態	びわ湖放送	金尾
5 5	BBC ニュース (2回放送)	県立施設を無料開放	びわ湖放送	島本
5 9	ほっと関西 (ニュース)	水槽事故から再開	NHK 大阪	川瀬
5 9	FNN Live News days (関西のニュース)	水族展示室再開	関西テレビ	川瀬
5 9	news ランナー (関西のニュース)	ビワコオオナマズ展示再開	関西テレビ	川瀬
5 9	ニュース滋賀いろ	水族展示室部分再開	びわ湖放送	川瀬
5 12	おうみ発630	美小生物展	NHK 大津	鈴木
5 14	BBC ニュース (2回放送)	” 推し ” 生き物 紹介	びわ湖放送	川瀬
5 16	NHK ニュース おはよう日本 (関西のニュース・気象情報)	美小生物展	NHK 大阪	鈴木
5 16	ほっと関西	美小生物展	NHK 大阪	鈴木
6 5	よんチャンTV	外来ナマズ	毎日放送	川瀬
6 6	おうみ発630	滋賀の土砂災害の特性	NHK 大津	里口
6 14	ほっと関西	カタツムリ なぜ減っている？	NHK 大阪	中井(特別研究員)
6 14	ほっと関西	カタツムリはどこに？	NHK 大阪	中井(特別研究員)
6 15	おうみ発630	“しが割” 第3弾 琵琶湖博物館の写真紹介	NHK 大津	川瀬
6 17	S☆1	水族展示室全通路の通行が可能に	毎日放送	川瀬
6 20	newsevery.	カワウ増加でアユ釣りピンチ	日本テレビ	亀田
6 20	NHK ニュース おはよう日本	カタツムリなぜ見かけない？	NHK 大阪	中井(特別研究員)
7 4	ほっと関西 (ニュース)	絶滅危惧種の魚 淀川で発見	NHK 大阪	川瀬
7 4	ほっと関西 (ニュース)	絶滅危惧種「ツチフキ」淀川で見つかる	NHK 大阪	川瀬
7 12	おうみ発630	イタセンパラ過去にびわ湖に生息か	NHK 大津	川瀬
7 15	news every. サタデー (関西のニュース)	米の歴史と未来 特別展	読売テレビ	妹尾

放送日	番組名	内容	局名	担当者
7 15	有吉のお金発見 突撃！カネオくん	ウナギ 映像提供	NHK	川瀬
7 17	ニュース滋賀いろ	「お米」の魅力・歴史をたどる企画展	びわ湖放送	加藤
7 25	めざまし8	ナガエツルノゲイトウ大量発生	フジテレビ	中井(特別研究員)
7 25・26	Science View	微生物研究者を取り上げた特集	NHK-World	島本
7 29	情報ニュースキャスター	ナガエツルノゲイトウ大量発生	TBS	中井(特別研究員)
8 1	おうみ発630	夏のびわ湖の水難事故	NHK 大津	里口
8 3	ほっと関西	夏のびわ湖の水難事故	NHK 大阪	里口
8 3	news every.	侵略的外来生物各地で繁殖	日本テレビ	川瀬
8 10	おうみ発630	水槽破損事故 “複数の要因”	NHK 大津	初宿
8 10	おうみ発845	水槽破損事故 “複数の要因”	NHK 大津	初宿
8 11	ニュース滋賀いろ	水槽破損事故報告書案まとまる	びわ湖放送	初宿
8 12	A え！みこ (関西ジャニ博)	平安神宮の生態調査開始①	毎日放送	川瀬、菅原
8 13	超無敵クラス	高校生から水族館長 亀井くん	日本テレビ	川瀬
8 18	おうみ発630	“滋賀の稲作” テーマ 企画展	NHK 大津	妹尾
8 19	news every. サタデー	琵琶湖博物館でSDGs 学ぶ	読売テレビ	初宿
8 21	news ランナー	琵琶湖で相次ぐ水の事故	関西テレビ	里口
8 24	巨大魚&幻の魚を追え！	みやぞんと川田さんが「ツチフキ」「ヌマムツ」など発見	NHK 大阪	川瀬
8 24	『関西ラジオワイド』	おこめ展	NHK ネットラジオらじる	妹尾、初宿
8 27	24時間テレビ関西	黒川琉伊さんを取材	読売テレビ	金尾、島本
8 28	おはスタ	シン・おはガール 滋賀県をリポート	テレビ東京	川瀬、島本
8 29	おはスタ	シン・おはガール 滋賀県をリポート	テレビ東京	川瀬、島本
8 31	おうみ発630	くしがばな>江戸時代のふなずし再現に挑む学芸員	NHK 大津	橋本
9 1	おはスタ	シン・おはガール 滋賀県をリポート	テレビ東京	川瀬、島本
9 1	NHK ニュース おはよう日本	弥生時代～現代の米にまつわる道具など展示	NHK 大阪	妹尾
9 1	ニュース滋賀いろ	水槽破損事故 原因調査の報告書提出	びわ湖放送	初宿
9 3	A え！みこ (関西ジャニ博)	奇跡の池で生き物調査②	毎日放送	川瀬、菅原
9 5	ニュース滋賀いろ	破損水槽再設置は来年度末までに滋賀県が方針	びわ湖放送	金尾、初宿
9 10	A え！みこ (関西ジャニ博)	奇跡の池で生き物調査③	毎日放送	川瀬、菅原
9 15	ゴエと忠志のDEEP 関西	草津市のギャーなDEEPに迫る！	eo 光チャンネル	川瀬
9 17	A え！みこ (関西ジャニ博)	当館の系統保存イチモンジタナゴの平安神宮への里帰り④	毎日放送	川瀬・菅原

放送日	番組名	内容	局名	担当者	
9	21	ニュース滋賀いろ	ヒガンバナの開花遅れる	びわ湖放送	川瀬
9	22	ZIP! ミテナ640	「クセすご水族館」紹介	読売テレビ	川瀬
9	22	滋賀プラスワンインフォメーション	おこめ展開催	FMしが e-radio	妹尾、加藤
9	23	声～あなたと読売テレビ	鳥人間コンテストSP イベント in 琵琶湖博物館	読売テレビ	川瀬
9	27	マルシェククー	“BIWAKO WEEK” コーナー「うおの会」	FM大阪	田畑
10	27	おうみ発630	びわっぴーぬり絵大賞	NHK 大津	川瀬
10	27	おうみ発630	みんなのびわっぴーぬり絵大賞 琵琶湖博物館で	NHK 大津	川瀬
10	27	おうみ発630	「みんなが見たいびわ博水槽」募集要項を紹介	NHK 大津	川瀬
11	4	しらしがテレビ	おこめ展	びわ湖放送	妹尾
11	15	ほっと関西	トンネル水槽修繕へ クラウドファンディング	NHK 大阪	吉田、川瀬
11	15	news おかえり	「大型水槽」修繕にクラファン	朝日放送	吉田、川瀬
11	15	おうみ発630	「トンネル水槽」復活へクラウドファンディング	NHK 大津	吉田、川瀬
11	17	BBC ニュース (2回放送)	FAOが来県	びわ湖放送	里口
11	18	BBC ニュース (2回放送)	びわ博フェス	びわ湖放送	楊、初宿、高橋
11	19	ニュース・気象情報 (関西)	ワークショップで微生物観察	NHK 大阪	橋本、初宿
11	22	スーパーJ チャンネル(2回放送)	琵琶湖で渇水危機「マイナス62cm」	テレビ朝日	川瀬、島本
11	22	おうみ!かわら版	水族イラスト展	ZTV	初宿
11	23	ニュース滋賀いろ	水族展示復活へCF	びわ湖放送	吉田、川瀬
12	6	おうみ発630	イブキノエンドウは日本の在来種	NHK 大津	田畑
12	7	BBC ニュース (2回放送)	「氷魚」展示	びわ湖放送	菅原
12	12	news ランナー	黒川琉伊さん応援グッズ	関西テレビ	初宿
12	13	ニュース滋賀いろ	クラウドファンディング達成	びわ湖放送	川瀬、吉田、島本
12	12	おうみ発630	ハリヨ・魚のスケッチ	NHK 大津	田畑
12	13	news ランナー (生中継)	黒川琉伊さん記者発表	関西テレビ	米田、初宿
12	18	関西ニュース	ハリヨ・魚のスケッチ	NHK 大津	田畑
12	23	BBC ニュース	「龍」のオブジェ	びわ湖放送	妹尾
1	13	しらしがテレビ	新琵琶湖学セミナー	びわ湖放送	島本
2	1	news zero (関西のニュース)	西川貴教さん イベント収益を寄付	読売テレビ	初宿
2	2	クイズ あなたは小学5年生より賢いの?	サイに関するクイズの監修	日本テレビ	半田
2	4	ニュース滋賀いろ or BBC ニュース	ギャラリー展示「滋賀のトンボ」展	びわ湖放送	川瀬
2	9	ZTV ニュース	トピック展示『トンボ100大作戦〜』開催	ZTV	川瀬

放送日	番組名	内容	局名	担当者
2 11～ 17	時の散策	伊賀にゾウがいた時代	伊賀上野ケ ーブルテレ ビ	高橋
2 12	BBC ニュース	寿長生の郷にて絶滅危惧種『イチモンジタナゴ』を放流	びわ湖放送	川瀬
2 15	よんちゃんTV	“幻のドジョウ” 京都から滋賀へお引越	毎日放送	川瀬
2 20	謎解き！伝説のミステリー 日本の歴史記録に残る超常現象 7つの謎を解け！	日本の歴史に残る超常現象7つの謎 ワタカ画像提供	テレビ朝日	川瀬
2 21	これ余談なんですけど…	関西水族館のここがすごい！	ABC 朝日放送	武富(水族飼 育員)、川瀬
2 26	ZTV ニュース	水族イラスト展第3期	ZTV	川瀬
2	放送セミナー	三重の大地をゾウが行く	ケーブルネ ット鈴鹿	高橋
3 9	しらしがテレビ	新琵琶湖学セミナー	びわ湖放送	島本
3 23・ 30	レギュラーの全国あるある探検 隊	滋賀県草津市のあるある情報	BS よしもと	島本

(6) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	2	[生きもの大好き] コアユ 海の代わりに琵琶湖で生活 川瀬成吾学芸員の話	産経新聞(神奈川・茨 城・静岡・新潟・長野)
4	2	[ピュルルンの生きもの大好き] ホンモロコ 琵琶湖に適応 体細長く 川瀬成吾学 芸員の話	上毛新聞(前橋)
4	3	[生きもの大好き] アムールイトウ 古代湖の巨大魚 川瀬成吾学芸員の話	福井新聞(福井)
4	5	県文化財 新たに8件 有形7件、有形民俗1件 有形民俗文化財は「北比良の石屋用 具」(琵琶湖博物館所在)を指定	中日新聞(滋賀)
4	6	[遊・YOU・友] 100年ぶりの再発見! 滋賀県産ミナミヌマエビ	朝日新聞(滋賀)
4	9	[十字路 情報スクランブル] ミナミヌマエビ100年ぶり発見 琵琶湖博物館で展示 田畑諒一学芸員の話	中日新聞(滋賀・福井)
4	9	[生きもの大好き] アムールイトウ 記念切手のモデルになった 川瀬成吾学芸員 の話	長崎新聞(長崎)
4	9	[続 生きもの大好き] アムールイトウ 記念切手のモデルに 川瀬成吾学芸員の話	岐阜新聞(岐阜)
4	10	県文化財新たに8件 屏風「檜図」や金剛力士像 琵琶湖博物館に寄贈された「北比 良の石屋用具」を有形民俗文化財に追加	読売新聞(滋賀)
4	10	[近江探訪] 山の響き ③鈴鹿山脈・御池岳 雨乞い祈願の響き 「琵琶湖博物館研 究調査報告」により解説	中日新聞(滋賀)
4	10	琵琶湖博物館に寄付金 立命館守山中学校から寄付	観光経済新聞(東京)
4	12	ホンモロコ産卵増える 琵琶湖固有の珍味、保護策実る (ホンモロコの写真: 琵琶 湖博物館提供)	日本経済新聞(東京・名 古屋・大阪・福岡)夕刊
4	12	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖を取り巻く古植生の変遷① 化石林が 伝える太古の風景 上席総括学芸員・山川千代美	朝日新聞(滋賀)
4	14	[フィールドへびわ博いちおし] ⑤琵琶湖の水位変化を実感してみよう 春から初夏 が最も高く 芳賀裕樹総括学芸員	京都新聞(滋賀)
4	15	びわ湖放送/今日のBBC 「琵琶湖まんだら(後6・15～)」 第1回は琵琶湖博物 館を訪ねる	京都新聞(滋賀) 毎日新聞(滋賀)
4	16	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] どこにでもいる「普通の魚(タモロコ)」 田畑 諒一主任学芸員	産経新聞(滋賀・京都)
4	16	[生きもの大好き] ホンモロコ 種のちがいは形に表れる 川瀬成吾学芸員の話	長崎新聞(長崎)
4	16	[生きもの大好き147] ニゴロブナ ふなずしにする固有種 川瀬成吾学芸員の話	神戸新聞(神戸)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	22	亡き弟の調査一冊に 石橋保存など、遺志継ぐ 発刊した「滋賀の石垣とマンポ」は、琵琶湖博物館などで開催した写真展での作品を中心に掲載	産経新聞 (滋賀)
4	23	[生きもの大好き 148] アムールイトウ 記念切手のモデルに 川瀬成吾学芸員の話	神戸新聞 (神戸)
4	24	ミナミヌマエビ知って (107年ぶり湖国で昨夏生息確認) 琵琶博で展示 外来種との交雑進む 田畑諒一学芸員の話	京都新聞 (滋賀)
4	24	[生きもの大好き] プロコッタスマジョー 湖底にひっそりすむ 川瀬成吾学芸員の話	福井新聞 (福井)
4	25	[生きもの大好き] ニゴロブナ 琵琶湖固有種ふなずしにも 川瀬成吾学芸員の話	中国新聞 SELECT (広島)
4	26	琵琶博、水族展示室再開へ (来月9日) 2月に破損事故 通路に新水槽を設置	京都新聞 (京都)
4	26	水族展示室一部再開 (大型水槽破損) 琵琶湖博物館9日から 減免の観覧料通常通りに	中日新聞 (滋賀)
4	26	琵琶博 水族展示を再開 (来月9日から) 破損水槽は閉鎖継続	産経新聞 (滋賀)
4	26	水族展示室再開へ 琵琶博、来月9日から 三日月知事のコメント	毎日新聞 (滋賀)
4	26	水族展示の一部来月9日に再開 (琵琶博)	読売新聞 (滋賀)
4	26	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖を取り巻く古植生の変遷② 森林古代ゾウとともに 上席総括学芸員・山川千代美	朝日新聞 (滋賀)
4	27	県内で100年ぶり確認 ミナミヌマエビを生体展示 琵琶博、来月14日まで	産経新聞 (滋賀)
4	28	[フィールドへびわ博いちおし] ⑥比良山麓・土砂と人間がつくり出す景観 洪水防ぐ石堤 砂留める池 島本多敬学芸員	京都新聞 (滋賀)
4	30	[生きもの大好き 149] プロコッタスマジョー 浮袋のないバイカル湖固有種 川瀬成吾学芸員の話	神戸新聞 (神戸)
4	30	幻のエビ1世紀ぶり採集 琵琶博で展示 環境変化穏やか川で生息か 田畑諒一学芸員の話	読売新聞 (滋賀)
5	2	[生きもの大好き] アムールイトウ ピンクのひれゆったり泳ぐ 川瀬成吾学芸員の話	中国新聞 SELECT (広島)
5	2	こどもの日 県5施設無料開放 在住の18歳未満同伴の保護者も 対象：琵琶湖博物館観覧料 (常設展示) 他	中日新聞 (滋賀)
5	2	ビワコナマス観覧を再開へ 9日、琵琶湖博物館	大阪日日新聞
5	2	石橋研究 至高の一冊 故 森野秀三さんの業績 兄が編む 県内外「マンポ」など撮影 琵琶湖博物館で開催された写真展のパネルなどを元に写真データを探し出した	毎日新聞 (滋賀)
5	4	(琵琶湖のバス釣り名所) ディープホールを深掘り 人工島造成用土砂の掘削跡 外来魚駆除に活用も 水質悪化指摘過去に論争 芳賀裕樹研究部長の話	毎日新聞 (滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・兵庫・福井・三重・徳島・高知・岡山・広島・島根・鳥取)
5	5	「ブッカブカ美小生物展」 微小生物の生態コミカルに紹介 琵琶博、きょうから	産経新聞 (滋賀)
5	6	琵琶湖微小生物アート作品に 草津で企画展 親子らミジンコの絵教室も	京都新聞 (滋賀)
5	6	琵琶湖の微小生物アートに 草津で企画展「生態知って」	京都新聞 (京都)
5	6	微小生物かわいいイラスト 琵琶湖博物館で企画展	中日新聞 (滋賀)
5	7	[生きもの大好き 150] ホンモロコ 琵琶湖に適した細長い魚 川瀬成吾学芸員の話	神戸新聞 (神戸)
5	7	水族展示 9日に部分再開 びわ博、水槽破損原因究明も 三日月知事のコメント	朝日新聞 (滋賀)
5	8	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖を取り巻く古植生の変遷③ 植物入れ替わりに地形の特異性 上席総括学芸員・山川千代美	朝日新聞 (滋賀)
5	8	[生きもの大好き] ホンモロコ 琵琶湖にしかない 川瀬成吾学芸員の話	福井新聞 (福井)
5	9	GW県観光客数伸びず 主要スポット5カ所 コロナ前より少なく	京都新聞 (滋賀)
5	9	県内GW観光客昨年と同程度	毎日新聞 (滋賀)
5	9	[生きもの大好き] プロコッタスマジョー 浮袋なく大口 湖底でくらす 川瀬成吾学芸員の話	中国新聞 SELECT (広島)
5	10	琵琶博水族展示室3カ月ぶりに再開 親子連れら魚との再会楽しむ 初宿文彦課長補佐の話	京都新聞 (滋賀)
5	10	(琵琶湖博物館) 水族展示を一部再開 3カ月ぶり家族連れら楽しむ 川瀬成吾学芸員の話	中日新聞 (滋賀)
5	10	県立琵琶湖博物館 「ブッカブカ『美』小生物展」6月11日まで開催中 鈴木隆仁学芸員の話	滋賀報知新聞
5	10	GW観光 コロナ前に戻らず 19年比 彦根城61%、黒壁スクエア82% (水槽展示室を閉鎖していた琵琶湖博物館は31%)	中日新聞 (滋賀)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	11	琵琶湖水族展示室3カ月ぶりに再開 草津 親子連れら魚と再会 初宿文彦課長補佐の話	京都新聞(京都)
5	12	寄付した4社に感謝状 琵琶湖博物館 飼育、修繕に役立つ 高橋啓一館長の話	中日新聞(滋賀)
5	12	[フィールドへびわ博いちおし] ⑦実物に出会うきっかけを 体験で得る新たな発見 安達克紀主任主事	京都新聞(滋賀)
5	12	幻のエビ滋賀で展示中 (14日まで) 京大生が100年ぶり発見	読売新聞(京都)
5	14	[生きもの大好き151] コアユ 海にくだらず琵琶湖で生活 川瀬成吾学芸員の話	神戸新聞(神戸)
5	16	[生きもの大好き] ホンモロコ 種のちがいは体にも表れる 川瀬成吾学芸員の話	中国新聞 SELECT(広島)
5	18	[幸せランチ&スイーツ] 滋賀県立琵琶湖博物館ミュージアムレストランにほのうみの「びわ湖カレー」	読売新聞(大阪) 夕刊
5	20	[食卓ものがたり] コアユ 琵琶湖の幸守る伝統魚	中日新聞(名古屋)・東京新聞(東京)・北陸中日新聞(金沢) 日刊県民福井(福井)
5	21	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] 「偉大なる」スジシマドジョウ 金尾滋史学芸員	産経新聞(「滋賀・京都」)
5	21	琵琶湖の生態系 人と環境考える 外来魚親子で釣る 草津・湖岸緑地で現状学ぶ 中井克樹特別研究員が説明	京都新聞(滋賀)
5	21	130年前ぼてじゃこ豊富に (琵琶博と国立科学博物館) 石川博士の標本解析、魚類相を推定	産経新聞(滋賀)
5	22	[生きもの大好き] コアユ 産卵まで琵琶湖で暮らす 川瀬成吾学芸員の話	福井新聞(福井)
5	22	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖を取り巻く古植生の変遷④ 気候変動の時代 姿替えた森 上席総括学芸員・山川千代美	朝日新聞(滋賀)
5	23	[生きもの大好き] コアユ 海のかわりに琵琶湖で生活 川瀬成吾学芸員の話	中国新聞 SELECT(広島)
5	26	[フィールドへびわ博いちおし] ⑧季節ごとの里山との関わり 訪れるたびに新しい発見 主任技師・美濃部諭子	京都新聞(滋賀)
5	29	北比良の石屋用具 見に来て(県有形民俗文化財) 琵琶博、石工らのジオラマも「学芸員のこだわり展示」として公開	産経新聞(滋賀)
5	29	[人あり] 守山市の環境コミュニケーター武田みゆきさん びわ湖好きの輪広げる 琵琶湖博物館の飼育員を経て…	読売新聞(滋賀)
5	30	[湖国・滋賀の食卓4] なれずし編 江戸時代のふなずし ジャーキーのような味わい 橋本道範専門学芸員	朝日新聞(滋賀)
5	30	湖つながり交流したい インドの州大臣が副知事訪問 30日に琵琶湖博物館を視察する	中日新聞(滋賀)
6	2	妖怪・漁業 地名で深読み 京で全国地名研究者大会 篠原徹名誉館長が記念講演	京都新聞(京都)
6	2	地名に込めた民衆の記憶たどる (京都で講演) 琵琶博名誉館長ら 篠原徹名誉館長が記念講演	京都新聞
6	4	[命めぐる里湖] 「初夏」遡上① 魚も人も集まる水田 魚の道作り「ゆりかご」再生 金尾滋史主任学芸員の話	読売新聞(大阪)
6	5	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖の水系はどう変わったか?① 川の流れ変えた地形の変化 上席総括学芸員・里口保文	朝日新聞(滋賀)
6	7	「土砂災害防止月間」雨の季節を前に講演 県庁、関係者100人参加 里口保文上席総括学芸員が講演	中日新聞(滋賀)
6	8	水路の生き物発見! (息長小) 児童 網持ち水の中へ 琵琶湖博物館の松田征也さん、横山泰史さんが講師を務めた	中日新聞(滋賀)
6	9	[フィールドへびわ博いちおし] ⑨幼少から博物館体験楽しもう 自然と触れ合う一歩に 主任学芸員・中村久美子	京都新聞(滋賀)
6	11	お米の魅力一粒も残さず 田んぼの生き物や仕組みなど紹介 琵琶博で来月15日から企画展示「おこめ展」が7月15日から開幕	産経新聞(滋賀)
6	14	[いきものだいすき] ノロ 目が一つの巨大ミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	伊勢新聞(津)
6	15	水槽アクリル接着面経年劣化など不備か 琵琶湖博物館、第三者委	中日新聞(滋賀)
6	16	「しが割」第3弾11月から 予算5.8億円増 県内本社の店限定、12週間 県補正予算案提出へ 琵琶湖博物館で大型水槽が大破した原因調査費と、水槽10個のアクリルパネルの交換費…などを計上した	読売新聞(滋賀)
6	16	「しが割」第3弾(11月から実施) 「300円引き券」10枚 県、補正案に22.9億円 他の主な事業:琵琶湖博物館水族展示室復旧	毎日新聞(滋賀)
6	17	閉鎖の通路、きょう再開 大型水槽破損の琵琶湖博物館	中日新聞(滋賀)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	17	琵琶博・水族展示室きょうから全面開通	読売新聞 (滋賀)
6	18	琵琶博 (珍) 風景 水槽つなぐ通路復旧	毎日新聞 (滋賀)
6	18	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] 静かなる侵略者〜タイリクバラタナゴ 川瀬成吾学芸員	産経新聞 (滋賀・京都)
6	19	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖の水系はどう変わったか?② 大阪への流れ生き物に影響 上席総括学芸員・里口保文	朝日新聞 (滋賀)
6	19	[生きもの大好き] ノロ 最大19ミリ巨大ミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	福島民報 (福島)
6	20	蜃気楼 琵琶湖の夢 観測30年の教諭昨秋病死 「観光資源に」仲間思い継ぐ 琵琶湖で蜃気楼が観測されたスポット10か所を琵琶湖博物館で紹介	読売新聞 (大阪) 夕刊
6	21	淀川28年ぶり危惧種確認 コイ科の「ツチフキ」 外来種駆除 奏功か 川瀬成吾学芸員の話	毎日新聞 (大阪)
6	21	[生きものパラダイス] ノロ 目が一つの巨大ミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	東京新聞 (東京)
6	23	[フィールドへびわ博いちおし] ⑩湖上交通で運ばれた石 大型で長尺 県内の社寺に加藤秀雄学芸員	京都新聞 (滋賀)
6	24	ツチフキ 淀川で28年ぶり (絶滅危惧種) 環境改善取り組み実る 川瀬成吾学芸員の話	読売新聞 (大阪) 夕刊
6	25	[生きもの大好き] プロコッタスマジョー 浮袋ないカジカの仲間 川瀬成吾学芸員の話	沖縄タイムス (那覇)
6	26	黒川琉伊さんイラスト展示 琵琶湖の魚たくさん知って 琵琶博 作品一般公募も	毎日新聞 (滋賀)
6	27	外来魚コクチバス 兵庫で初確認 川西・一庫ダム 密放流の疑いも 生態系への影響懸念 中井克樹特別研究員の話	神戸新聞 (神戸)
6	27	絶滅危惧種の淡水魚「ツチフキ」 淀川水系で発見相次ぐ 京都府内は38年ぶり 遺伝子解析進展に期待	毎日新聞 (滋賀)
6	27	350万年前のサイの下顎化石 (大分で発見) 琵琶博研究グループ「中国北部と同種か」 半田直人学芸員らの研究グループ発表	毎日新聞 (滋賀)
6	28	琵琶湖博の展示 来年度末本格再開 知事言及	読売新聞 (滋賀)
6	28	[生きもの大好き] ノロ 目が一つの巨大ミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	福島民報 (福島)
6	29	350万年前のサイの下顎化石 宇佐で発見 中国北部と同種か 半田直人学芸員らの研究グループ発表	毎日新聞 (大分)
6	30	ツチフキ30年ぶり発見 府立環境農林水産総合研究所など 淀川の外来魚防除成果も	大阪日日新聞
6	30	ナマズ様またあいにくいね 6歳児から励ましの手紙 琵琶博 水槽復活へスタッフに勇氣	読売新聞 (滋賀)
6	30	特別展 化石ハンター展 (広告) 7/15→9/24 大阪南港ATCギャラリー 協力:琵琶湖博物館	日本経済新聞
7	1	[キミのきもち…?] 第2部 夢 (下) 好きなこと 全力で 自然と人の架け橋 2歳から琵琶湖博物館に通い詰め…	読売新聞 (大阪)
7	1	[まち案内] 催し:「わくわく探検隊」骨にふれてみよう 8日午後1時半〜琵琶湖博物館実習室	産経新聞 (滋賀)
7	2	[生きもの大好き] ノロ 目が一つの巨大ミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	山陰中央新報 (松江)
7	3	絶滅危惧種の淡水魚「ツチフキ」 淀川水系で発見相次ぐ 遺伝子解析進展に期待	毎日新聞 (大阪)
7	3	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖の水系はどう変わったか?③ 地層が語る湖と河川の変化 上席総括学芸員・里口保文	朝日新聞 (滋賀)
7	4	絶滅危惧種の淡水魚「ツチフキ」 38年ぶり府内で発見 淀川水系で確認相次ぐ 遺伝子解析進展に期待	毎日新聞 (京都)
7	7	350万年前のサイ化石 大分で琵琶博など発見 半田直人学芸員の話	京都新聞 (京都)・信濃毎日新聞 (長野)・宮崎日日新聞 (宮崎)
7	7	350万年前のサイ化石 大分・宇佐市、50センチの下顎 半田直人学芸員の話	伊勢新聞 (津)
7	7	350万年前のサイ下顎化石を発見 大分・宇佐、国内4例目 半田直人学芸員の話	四国新聞 (高松)
7	8	ツチフキ30年ぶり発見 淀川の外来魚防除成果も	週刊大阪日日新聞 (タワマン版・市内北東部版)
7	8	[ワクワク生きもの大好き] ノロ 目が一つの巨大ミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	大分合同新聞 (大分)
7	9	安心院でサイの化石 350万年前、中国北部から? 玖珠の北林さん 国内4例目の発見 半田直人学芸員の話	大分合同新聞 (大分)
7	9	350万年前のサイ化石 琵琶湖博物館など発表 大分で発見、50センチ下顎 半田直人学芸員の話	大阪日日新聞 (大阪)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	11	[まちかど] 夏休み！自由研究応援展 近鉄百貨店草津店にて琵琶湖博物館で無料貸し出ししている「プランクトンの採集と顕微鏡観察キット」など展示	京都新聞（滋賀）
7	11	サイの下顎 50センチ 350万年前の化石 大分・宇佐で発見 半田直人学芸員の話	日本経済新聞（大阪・東京・名古屋・福岡）
7	12	350万年前のサイ化石 50センチの下顎、大分県宇佐市 半田直人学芸員の話	西日本新聞（福岡）夕刊
7	13	350万年前のサイ化石発見 大分・宇佐 半田直人学芸員の話	岩手日報（盛岡）
7	14	学芸員なりきり 夏の冒険へ 琵琶博貸し出し品 近鉄百貨店で展示	毎日新聞（滋賀）
7	14	[フィールドへびわ博いちおし] ①天皇も食べたドジョウズシ 湖国では大橋でのみ伝承 橋本道範学芸員	京都新聞（滋賀）
7	15	米と暮らしの関わり紹介 イネ生態や調理法変遷、農耕具… 草津 琵琶湖博物館で企画展 妹尾裕介主任学芸員の話	京都新聞（京都）
7	15	[県議会] 教育会館解体関連予算案などを可決 琵琶湖博物館の水槽十台のアクリルパネルの更新費など…	中日新聞（滋賀）
7	16	「ツチフキ」28年ぶり発見 大阪・淀川、絶滅危惧ⅠB類 川瀬成吾学芸員の話	岐阜新聞（岐阜）
7	16	この川で、また会えた（大阪・淀川） コイ科の淡水魚ツチフキ 28年ぶり発見 環境再生効果か 川瀬成吾学芸員の話	信濃毎日新聞（長野）
7	16	絶滅危惧ツチフキ 28年ぶり発見 大阪・淀川 川瀬成吾学芸員の話	静岡新聞（静岡）
7	16	淀川でツチフキ発見 28年ぶり 絶滅危惧の淡水魚 川瀬成吾学芸員の話	徳島新聞（徳島）
7	16	絶滅危惧の淡水魚確認 大阪・淀川 28年ぶり 川瀬成吾学芸員の話	四国新聞（高松）
7	16	大阪・淀川で28年ぶりツチフキ 絶滅危惧 川瀬成吾学芸員の話	大分合同新聞（大分）
7	16	環境省「絶滅危惧ⅠB類」ツチフキ 淀川で28年ぶり発見 大阪、計6匹 川瀬成吾学芸員の話	南日本新聞（鹿児島）
7	16	淀川では28年ぶり発見 ツチフキ 危惧種の魚も（環境省のレッドリスト） 川瀬成吾学芸員の話	東京新聞（東京）
7	16	絶滅危惧「ツチフキ」発見 昨年淀川で28年ぶりに 琵琶湖博物館と大阪府立環境農林水産総合研究所が発表	サンケイスポーツ（大阪・東京）
7	16	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] 驚きの進化 オオシマドジョウ 田畑諒一主任学芸員	産経新聞（滋賀・京都）
7	16	[生きもの大好き] 巨大ミジンコのノロ 1つ目に透き通った体 鈴木隆仁学芸員の話	産経新聞（新潟・長野・群馬・静岡・山梨・神奈川・茨城・栃木）
7	17	大阪 淀川に絶滅危惧種 淡水魚ツチフキ 28年ぶり発見 川瀬成吾学芸員の話	日刊スポーツ（東京・札幌）
7	17	絶滅危惧淡水魚「ツチフキ」発見 大阪・淀川 28年ぶり 川瀬成吾学芸員の話	愛媛新聞（松山）
7	17	絶滅危惧のツチフキ発見 大阪の淀川で28年ぶり 川瀬成吾学芸員の話	沖縄タイムス（那覇）
7	17	[列島各地の話題] 淡水魚「ツチフキ」発見 川瀬成吾学芸員の話	秋田魁新報（秋田）
7	17	350万年前のサイ化石 琵琶博などのチーム 大分で発見 半田直人学芸員の話	産経新聞（滋賀）
7	17	350万年前のサイ化石 滋賀の博物館 大分・宇佐で50センチの下顎 半田直人学芸員の話	山陰中央新報（松江）
7	18	絶滅危惧ツチフキ いた 淀川で28年ぶり 川瀬成吾学芸員の話	京都新聞（京都）夕刊
7	18	絶滅危惧のツチフキ発見 大阪・淀川で28年ぶり 川瀬成吾学芸員の話	東奥日報（青森）
7	19	「お米」魅力知って食べて 田んぼの生物やイネ生態、歴史 琵琶博6テーマ展示 妹尾裕介主任学芸員の話	毎日新聞（滋賀）
7	19	[なるほど] 明治時代琵琶湖にいた魚は？ 標本1795点を発見 魚類相推測 動物学者・石川千代松が収集 シロヒレタビラなど 川瀬成吾・主任学芸員…国立科学博物館と共同で調査して論文にまとめた	毎日新聞（滋賀）
7	19	夏休み自由研究応援します 琵琶湖博物館 貸し出し器具展示 近鉄百貨店で採集採取キットや顕微鏡、蒸留器… 環境学習・交流係 吉田保裕主事の話	中日新聞（滋賀）
7	21	琵琶博 環境学習用具、無料貸し出し 夏休み自由研究に役立てて（顕微鏡など）実物、草津の百貨店で展示 環境学習センター担当の話	京都新聞（滋賀）
7	23	[ピュルルの生きもの大好き] ノロ 最大19ミリのミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	上毛新聞（前橋）
7	23	[生きもの大好き] アムールイトウ 最大2メートルこえることも 川瀬成吾学芸員の話	沖縄タイムス（那覇）
7	28	[フィールドへびわ博いちおし] ②琵琶湖の水草を直接観察しませんか？ 湖中歩く「湖探検」9月に（芦谷美奈子専門学芸員）	京都新聞（滋賀）

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	29	「お米」魅力知って食べて 田んぼの生物やイネ生態、歴史 滋賀・琵琶博6テーマ展示 妹尾裕介主任学芸員の話	毎日新聞(兵庫)
7	29	[自由研究のお手伝い!全国のおすすめスポット] 「琵琶湖博物館」琵琶湖を体感しながら学べるミュージアム 湖にすむ生きものや歴史が学べる	朝日小学生新聞(東京)
7	30	絶滅危惧の淡水魚「ツチフキ」 28年ぶり淀川で発見 川瀬成吾学芸員の話	奈良新聞(奈良)
8	2	絶滅危惧魚 ツチフキ発見 大阪・淀川 昨年28年ぶり採集 川瀬成吾学芸員の話	岩手日報(盛岡)
8	3	350万年前のサイの化石 下顎 大分で発見 半田直人学芸員の話	愛媛新聞(松山)
8	3	多角的に学ぶコメ 草津 農機具や生物模型展示 「おこめ展」が開かれている 妹尾裕介主任学芸員の話	中日新聞(滋賀)
8	6	砂利や腐葉土使ったろ過観察 (草津) 近江八幡の児童が環境研修会 近江八幡市子ども会育成者連合会は琵琶湖博物館で「環境研修会」を開いた	中日新聞(滋賀)
8	10	「すいそうがなあったら またあいにくね。」 琵琶湖博物館 ビワコオオナマズ宛て 小1の手紙、展示室再開を後押し 魚への愛イラストに (作品展) 水槽復旧へ気運高め 川瀬成吾学芸員の話	中日新聞(滋賀)
8	10	「農」を考える 田んぼ記者挑戦記⑤ 多種多様 益虫だらけ (田んぼの生物多様性) 琵琶湖博物館が編集、公開している「田んぼの生きもの全種データベース」には現時点で6451種の生物が掲載されている	北陸中日新聞(金沢)
8	10	[遊・YOU・友] (大津市) 放送大学滋賀学習センター公開講演会 亀田佳代子・琵琶湖博物館副館長	朝日新聞(滋賀)
8	11	琵琶湖博物館の水槽破損事故 第三者委が調査報告書案	中日新聞(滋賀)
8	11	琵琶湖水槽破損で報告書案 県第三者委 業者間の情報共有不足	読売新聞(滋賀)
8	11	水槽破損ひび拡がく びわ博 第三者委報告書案	朝日新聞(滋賀)
8	11	[フィールドへびわ博いちおし] ③広がれ!小さな自然再生、グリーンインフラ 住民協働で魚道づくり 片山大輔主査	京都新聞(滋賀)
8	11	コアユ、海の代わりに琵琶湖で生活 川瀬成吾学芸員の話	山口新聞(下関)
8	16	通行止め 停電相次ぐ 台風7号 県南部中心に強い雨風 施設・店舗 休業余儀なく 琵琶湖博物館は臨時休館	京都新聞(滋賀)
8	16	暴風雨生活を直撃 台風7号大津で2人軽傷 甲賀市4500世帯に避難指示 文化施設 休館百貨店も休業 琵琶湖博物館は臨時休館	朝日新聞(滋賀)
8	17	[フォト e潮流] 30年ぶり帰ってきたよ 淀川のツチフキ再発見 川瀬成吾学芸員の話	朝日新聞(大阪・東京・北九州・札幌) 夕刊
8	17	[GREEN FORUM] フィールドワークNEC我孫子事業場 絶滅危惧種 企業が直接保全 地域絶滅生物 野生復帰に挑む 淡水魚ゼニタナゴ繁殖 …系統種を琵琶湖博物館で継代飼育されていた	日刊工業新聞(大阪・東京)
8	18	絶滅危惧ツチフキ発見 大阪・淀川で28年ぶり 川瀬成吾学芸員の話	紀伊民報(田辺)
8	19	「深掘り滋賀」第1弾 大津・放送大学 26日、公開講演 亀田佳代子副館長が講演	京都新聞(滋賀)
8	19	[イベント情報] 公開講演会「深掘り滋賀」 亀田佳代子副館長が講演	毎日新聞(滋賀)
8	20	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] カジカ大卵型の河川適応 米田一紀主査	産経新聞(滋賀・京都)
8	22	琵琶湖水遊び潜む危険 今月事故相次ぎ児童ら4人死亡 救命胴衣着用を・急に深くなる場所も 芳賀裕樹総括学芸員の話	読売新聞(大阪) 夕刊
8	24	[まちかど] (草津) みんなでつくろう水族展示!水族イラスト展	京都新聞(滋賀)
8	24	琵琶湖博物館第31回企画展示「おこめ展」	滋賀報知新聞
8	25	[フィールドへびわ博いちおし] ④危機に瀕するワタカ 産卵行動確認も増えぬ稚魚 主査・米田一紀	京都新聞(滋賀)
8	27	水難多発 魔の午後 琵琶湖や長良川水系 死者全員ライフジャケットなし 里口保文学芸員の話	中日新聞(名古屋)
8	28	展示室に魚の絵泳ぐ 琵琶博、全国から募集 担当者の話	産経新聞(滋賀)
8	28	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 地域環境史を開拓する① 自然と人間の関係 ひもとく 専門学芸員・橋本道範	朝日新聞(滋賀)
8	30	[水災の記憶 湖国の70年] ①多羅尾豪雨(1953年8月) 「山津波」家が跡形なく 写真掲載2点:琵琶湖博物館提供	京都新聞(滋賀)
8	31	「水害」「カワウ」テーマに解説 大津 放送大学が講演会 亀田佳代子副館長が講演	京都新聞(滋賀)
8	31	NHK大津 おうみ発630 伝統の食文化「ふなずし」 琵琶湖博物館の専門学芸員に伺う	京都新聞
9	2	琵琶湖博物館大型水槽破損 「水で変形」共有されず 第三者委報告書	京都新聞
9	2	水槽破損の調査書を提出 琵琶湖博物館館長に第三者委	中日新聞(滋賀)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
9	2	素材の性質考慮されず 琵琶湖水槽破損 県第三者委が報告書	読売新聞 (滋賀)
9	2	業者間の情報共有不足 琵琶湖水槽破損事故 館長に報告書 第三者委	毎日新聞 (滋賀)
9	2	水槽破損事故でびわ博に報告書 第三者委が提出	毎日新聞 (滋賀)
9	2	「アクリル歪み 裂け目拡大」琵琶博の水槽破損 第三者委が報告書 関係者の理解不足指摘	産経新聞 (滋賀)
9	3	[生きもの大好き 166] ノロ 目が一つしかないミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	神戸新聞
9	4	淀川に絶滅危惧種「ツチブキ」 28年ぶり 琵琶博などの調査で発見 川瀬成吾学芸員の話	産経新聞 (滋賀)
9	6	琵琶湖博物館水槽 来年度末に完成へ 2月に破損 三日月知事のコメント	中日新聞 (滋賀)
9	6	来年度末水槽復旧へ 琵琶博 知事定例会見で発表	毎日新聞 (滋賀)
9	6	[水災の記憶 湖国の70年] ②台風13号(1953年9月) 「ハード不足」被害甚大 写真掲載2点:琵琶湖博物館提供	京都新聞 (滋賀)
9	8	[フィールドへびわ博いちおし] ⑤環境学習でつながり広げる 自然に親しむ地域づくり 専門学芸員・楊平	京都新聞 (滋賀)
9	9	TOYOTA SOCIAL FES!! Presents～琵琶湖環境学習プロジェクト～ “日本一”の琵琶湖の環境について学び、保全しよう! 会場:琵琶湖博物館	京都新聞
9	13	[命めぐる里湖 恵みと食① ふなずし 進化は続く 冬の仕込み 今は夏に ・鰻や近江牛で創作 橋本道範学芸員らが再現実験	読売新聞 (大阪)
9	13	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 地域環境史を開拓する② 自然への負荷「ムラ」で調整 専門学芸員・橋本道範	朝日新聞 (滋賀)
9	14	[生きもの大好き] ノロ 巨大ミジンコ 目は一つ 鈴木隆仁学芸員の話	四国新聞 (高松)
9	14	コロナ対策 261億円減 県補正予算案「5類」移行で 琵琶湖博物館で破損したビワコオオナマズを展示する水槽の復旧などの事業費…	毎日新聞 (滋賀)
9	14	県補正案 247億8700万円減額 コロナ5類移行に伴い 琵琶湖博物館で破損したビワコオオナマズ水槽とコアユ水槽の再整備に向けた設計費…	読売新聞 (滋賀)
9	14	県補正予算案 247億円減額 議会提出へ コロナ対策費など影響 琵琶湖博物館のビワコオオナマズ水槽の復旧とコアユ水槽の再整備…	中日新聞 (滋賀)
9	14	コロナ対策費減額 県が補正予算案 9月定例会に28議案 琵琶湖博物館の破損したビワコオオナマズ水槽を来年度中に再整備するため…	京都新聞 (滋賀)
9	15	[ミルコ魂] 娘たちと今夏もいい思い出できたよ 家族みんなで琵琶湖博物館でゾウの骨とかを見たり… (JRA 騎手)	日刊スポーツ (大阪・東京・名古屋・福岡・札幌)
9	17	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] 身近なドジョウ 料理もさまざま 金尾滋史専門学芸員	産経新聞 (滋賀)
9	19	びわ博すいすい 湖魚の絵 50点 第1期、来月29日まで 川瀬成吾学芸員のコメント	読売新聞 (滋賀)
9	21	コロナ対策費 減額へ補正案 県議会開会 琵琶湖博物館のビワコオオナマズ水槽の再設計費…	朝日新聞 (滋賀)
9	22	[フィールドへびわ博いちおし] ⑥見えない世界を見る旅に出よう 想像を過去・未来・遠くへ 館長・高橋啓一	京都新聞 (滋賀)
9	25	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 地域環境史を開拓する③ エリ漁の発達と「ムラ」の関係 専門学芸員・橋本道範	朝日新聞 (滋賀)
9	26	[生きもの大好き] ノロ 巨大ミジンコ オブジェ展示 鈴木隆仁学芸員の話	中国新聞 SELECT (広島)
9	28	[生きもの大好き] ノロ 一つ目の巨大ミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	山梨日日新聞 (山梨)
9	27	お米の歴史・文化触れて 琵琶博 稲標本や農具 490点展示 企画展示「おこめ展」が琵琶湖博物館で開かれている 妹尾裕介主任学芸員のコメント	読売新聞 (滋賀)
10	9	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 地域環境史を開拓する④ エリ漁の魚 売買され消費 専門学芸員・橋本道範	朝日新聞 (滋賀)
10	13	[おこめと私たち びわ博のまなざし] ①おこめどころ近江 農地の9割水田 おこめ県 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
10	13	全技協(全国建設技術センター等協議会) 50周年式典・全国会議 11月30日に開催 専門学芸員の橋本道範氏…による講演も行う予定	建通新聞東京 (東京)
10	15	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] 身近なカワムツにも知らないことが 田畑諒一主任学芸員	産経新聞 (滋賀・京都)
10	21	流域の生活や環境考える 守山で全国川サミット始まる …琵琶湖博物館の視察を行った	京都新聞 (滋賀)
10	23	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水と暮らしの再発見① 環境守る地域独自の知恵 専門学芸員・楊平	朝日新聞 (滋賀)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	24	ペットボトル アートに再生 本間ますみさん(横浜) 故郷の八幡にアトリエ 母校で特別展示「島から全国へ」 意気込み 琵琶湖博物館などに作品が収蔵…	新潟日報(新潟)
10	26	[みんなのカガク] いきもの ほんとは? 図鑑(絶滅編③) ブラックバス放流 削減へ 中井克樹特別研究員の話	読売新聞(東京・札幌・高岡・福岡)
10	27	[おこめと私たち びわ博のまなざし] ②弥生水田の出現 自然地形読み 平らな面工夫 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞(滋賀)
10	28	県内で文化や観光PR 友好提携40周年 中国・湖南省の関係者 一行は28日まで 県内に滞在し、琵琶湖博物館の見学や…	中日新聞(滋賀)
11	2	水槽復旧応援イラスト 琵琶湖博物館 子どもらの作品展示 川瀬成吾学芸員のコメント	中日新聞(滋賀)
11	6	[キラリ近江びと(琵琶湖博物館学芸員・川瀬成吾)] 生態系に関心持って	中日新聞(滋賀)
11	6	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水と暮らしの再発見② 豊かな川 地域の人びとが育む 専門学芸員・楊平	朝日新聞(滋賀)
11	7	琵琶湖博物館 福井・年縞博物館の資料展示 環境変化を記録「はぎとり」地層 実物標本 間近に体感を 林竜馬専門学芸員の話	中日新聞(滋賀)
11	8	10日に洞爺湖外来種サミット 人気番組の専門家が講演 中井克樹特別研究員が登壇する	室蘭民報(室蘭)
11	10	[おこめと私たち びわ博のまなざし] ③水田の発展と拠点集落の形成 低湿地から高い場所へ進出 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞(滋賀)
11	11	世界湖沼会議に彦根東の3生徒 「高校生セッション」で研究発表 琵琶湖の水草で水質改善 ロビン・ジェームス・スミス学芸員の話	中日新聞(滋賀)
11	12	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] 河川やダム湖に定着するコクチバス 米田一紀主査	産経新聞(滋賀)
11	12	洞爺湖外来種サミット 人気番組の専門家から講演 駆除の大切さ訴え 中井克樹特別研究員が講演	室蘭民報(室蘭)
11	14	宝物の特別調査 本誌に一部公開 正倉院事務所 高橋啓一・琵琶湖博物館長ら調査員5人が観察・記録	読売新聞(東京・名古屋・札幌・高岡)
11	14	正倉院宝物調査公開 動物由来素材23件を対象に 高橋啓一・琵琶湖博物館長ら調査員5人が観察・記録	読売新聞(大阪)
11	15	県史編集過程 積極的に発信 明治以降の150年 編さん会議初会合 会合では「子どもの来館が多い琵琶湖博物館での展示を考えてほしい」などの意見が出た	京都新聞(滋賀)
11	16	「トンネル水槽」再開へCF開始 破損で展示休止の琵琶博 高橋啓一館長の話	京都新聞(京都)
11	16	(じょうほう交差点) 琵琶湖博物館全面再開へ募金 まず「トンネル水槽」の修理に	信濃毎日新聞(長野)
11	17	琵琶博水槽修復へCF開始 より充実した展示目指す 返礼品 バックヤードツアーなど 高橋啓一館長の話	毎日新聞(滋賀)
11	17	(消しゴム) 琵琶湖博物館はCFで支援を募っている 高橋啓一館長の話	南日本新聞(鹿児島)
11	17	(しがガイド 遊覧選) びわ博フェス2023	中日新聞(滋賀)
11	18	琵琶湖博物館がCF、返礼は特別体験 トンネル水槽再生 支援を 高橋啓一館長の話	中日新聞(滋賀)
11	18	「おこめ展」来場3万人 守山の内藤さんに記念品	中日新聞(滋賀)
11	18	琵琶博 トンネル水槽 修繕へCF ドーム型窓にひび複数 人気スポット優占対応 高橋啓一館長の話	読売新聞(滋賀)
11	18	(農) project 琵琶湖システム「世界的に重要」 琵琶博でFAO事務局次長 国連食糧農業機関のベス・ベグドルさんは琵琶湖博物館を訪れ説明を受けた	読売新聞(滋賀)
11	19	(農) project 「なれずし」の今 実態探る 食べる頻度など 琵琶博がアンケート フィールドレポーター前田さん 橋本道範学芸員の話	読売新聞(滋賀)
11	19	多彩な出展や講演 びわ博フェス開幕(きょうまで) 橋本道範学芸員は、ふなずしをテーマに講演	中日新聞(滋賀)
11	19	水槽修理費 寄付募る 展示再開目指し琵琶湖博物館 高橋啓一館長の話	朝日新聞(滋賀)
11	20	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水と暮らしの再発見③ 資源管理 地域ごとに仕組み 専門学芸員・楊平	朝日新聞(滋賀)
11	21	国連食糧農業機関事務局次長、高島に 女性就農者と意見交換 ベグドル氏は先立って琵琶湖博物館を訪問	京都新聞(滋賀)
11	21	円形水槽破損の琵琶湖博物館 全面再開へ500万円CF 高橋啓一館長の話	おとなプラス(新潟)
11	24	[おこめと私たち びわ博のまなざし] ④水田が作った新たな社会 墓を密集 ムラ結束高め 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞(滋賀)
11	24	水槽修理へCF 滋賀県立琵琶湖博 高橋啓一館長の話	奈良新聞(奈良)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	25	TOYOTA SOCIAL FES!! 2023 琵琶湖環境学習プロジェクト in 滋賀 [共催]滋賀県立琵琶湖博物館	京都新聞
11	29	家庭の「なれずし」消費や生産実態は 琵琶湖博物館が調査 橋本道範学芸員の話	中日新聞 (滋賀)
11	29	ユーチューバー琵琶博に7万円 外来魚駆除など投稿 マーシーさんの話 高橋啓一館長の話	中日新聞 (滋賀)
11	30	琵琶湖博物館) なれずし県民大調査 30年ぶり、消費、生産の実態把握へ	滋賀夕刊
12	3	びわ博の水槽復旧支援 グッズ収益寄付へ 高島高1年・黒川さん販売 黒川さんの話 高橋館長の話	中日新聞 (滋賀)
12	3	独自グッズで琵琶博支援 高島高・黒川さん 売り上げ金一部寄付活動	京都新聞 (滋賀)
12	4	琵琶博支援 グッズでCF 高島高・黒川さん 水槽修繕費へ売り上げ金寄付	京都新聞 (京都)
12	4	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水と暮らしの再発見④ 協働支える多様なつながり 専門学芸員・楊平	朝日新聞 (滋賀)
12	4	国土交通行政めぐり最近の情勢など解説 建設技術センター協議会 大津市で50周年記念式典 橋本道範専門学芸員が特別講演	日刊建設工業新聞 (東京)
12	5	大津で設立50周年式典 全国建設技術C等協議会 橋本道範専門学芸員による講演	建設通信新聞 (東京)
12	6	「琵琶湖のダイヤモンド」間近で 琵琶湖博物館 旬の氷魚を展示 田畑諒一学芸員の話	中日新聞 (滋賀)
12	6	イブキノエンドウ「在来種」 伊吹山の希少植物「16世紀、欧州由来説」覆す 県森林文化アカデミーと岐阜薬科大学など研究発表 DNA解析、海外とは別系統 研究グループは他に琵琶湖博物館、…	岐阜新聞 (岐阜)
12	6	「宣教師が持参」実は在来種 「イブキノエンドウ」岐阜の学校など研究 研究は琵琶湖博物館…も参加	中日新聞 (名古屋)
12	8	「おこめと私たち びわ博のまなざし」⑤おこめの故郷 長江流域で野生種分化か 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
12	9	伊吹山の希少植物) イブキノエンドウ 在来種だった 琵琶博など解析「欧州由来」否定 「信長の菓草園」伝説どうなる? 大槻達郎主任学芸員の話	産経新聞 (滋賀)
12	10	[日曜日に知る 琵琶湖の魚たち] 野洲川中流域にすむズナガニゴイ 川瀬成吾学芸員	産経新聞 (滋賀)
12	12	輝くPETアート 横浜の本間さん 故郷・佐渡にアトリエ 琵琶湖博物館などに作品が収蔵…	毎日新聞 (新潟)
12	13	水槽改修CF 500万円突破 琵琶湖博物館 来月末まで継続 高橋啓一館長の話	中日新聞 (滋賀)
12	14	琵琶湖博物館CF 500万円達成 水槽修理へ 高橋啓一館長の話	京都新聞 (京都)
12	14	琵琶湖博物館CF 目標500万円達成 水槽修理へ	中部経済新聞 (名古屋)
12	14	琵琶博 修理費CF目標達成 トンネル水槽復活へ前進 「ござかなクン」黒川さんら支援続々次なるゴールへ 黒川琉伊さん・マーシーさん、高橋館長の話	読売新聞 (滋賀)
12	16	水槽修理の琵琶湖博物館 目標500万円募金達成	おとなプラス (新潟)
12	17	目標500万円の募金達成	千葉日報 (千葉)
12	18	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖とアユの話① 「コアユ」の旅100年前始まる 学芸員・加藤秀雄	朝日新聞 (滋賀)
12	20	琵琶湖博物館 竜オブジェが熱い 1300本ペットボトル製 新年向け撮影人気 妹尾主任学芸員の話	読売新聞 (滋賀)
12	21	伊吹山の希少植物は在来種 イブキノエンドウ 県立大など 宣教師「移入説」否定 県立大や琵琶湖博物館の研究グループ… 琵琶湖博物館では24日まで「おとなのディスプレイ」で伊吹山で採取されたイブキノエンドウの標本を展示	毎日新聞 (滋賀)
12	21	[美術館・博物館] 琵琶湖博物館 びわ博イチ押し! 今が旬! 氷魚の展示~12/24	毎日新聞 (大阪)
12	22	「おこめと私たち びわ博のまなざし」⑥温帯ジャポニカと熱帯ジャポニカ 栽培イネ 田と畑どちらが先? 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
12	23	[湖国この一年 2023] (2月) 大型水槽が破損 琵琶博 西村武副館長の話	京都新聞 (滋賀)
12	26	[湖国この一年 2023] (5月) 琵琶湖博物館の水族展示室が再開	京都新聞 (滋賀)
12	26	[湖国この一年 回顧 2023] CF通じ全国から支援 琵琶湖博物館で水槽破損 高橋啓一館長の話	中日新聞 (滋賀)
12	27	[山上直子の犬も歩けば] 「トンネル水槽」再開へCF 琵琶湖博物館 希少淡水魚「仮住まい」中 川瀬成吾学芸員の話	産経新聞 (大阪) 夕刊
12	28	[湖国この一年 2023] (9月) 琵琶湖博物館の水槽が破損した問題で、専門家らの第三者委員会が調査報告書を提出	京都新聞 (滋賀)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	28	[回顧 2023] 2月10日 琵琶湖博物館でビワコオオナマズを飼育していた大型水槽が破損したと発表	読売新聞 (滋賀)
12	30	なれずし食べてる? 湖国のソウルフード30年ぶり大調査 食べる場面や頻度、フナの入手方法…県民との関係性考察 橋本道範専門学芸員の話	京都新聞 (滋賀)
12	31	はぎとり標本触れて 県年縞博物館の収蔵品展 (滋賀) 琵琶湖博物館で年縞博物館の収蔵品が特別に公開 林竜馬専門学芸員の話	日刊県民福井 (福井)
1	1	水槽修理に向けた寄付 目標の500万円を達成 滋賀の琵琶湖博物館	日刊県民福井 (福井)
1	4・5	飛翔の2024年「竜」巡り(えと特集) 滋賀・草津 琵琶湖博物館のオブジェ 体調7メートル「空」から出迎え 妹尾裕介主任学芸員の話	中日新聞 (名古屋・なごや東・知多・滋賀・三重・岐阜・福井) 北陸中日新聞 (金沢) 日刊県民福井 (福井)
1	7	ジュニアタイムス「こども記者が行く!」 昆虫ずらり魅力を満喫 森を歩き、自然観察 今田舜介学芸員が案内	京都新聞 (京都)
1	10	健やか「食」環境 「農と自然の研究所」 「全種リスト」は琵琶湖博物館に引き継がれ増補更新してデータベース化。一般公開されている	西日本新聞 (福岡)
1	12	「おこめと私たち びわ博のまなざし」⑦日本の水田とおこめ 温帯ジャポニカで国づくり 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
1	14	「日曜日に知る 琵琶湖の魚たち」 琵琶湖にしかないビワヨシノボリ 田畑諒一学芸員	産経新聞 (京都・滋賀)
1	14	続「生きもの」大好き! 「ノロ」目が一つの巨大ミジンコ 鈴木隆仁学芸員の話	岐阜新聞 (岐阜)
1	15	「滝登り竜になるコイ」テーマ 野生型と飼育型 紹介 琵琶湖博物館	中日新聞 (滋賀)
1	15	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖とアユの話② 氷魚 伝統の魎漁で生け捕り 学芸員・加藤秀雄	朝日新聞 (滋賀)
1	18	歳出4年連続6000億円台 県が24年度当初予算見積額公表 ビワコオオナマズ水槽の再整備…	中日新聞 (滋賀)
1	18	来年度県予算 見積要求額6147億円 6.6%コロナ対策費減 琵琶湖博物館の水槽更新費用の要求も…	京都新聞 (滋賀)
1	18	遊・YOU・友 水族トピック展「龍になったといわれるコイ」2月29日まで 琵琶湖博物館	朝日新聞 (滋賀)
1	20	琵琶湖博物館CF1千万円に到達 今月末まで継続	京都新聞 (京都)
1	20	「なれずし」食べてる人どれぐらい? 琵琶湖博物館が調査 橋本道範学芸員の話	朝日新聞 (滋賀)
1	24	琵琶湖トンネル水槽復旧CF1000万円達成 新目標設定今月末まで	読売新聞 (滋賀)
1	26	[Event & Stage] わくわく探検隊「ミニ水族展示をつくろう」 2月10日 琵琶湖博物館	読売新聞 (福井)
1	26	第2目標の1000万円も達成 琵琶湖博物館 水槽修理のCF 高橋館長の話	中日新聞 (滋賀)
1	26	「おこめと私たち びわ博のまなざし」⑧うるち米ともち米 デンプン構成で粘り異なる 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
1	29	ホンモノ水温で雌雄分かれ 「産卵期に琵琶湖の水位保つこと重要」 琵琶湖特別研究員・藤岡康弘さん講演	京都新聞 (滋賀)
1	29	[ピワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖とアユの話③ 湖産種苗養殖各地にひろがる 学芸員・加藤秀雄	朝日新聞 (滋賀)
2	1	「琵琶湖 情報発信強化を」 県立琵琶湖博物館協議会、水槽破損関連も意見	産経新聞 (滋賀)
2	2	琵琶湖、滋賀の名産江戸期の製法再現「古ふなずし」多様な作り方 琵琶湖博物館橋本道範専門学芸員	日本経済新聞 (札幌・東京・名古屋・大阪・福岡)
2	2	琵琶湖 CF目標額2倍超 トンネル水槽など再開へ	京都新聞 (京都)
2	2	まちかど 「トンボ100大作戦-滋賀のトンボを救え-」開催 滋賀県立琵琶湖博物館	京都新聞 (滋賀)
2	2	観光大使・西川さんに感謝状 県と琵琶湖博物館の水槽復旧費として	中日新聞 (滋賀)
2	2	西川さん フェス収益一部寄付 県立琵琶湖博物館の水槽の復興のためにも寄付	読売新聞 (滋賀)
2	2	西川さん「環境保全に」イナズマ最高額を寄付 琵琶湖博物館の水槽修理にも寄付	毎日新聞 (滋賀)
2	2	西川さん イナズマロック、過去最高額寄付 県立琵琶湖博物館の水槽破損事故にも再生支援の寄付	産経新聞 (滋賀)
2	2	琵琶湖CF 1159万3000円 水槽の亚克力交換などに活用	産経新聞 (滋賀)
2	3	「イナズマ」収益 琵琶湖保全に 観光大使・西川貴教さん 琵琶湖博物館の展示の再生に寄付 高橋館長が感謝を述べた	京都新聞 (滋賀)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	3	「龍骨」記録の絵巻公開 琵琶博、実物 14年ぶり	産経新聞 (滋賀)
2	5	「イナズマ」の収益 琵琶湖の保全に 大型水槽破損の琵琶湖博物館にも展示再生の支援	京都新聞 (京都)
2	5	滋賀のトンボ展 保全活動を紹介 琵琶湖博物館	読売新聞 (滋賀)
2	5	琵琶博 水槽破損事故でCF 「目標の倍以上、支援に感謝」	毎日新聞 (滋賀)
2	9	「おこめと私たち びわ博のまなざし」⑨おこめ調理の原則 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
2	9	イナズマロック収益 県に寄付 西川貴教さん 総額 4000万円に	朝日新聞 (滋賀)
2	11	「日曜日に知る 琵琶湖の魚たち」 プランクトン食の巨大魚ハクレン 主査・米田一紀	産経新聞 (京都・滋賀)
2	12	「ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより」 琵琶湖とアユの話③ 資源を守る 科学X 環境民俗学 学芸員・加藤秀雄	朝日新聞 (滋賀)
2	12	しがnote 琵琶博 水槽破損事故から1年 完全復活へ みんなでつくる 補修費募るCF、目標大きく上回る	産経新聞 (滋賀)
2	16	「竜骨図」15年ぶり展示 琵琶博	京都新聞 (滋賀)
2	16	烏丸半島 観光振興へようやく動き	京都新聞 (滋賀)
2	23	「おこめと私たち びわ博のまなざし」⑩弥生時代のおこめ料理 「深ナベ」使い、側面を加熱 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
2	25	「信長の薬草園」裏付けるはずが・・・ イブキノエンドウは在来種 県立琵琶湖博物館でイブキノエンドウの標本展示 主任学芸員・大槻達郎	朝日新聞 (滋賀)
2	26	「ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより」 湖底遺跡の謎に迫る① 縄文から江戸まで 100以上確認 主任学芸員・妹尾裕介	朝日新聞 (滋賀)
3	5	研究人生つづり 本出版 琵琶博名誉学芸員 中島さん	京都新聞 (滋賀)
3	5	多賀町立博物館 古代のワニに焦点 高橋啓一琵琶湖博物館館長らの座談会開催	毎日新聞 (滋賀)
3	7	県が子ども向け観光パンフ作成 「学ぶ」では琵琶湖博物館を掲載	中日新聞 (滋賀)
3	8	「おこめと私たち びわ博のまなざし」⑪古代のおこめ調理 アジアつなぐ「茹で蒸し法」 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
3	10	「日曜日に知る 琵琶湖の魚たち」 100年以上忘れられたヌマムツ 学芸員・川瀬成吾	産経新聞 (京都・滋賀)
3	11	「ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより」 湖底遺跡の謎に迫る② 水没の土器 完全な形保 主任学芸員・妹尾裕介	朝日新聞 (滋賀)
3	15	昔々 琵琶湖の岸に龍がおったそうな 博物館に絵図 正体はゾウ 滋賀県立琵琶湖博物館	中日新聞 (名古屋) / 北陸中日新聞 (金沢)
3	16	学校と地域 150年のものがたり 潟の恵み享受し歩む 秋田県潟上市 大豊小学校卒業の琵琶湖博物館学芸技師 菅原巧太朗さん 八郎潟の調査を続ける	秋田魁新報 (秋田)
3	19	県に外部監査 琵琶湖博物館に耐用年数を過ぎた機械設備の改修が行われていない	京都新聞 (滋賀)
3	20	琵琶湖岸 龍がいた!? 県立琵琶湖博物館に江戸時代大津市で龍の化石を発見したとする文書が保管されている	中日新聞 (滋賀)
3	22	「おこめと私たち びわ博のまなざし」⑫今に続くおこめ調理 やわらかさは平安から 主任学芸員・妹尾裕介	京都新聞 (滋賀)
3	23	<国原譜> 滋賀県内旅行で琵琶湖博物館を訪問 雑感	奈良新聞 (奈良)
3	25	「ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより」 湖底遺跡の謎に迫る③ 埋没林 過去の植生伝える 主任学芸員・妹尾裕介	朝日新聞 (滋賀)
3	25	音楽って素晴らしい 大津市伝統芸能会館でヨシ笛のコンサート 「ちょいまる」さん琵琶湖博物館を通じてヨシ笛を知る	京都新聞 (滋賀)

(6) 雑誌等掲載記録

月	記事タイトル等	掲載雑誌・発行者名
2023. 4	「草津案内あさ草津ひる草津 めいっぱい楽しむ遊び場スポット 滋賀県立琵琶湖博物館」	『びわこくさつ たっぷり満喫 BOOK』2023年3月版、一般社団法人草津市観光物産協会
4	「草津の人 わたしと草津 世界有数の淡水魚博物館の学芸員として研究を重ねる」	『びわこくさつ たっぷり満喫 BOOK』2023年3月版、一般社団法人草津市観光物産協会
4	プレゼント「琵琶湖博物館常設展示ペア招待券」	『教育しが』No. 90 (令和5年4月号)、滋賀県教育委員会
6	旅を彩る初登場の観光地 (ツアー広告)	ツアー広告、株式会社阪急交通社
6	企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」	『湖国文化情報 れいかる』vol. 132 (7・8月号)、びわ湖芸術文化財団

月	記事タイトル等	掲載雑誌・発行者名
6	琵琶湖博物館 夏チャレンジプログラム3件、秋からのチャレンジプログラム7件	『しがこども体験学校 2023年度体験プログラム』、滋賀県健康医療福祉子ども・青少年局
7	「7月1日はびわ湖の日」(「びわ湖の日」イベント用冊子)	株式会社平和堂
7	「草津をぐるっと巡る」(草津市ふるさと納税寄附者用パンフレット)	滋賀県草津市
7	プレゼント「第31回企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然」招待券」	『教育しが』No.90(令和5年4月号)、滋賀県教育委員会
7	「水族館の人気者! Vol.16 古代湖・琵琶湖の神秘 ビワコオオナマズに会いに。」	『CO・OPステーション』2023年8月号、生活協同組合コープこうべ
7	「社会教育施設における環境教育の事例② 琵琶湖博物館」	「令和5年度環境教育等推進専門家会議(第2回)」参考資料、2023年7月20日、環境省(webサイトにも掲載)
7	特集「かつての豊かな琵琶湖を次世代に渡したい。世界も注目! 魚のゆりかご水田プロジェクト」(カイエビ画像提供)	「WEB 滋賀プラスワン」2023年7月31日
8	企画展示「おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」	『湖国文化情報 れいかる』vol.133、9・10月号、公益財団法人びわ湖芸術文化財団
8	「子どもの頭と身体、好奇心がすくすく育つ 厳選おでかけスポット 滋賀県立琵琶湖博物館」	『ウォーカームック No.1148 教育環境で選ぶ関西で家を買って住みたい街』株式会社角川アスキー総合研究所
9	国土交通省国土政策局広域地方政策課「琵琶湖の保全及び再生～近年の琵琶湖をめぐる状況と関係機関の取組～」(ビワコオオナマズ画像提供)	『人と国土21』2023年9月号、一般財団法人国土計画協会
9	「一泊2日の旅 わくわく! ドキドキ! 湖国しがを大冒険」(交流事業チラシ、ビワコオオナマズ画像提供)	公益財団法人草津青年会議所 みとよ交流事業特別委員会
10	感動と感激を呼ぶ推しスポット! 「湖のほとりにある水族館 琵琶湖博物館水族展示室」	『ザ・水族館』八重洲出版
10	招かれざる来訪者 琵琶湖博物館の米田一紀さんにお話を聞く	東大津高校新聞 第421号
11	滋賀県立琵琶湖博物館	『るるぶドライブ関西ベストコース25』株式会社JTBパブリッシング
11	滋賀県立琵琶湖博物館	「JR西日本のこどもおでかけ応援ポータル『ミライ』」JR西日本
11	まだまだある! 魅力的な学びの施設「滋賀県立琵琶湖博物館」	『SUUMO 新築マンション関西版』2023年11月21日号、株式会社リクルート
12	「びわ湖のすべてを感じるミュージアム 滋賀県立琵琶湖博物館」	『フリーペーパー道の駅』VOL.08、2023 WINTER、株式会社FPMS
12	トピック展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え!」、令和5年度新琵琶湖学セミナー「研究を展示する:びわ博展示の裏話」	『湖国文化情報 れいかる』vol.135(1・2・3月号)、公益財団法人びわ湖芸術文化財団
12	子育て情報誌「滋賀県立琵琶湖博物館の紹介」	『まみたん』2024年1月号、株式会社関西ぱど
12	滋賀県立琵琶湖博物館	webサイト「常設展『TRAVEL to 滋賀に生きる造形』」滋賀県立美術館
12	水族展示復活へ! トンネル水槽再生にご支援を!	webサイト「チアセブンアーチ」
12	「びわ湖のすべてを感じるミュージアム 滋賀県立琵琶湖博物館」	『おでかけドライブ2023-2024 中部版』株式会社流行発信
12	「草津案内あさ草津ひる草津 めいっぱい楽しむ遊び場スポット 滋賀県立琵琶湖博物館」	海外旅行者向けwebマガジン「MATCHA」一般社団法人草津市観光物産協会
2024.1	新琵琶湖学セミナー「研究を展示する:びわ博展示の裏話」	『教育しが』No.93(令和6年1月号)、滋賀県教育委員会
2	滋賀県立琵琶湖博物館	instagram「Travel to 滋賀に生きる造形」滋賀県立美術館
3	滋賀県立琵琶湖博物館	『関西版 日帰りドライブびあ2023-2024』びあ株式会社
3	琵琶湖や滋賀を楽しみ学ぶ 滋賀県立琵琶湖博物館	『まっふる 滋賀・びわ湖 長浜・彦根・大津'25』昭文社
3	母なるびわ湖の魅力を学ぶ 滋賀県立琵琶湖博物館	『るるぶ滋賀 びわ湖 長浜 彦根25』およびWEBメディア『るるぶ&more.』株式会社JTBパブリッシング

月	記事タイトル等	掲載雑誌・発行者名
3	特集「通いたくなる水族館。」	『BRUTUS』No. 1003 (2024年3月1日号)、株式会社マガジンハウス
3	シガの生き物や文化をまるごと勉強だぞ 滋賀県立琵琶湖博物館	『シガリズム子ども向け観光パンフレット』一般社団法人草津市観光物産協会
3	滋賀県立琵琶湖博物館	『シガリズムトリップ 春号』一般社団法人草津市観光物産協会
3	ギャラリー展示「鉱物・化石展 2024・大地に夢を掘る」、「里山体験教室(全4回)」	『湖国文化情報 れいかる』vol. 136、4・5・6月号、びわ湖芸術文化財団

(7) 学校等団体への広報活動

学校等団体へ琵琶湖博物館について知っていただくことで、来館等の利用を促進するため、以下の32件の会議等の集まりへの出席の他、県内外学校302校(県内151校、県外京都府151校)について琵琶湖博物館の紹介等PR活動を行った。

○団体への広報活動

学校団体等		対象者
県内	一般団体	県PTA連絡協議会役員会
		県老人クラブ連合会総会
		県地域女性団体連合会代表者会
		県子ども会連合会総会
		県学童保育連絡協議会役員会
	教育関連団体	県私立幼稚園協会
		日本保育協会滋賀県支部総会
		滋賀県保育協議会 園長研修会
	各市町小中校長会	米原市、甲賀市、長浜市、彦根市、蒲生郡
		野洲市、大津市、高島市、愛知・犬上郡、湖南市、守山市
		近江八幡市、草津市、栗東市、東近江市
	各市町保幼等園長会	大津市、草津市、守山市、栗東市、野洲市、甲賀市、湖南市、近江八幡市、東近江市、
		大津市小中初任者研修会
	一般教員	県新任校長研修会
		県新任教頭研修会
		県小学校教育研究会理科部会
近畿		近畿工業高等学校科長連絡協議会
県外	福井県	新任教頭研修会、新任校長研修会(オンライン)
		嶺南教育実践フォーラム(オンライン)
		京都市校長会理事・支部長会
	京都府	京都府総合支援学校校長会
		京都府小学校支部長・理事合同会議
		京都市右京区小学校に向けた会合
		京都市右京区小学校に向けた会合
		京都市山科区小学校に向けた会合
		京都市伏見区小学校に向けた会合
		宇治市小学校
		長岡京市・向日市・大山崎町小学校
		城陽市・久御山町小学校
		八幡市・京田辺市・井手町・宇治田原町小学校
		木津川市・精華町・相楽東部広域連合小学校
	旅行会社	滋賀県ビジターズビューロー教育旅行キャラバン等(茨城・栃木・熊本・鹿児島)

○学校への訪問説明

	校種	市町	学校数
県内	幼稚園	大津市	1
	小学校	大津市、草津市、守山市、栗東市、野洲市、高島市、甲賀市、湖南市	38
	公立中学校	県下全中学校	93
	特別支援学校	聾話、北大津、北大津高等、鳥居本、長浜、伊吹分校、甲南高等、八日市、愛知養護	9
	県立・私立・国立大学法人中学・	滋賀大附属中、県立河瀬中・守山中・水口東中等	10
県外	京都府	京都市右京区・左京区・山科区・伏見区	57
		宇治市・乙訓地方、八幡市、城陽市、京田辺市、綴喜地方・相楽地方小学校	94
合 計			302

4 資料整備活動

琵琶湖博物館では、博物館のテーマである「湖と人間」に関する自然・人文・社会科学など多分野の資料を収集し、整理・保管・活用している。資料を収集する地域は、琵琶湖とその集水域および淀川流域を中心として、日本やアジア、世界の湖沼とその周辺地域まで広範囲にわたる。実物資料のほか、魚などの生体資料、映像資料、図書資料などの多種多様な資料を、博物館職員や参加型調査による収集、受贈、受託、提供、交換、購入、製作などの方法によって受け入れている。

資料を必要な時に利用できるよう、各資料分野の体系に従って整理し、次世代へ引き継ぐために、長期間にわたって安全に良好な状態で保管する活動を行っている。各資料に関する専門の学芸職員が、会計年度任用職員や委託による資料整理員とともに対応に当たっている。図書資料については、司書資格をもった会計年度任用職員が対応にあっている。

2023年度は、デジタルミュージアム推進事業として、「多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備」および「地理情報システム（GIS）を用いた生物分布デジタルマップ作製」の二つの事業を新たに開始した。以下に、2023年度の資料整備および利活用の状況を示す。

1. 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微小生物標本、水族資料（生体資料）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの収蔵品データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2023年度末現在で、博物館登録資料は726,761で、収蔵概数は1,507,410となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

(1) 収蔵資料数

2024年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2023年度登録数	2023年度受入総数
地学	107,033	136,920	9,047	2,184
動物	219,158	378,194	1,019	6,800
植物	92,049	203,922	700	394
微生物	16,357	77,885	0	0
水族（生体）	11,586	16,563	11,586	6,222
考古	1,004	1,473箱と872	2,181	0
歴史	461	239	0	0
民俗	11,463	2箱と11,490	1,351	2箱と72
環境	0	1,521	6	6
図書	153,837と 7,296タイトル	158,000	1,572	2,123
映像	113,813	521,804	0	16,335
合計	726,761と 7,296タイトル	1,507,410と 1,475箱	27,462	34,136と 2箱

【各分野別の詳細】

地学標本	2023年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開な	登録資料数	収蔵概数
化石	20	0	1,766	0	0	1,766	データベースの各アイテムへの入力作業中	43,463	55,220
岩石・鉱物	34	0	118	0	0	118		14,791	24,040
堆積物	8943	0	300	0	0	300		47,469	55,000
プレパラート	50	0	0	0	0	0		1,310	2,660
小 計	9,047	0	2,184	0	0	2,184		107,033	136,920

動物標本	2023年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開な	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物（魚類除く）	16	2	0	0	12	21		3,789	4,185
内 訳	哺乳類骨格標本	2	0	0	0	0	2 新規登録2件	940	940
	哺乳類乾燥標本	4	0	0	0	5	9 新規登録4件	104	109
	哺乳類(その他)	0	0	0	0	0		898	898
	鳥類骨格標本	3	0	0	0	3	3 骨格標本3点	254	254
	鳥類乾燥標本 (巢, 卵, レプリカ等含む)	6	2	0	0	4	6 仮剥製標本4点 巢標本1点 卵殻標本1点	1,112	1,128
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0		10	10
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0		47	47
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0		44	91
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	1	0	0	0	0	1	356	356
	両生類(その他)	0	0	0	0	0	0	17	302
魚類（淡水魚類）	721	18	0	0	139	157		59,723	87,996
内 訳	乾燥骨格および アクリル包埋標	0	0	0	0	0		2,723	2,723
	DNA分析用標本	3	0	0	0	0	0 新規登録3件	3,723	3,723
	その他液浸標本	721	18	0	0	139	157 新規採集, 提供標本および 未登録標本の整理など. 新規登録721件	53,277	81,595
昆虫	44	397	2,247	0	3,930	6,574		128,288	252,547
内 訳	昆虫液浸標本	44	2	44	0	0	46 新規登録44件, 収蔵標本の 薬液補充とパッキン交換	12,582	31,146
	昆虫乾燥標本	0	395	2,203	0	3,930	6,528 新規採集, 寄贈・提供標本, 企画展展示標本の整理など. 灰谷輝雄コレクションの データ入力.	115,706	221,401
貝類	192	0	0	0	2	2	未登録標本の整理、新規登録192件	14,951	18,363
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	46	0	0	0	0	46		12,407	15,103
小 計	1,019	417	2,247	0	4,083	6,800		219,158	378,194

植物標本	2023年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	250	0	0	0	0	0	同定・登録・ラベル貼付・収蔵・ 管理・低温処理・燻蒸庫燻蒸	91,599	190,700
コケ植物標本	450	0	394	0	0	394		450	11,881
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		1	1
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
プレパラート標本	0	0	0	0	0	0		0	1,162
小 計	700	0	394	0	0	394		92,049	203,922

微生物標本	2023年度							累 積	
	登録数	作成・撮影	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	3,183	0	3,103	0	37	3,183	後藤敏一氏珪藻コレクションの大口寄贈あり；ラベルは未貼付	10,904	10,904
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		4,019	4,049
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,434	1,439
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	10,052
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小 計	0	0	0	0	0	0		16,357	77,885

水族資料 (生体)	2023年度							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	11,145	930	40	2,706	2,546	6,222		10,426	12,372
内 訳	哺乳類	35	0	0	0	2	0	30	35
	魚類	11,021	906	33	2,706	2,544	6,189	10,307	12,267
	両生類	63	24	4	0	0	28	19	63
	爬虫類	19	0	0	0	0	0	64	0
	鳥類	7	0	3	0	0	3	6	7
無脊椎動物	441	347	3,231	264	0	3,842		448	4,191
内 訳	昆虫類	0	0	0	0	0	0	0	0
	貝類	297	128	3	264	0	395	293	427
	甲殻類	142	219	3,100	0	0	3,319	153	3,634
	扁形動物	2	0	128	0	0	128	2	130
小 計	11,586	1,277	3,268	2,970	2,546	10,064		10,874	16,563

考古資料	2023年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0	資料写真のデジタル化 考古データベース公開	2,181	1,394(箱)
松原内湖遺跡木器等 (コンテナ数及び点数)	0	0		1,004	44(箱)と847
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	19
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21(箱)と3
小 計	0	0			3,185

歴史資料	2023年度						累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	461点	0	0	0	0	破損が大きかった資料1点の修理の実施。館蔵品紹介コーナー「学芸員のこだわり展示」で計6回、延べ実物5点(重要文化財「東寺文書」3点含む)を展示公開。	461点	174件
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	0	0	0	0		0	46件
その他	0	0	0	0	0		0	19件
小 計	292点	0	0	0	0		292点	239件

民俗資料	2023年度				累 積	
	登録数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	1,157	2箱と68	2箱と68		8,344	2箱8,391
漁撈用具(船関係用具を含む)	194	4	4		3,119	2,991
二次資料	0	0	0		0	108
小 計	1,351	2箱と72	2箱と72		11,463	2箱11,490

環境資料	2023年度				累 積		
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
民具・生活用具類	0	0	6	6		0	1,078
二次資料(食品等レプリカ)	0	0	0	0		0	436
その他	0	0	0	0		0	7
小 計	0	0	6	6		0	1,521

※収蔵資料の整理を行い、分類方法・件数記載方法を見直した。

図書資料	2023年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	974	25	1,387	1,412	書籍レファレンス、コピーサービス(有料)、フィンボスター管理。資料整理として蔵書点検11,549点、図書装備約1,000冊。その他、文献複写依頼35件、相互貸借借受2件、デジタル化資料送信サービスの利用は6件。	95,025	98,000
文献	851	0		851		57,762	60,000
雑誌	625	185	3,141	3,326		7,247 (タイトル)(※)	
小 計	2,450	210	4,528	5,589		152,787と 7,247(タイトル)	158,000

※雑誌は総タイトル数を表示(雑誌の総冊数は算出不可)。ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む。

Nacsis-Cat 目録所在情報サービス		2022年度 登録数	累積 登録資料数
図書		194	21,185
雑誌		669	1,121
小 計		863	23,306

映像資料	2023年度							累 積	
	登録	撮影	移管数	寄贈・寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	7,200	8,764	16,326	1. 大橋洋コレクション(平成時代写真)画像一覧冊子8冊の製本完成(全3.3万点の冊子分51%完了) 2. 松田征也氏寄贈の鳥/昆虫/植物の画像の整理提供(7,200点) 3. 澤田弘行氏撮影のトンボ/花植物/風景/鳥昆虫スライド画像データ入力(6,731点済、全9,126点の74%完了) 4. びわ博HP公開の鳥類/魚類の精密画像の整理提供:(2件、322点) 5. 館内館外利用・学芸員利用提供:(43件、1,242点)	113,813	511,937
動画資料	0	0	0	0	0	9		0	9,867
小 計	0	0	0	7,200	8,764	16,335		113,813	521,804

(2) 寄贈者および提供者 敬称略 (点数)

【地学資料】

化石：馬越仁志 (1266) 山本勝吉 (500)

岩石・鉱物：梅澤正夫(18) 中野聰志 (100)

堆積物：吉永秀一郎(300)

【節足動物標本】

カイミジンコプレパラート：Robin J. Smith 琵琶湖博物館 (43)

ヨコエビ液浸標本：浜分漁協 (3)

(ジムカデプレパラート：石井 清 独協医科大学 (12) 論文発表待ちで未登録)

【動物標本】

哺乳類乾燥標本：小畑貴代美 (3) 川田伸一郎 (1)

鳥類骨格標本：滋賀県農政水産部水産課 (3)

鳥類乾燥標本：滋賀県農政水産部水産課 (4)

両生類液浸標本(アカハライモリ)：中川 光 (1)

魚類液浸標本：滋賀県水産試験場石崎 (2) 谷口倫太郎 (1) 中野光 (1) 吉武諒人 (2) 藤岡康弘 (48)

桑原雅之 (33) 岡山理科大学武山智博研究室 (1) 田中治男 (1) 藤田宗也 (44) 藤田朝彦 (1)

小松原正志 (1) 岡田龍也 (2) 西浅井漁業協同組合 (1)

昆虫液浸標本：河瀬直幹 (44)

昆虫乾燥標本：水谷洋子 (1,850) 名和 明 (1,538) 小野克己 (353) 高橋敬一 (1) 安藤清志 (6)

嶋本智介 (26) 藤田 宏 (7) 木野田毅 (4) 的場 績 (52) 秋山美文 (1) 藤本博文 (1) 江口一馬 (4)

青井光太郎 (80) 宮本 剛 (1) 高石清治 (11) 中川 優 (65) 大槻達郎 (2) 金尾滋史 (22) 鈴木隆仁

(12) 市川顕彦 (17) 河瀬直幹 (2) 牛島積広 (1) 石田未基 (1) 久保田 洋 (2) 遠藤亮太郎 (4) 坂

井麻紀 (32) 武田 滋 (568) 細井正史 (1) 水沼哲郎 (318) 虫架け会員 (5) 安井こぬみ (3) 山本由

里子 (48)

貝類液浸標本：石崎大介 (1)

【植物標本】

コケ植物標本：小林亮平 (394)

【民俗資料】

生活生業用具：大阪人権博物館 (34) 北崎契縁 (1) 大津市立大津幼稚園 (3) 林 重樹 (2箱) 太田和宏

(16) 土岐とし子 (2) 赤尾達也 (1) 滋賀県立瀬田工業高等学校 (1) 加藤秀雄 (3) 米田 実 (5) 用田政晴 (1)

田村明男 (1)

漁撈用具：土岐とし子 (4)

【環境】

滝岡義雄 (1) 綺田敏明 (1) 滋賀県立瀬田工業高等学校 (2) 加藤秀雄 (2)

【図書資料】

小松原琢 (351) 南木睦彦 (167) 川那部浩哉 (13) 高橋啓一 (11) 石田未基 (2) 浅川滋男 (1) 櫻井三紀夫 (3)

山本勝吉 (1) 安溪遊地 (1) 八尋克郎 (1) 千葉県文書館 (38) 合計 (589)

【映像資料】

松田征也 (7,200)：鳥類・昆虫類・植物のフォト CD 画像

澤田弘行 (9,126)：トンボ・花植物・風景人物・鳥昆虫類のスライドフィルム画像

(3) 移管資料

【動物標本】

魚類：国立科学博物館（5） 東京大学総合博物館（18）

(4) 購入資料

なし

(5) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	299
イタセンバラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	98
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	487
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago limbata</i>	9
アカヒレタビラ	<i>Acheliognathus tabira erythropterus</i>	85
アブラボテ	<i>Tnakia limbata</i>	7
ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	5
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus smithii smithii</i>	20
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	240
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	85
ミヤコタナゴ	<i>Tnakia tanago</i>	181
ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	44
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	22
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pugnax</i>	250
シナイモツゴ	<i>Pseudorasubora pumila</i>	224
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>	100
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	52
ヨドゼゼラ	<i>Biwia yodoensis</i>	170
ドジョウ科		
ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	63
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii oumiensis</i>	173
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2	420
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	84
外国産魚類		
カワスズメ科		
コパディクロミス・アズレウス	<i>Copadichromis azureus</i>	10

2. 資料の活用

(1) 資料の貸出（研究依頼を含む）（*月日は許可日） 計19件 286点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
5	4	大阪市立自然史博物館	ヒッパリオン属 上顎・下顎化石 (レプリカ) 1点	巡回展での展示
5	4	名古屋市科学館	ヒッパリオン属 上顎・下顎化石 (レプリカ) 1点	巡回展での展示
6	13	守山市立入町自治会	鱗翅目標本(チョウとガの違い) 16点	学習での使用
6	21	千葉県立中央博物館	伏龍骨図(複製) 1点	特別展での展示
6	28	東京海洋大学	アユ液浸標本 8点	学術研究
6	30	Wesleyan University	古琵琶湖層群産イチョウ葉化石 2点	学術研究
7	11	国立環境研究所	ヒナモロコ他 42点	学術研究
7	15	滋賀県立安土城考古博物館	犁(写真)、馬鍬(写真)、農耕する牛(写真) 3点	特別展での展示
7	25	滋賀県文化財保護協会 調査課	現生イノシシ骨標本(寛骨、大腿骨、脛骨など) 10点	ワークショップ での使用
7	28	京都大学総合博物館	穴太遺跡樹種同定プレパラート標本 15点	学術研究
9	7	Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University	江本健一コレクションのカレキゾウムシ属 19点	学術研究
9	7	京都大学大学院	大分県安心院地域産サンショウウオ属化石 3点	学術研究
9	22	近江八幡市立桐原小学校	チョウなど 32点、昆虫乾燥標本一式(ドイツ箱) 4箱	学習での使用
10	27	草野治男	大橋コレクション・ギャラリー展パネル 29 点	作品展における 展示
11	1	世界淡水魚園水族館アクア・トト ぎふ	ナガレホトケドジョウ生体資料 20点	特別展での展示
1	18	長曾根町歴史保存会	大橋コレクション・ギャラリー展パネル 29 点	文化祭における 展示
2	13	多賀町立博物館	ワニ化石 35点、ワニ骨格・頭骨 4点	企画展での使用
3	14	幕別町教育委員会 (忠類ナウマン象記念館)	日本のナウマンゾウ産地図 1点	常設展での使用
3	22	京都大学総合博物館	穴太遺跡樹種同定プレパラート標本 15点	企画展での使用

(2) 資料の譲与 計3件 170点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
7	13	平安神宮	イチモンジタナゴ 50点	域外保全
8	2	ミュージアムパーク茨城県立自然博物館	ゼニタナゴ 50点	展示
8	10	土浦の自然を守る会	ゼニタナゴ 70点	増殖・野生復帰

(3) 特別観覧

<映像資料・静止画> 計32件 274点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	14	長谷川直子	イサザ、ビワコオオナマズ写真 2点	日本地理学会監修『すごすぎる地理の図鑑』に掲載
5	18	びわこ成蹊スポーツ大学 学務部教務課	「層のある湖 湖水温の夏と冬」「牛乳瓶と紙パック」映像資料2点	講義に使用
6	18	株式会社平和堂	アカザ他写真 45点	びわ湖の日の関連イベントの配布物に使用

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
6	22	某出版社	第 29 回企画展示「湖国の食事（くいじ）」図録、解説文、1 頁	公立中高一貫適性検査対策問題集への掲載
6	23	福音館書店	伏龍骨図並序 画像データ 1 点	雑誌「たくさんのふしぎ」2023 年 12 月号への掲載
7	4	わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会	ビワコオオナマズ写真 1 点	SNS の投稿に使用
7	21	レイカディア大学	カイツブリ他写真 4 点	大学祭のクイズの景品のしおりに掲載
7	25	君付菜優	アユ他写真 11 点	MLGs カルタに掲載
8	2	株式会社アイデス・プランニング	滋賀県管下 近江国六郡物産図説一 滋賀郡・栗太郎 1 点	全労働省労働組合第 66 回定期大会議案の表紙へ掲載
8	10	大分県学校用品株式会社	宇佐市安心院地域産サイ化石 1 点	雑誌「冬の友」に掲載
8	22	京都新聞社	風水害／昭和 28 年台風 13 号／昭和 28 年台風 13 号による被害 写真 4 点	京都新聞の水害企画記事に掲載
9	5	日野町教育委員会	橋本忠太郎標本 サヤマスゲ写真 1 点	「日野町出身の植物学者 橋本忠太郎展」の解説パネルで使用
9	9	大矢訓史	アユ他撮影写真 12 点	MLGs カルタに掲載
9	27	読売テレビ放送	風水害、昭和 9 年室戸台風 1 点	ニュース番組における使用
10	26	Crayfish 株式会社	『滋賀県管下近江国六郡物産図説一 滋賀郡・栗田郡』他 7 点	『水の文化』75 号の特集記事「琵琶湖と生きる」で掲載
10	31	龍谷大学	アカザ他画像 56 点	びわ湖の日滋賀県連携龍谷講座での講演
11	15	滋賀県庁秘書課	ホンモロコ他画像 4 点	知事プレゼン用資料に使用
11	19	池田勝	ビワヨシノボリ他画像 16 点	11/23 遊びと学びのフェアにて湖魚に親しむブース出展のため
11	24	中島経夫	フナタツベ画像、エリ画像、液浸収蔵庫内の画像 一式	出版物に掲載
11	30	『湖国と文化』編集長	橋本忠太郎標本 サヤマスゲ写真 1 点	『湖国と文化』に掲載
11	30	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	ビワヨシノボリ他写真 41 点	「学習のしおり」に掲載
11	30	林美帆子	セタシジミ他写真 16 点	湖魚に関する食育動画と校内掲示物に掲載
12	14	湖東地区まちづくり協議会	愛知川河床のアケボノゾウ足跡化石の画像 1 点	「東近江市史 湖東の歴史」への掲載
1	9	東京書籍株式会社	旧展示における地層の剥ぎ取り標本写真 1 点	出版物に掲載
1	19	中日新聞大津支局	伏龍骨図並序の画像データ 5 点	新聞記事に掲載
1	20	株式会社 KANADEL	ハリヨ原板 1 点	「目指せ！国内外来生物マスター 2 巻」掲載
1	24	大津市科学館	アユ他写真 16 点	展示ホール「琵琶湖ウォッチング」の画像資料として使用
1	31	株式会社 KANADEL	ミナミトミヨ原板 1 点	「ポプラディアプラス地球環境」への掲載
2	1	多賀町立博物館	170 万年前の古地理図、多賀町四手の花粉化石 13 点	企画展で使用
2	7	滋賀県生きもの総合調査 蘚苔類部会	橋本忠太郎コレクションのコケ植物標本データ 一式	令和 5 年度滋賀県生きもの総合調査報告書への記載
2	10	東近江市長	愛知川の化石林他写真 3 点	愛知川化石林紹介看板の設置に伴う写真掲載
2	17	株式会社どりむ社	ゾウリムシ他写真 5 点	児童書『微生物のはたらき大研究』に掲載

<映像資料以外・館内熟覧・撮影> 計 32 件 1,687 点

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
5	13	福谷愉海	アオドウガネおよび近縁種乾燥標本 100 点	学術研究
5	25	Hao Huang	村山修一蝶類コレクション 10 点	学術研究
5	28	藤岡康弘	モズクガニ液浸標本 1 点	出版物への掲載
5	28	根来央	キンギョ液浸標本 9 点	学術研究
5	29	京都先端科学大学人文学部	南小松村石工西村嘉兵衛関連用具 5 箱、石材加工整形・鍛冶用具 1 点	学術研究
6	10	堀田博美	ニホンジカ他骨格標本 一式	学術研究
6	22	加藤文彦	ノロのオブジェ 1 点	写真展に使用
6	15	佛教大学	近江国大津代官石原同心佐久間家旧蔵写図 一括 12 点	地域連携での熟覧
6	25	京都大学文学部	居初家文書 II 3 点	学術研究
8	25	納屋谷高史	哺乳類骨格標本 21 点	学術研究
8	31	筑波大学大学院	哺乳類骨格標本 18 点	学術研究
9	12	多賀町立博物館	メガネカイマン、イリエワニほか(現生骨格 2 点、化石 58 点)	企画展示に向けた調査
9	12	筑波大学地球学類	古琵琶湖層群および津房川層産ワニ化石 89 点	学術研究
9	15	東京大学	烏丸地区深層ボーリングコア 全層準	学術研究
9	28	重慶自然博物館	村山修一蝶類コレクション 3 点	学術研究
10	12	滋賀県立大学	高師小僧(褐鉄鉱)、湖成鉄、琵琶湖底のボーリングコア 3 点	学術研究
10	20	ふじのくに地球環境史ミュージアム	ナウマンゾウ等 レプリカ全身骨格、全身骨格 4 点	学術研究
10	18	多賀 優	琵琶湖コールドロンに係る岩石試料 約 20 点	学術研究
11	14	龍谷大学先端理工学部	クサカメ他(生体資料) 16 点	学術研究
11	16	六本木ヒルズ森タワー森美術館	ピワコオオナマズ(生体資料)、琵琶湖沖合の魚(生体資料) 2 点	企画展の記録集に掲載
11	21	東北大学大学院	イケチョウガイ 45 点	学術研究
11	29	国立科学博物館	古琵琶湖層から産出した脊椎動物化石 1 点	学術研究
1	4	長野市博物館	アケボノゾウ他 15 点	企画展に向けた調査
1	11	岡村喜明	古琵琶湖層群産足跡化石 一式	学術研究
1	19	吉野和義	村山修一蝶類コレクション 5 点	学術研究
2	3	納屋内高史	ニホンカモシカ骨格標本 5 点	学術研究
2	2	中島経夫	壱岐長者原産魚類化石ほか 9 点	学術研究
2	10	野一色麻人	膳所高校昆虫乾燥標本、滋賀県産昆虫乾燥標本 計 1,100 点	学術研究
2	16	高橋大樹	居初家文書 75 冊	学術研究
2	23	池田昌之	烏丸コア 1 点	学術研究
2	26	茨城大学理学部	カキ類化石 47 点	学術研究
3	17	宇佐市教育委員会	安心院地域産の脊椎動物化石 6 点	企画展に使用

(4) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用され、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2023 年度には以下の論文・書籍等が公表された。

著者	発行年	タイトル	雑誌名または 出版物名	巻号頁	種別	活用資料
Handa, N., Kato, T., Takahashi, K., Baba, R. & Kitabayashi, E.	2023	An additional remain of Pliocene Rhinocerotidae from Ajimu, western Japan	Historical Biology	7 pp.	論文	地学標本 (化石)
Komine, T., Matsuoka, Y., Inohana, M., Kurata, O. & Wada, S.	2023	The Draft Genome Sequence of a <i>Mycobacterium chelonae</i> subsp. <i>bovis</i> Strain Isolated from a Baikal seal (<i>Pusa sibirica</i>) in Captivity	Microbiology Resource Announcements	12(3): e0113522	論文	動物標本 (哺乳類)
Martinez-Goss, M.R., Ohtsuka, T., Inoue, H., Arguelles, E.D.L.R., Ikeya, T., Peralta, E.M., Papa, R.D.S. & Okuda, N.	2023	<i>Gomphonema</i> species (Bacillariophyceae) from Marikina River, Rizal (Luzon), Philippines.	Philippine Journal of Science	152: 1653-1676	論文	微生物標本
Sakyi, M.E., Kamio, T., Kohyama, K., Rahman, M.M., Shimizu, K., Okada, A. & Inoshima, Y.	2023	Assessing of the use of proteins A, G, and chimeric protein AG to detect marine mammal immunoglobulin	PLoS ONE	18(9): e0291743	論文	動物標本 (哺乳類)
Smith, R. J.	2023	Descriptions of two Cypridopsinae (Ostracoda, Crustacea) species from the Nansei Islands, Japan, with the first records of non-marine ostracods from the Daito Islands	Zootaxa	5293(2): 294-316.	論文	動物標本 (無脊椎動物)
Smith, R. J., Ozawa, H., Nishida, S. & Nakai, S.	2024	Non-marine Ostracoda (Crustacea) collected from pet shops and a hobbyist's aquaria in Japan, including two new species	Zootaxa	5410(4): 451-494	論文	動物標本 (無脊椎動物)
Tomida, Y. & Takahashi, K.	2023	A new species of <i>Pliopentalagus</i> (Lagomorpha, Mammalia) from the Pliocene Kobiwako Group, Central Japan.	Y-N, Lee (ed.) Windows into sauropsid and synapsid evolution. Essays in Honor of Louis L. Jacobs	332-340	書籍	地学標本 (化石)
Watanabe, T. & Yamazaki, Y.	2024	Complex geohistory of continental islands advanced allopatric evolution even for the highly dispersive generalist red fox (<i>Vulpes vulpes</i>): multiple phylogenetic groups in the Japanese Archipelago	Zoological Journal of the Linnean Society	published online, 16 pp.	論文	動物標本 (哺乳類)
石崎大介・川瀬成吾	2024	琵琶湖北湖の水深 50 m で採捕されたアカザ	Ichthy	42: 31-33	論文	動物標本 (魚類液浸)
泉野央樹・洲澤多美枝・大塚泰介	2023	西日本 3 河川からの <i>Cymbella compactiformis</i> の出現	Diatom	39: 47-53	論文	微生物資料
内田大貴・上手雄貴・上手奈美	2023	岐阜県で確認された外来魚チョウセンブナ (ゴクラクギョ科) の記録	伊豆沼・内沼研究報告	17: 47-55	論文	動物標本 (魚類液浸)
大江新一・林竜馬・出穂雅実・百原新・大脇航平・佐々木尚子・高原光・植田弥生・山川千代美・山野井徹	2024	山形県立谷川河床埋没林から復元する最終氷期最盛期の植生.	植生史研究	32: 43-58	論文	地学標本 (プレパラート)

著者	発行年	タイトル	雑誌名または 出版物名	巻号頁	種別	活用資料
川瀬成吾	2023	標本の重要性	JEAS NEWS	10-11	その他著作物	動物標本 (魚類液浸)
川瀬成吾・中江雅典・ 篠原現人	2023	石川千代松が収集した魚類標本から見る明治中期の琵琶湖の魚類相	魚類学雑誌	70: 147-159	論文	動物標本 (魚類液浸)
川瀬成吾・山本義彦・ 鶴田哲也・田中耕司	2023	大阪府淀川におけるツチフキ（コイ科カマツカ亜科）の再発見	Ichthy	33: 14-20	論文	動物標本 (魚類液浸)
小林亮平・中井貞	2024	京都府立植物園のセン類	日本植物園協会誌	58: 35-51	報告	植物標本 (コケ植物)
武田滋	2023	ヤマトアオドウガネの記録	Came 虫	214	報告	動物標本 (昆虫乾燥)
藤田宗也・山中祐樹	2023	琵琶湖南湖に流入する葉山川支流（滋賀県栗東市の中ノ井川）におけるコクチバスの採集記録	淡海生物	4: 22-24	論文	動物標本 (魚類液浸)
渡部圭一・加藤秀雄	2023	研究者旧蔵資料のデジタルアーカイブ化の課題ー地域博物館の取り組みを例にー	アジア民族文化研究	22: 163-178	論文	民俗資料

(5) 学芸員および水族飼育員による生体資料の利用による成果

当館では、水族資料および陸域資料として、生物の生体を飼育しており、その飼育管理技術の向上に水族飼育員および学芸員が取り組んでいる。今年度は、その成果を下記の通り発表した。また、他にも、飼育生物を用いた遺伝分析や標本の作成、経時的な血液検査、魚病の治療方法の探索や飼育困難な種の長期維持方法の開発などにも取り組んでいる。

吉川真一郎・川瀬成吾・武富鷹矢・寺嶋伊武樹・松田征也（2024年9月26日）ゼニタナゴの人工繁殖について 日本動物園水族館協会第89回近畿ブロック水族館飼育係研修会、琵琶湖博物館 [口頭発表]

田畑諒一・長田智生（2024年10月29日）琵琶湖博物館におけるネコギギ保全事業 いなべ市教育委員会、藤原岳自然科学館 [ポスター発表]

長田智生・田畑諒一（2024年11月16日）重力式濾過槽の逆洗回数の操作による飼育管理の効率化 日本動物園水族館協会第68回水族館技術者研修会、さいたま水族館（浦和ロイヤルパインズホテル） [口頭発表]

田畑諒一（2024年11月29日）滋賀県立琵琶湖博物館における水槽破損事故の報告 日本動物園水族館協会第33回日本動物園水族館設備会議、男鹿水族館 GAO（男鹿観光ホテル） [口頭発表]

今北大介・川瀬成吾（2024年12月5日）シロヒレタビラの人工繁殖における簡易飼育法の比較検討 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会 東京大学海洋研究所 講堂&エントランスホール（ハイブリッド開催） [ポスター発表]

寺嶋伊武樹・米田一記（2024年12月5日）人工飼育下におけるビワマス初期段階の飼料比較 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会 東京大学海洋研究所 講堂&エントランスホール（ハイブリッド開催） [ポスター発表]

また、当館が加盟している公益社団法人 日本動物園水族館協会（以下：JAZA）は、令和5年度希少野生動物の生息域外保全検討実施委託業務の契約を環境省と締結した。この業務の中で当館は、2019年に国内希少野生動物種に指定されたハカタスジシマドジョウとタンゴスジシマドジョウの生息域外保全を推進する目的で、JAZA加盟園館の中で生息域外保全を担当する水族館に対して、繁殖技術の移転、参加園館拡大などの業務を実施した。

日程	場所	内容
2024年2月6日	宮津エネルギー研究所水族館	タンゴスジシマドジョウ 飼育・繁殖に関する技術指導
2024年2月7日	京都水族館	タンゴスジシマドジョウ 飼育予定施設の現地視察
2024年2月14日	マリンワールド海の中道	ハカタスジシマドジョウ 人工繁殖に関する技術指導
2024年2月15日	滋賀県立琵琶湖博物館	タンゴスジシマドジョウ 飼育に関する技術指導
2024年2月20日	マリンワールド海の中道	ハカタスジシマドジョウ 人工繁殖に関する技術指導
2024年2月21日	熊本市動植物園	ハカタスジシマドジョウ 域外保全担当園館拡大のための現地確認

(6) 資料の利用（その他）

図書資料については、資料所蔵情報を館外に広く発信するため、2018年度よりデータベースを新システムに移行し、目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）への所蔵登録を推進している。2023年度には、閲覧冊数が1,123冊、文献複写サービスの受託が32件であった。

(7) デジタルミュージアム推進事業

今年度からデジタルミュージアム推進事業として、新たに二つの事業を開始した。一つ目は、専門家が分類・同定し管理してきた良質かつ多様な収蔵資料を、標本の特性に応じて高精細画像化/3D化し、電子図鑑として公開する「多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備」、もう一つは、生物各種が発見された地点・年代の情報を地図に落とし、環境データと重ねることで、生物の分布と環境の関係やその変遷、潜在分布等を可視化し、学校教育や行政・環境保全関係者の支援等に活用する「地理情報システム（GIS）を用いた生物分布デジタルマップ作製」である。これらは、琵琶湖博物館第3次中長期計画（令和3年度から令和12年度）の掲げる「ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出」を推進するものである。博物館法の改正や他府県での先進的な取組等を踏まえ、本事業では、デジタル技術を用いて琵琶湖博物館の標本・資料の活用法を変革し、【ミュージアムDXによる滋賀の自然・文化の新たな発見と感動】を目指す。以下に今年度の事業内容を示す。

1) 多様なイメージを用いたデジタルミュージアムの整備

・電子図鑑の作成と公開

滋賀県に生息する生物の情報を整理し、利用しやすい情報として発信するために、滋賀の生きもの電子図鑑の整備に着手した。2023年度は、琵琶湖博物館の収蔵資料管理システムと共通のデータベース I. B. MUSEUM SaaS上で魚類、両生類、哺乳類の図鑑の整備を行い、それぞれ滋賀県に分布する可能性がある111種、25種、55種の写真と原稿を試験公開できる段階まで整理した。今後、滋賀県から確実な記録がある種に絞って公開していく予定である。また、予備知識がなくても種の絞り込みができる程度できる簡易検索システムを委託により制作した。以上は動作点検や内容確認を行った上で、2024年度のなるべく早い時点で試験公開される予定である。

他の生物分類群についても、プランクトンや貝類を中心に写真の整理・同定を進めている。しかし近年の遺伝子に基づく分類学的研究の進展や、次々と侵入する外来種などによって全貌をつかむのが著しく困難になっており、公開は先延ばしになっている。

2020年10月に公開済みの「田んぼの生きもの全種データベース」を増補し、掲載種数を6,451種、写真掲載種数を1,023種まで増やした。

・3Dコンテンツの制作と公開

今年度は、考古民俗資料を対象とした3Dコンテンツを制作するために、環境整備、3Dモデル構築、試験的運用の3つの項目をすすめた。環境整備は、フォトグラメトリ（写真实測）を利用した3Dモデルを構

築するために必要なデジタルカメラ、交換レンズ等を調達し、写場を整備し、3Dモデルを構築するために必要となる画像データを撮影する環境を整えた。ただし、経年劣化により、写場の天井照明器具が不良となっていることが課題として残った。展示資料として活用できる高解像度の3Dモデルを構築するためには、ムラのない照明環境が必須で、照明器具の交換が必要である。

3Dモデルの構築は、考古資料（当館蔵、松原内湖遺跡出土縄文土器、弥生土器）と民俗資料（瓦の木型、カゴ）を対象に実施した。結果、3Dモデル構築のための元データとなる画像データを撮影し、その画像データをもとに、考古資料、民俗資料を作成した。

3Dコンテンツとしての試験的運用は、守山市教育委員会の協力のもと、下之郷遺跡出土弥生土器1点について3Dモデルを構築し、実物資料とともに、第31回企画展示おこめ展—おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—において展示をした。4か月程度の期間、重大な不良は起こらず、継続的に展示できたため、試験的運用としての目的は達成した。

将来的に電子図鑑の付属システムとすることを意図して、生物の類似種を判別するための深層学習プログラムを試作した。また、琵琶湖博物館に収蔵された図書・文献資料の中から、著作権切れなどによりパブリック・ドメインに入っているものを選んでPDF化を行い、公開準備を進めている。

2) 地理情報システム (GIS) を用いた生物分布デジタルマップ作製

今年度は、博物館で保有・保管している標本情報や、「日本野鳥の会滋賀」と「滋賀県野鳥」等の探鳥会資料をデジタル化したものを、標本データ、イベント・オカレンスデータとして現在利用している収蔵管理システム (I. B. MUSEUM SaaS) 内のデータベース (標本データベースと生物分布デジタルマップ用データベース) に格納し、API (Application Programming Interface) 化することで博物館のデータベースの情報を WebGIS とリンクさせた。また、WebGIS では、上記のデータベースの情報をデジタルマップに表示する際に、生物の生息地変遷を可視化するとともに、背景地図をレイヤー化することで年代ごとの地図上で生物分布を確認できるマップを構築した。

3. 資料の保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸 (エキヒューム燻蒸、二酸化炭素燻蒸) および冷凍処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行っている。さらに収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物環境調査 (昆虫トラップ調査)、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理 (IPM) を行っている。

収蔵庫内の温湿度については、クラウドサーバー上でリアルタイムに監視するシステムを導入しており、常時 Web 上でその推移を確認、記録している。また湿度の不安定要因として考えられる機械室の加湿器の交換を行った。

(1) 収蔵空間の管理

温湿度管理	<ul style="list-style-type: none"> 各収蔵庫定点観測を実施 時間ごとに計測し、全データを保存。ほとんどの収蔵庫で、データロガーを使用し、クラウドサーバー上でリアルタイム監視を実施。 温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃を実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内)

生物環境調査	<p>年3回の生物環境調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年6月9日～6月23日 昆虫トラップ調査 252カ所(設置・回収・分析) ・2023年10月27日～11月10日 昆虫トラップ調査 252カ所(設置・回収・分析) ・2024年2月2日～2月16日 昆虫トラップ調査 252ヶ所(設置・回収・分析) <p>*当館のIPM基準値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が1
--------	--

(2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップの結果を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を4回、エキヒューム燻蒸を2回実施した。また、密閉テント方式のエキヒューム燻蒸を1回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

5 展示

1. 展示活動

2023年度は、2020年より続いていた新型コロナ対応のための展示制限がほぼ終了したが、一方で2022年度に破損した水族展示室の水槽等の見直しと修復やその計画策定を行った1年であった。完全に元の展示内容に戻らない状況でも、より多くの来館者に博物館を楽しんでもらえるよう様々な工夫を行った。

2020年にリニューアルオープンしたA展示室では「地域の人びとによる展示」コーナー、同じくB展示室では「学芸員のこだわり展示」コーナーをそれぞれ設けることにより、定期的に新しい情報を発信した。C展示室や水族展示室では、標本入れ替え等の小規模な展示更新やテーマを決めたトピック展示を行い、最新の研究成果や裏方である水族飼育スタッフの取り組みを紹介した。ディスカバリールーム、おとなのディスカバリーでは、主として季節に合わせた展示更新を行い、繰り返し来館される方々にも好評であった。

展示室での利便性向上のために、すでに導入されていた「ポケット学芸員」の音声ガイドとしての活用を推進し、日本語に加えて英語のコンテンツも導入した。今後はさらなる多言語化を進めるとともに、インターネットコンテンツへの展示室からのアクセスを増やし、より深く広く展示を楽しみ理解できるような環境を整えていく計画である。

第31回企画展示「おこめ展」では、琵琶湖博物館ならではの様々な専門分野からの視点を生かし、生態系や文化、調理の歴史等について実物資料を用いて展示して好評を博し、計31,990人もの入場者を迎えた。また、ギャラリー展示「プッカプカ美小生物展」では、日本画と微小生物のコラボが実現した。これら以外に、アトリウム等で6件のトピック展示およびパネル展示を行い、そのうち4件は博物館外の団体との共催であり、地域連携の推進事例となった。

なお、2023年2月10日に発生した水族展示室のビワコオオナマズ水槽の破損および再構築の計画、関連する第三者委員会の設置、その後の複数の水槽の補修等については、当該年報の他の章を参照されたい。

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

・地域の人びとによる展示

展示室の出口付近にあるこのコーナーでは、地域で調査をされている方が自らの標本を使った展示を、当館の職員と相談をしながら行っている。おおよそ半年ごとに展示する人や内容を替えている。

1. 黒い岩の中からアンモナイトのささやきが聞こえる

展示した人：岡村喜明さん

期間：2023年4月1日～2023年9月30日

2. 近江の秘めた石の文化に魅せられる旅へのお誘い

展示した人：長 朔男さん

期間：2023年10月1日～2024年3月31日

・地域を調べてきた人びとの資料

このコーナーは、博物館に寄贈いただいた化石や岩石・鉱物などの地学関係標本について紹介している。コーナーの一部区画は、とくに近年に寄贈いただいた地学関係標本の一部を紹介している。今年度に展示した資料は以下のとおり。（ ）内は寄贈者。

2024年2月9日より：鉱石（庭野勝一さん）、花崗閃緑斑岩・中粒黒雲母花崗岩・変質アプライト・変質花崗岩・石灰岩・緑色岩・熱水変質花崗岩・大理石・片岩・蛇紋岩・石英・珪灰石（以上、初田昌明さん）

・福井県年縞博物館協力による展示

琵琶湖博物館では、2020年7月30日の滋賀県・福井県知事懇談会における合意事項に基づき、福井県年縞博物館との連携事業を進めており、その一環として双方の博物館で期間限定展示を開催している。今年度は、当館A展示室において、年縞博物館が所蔵する地層の「はぎとり標本」他を展示する以下の展示を行った。

タイトル：福井県年縞博物館 湖ラボ展「地層をはぎとる」

期 間：2023年10月31日～2024年1月21日

展 示 物：塩原湖成層のはぎとり、塩原湖成層の葉化石、エジプトカルン湖コアのはぎとり（約8,000年前～10,000年前）、網走湖コアはぎとり（2019年から数十年前）、ピアニコ層（イタリア）のはぎとり紹介ビデオ、死海調査時のステレオ写真20点

2) B 展示室

・収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示」

B展示室では、2020年10月のリニューアルオープンを機に、展示室内の館蔵品紹介コーナーにおいて「学芸員のこだわり展示」と題した展示を実施することとした（毎回の会期1～2か月程度、年間6～10回程度の実施を予定）。当館の歴史系分野（考古、歴史、民俗）における資料の収集・保存・整理・公開活動または研究成果に関わる資料を、トピック展示として順次紹介する。これは、展示リニューアル前のB展示室「蔵ケース」で開催していた展示を継承して行うものである。

期 間	タイトル・展示資料名
3月14日～5月21日	第16回学芸員のこだわり展示「鳥の眼から見たように—琵琶湖観光鳥瞰図—」 <ul style="list-style-type: none"> ・吉田初三郎画「琵琶湖名所鳥瞰図」（『琵琶湖遊覧御案内』太湖汽船株式会社、1926年）《3月14日～4月16日展示》 ・吉田初三郎画「琵琶湖名所鳥瞰図」（『琵琶湖遊覧御案内』太湖汽船株式会社、1927年）《3月14日～4月16日展示》 ・『比叡山ケーブル案内』1927年以降《3月14日～4月16日展示》 ・西村宇一画「琵琶湖鉄道汽船交通鳥瞰図」（『びわ湖遊覧御案内』太湖汽船、昭和時代）《3月14日～5月21日展示》 ・吉田義人（表紙）・西村宇一（鳥瞰図）画『びわ湖島めぐり』太湖汽船、昭和時代《4月18日～5月21日展示》 ・吉田義人画「びわ湖を中心とする遊覧地交通鳥瞰図」（『伊勢より びわ湖へ』太湖汽船ほか、昭和時代）《4月18日～5月21日展示》
5月23日～7月30日	第17回学芸員のこだわり展示「初公開！県指定文化財「北比良の石屋用具」」 <ul style="list-style-type: none"> ・ツチ類 ・ノミ類 ・ヤ類 など
8月1日～10月15日	第18回学芸員のこだわり展示「壺と高坏—土器からみる弥生文化—」 <ul style="list-style-type: none"> ・松原内湖遺跡出土土器 弥生時代中期から後期（約2100年前から1800年前）
10月17日～11月26日	第19回学芸員のこだわり展示「重要文化財・琵琶湖博物館所蔵東寺文書展 戦国時代の災害調査—流田内検帳—」 <ul style="list-style-type: none"> ・山城国上久世庄流田内検帳 61（56-1）戦国時代・1500年（明応9年） ・山城国上久世庄流田内検帳 62（56-2）戦国時代・1501年（文亀元年） ・山城国上久世庄流田内検帳 64（56-4）戦国時代・1503年（文亀3年）

期 間	タイトル・展示資料名
11月28日～1月21日	第20回学芸員のこだわり展示「発見！滋賀県独自の民具資料―目加田唐箕―」 ・目加田唐箕 昭和時代・1933年（昭和8年）製作
1月27日～3月9日	第21回学芸員のこだわり展示「琵琶湖博物館の龍骨図」 ・「伏龍骨図並序」江戸時代・1805年（文化2年）
3月12日～5月19日	第22回学芸員のこだわり展示「村のかたち：滋賀郡中浜村」 ・近江国滋賀郡之内中浜村絵図 江戸時代・1677年（延宝5年）《3月12日～4月14日展示》

3) C展示室

①「ヨシ原に入ってみよう」ゾーン

6月26日 カヤネズミ生体展示：展示個体数7匹に入れ替え

3月11日 カヤネズミ生体展示：展示個体数8匹（メス4匹、オス4匹）に入れ替え

②「田んぼへ」ゾーン

9月29日～ 世界農業遺産コーナー：デジタルサイネージ貸出し（約2週間）

③「川から森へ」ゾーン

4月22日 「カワウのすむ森」コーナー：琵琶湖のカワウに関わる冊子3種（閲覧用）を設置

5月9日 やまのこ施設紹介パネル入れ替え（高山キャンプ場、荒神山自然の家、高取山ふれあい公園）

7月8日 やまのこ施設紹介パネル入れ替え（河辺いきものの森、みなくち子どもの森、森の未来館）

9月10日 やまのこ施設紹介パネル入れ替え（花緑公園、葛川少年自然の家、くつきの森） 10月まで

11月15日 「琵琶湖の川と森を守る人々」コーナー：右側パネルを更新

④「生き物コレクション」ゾーン

9月4～8日 「昆虫コーナー」標本の入れ替え（標本の色あせや劣化のため）

1月29日 「昆虫コーナー」標本の入れ替え（マイマイカブリの標本箱の中身）

⑤「これからの琵琶湖」ゾーン：研究スタジアム

12月26日～ 第8期に更新：妹尾・加藤（1巡目）、大塚・橋本・芦谷（2巡目）

⑥「これからの琵琶湖」ゾーン：オピニオンボード

「これからの琵琶湖」コーナーのオピニオンボードに掲示しているメッセージを、期間別、内容別に分類したものをファイリングして館内部で閲覧できるようにした。

8月14日～ 4月1日～6月30日分を設置

10月4日～ 7月1日～9月30日分を設置

3月28日～ 10月1日～12月24日分を設置

4) 水族展示室

2023年2月10日（金）に「琵琶湖の主（ビワコオオナマズ）水槽」が破損したため、その日から引き続いて、2023年5月8日（月）まで水族展示室は閉鎖していた。閉鎖期間中は、アトリウムにおいて水族トピック展示として「100年ぶりの再発見！滋賀県産ミナミヌマエビ」（昨年度から継続）を展示した。5月9日（火）よりトンネル水槽、コアユ水槽およびビワコオオナマズ水槽を除いて部分再開し、同時に水族トピック展示として「緊急企画！水族飼育員の推しから見る琵琶湖とその周辺の生き物たち 君の推しはどれ！」、「ズナガニゴイ初繁殖認定」を開催した。また、コロナウイルス感染防止のため中止となっていた水族飼育員による「餌やり解説」を再開し、水族学芸員と水族飼育員が一丸となって水族展示の再始動に向けた業務

に努めた。その一方で、クラック（小さなひび割れ）が発見されたいくつかの水槽は安全上の観点から水を抜き、展示していた生物は他の水槽に移動する、もしくは、置き水槽を設置して展示するという対応をした。その結果、水槽破損後も展示魚種の種数を減らすことなく、水族展示を維持することができた。その後、各種水槽の再生に向けた機運を高めるため、「黒川琉伊君のはじめてのびわこの魚展」、「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第一期～第三期）」、「水族応援メッセージ」、「思い思いのカラーで彩ろう！塗り絵・イラスト展示室」を企画し、来館者と一緒に水族展示室を盛り上げていく展示を展開した。特に、「水族応援メッセージ」では、2024年3月31日現在で4913件のメッセージが寄せられ、「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第一期～第三期）」では、合計136件（第一期：48作品、第二期：31作品、第三期：57作品）のイラスト作品の応募があった。このような来館者の応援に応えるべく、2023年度後半においては、各種水槽の修繕や新水槽の設計業務を進めており、水族展示室の完全再開に向けて、スタッフ一丸となって業務に取り組んでいる。

- 4月1日～ 水族トピック展示「100年ぶりの再発見！滋賀県産ミナミヌマエビ」 場所：アトリウム（昨年度からの継続展示。5月14日終了）
- 5月9日～ トンネル水槽、コアユ水槽およびビワコオオナマズ水槽を除いて部分再開および水槽破損に伴う変更 場所：水族展示室各所
- 5月9日～ 水族飼育員による「餌やり解説」を再開（平日のみ。コロナ対応の変更）
- 5月9日～ 水族トピック展示「緊急企画！水族飼育員の推しから見る琵琶湖とその周辺の生き物たち君の推しはどれ！」開始 場所：水族企画展示室（9月3日終了）
- 5月9日～ 水族トピック展示「ズナガニゴイ初繁殖認定」開始 場所：よみがえれ！日本の淡水魚（9月3日終了）
- 5月30日～ 下流域の魚たち水槽をコアユのみに展示替え（ニゴイをワタカ水槽に移動）
- 5月30日～ トンネル水槽出口に折り返し地点を変更（水槽破損に伴う変更）
- 5月30日～ 外来種水槽前にベンチを移動（水槽破損に伴う変更）
- 6月17日～ 水族展示室の順路復旧（水槽破損に伴う変更）
- 6月24日～ 「黒川琉伊君のはじめてのびわこの魚展」開始 場所：ビワコオオナマズ水槽前
- 6月24日～ 水族飼育員による「餌やり解説」を再開（土日再開。コロナ対応の変更）
- 7月1日～ 「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第一期：琵琶湖の魚）」イラスト募集開始（7月26日募集終了）
- 7月7日～ 水鳥水槽の天井に植物用ライトを設置
- 8月1日～ ビワコオオナマズ水槽前「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第一期：琵琶湖の魚）」開始 場所：ビワコオオナマズ水槽前（10月29日募集終了）
- 8月1日～ 「水族応援メッセージ」開始 場所：コアユ水槽前（2024年4月7日終了）
- 9月9日～ 「思い思いのカラーで彩ろう！塗り絵・イラスト展示室」開始 場所：水族企画展示室（終了時期未定）
- 9月20日～ 「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第二期：みんなが見たいびわ博水槽）」イラスト募集開始（10月29日募集終了）
- 9月22日～ 保護増殖センター前に新モニター設置（昨年度に故障したため、更新）
- 9月27日～ ノロの展示開始 場所：マイクロバーカウンター
- 10月24日～ マミズクラゲの展示開始 場所：マイクロバーカウンター
- 10月31日～ 「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第二期：みんなが見たいびわ博水槽）」開始 場所：ビワコオオナマズ水槽前（1月21日終了）
- 11月3日～ 下流域の魚たち水槽にビワマス4個体（雌2個体、雄2個体）追加

- 12月2日～水族トピック展示「今が旬！氷魚の展示」開始 場所：トンネル水槽前（12月24日終了）
- 12月20日～「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第三期：守りたい水辺の生き物）」イラスト募集開始（1月25日募集終了）
- 12月26日～水族展示室全体の大掃除
- 1月4日～水族トピック展示「今が旬！氷魚の展示」→常設展示「ヒウオからアユへ 成長観察展示」に移行 場所：トンネル水槽前（3月9日終了）
- 1月4日～水族トピック展示「2024年 干支 辰 龍になった魚『コイ』」開始 場所：保護増殖センター前（3月3日終了）
- 1月27日～「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展（第三期：守りたい水辺の生き物）」開始 場所：ビワコオオナマズ水槽前（2024年4月7日終了）
- 1月27日～マイクロバーでの顕微鏡観察を試験的に再開
- 1月30日～水族展示室入口トイレの復旧（2022年秋より故障）
- 2月13日～男子トイレ内の水槽の魚がニジマスからナガレモンイワナに変更 場所：中流横男子トイレ
- 3月4日～ネコギギ・ミヤコタナゴ水槽設置 場所：保護増殖センター前（レイアウト変更に伴う閉鎖および臨時水槽の設置のため）
- 3月5日～チャネルキャットフィッシュの解説パネル設置 場所：外来種水槽前
- 3月16日～ウグイの展示開始 場所：下流域の魚たち水槽
- 3月29日～水鳥水槽においてユリカモメ1個体およびヒドリガモ1個体を追加（展示種および個体数：カイツブリ1・ユリカモメ2・カルガモ1・ヒドリガモ1）

5) D展示室 ディスカバリールーム

「子どもと大人が一緒に楽しむ体験と発見」をテーマに、2018年7月6日リニューアルし、新しい展示構成となった（展示構成は以下の表のとおり）。「琵琶湖博物館の入口」となる展示室という方針のもと、五感や実物標本を使った体験型展示により学び発見する喜びを知ってもらえる場となっている。具体的には、五感を使う展示、だれもが楽しめる展示、本物を体験する展示、身近なものをテーマにした更新展示を軸に構成し、小さなころから博物館に親しむことでミュージアムマナーも身につけられるような場を目指している。

	コーナータイトル	内容	概要
1	さわってみよう	化石・レプリカ・石	触覚を使い、材質による手触りの違いを知る
2	聞いてみよう	コオロギ、アマガエル、コウモリの模型	聴覚を使い、生き物が音を出す仕組みを知る
3	におってみよう	季節の植物の匂い抽出液、オオサンショウウオの匂い（人工）	嗅覚を使い、生き物が出す匂いや意味を知る（2023年度休止中）
4	大きくしてみよう	昆虫類、植物、鳥のハネ、アザラシのひげなど	視覚を使い、普段と違う視点で拡大して見る
5	さがしてみよう	カラス・フクロウ・スズメ・カワセミを双眼鏡で探す	発見する楽しみを知る導入として、室内の生き物を探す
6	見つけてみよう ー生き物のすみかー	キツネ、タヌキ、ネズミ、モグラの剥製など	空間的に配置した剥製を体感しながら生き物のすみかを知る
7	見つけてみよう ー生き物のかたちー	タヌキの剥製、骨格標本、信楽焼きのタヌキ	目線近くに配置した剥製をじっくり観察し、頭の中のイメージとの違いに気づく
8	のぞいてみよう ー魚の世界ー	ナマズ、コイ、ニゴロブナ	間近でじっくり観察し、さらに人それぞれの見え方の違いに気づく
9	人形げきじょう	季節ごとのパペット	人形劇を通じて、琵琶湖や滋賀の昔話を知る（2023年度休止中）

	コーナータイトル	内 容	概 要
10	おばあちゃんの台所	井戸、いろり、かまどなど	昭和の古民家を再現
11	ザリガニになろう	ザリガニ大型模型	ザリガニになった気持ちでエサを獲り、外来種の問題を知る
12	ディスカバリーコーナー	季節ごとのディスカバリーボックス	館内の多様なテーマごとに詰め込んだボックス
13	イノシシの歯、コウモリの歯	2種のアゴの動き方模型	歯の役割、仕組みを知る
14	みんなのたからもの	来館者が見つけた宝物	参加型の展示コーナー
15	ブックコーナー	図鑑類	学芸員が子どもの頃読んでいた本の紹介
16	糸描きコーナー	糸で絵を描くボード	

各コーナーで季節に合わせた展示物の入れ替えを次の表の通り実施した。

【季節展示】

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	こどもの日	4月12日～5月5日
	新茶	5月6日～5月30日
	初夏	5月31日～6月25日
	七夕	6月27日～7月7日
	土用の丑	7月8日～7月30日
	夏 version	8月1日～9月3日
	お月見	9月9日～9月29日
	秋 version①	9月30日～10月9日
	秋 version②	10月10日～10月26日
	七五三	10月27日～11月21日
	お正月	1月4日～1月14日
	節分	1月16日～2月3日
	冬 version	2月4日～2月14日
	ひな祭り	2月15日～3月3日
春 version	3月5日～3月31日	
ブックコーナー	かがくのとも	月1回更新
	たくさんのふしぎ	月1回更新
生きものの展示	ナマズ	常設
	コイ	常設
	フナ	常設
	カイコ	7月21日～9月18日
見つけてみよう	タンポポ、アリ、ケラ、ハチ、アゲハ チョウ、モンキチョウ	4月13日～1月11日
ディスカバリーコーナー	コいの歯・模型	5月4日～5月5日
	ボックスはこべ丸子船	7月4日～3月31日
	ボックスねずみくらべ	7月11日～3月31日
大きくしてみよう ・マイクロアイ	カワラヒワ	6月16日～7月20日
	カイコ	7月21日～9月18日
	ひつつきむし	9月23日～3月31日

季節・行事に合わせたイベントを次の表の通り実施した。

【イベント実施一覧】

イベント開催日	イベント名	参加人数
5月5日	かぶとをつくろう！	103人
6月27日～7月7日	七夕★短冊に願い事を書こう！	229人
7月22日～9月18日	みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！	124人
11月23日	森の宝物をさがそう！	8人
12月23日～1月24日	スタンプでかざろう！かがみもち	72人
1月4日～1月8日	りゅうのひみつを探そう！	470人
2月2日～2月3日	大津絵の鬼になってみよう！	27人
2月20日～3月3日	おひなさまを折ってみよう！	189人
3月3日	おひなさまの扇をつくろう	28人

【常設展示】今年度、制作・追加・変更した展示物

新規

- ・ディスカバリーコーナーの顕微鏡マイクロアイを設置しコーナーを新設
- ・ディスカバリーボックス：ねずみくらべ 診断チャートの作り替え
：ザリガニ双六 双六板 作り替え
- ・見つけてみよう モグラ他 のぞき穴の亚克力板の取り換え
- ・さがしてみよう 鳥の種類に「はっけん」の札取り付け
- ・せくらべパネル アザラシ ナマズ オオサンショウウオ パネル新調
- ・ブックコーナー 机とイスを設置

【新任研修】

日時：4月20日 14:40～15:10

対象：新任職員、新規展示交流員、委託業者

内容：ディスカバリールームの概要説明、各コーナーとディスカバイイベントの紹介をした。

【モーニングレクチャー】

実施期間：5月16日～19日

内容：ディスカバリールームの運営について説明した。

6) E 展示室 おとなのディスカバリー

おとなの好奇心を刺激し、おとなが心から楽しめる展示室として、第2期リニューアルにより2018年7月6日に新しく誕生した。より体験的な展示と、博物館で活動している人たちの出会い・集いの場、そしてフィールドへ出たくなるような空間で、繰り返し利用されることを目指した部屋で、しらべるゾーン、質問コーナー、オープンラボ、交流コーナー、滋賀県本コーナーの5つのゾーンから構成されている。

「しらべるゾーン」の展示更新と交流活動は以下の通りである。

【スケッチテーブル】

2023年5月29日にコロナ感染症対策でスケッチテーブルにて展示していた「冬の琵琶湖に集まるカモたち」から、もとのスケッチができる展示に戻した。

【植物】

- ・植物標本

7月 イブキフウロ フウロソウ科

12月 イブキノエンドウ マメ科

・植物細密画

6月 はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」杉野由佳さん 植物細密画の世界 スイレン、ノアザミ他 16 作品

11月 はしかけ「森人」矢原 功さん 植物細密画の世界 晩秋の植物ノブドウ、サネカズラ、ジュズダマ他 20 作品

1月 出口武洋さん 樹冠トレイル虹景、山桜

・植物写真 (大型)

7月 湖岸の夏風景

9月 初期の紅葉

10月 紅葉終盤

12月 冬の太古の森

2月 琵琶湖の雪景色 (ケヤキ)

3月 桜とヒヨドリ

・植物 (映像)

6月 夏の植物 36 点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」村山和夫さん

9月 秋の植物 24 点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」村山和夫さん

12月 冬の植物 39 点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」村山和夫さん

3月 春の植物 37 点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」村山和夫さん

・ハンズオン

7月 キカラスウリ、ハス、ヘクソカズラ、ドクダミ、オニグルミ

10月 キンミズヒキ、ハウチワカエデ、カツラ、イチイガシ、ツユクサ

1月 ヤツデ、サザンカ、ロウバイ、ナンキンハゼ、オニグルミ、クズ、ヌルデ

3月 セイオユタンポポ、カラスノエンドウ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、クスノキ、ヒメオドリコソウ、ムラサキサギゴケ、ヤツデ、カツラ、ハウチワカエデ、フウ、メタセコイア

・正面展示

6月 ホタルに関係する草花、ホテイアオイ

3月 セイオユタンポポとカンサイタンポポ (レプリカ)

・正面展示周辺

6月 アロマウォーター展示 はしかけ「緑のくすり箱」

12月 クリスマスリース はしかけ「緑のくすり箱」吉野千栄子さん

・棚 (季節の植物: 博物館に生える植物・生物)

今年度は12月に発表した論文(Takaki et al. 2023)の材料であるイブキノエンドウ(マメ科)を展示した。新聞やテレビ取材を受ける際にこの展示を活用した。

【岩石・鉱物・化石】

2023年8月4日: コーナーにある中サイズボックスの「アンモナイト化石ボックス」は、一部の標本紛失のため取り下げた。

「オープンラボ」での実演や交流活動等の使用実績は143件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
4月5日	研究打ち合わせ	片山
4月6日	研究打ち合わせ	片山
4月12日	プランクトン観察	鈴木
4月20日	Web 会議	金尾

日付	内容	担当
4月26日	生態観察池調査	鈴木
4月28日	広報会議	島本
4月29日	交流会議	楊
5月6日	標本作成	榊永
5月9日	プランクトン観察	鈴木
5月10日	プランクトン観察	鈴木
5月12日	ディスカバリールーム・ミーティング	
5月15日	打ち合わせ	片山
5月22日	生態観察池調査	鈴木
6月3日	学会市民公開講座（オンライン）	金尾
6月4日	標本観察	川瀬
6月6日	プランクトン観察	鈴木
6月7日	ラコリーナサンプルチェック観察	鈴木
6月9日	河床モニタリングプロジェクト研究打ち合わせ	島本、片山
6月18日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
6月20日	生態観察池調査	鈴木
6月27日	SCREEN ホールディングス(Web ミーティング)	鈴木
6月30日	凶鑑の打ち合わせ	川瀬
7月4日	水族展示再開打ち合わせ	
7月6日	プランクトン観察	鈴木
7月10日	県試験研究機関連絡会議(Zoom)	今田・金尾
7月11日	標本観察	川瀬
7月12日	Web 会議	金尾
7月14日	DX 事業 Zoom 打ち合わせ	大槻
7月14日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
7月16日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
7月18日	展示作業	田畑
7月21日	標本作成	今田・金尾
7月25日	生態観察池調査	鈴木
7月26日	ヒルガタワムシに関する相談	鈴木
7月27日	文書クリーニング実演	加藤、島本
7月28日	マミズクラゲ観察	鈴木
7月28日	打ち合わせ	米田
7月29日	大垣養老高校	鈴木
7月31日	Web 会議	今田
8月1日	標本観察	川瀬
8月2日	おはスタ撮影	川瀬
8月4日	ディスカバリールーム・ミーティング	米田
8月5日	標本作成	榊永
8月8日	DX 事業 協議	大槻
8月10日	プランクトン観察	鈴木
8月14日	Web 会議	金尾
8月20日	ディスカバリールーム カイコの作業	森
8月20日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会

日付	内容	担当
8月23日	博物館実習	企画・企画広報営業課
8月26日	多賀町発掘化石のクリーニング作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
8月27日	Web 会議	中川
8月29日	生態観察池調査	鈴木
8月29日	調査の打合せ	はしかけ 海浜植物守りたい
8月30日	打ち合わせ	中村
9月1日	ディスカバリールーム会議・ミーティング	米田
9月7日	県試験研究機関連絡会議打ち合わせ	今田
9月7日	Web 会議	金尾
9月8日	研究打ち合わせ	島本
9月9日	研究打ち合わせ	島本
9月10日	標本作り	今田
9月11日	読売テレビ打ち合わせ	今田
9月12日	多賀町発掘化石のクリーニング作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
9月13日	プランクトン観察	鈴木
9月14日	ヨシ会議 (Zoom)	大槻
9月15日	写真撮影	米田
9月17日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
9月22日	ホテルの川会議	鈴木
9月25日	生態観察池調査	鈴木
9月27日	水草サンプル処理	芦谷
9月27日	DX-GIS 会議 (Zoom)	大槻
9月30日	生態観察池調査	研究部
10月6日	多賀町発掘化石のクリーニング作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
10月13日	プランクトン調査	鈴木
10月19日	SCREEN 打ち合わせ	鈴木
10月21日	標本観察	川瀬
10月23日	生態観察池調査	鈴木
10月27日	研究打ち合わせ	島本
10月28日	顕微鏡観察	大塚
11月5日	近畿大学学生指導	菅原
11月8日	研究打ち合わせ	金尾
11月10日	プランクトン観察	鈴木
11月12日	Zoom 会議	島本
11月13日	オンライン会議	後藤、大槻
11月14日	多賀町発掘化石のクリーニング作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
11月15日	多賀町発掘化石のクリーニング作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
11月19日	骨格標本の制作過程の実演	はしかけ ほねほねくらぶ
11月21日	生態観察池調査	鈴木
11月28日	近畿大学学生指導	菅原
12月1日	ディスカバリールーム会議・ミーティング	米田
12月3日	定例会	はしかけ 植物観察の会
12月5日	標本観察	今田
12月5日	研究打ち合わせ	島本

日付	内容	担当
12月6日	近畿大学学生指導	菅原
12月6日	洛東江生物資源館	大槻
12月12日	オンライン会議	芦谷
12月14日	プランクトン観察	鈴木
12月14日	標本観察	川瀬
12月16日	プランクトン観察	はしかけ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
12月17日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
12月19日	生態観察池調査	鈴木
12月19日	標本観察	川瀬
12月21日	県試験研究機関連絡会議打ち合わせ	今田
12月22日	県試験研究機関連絡会議打ち合わせ	今田
12月23日	多賀町発掘化石のクリーニング作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
12月24日	蘚苔類の入門と観察	はしかけ 植物観察の会
12月26日	県目録のミーティング	今田
1月9日	生態観察池調査	鈴木
1月9日	県試験研究機関連絡会議打ち合わせ	今田
1月11日	取材	橋本
1月13日	近畿大学学生指導	菅原
1月14日	水草サンプル処理	芦谷
1月15日	水草サンプル処理	芦谷
1月17日	プランクトン観察	鈴木
1月21日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
1月26日	ディスカバリールーム会議	米田
2月2日	耳石撮影	米田
2月3日	魚類標本観察	はしかけ うおの会・川瀬
2月7日	県目録のミーティング	今田
2月10日	多賀町発掘化石のクリーニング作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
2月18日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
2月20日	生態観察池調査	鈴木
2月20日	水草サンプル処理	芦谷
2月21日	標本作成	梶永
2月22日	企業からのヒアリング	はしかけ 緑のくすり箱
2月28日	プランクトン観察	鈴木
3月1日	プランクトン観察	鈴木
3月1日	Zoom 会議	美濃部
3月2日	フィールドレポーター定例会	フィールドレポーター
3月3日	プランクトン観察	鈴木
3月5日	プランクトン観察	鈴木
3月8日	魚類標本観察	川瀬
3月9日	プランクトン研究体験	鈴木
3月12日	生態観察池調査	鈴木
3月12日	企画展示打ち合わせ	島本
3月16日	昆虫標本作成	今田

日付	内容	担当
3月16日	クラウドファンディングツアー	林
3月17日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
3月19日	福岡市博物館ヒアリング	妹尾
3月20日	プランクトン調査	鈴木
3月24日	近畿大学学生指導	菅原
3月27日	標本確認	芦谷
3月30日	魚類標本観察	川瀬
3月31日	水草サンプル観察	芦谷

【交流コーナー】

2023年5月29日にコロナ感染症対策でテーブルに展示していた「冬の琵琶湖に集まるカモたち」から、もとのテーブルが利用できる空間に戻した。「交流コーナー」での交流活動等の使用実績は2件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
12月14日	フロアトーク	川瀬
12月19日	フロアトーク	川瀬

7) 屋外展示

- ・樹冠トレイルと屋外展示の森を活用した展示交流活動

樹冠トレイルと屋外展示の森を活用していくことを目的に、はしかけグループ「森人（もりひと）」とともに、つる植物の管理をはじめとした屋外展示の整備活動を行った。また、展示交流活動として「森人」メンバーを対象にした植物観察を実施した。

展示交流活動では、びわ博フェス 2023 の中で森のガイドツアーを「子供向けのクイズラリー」形式で実施した。また、京都新聞主催の TOYOTA SOCIAL FES2023 に参加し、解説を交えながら9つのクイズとミッションを体験してもらうガイドツアーを実施した。

- ・屋外展示の植栽管理

屋外展示の維持管理のため、植物の刈り込みや草刈り、枯損木の伐採等の植栽管理作業を実施した。

(2) 企画展示

第31回企画展示「おこめ展 —おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然—」-Rice-

【主旨】

おこめを中心とした生活は、「日本らしい」文化という印象をもつ。弥生時代におこめ作りが始まって以来、おこめの生産と消費は経済に大きな影響を与え、独自の文化を育んできた。また、おこめが育つ田んぼは、人と生き物が深く関わりあう場として機能し、私たちの暮らしのなかで、文化的景観にも大きな影響を与えている。

一方で、情報社会である今日、世界規模で均一的な文化、生活習慣の共有化が急速に進み、私たちの暮らしが大きく変わろうとしている。このような情勢の中、おこめをテーマとして、琵琶湖博物館ならではの多様な研究領域からなる展示によって、田んぼを場とした生態系、イネの植物学的情報、おこめと文化、おこめ調理の歴史を紹介することで、おこめを中心とした生活を改めて捉えなおし、これからのおこめと私たちの付き合い方を考えるきっかけとなることを目指した。

① 概要

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

期間：令和4年7月15日（土）～11月19日（日）＊実質開催日数 113 日

開館時間：9:30～17:00（16:00 最終入館）

観覧料金：小・中学生 150 円（120 円）、高・大学生 240 円（190 円）、大人 300 円（240 円）

※（ ）は団体料金

※企画展示を観覧するには、常設展示の観覧券が必要

観覧者数：31,990 人

展示企画・製作：妹尾裕介（主担当）、大塚泰介（副担当）、加藤秀雄（副担当）、出口武洋（デザイン）

展示施工：株式会社ゴードー

展示協力：青木克司 青木幸一 池内秀明 市木勝彦 井上裕子 岩崎茂 岩渕成紀 宇野晶 今田舜介 遠藤亮太郎 梶山倫裕 川畑和弘 小泉武寛 小泉裕司 小林正史 國分政子 駒井佐知子 佐々木仁志 澤友二 柴原藤善 白石哲也 菅原巧太郎 杉山紗南 武田滋 田中哲也 中川淳也 中川信次 中川優 中村弥宣 林竜馬 日野耕作 藤崎高志 細井正史 堀哲司 前田雅子 松田征也 松本治幸 南重治 嶺田拓也 美濃部諭子 三桝友梨香 宮本ルリ子 村山上由美子 八尋克郎 山田昌久 山田真寛 山岡眞澄 吉田貴宏 吉田裕明 ロビン・J・スミス 渡部圭一

今堀自治会 近江米振興協会 お田植えまつり実行委員会 株式会社パールライス滋賀 甲賀市教育委員会 滋賀県大津・南部農業農村振興事務所 滋賀県酒造組合 滋賀県信用農業協同組合連合会（JA バンク滋賀信連） 滋賀県農業技術振興センター 滋賀県農業協同組合中央会（JA 滋賀中央会） 滋賀県文化スポーツ部 文化財保護課 滋賀県農政水産部みらいの農業振興課 滋賀県埋蔵文化財センター 滋賀県立安土城考古博物館 滋賀県立陶芸の森 静岡市立登呂博物館 世界にひとつの宝物づくり実行委員会 全国農業協同組合連合会滋賀県本部（JA 全農しが） 全国共済農業協同組合連合会（JA 共済連滋賀） 守山市教育委員会 守山市埋蔵文化財センター 野洲市観光物産協会 野洲市教育委員会 野洲市歴史民俗博物館 弥生・古墳時代の水田プロジェクト 悠紀齋田お田植え祭り保存会

② 展示内容

【概要】

多様な研究領域の成果から、田んぼを利用する生き物の世界、知られざるイネの生態と田んぼの仕組み、おこめを中心とした伝統的な暮らし、おこめと私たちの歴史といった様々な切り口で、生物標本、米品種サンプル、民俗資料、考古資料、民族資料、米加工食品など多岐にわたる展示物約 490 点を展示した。また展示に参加できるコーナーとして好きなおにぎりの具を書いてもらう「もっとも人気のあるおにぎりの具は何だろう？」のコーナーを設けた。集計結果は、2 か月間の速報値をコーナーに掲載し、最終結果を琵琶湖博物館 web ページで発表した。今回の展示を通して、滋賀県が全国有数のおこめ県であること、おこめが育つ田んぼは生き物の多様性を維持する重要な役割をもつこと、私たちの暮らしは、おこめを中心とした歴史や文化が根底にあること、おこめ文化は日本だけでなくアジアの文化であることを改めて知っていただき、おこめ、田んぼに関心を持ってもらうことを目指した。

【各コーナー】

第1章 田んぼは生き物の宝庫

人間が環境を整えた田んぼを企画展示の導入として位置づけ、おこめがどのような場所で育つのかを紹介した。とくに田んぼという環境をうまく利用している生き物の標本展示と、生物関係の各学芸員による研究成果をふまえたパネル解説によって琵琶湖博物館ならではの生態学的研究成果を発信した。

1-1 哺乳類

1-2 鳥類

- 1-3 爬虫類・両生類
- 1-4 魚類
- 1-5 昆虫
- 1-6 微小生物

第2章 おこめと田んぼ

植物学的、農学的にみた、おこめの姿を紹介し、おこめの知られざる能力に迫る。DNA 情報や生態など、植物としてのイネを紹介。また、栽培種としてどのようにイネが変化してきたのか、その歴史を伝えた。

また、田んぼの構造を解説し、イネを育てる場として開発されてきた田んぼの仕組みに迫る。さらに田んぼが生き物の生態系としても重要な場であることを紹介した。

- 2-1 イネの生物学的特徴
- 2-2 イネの一生
- 2-3 栽培種としてのイネ
- 2-4 なぜ田んぼに水を張るのか
- 2-5 早期中干しは環境に良い
- 2-6 イネの肥料、特にケイ酸について
- 2-7 自然栽培で米がとれるのはなぜか？
- 2-8 田んぼを守る生物学的意味

第3章 おこめと私たちの暮らし

おこめを中心とした伝統的な暮らし年中行事を紹介し、おこめが日本文化の重要な位置を占めていることを伝えた。とくに映像資料や写真資料を中心に、いまにつづく豊穰を願う祈りをともなう行事と文化的景観としての田んぼを紹介した。また、イネの栽培こよみとともに、耕作、管理、収穫に係る伝統的な農具を並べて、耕起から脱穀、精米までの過程を解説した。さらに、伝統的なわら製品を紹介した。

- 3-1 滋賀県の年中行事とおこめ
- 3-2 栽培こよみ
- 3-3 伝統的な農耕具
- 3-4 イネは生活必需品（わら製品）

第4章 おこめと私たちの歴史

考古学研究成果を中心に、おこめを中心とした私たちの暮らしの歴史を紹介した。滋賀県でどのように展開したのかを発掘調査成果から解説した。また、おこめを食べはじめた弥生時代から現代に至るまで、最新の考古学の使用痕分析研究と復元土器による調理実験からわかってきた、おこめ調理方法の変遷を紹介した。

- 4-1 稲作のはじまりと弥生遺跡の展開
- 4-2 おこめどころ近江の歴史
- 4-3 おこめ調理の歴史

第5章 考古学の世界へようこそ

小部屋を利用して、考古学者の研究室を演出し、発掘調査の道具、実物の考古資料の展示、東南アジアで実施している民族考古学的調査の成果を紹介した。また、近年考古学分野で研究への活用がすすむ考古資料の3Dモデルを展示し、実物と見比べることで、3Dでモノを観察する利点を伝えた。

- 5-1 考古学者の道具

- 5-2 考古学はどんな学問
- 5-3 比べてみよう：3Dモデルと実物
- 5-4 守山市下之郷遺跡の紹介
- 5-5 実験考古学の紹介
- 5-6 東南アジアのおこめ文化

第6章 おこめと私たちのこれから

いまでも続く、おこめを主食として食べる文化を改めて捉えなおし、これから、おこめと私たちがどのように付き合いしてきたのかを考えた。環境こだわり米、新たな米品種などを通じて、これからのおこめと私たちの関係の未来を考える取り組みを紹介した。このほか、ごはんとして食べる以外のおこめの魅力について、ふなずしと地酒に関する情報を展示した。

- 6-1 滋賀県環境こだわり農業の20年～環境こだわり米をみらいへ～
- 6-2 ふなずし
- 6-3 地酒



入りロゲート



第1章 展示の剥製標本



第3章 展示の民俗資料



第5章 考古学の世界へようこそ

③ 印刷物

- ・展示解説書

編集責任者：妹尾裕介

著者：中村久美子、亀田佳代子、金尾滋史、田畑諒一、八尋克郎、鈴木隆仁、大槻達郎、妹尾裕介、大塚泰介、川瀬成吾、加藤秀雄、滋賀県農政水産部みらいの農業振興課みどりの食料戦略室、橋本道範

美術・イラスト：出口武洋

仕様：B5サイズ 160ページ 総カラーページ 500部 7月15日発行 販売価格1,060円 印刷：株式会社デジ・プリント滋賀

・企画展示ポスター A1 サイズ 表カラー 1,000 枚 6月20日発行

デザイン：出口武洋 印刷：柳印刷

・企画展示チラシ A4 サイズ 両面カラー 30,000 枚 6月20日発行

デザイン：出口武洋 印刷：柳印刷

④ 関連事業

○オープニングセレモニー

7月15日(土)9時45分から企画展示室前にて開催。展示にご協力いただいた方(市木勝彦、吉田裕明、井上裕子、池内秀明、前田雅子)を招いて、館長挨拶、来賓の挨拶、担当学芸員による内容紹介、テープカットを行った。その後、担当学芸員による展示の案内を実施した。

○博物館実習生による展示

2023年度博物館実習(8/21-8/25実施)において、実習生9名が課題として製作した展示解説パネル(計21点)を「おこめ展」に設置を企画した。

○おこめ展連動企画トピック展示「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール優秀作品展

8月23日(水)から10月31日(火)まで、アトリウムにて、JA滋賀中央会共催で開催した。令和4年度、令和3年度の二か年の優秀作品を展示した。

○来場者3万人記念式典

11月12日(日)に来場された方が3万人目となり、高橋館長の挨拶、展示解説書および企画展示のオリジナルグッズなど記念品の贈呈などの式典を行った。

○コラム

妹尾裕介(2023)おこめと私たち びわ博のまなざし①おこめどころ近江. 京都新聞滋賀版, 10月13日.

妹尾裕介(2023)おこめと私たち びわ博のまなざし②弥生水田の出現. 京都新聞滋賀版, 10月27日.

妹尾裕介(2023)おこめと私たち びわ博のまなざし③水田の発展と拠点集落の形成. 京都新聞滋賀版, 11月10日.

妹尾裕介(2023)おこめと私たち びわ博のまなざし④水田が作った新たな社会. 京都新聞滋賀版, 11月24日.

妹尾裕介(2023)おこめと私たち びわ博のまなざし⑤おこめの故郷. 京都新聞滋賀版, 12月8日.

妹尾裕介(2023)おこめと私たち びわ博のまなざし⑥熱帯ジャポニカと温帯ジャポニカ. 京都新聞滋賀版, 12月22日.

妹尾裕介(2024)おこめと私たち びわ博のまなざし⑦日本の水田とおこめ. 京都新聞滋賀版, 1月12日.

妹尾裕介(2024)おこめと私たち びわ博のまなざし⑧うるち米ともち米. 京都新聞滋賀版, 1月26日.

妹尾裕介(2024)おこめと私たち びわ博のまなざし⑨おこめ調理の原理. 京都新聞滋賀版, 2月9日.

妹尾裕介(2024)おこめと私たち びわ博のまなざし⑩弥生時代のおこめ調理. 京都新聞滋賀版, 2月23日.

妹尾裕介(2024)おこめと私たち びわ博のまなざし⑪古代のおこめ調理. 京都新聞滋賀版, 3月8日.

妹尾裕介(2024)おこめと私たち びわ博のまなざし⑫今につづくおこめ調理. 京都新聞滋賀版, 3月22日.

○取材対応

2023年7月15日, 京都新聞京都版, イネと生態や調理法変遷、農耕具・・・米と暮らしの関わり紹介(7月15日)

2023年7月15日, 毎日新聞滋賀版, 「お米」魅力知って食べて(7月19日)

2023年7月15日, 毎日新聞兵庫版, 「お米」魅力知って食べて(7月29日)

2023年7月15日, 中日新聞滋賀版, 多角的に学ぶコメ(8月3日)

2023年8月5日, 読売新聞滋賀版, お米の歴史・文化触れて(7月16日)

2023年11月12日、中日新聞滋賀版、「おこめ展」来場3万人（11月18日）

⑤ 目標達成度

本企画展示は、令和3年度から5年度にかけてすすめてきた弥生土器の復元製作・使用実験に関する専門研究、守山市教育委員会・滋賀県立陶芸の森／世界にひとつの宝物づくり実行委員会との共同研究、科学研究費補助金（基盤研究B）「和食の成立過程の解明」（18H00746・研究代表者：小林正史）の研究成果をもとにして、琵琶湖博物館が蓄積してきた生態学的研究成果、収集してきた農耕関係の民俗資料・画像資料を合わせて構成された総合展示である。

本企画展示では4つのことを試みた。ひとつはドローンをつかった田んぼの撮影と田植え風景の記録である。普段とはちがうトリの視点で田んぼをみることで、改めて田んぼへの関心を引き出すことを狙った。つぎに田んぼに関わる多数の哺乳類と鳥類の標本をケース等に入れずに露出展示した。観覧者が生き物を間近に感じるとともに自由に撮影できるようにしたことで、フィールドに出た際の簡易な写真図鑑を自ら作る機会を設けた。さらに初の公開展示として、稲作に関する農耕具、生活道具であるワラ製品を一同に集めて展示し、おこめに関する物質文化の豊かさを強調した。背景に、大橋宇三郎コレクションから昭和30年代の田園風景と作業風景を配し、当時の情景を感じる演出することで、より心情に訴える展示を心がけた。最後に、DX事業として進めている3Dコンテンツ業務の中間報告として、実物と比較できる弥生土器3Dモデルの展示をし、これからの3D展示に向けた試験的運用をした。

展示期間中に行ったアンケート調査から、未就学児から90歳代までの幅広い世代に利用いただいたこと、親子3世代など家族全員で楽しんでいただいたこと、45都道府県という全国各地からの来館者があったこと、学校団体が課題として企画展示室を利用し教材としての活用があったことなど、おこめという身近なテーマが世代、地域を越えた非常に魅力あるテーマであることを改めて知ることができた点が大きな成果であった。

(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

① プッカブカ美小生物展ーマイクロでアートな生きものたち

期間：2023年5月5日（金）～6月11日（日）※開館日数33日

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

共催：越智明美、高知みらい科学館

後援：カールツァイス株式会社、公益社団法人日本顕微鏡学会

関連事業：2023年度環境学習への誘い事業

関連イベント：5件

- ・あなたも描こうミジンコたちの絵
- ・顕微鏡であのプッカブカが見える見える超見える
- ・琵琶湖のプッカブカ微小生物を捕まえてみよう
- ・プランクトン観察会プッカブカプランクトンってなあに？午前の部
- ・プランクトン観察会プッカブカプランクトンってなあに？午後の部

場所：琵琶湖博物館企画展示室

内容：琵琶湖の生物相の83%を占める微小生物たち、その姿はとても個性的で、我々が普段から見慣れている生物たちとはかけ離れた姿をしている。小さいながらも生き残るために手に入れた、微小生物たちの不思議なカラダの仕組みや、興味深く素敵なカタチをアートと最新の研究とを合わせて紹介する。

微小生物の特徴的な形態、図鑑でも見られないような精密な内部構造などを光学顕微鏡、電子顕微鏡写真や精密模型を使い紹介する。また、映像によって、動き、脱皮に伴う形態の変化と言った姿かたちの変化を紹介する。

日本画家、越智明美さんによるデフォルメされた微小生物のキャラクターによる展示紹介や、鉱石絵具による本格的な絵画作品も展示し、科学的な興味以外からも微小生物の魅力を知ることができる。

これらの展示を通して、琵琶湖の生態系を支える生きものたちの存在を知ってもらい、未来へ豊かな琵琶湖を残していくことの大切さを実感することができる。

展示期間中は、一定期間で変わる微小生物キャラクターのスタンプラリー、微小生物とアートによるワークショップの実施を予定しており、単に見せるだけではなく、学芸員とアーティストが実際に微小生物の魅力や生態を解説する。

展示内容：

1. 入り口大型パネル

越智氏がデザイン、鈴木および一瀬が監修したデフォルメ微小生物たちが来場者を出迎える。



2. 挨拶

館長と越智明美氏からの挨拶と越智篤史氏作の大津港の風景画、越智明美氏作のミジンコの絵画。展示の随所にはデフォルメされた微小生物のパネルを設置している。

3. プランクトン大風呂敷

微小生物をデザイン化した模様を使ったシルクスクリーンの大風呂敷。

4. 小さな教え

微小生物たちを写真とデフォルメで展示し、生態になぞらえた小噺と共に紹介。

5. 不思議なカラダの微小生物

琵琶湖の微小生物から、世にも不思議な姿をした生物をえりすぐって紹介。

6. 日本画がきらきらする理由（岩絵の具）

鉱石を使った日本画の岩絵の具。その原料と絵の拡大写真から、日本画がきらめいて見える秘密に迫る。

7. ミジンコ絵画作品

越智氏が制作したミジンコ類の作品群。小型作品から大型作品までさまざまに展示。

8. Movement of Plankton シアター

微小生物の動きをモチーフに制作された絵画 Movement of Plankton、その発想の基になった微小生物たちの「特異な動き」を映像で見ることができる。

9. Movement of Plankton

微小生物の「特異な動き」に発想を得た抽象画群。シアターとセットでみることで、より鮮明にイメージできる。

10. 微小生物研究者紹介

本展示にも関わりの深い微小生物研究者たちのプロフィール、および推し微小生物たちを紹介。

11. Micro super heroes

微小生物の持つ「特殊な生態」をヒーローが持つスーパーパワーに見立てて、アメコミ風に紹介。

12. プランクトンフォトスポット

微小生物キャラクターと共に写真を撮影できる。2種のミジンコ帽子を被れば微小生物気分を味わえる。

13. ミジンコ類コーナー

琵琶湖に出現する巨大ミジンコ「ノロ」。一見ミジンコらしくない姿に見えるノロは本当にミジンコなのか、生態や形態から解説。

14. 共同制作作品

越智氏が高知のワークショップで子供たちと制作した作品を展示。

15. スタンプラリー

週替わりで越智氏デザインの微小生物スタンプを設置。スタンプノートを手に入れて、設置されるスタンプを集めると景品をプレゼント。

16. 環境学習センターブース

琵琶湖博物館環境学習センターの事業を紹介。特に夏休みに向けて、各種貸し出しキットの実物を展示。

展示企画：鈴木隆仁（主担当）、越智明美（共催）、芦谷美奈子（副担当）、琵琶湖博物館環境学習センター
展示協力者（順不同、敬称略）

館内：ロビン・ジェームス・スミス、琵琶湖博物館環境学習センター

館外：高橋信裕（高知みらい科学館）、岡田直樹（高知みらい科学館）、田中 亨（カールツアイス株式会社）、
一瀬 諭（琵琶湖環境科学研究センター）、忍足和彦、坂田 明（広島大学大学院生物圏科学研究科）、末友靖
隆（山口県岩国市ミクロ生物館）、越智篤史（日本画家）、坂本明三郎（陶芸家）、坂本希和子（紅型染め作家）、
岡本明才（写真家）、森元 律（ギャラリーHaRU）、森安美抄（株式会社あすらぼ）

2) トピック展示等

①第47回「ごはん・お米とわたし」図画の部 入賞作品展示

期間：2023年3月23日（木）～4月9日（日）

主催：JA滋賀中央会 共催：琵琶湖博物館

場所：アトリウム

②タイトル：トピック展示「ごはん・お米とわたし 優秀作品展」（おこめ展 連動企画）

期間：2023年8月21日（火）～10月31日（火）

主催：琵琶湖博物館 共催：JA滋賀中央会

場所：アトリウム

内容：「おこめ展」の開催に合わせ、例年当館で展示している「ごはん・お米とわたし」の優秀作品を展示

③トピック展示「淡海こどもエコクラブ 絵日記・壁新聞コンクール応募作品展」

期間：2023年11月28日（火）～2024年1月8日（月・祝）

場所：企画展示室

主催：琵琶湖博物館 環境学習・交流係 協賛：公益財団法人 平和堂財団

④パネル展示：国スポ・障スポ公式ポスター県民アンケートパネル

期間：2023年12月6日（水）～2024年1月8日（月祝）

場所：アトリウム

設置主体：わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局

⑤トピック展示「トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！」

期間：2024 年 1 月 30 日（火）～2 月 25 日（日）

場所：アトリウム

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク 共催：琵琶湖博物館

⑥パネル展示：独立行政法人 水資源機構 機関紙『水とともに』 琵琶湖博物館掲載部分

期間：2024 年 2 月 27 日（火）～3 月 28 日（金）

場所：アトリウム

設置主体：独立行政法人 水資源機構

(4) 展示室における制限（新型コロナ対策）の緩和

常設展示室においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、2020 年より一部展示の制限を行ってきた。2021 年度には、一部展示物（目鼻口を近づける展示物および布製の展示物など）を除いて制限を緩和し、2023 年度には大部分の常設展示における利用制限を廃止し、ほぼコロナ前の状態に戻した。2023 年度末に継続して休止中・撤去中の展示は以下のとおりであるが、これらの展示の制限は実際には感染症対策とは無関係で、展示再開にあたり運用上の問題点等が明らかになったためである。今後は問題が解消した展示から順次再開する予定であり、その際に展示手法等についても見直しを進める。

・A 展示室

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
うつり変わる気候と森	くり返す気候と森	コーナー閉鎖用カーテン	撤去中

・B 展示室

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
森ゾーン	森にくらす	みわけよう（5 種類の木の実を分ける展示）	木の実を入れた容器に透明なフタ設置中
森ゾーン	森をつくる	におってみよう（マツタケ入りのすき焼き）	休止中
水辺ゾーン	水辺でかせぐ	におってみよう（シジミ汁）	休止中

・C 展示室

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
ヨシ原にはいってみよう	ヨシトンネル	におってみよう（ヨシ）	休止中
ヨシ原にはいってみよう	人とヨシとのつきあい	ヨシズ編みハンズオン	撤去中
川から森へ	カワウのすむ森	カワウのすむ森のにおい	休止中
川から森へ	スギ林・ヒノキ林を見にいこう	におってみよう（スギ・ヒノキ）	休止中

・水族展示室

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
湖魚を食べる暮らし	川魚屋	におってみよう（フナズシ）	休止中
湖魚を食べる暮らし	川魚屋	トロ箱展示	アクリルのフタを設置中
ふれあい体験室	ふれあい体験室	タッチングプール	閉鎖中（転用中）
マイクロアクアリウム	マイクロバー	マイクロバーの運用	土日のみ運用中

・ディスカバリールーム

コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
全体	全体	ディスカバリー券を発行して入室人数を調整中（今後も継続予定）
におってみよう	オオサンショウウオ、ヨモギ、クスノキ	撤去中
さがしてみよう	双眼鏡	撤去中
見つけてみようー生き物のすみかー	タヌキのトンネル	閉鎖中
人形げきじょう	舞台、人形	閉鎖中

2. 展示交流

(1) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1) 安全確保、2) 快適な環境の提供、3) 展示室での発見のサポート（展示交流）といった3つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素である。そのいっそうの充実をはかるために「展示交流員と話そう」を実施している。本年度は従来通り12～3月にかけて実施した。

展示交流員が普段の展示交流にある「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで行った。実施前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備をした。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫をした。

実施期間：2022年12月1日～2023年3月15日

実施人数：展示交流員 22名

実施回数：展示室での来館者の状況により随時実施

【実施内容】

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
A 展示室	福本 嘉子	自分の誕生石を知っていますか？	地域の人々による展示
	坂上 麻理	琵琶湖への誘い	うつり変わる湖
	板垣 真由美	誰のあしあと？	足跡化石
B 展示室	満田 千秋	明治29年琵琶湖大洪水のお話	明治29年の大洪水前
	木下 睦司	琵琶湖の水位はどこから測るの？	明治29年琵琶湖大洪水
	斉藤 文子	木いきって石とって…	北比良ジオラマ
C 展示室	木村 寿枝	カメを見比べてみよう	カメ水槽
	安藤 慶子	さがしてみよう カヤネズミ	カヤネズミ
	西村 典子	田んぼのまわりの生き物（ナゴヤダルマガエル）	田んぼの生き物
	今泉 美保	昭和時代のSDGs	富江家の暮らし
水族展示室	片岡 典子	琵琶湖の二枚貝のフィルター能力	おとなD・水族・C展など
	藤村 美佐子	ノロを見つけよう	マイクロバー
	奥村 恵子	おいしく食べよう 琵琶湖のおさかな	魚滋
	西村 尚代	世界一大きい両生類オオサンショウウオ	オオサンショウウオ水槽
	大原 幸子	琵琶湖のプランクトン	マイクロバー

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
水族展示室	橋本 友美	ナマズたちの特徴	水族
	林 克子	琵琶湖のおさかなを食べよう	魚滋
	熊谷 明美	マミズクラゲの一生	マイクロバー
おとなのディスカバリー	佐野 絢	身近な所にゾウムシ	おとなD昆虫コーナー
	石塚 幸子	ハシボソカラスとハシブトカラス	おとなD鳥類コーナー
	田中 美紀	でんでんむしむしカタツムリ	おとなD貝類コーナー・C展
	川崎 明美	滋賀県のツキノワグマ	おとなD

(2) 展示交流員おすすめ展示資料 WEB 図鑑の公開

中長期基本計画の事業目標4では「もっと使いやすい博物館へ」を目指して、多くの展示へのアクセシビリティを確保するための、新たなICT技術を用いたガイド手法の導入を事業目標としている(4-1.誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長)。そのため、個別の展示資料に関するガイドコンテンツ拡充を目指した、新たな「展示資料 WEB 図鑑」システムの構築を行なった。

2023年度には、展示室内のさまざまな展示物の魅力について多様な発信を推進するため、展示交流員によるおすすめ展示のポイントを紹介した「展示資料 WEB 図鑑」の公開を行なった。第一弾の公開として、2023年に作成した18名の交流員による48点のおすすめ展示資料紹介コンテンツを公開した。また、2024年3月11日の交流員研修の中で、10名の交流員による水族展示室のおすすめ展示資料紹介コンテンツを追加で作成した。

6 館外連携

1. 博物館連携

当館は、滋賀県博物館協議会、日本博物館協会、全国科学博物館協議会、日本動物園水族館協会（JAZA）、烏丸半島活性化連携事業に加盟、参加し、各館と連携しながら活動している。各団体の総会等について、令和5年度は下記の通り出席した。また、各団体において、下記の委員会の委嘱を受けた。

滋賀県博物館協議会 研修委員会・幹事（橋本）

滋賀県博物館協議会 広報委員会（加藤）

(1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の70館（2024年3月現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。当館は研修委員会、広報委員会に各1名が参画し、活動の一翼を担っている。

会議名	日程	場所
令和5年度滋賀県博物館協議会総会	2023年6月23日	滋賀県立美術館
令和5年度滋賀県博物館協議会情報交換会・見学会	2023年10月19日	滋賀県立琵琶湖博物館
令和5年度第1回講演会	2024年2月9日	大津市歴史博物館
第1回研修委員会	2023年5月11日	長浜城歴史博物館
第2回研修委員会	2023年8月10日	滋賀県立琵琶湖博物館
第3回研修委員会	2023年10月19日	滋賀県立琵琶湖博物館
第4回研修委員会	2023年11月15日	大津市歴史博物館
第5回研修委員会	2024年2月9日	大津市歴史博物館
第1回広報委員会	2023年4月26日	滋賀県立琵琶湖博物館
第2回広報委員会	2023年10月4日	滋賀県立琵琶湖文化館

(2) 日本博物館協会

会議名	日程	場所
令和5年度全国博物館長会議	7月5日	文部科学省東館
令和5年度全国博物館総会・施設見学	7月6日～7日	国立科学博物館、ロマンスカーミュージアム
第71回全国博物館大会	11月15日～17日	千葉市文化センター

(3) 全国科学博物館協議会

本年度は琵琶湖博物館において、以下の内容で令和5年度第2回全国科学博物館協議会理事会・総会および第31回研究発表大会を開催した。

- ・趣旨：科学系博物館に共通する課題や各館の活動成果について発表および協議し、学芸員等博物館専門職員の活動の一層の充実を資する。
- ・期日：2024年2月21日（水）～22日（木）
- ・主催：全国科学博物館協議会、滋賀県立琵琶湖博物館、一般財団法人全国科学博物館振興財団
- ・会場：琵琶湖博物館およびオンライン
- ・テーマ：「コミュニティとともに活動する博物館」
- ・総会参加者：総計232名（うち現地参加者132名、オンライン参加者100名）
- ・研究発表大会参加者：総計251名（うち現地参加者145名、オンライン参加者106名）

(4) 日本動物園水族館協会（JAZA）

会議名	日程	場所
令和5年度第1回近畿ブロック園館長会議	4月14日～15日	第一大阪ビル
令和5年度日本動物園水族館協会通常総会	年5月23日～24日	宇部市ときわ動物園
第89回近畿ブロック水族館飼育係研修会	9月26日～27日	琵琶湖博物館セミナー室
令和5年度第2回近畿ブロック園館長会議	10月23～24日	イーグレ姫路

(5) その他

会議名	日程	場所
第29回自然史系博物館館長懇親会	2024年1月17日	北九州市立自然史・歴史博物館

2. 企業連携

博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、これまで企業連携の強化を図ってきた。2020年度以降、新型コロナウイルスの影響により制約の多い中で非常に限定的な連携となっていたが、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられた以降は、県内でも規制が緩和され徐々にではあるが、連携事業が戻りつつある。

○ 連携事業

2023年度は、次のような連携事業を展開した。

月 日	企業・団体名	連携内容
7月25日	ダイハツ工業株式会社	環境学習会（おこめ展講演、企画展見学）
7月27日	第一生命保険株式会社	館内見学（新入社員研修）
8月5日	株式会社日吉	環境学習会・館内見学
11月18日	株式会社 SCREEN ホールディングス、成安造形大学	微小生物カードゲーム（琵琶博フェスワークショップ）
12月11日	オールトヨタ自然共生WG	学芸員による講演・事例発表他
12月16日	株式会社村田製作所	環境学習会（微生物の観察、館内見学）
3月26日	ダイハツ工業株式会社	環境学習会（外来種概要講演、館内見学）

3. 研修・実習

感染症対策の緩和以降、視察・研修は徐々に以前の状況に戻りつつあり、環境や暮らしについての研修の他、展示リニューアルや運営についてのヒアリングを含めた視察や研修が増えている。今年度は以下の海外からの視察等14件、国内の視察等16件の対応を行った。

(1) 海外からの視察・研修

*JICA；(独法) 国際協力機構 ILEC；(公財) 国際湖沼環境委員会

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
7	8	JICA 草の根技術協力事業「マレーシア国」	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会	19	楊
5	9	韓国忠清北道庁	滋賀県琵琶湖保全再生課	10	亀田副館長
5	24 25	JICA 国別研修「コートジボワール」	一般社団法人マリノフォーラム	14	川瀬

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
5	30	インドオリッサ州政府関係者	滋賀県総合企画部国際課	11	山川・スミス
7	22	SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム「ウズベキスタン」	京都大学防災研究所	21	大塚
8	20	地球環境基金事業「マレーシア」	ILEC	6	スミス
10	27	湖南省文化和旅游庁代表团	滋賀県総合企画部国際課	5	楊
11	10	湖南省との友好提携40周年記念事業への参加依頼（通訳）	滋賀県総合企画部国際課		楊
11	11	湖南省政府代表团	滋賀県総合企画部国際課	14	楊
11	11	湖南省友好交流団	滋賀県総合企画部国際課	43	楊
11	11	博物館学とコミュニティ開発コース	国立民族学博物館	20	スミス
11	29	在加日系人リーダー	農政水産部農政課	8	スミス
1	11	JICA 課題別研修	ILEC	12	鈴木・スミス
2	2	JICA 研修	JICA 関西関西センター	20	スミス
3	9	駐日ニカラグア共和国特命全権大使	JICA 関西センター	4	芳賀

(2) 視察対応（国内）

月	日	視察者	人数	対応者
5	16	南国市議会議員	9	里口・林
6	22	美幌博物館	1	金尾
7	20	氷見農業遺産推進協議会	2	加藤
8	3	東近江市森の文化博物館整備課	2	橋本
8	7	北方少年少女交流事業	8	横山
9	21	政索研修センター	4	里口
10	29	滋賀県立公文書館	8	島本
11	21	能勢町教育委員会	8	榊永
1	25 26	千葉県立中央博物館	2	亀田副館長
2	9	農林水産省農村振興局都市農村交流課長補佐 他	6	中川
2	21	独立行政法人国立科学博物館	3	橋本・安達・渡邊・山川
2	23	熊本博物館	3	山川
3	1	霞ヶ浦環境科学センター	3	鈴木・安達・渡邊・総務
3	14	山形県立博物館・山形県観光文化スポーツ部博物館・文化財活用課	6	半田
3	19	福岡市博物館	3	妹尾
3	26	熊本市動植物園	1	川瀬

(3) 博物館実習

・期間：2023年8月21日（月）～25日（金）までの5日間

大学生が学芸員資格を取得するための実習を開催した。国内7大学9名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針とそれに基づく資料整備、広報、展示などの活動について、講義および実習を行った。

・実習日程と内容

	午前	午後
8月21日(月)	開講式 実習ガイダンス・諸注意 実習生自己紹介 講義「琵琶湖博物館の研究活動」 講義「琵琶湖博物館の事業活動」	施設見学ガイダンス 総括
8月22日(火) 資料活用事業	講義「博物館資料とその整理について」 講義「IPMについて」 収蔵庫見学	各資料分野に分れて資料整理実習
8月23日(水) 展示事業	講義「博物館の展示：意義・制作・評価」 講義「博物館とユニバーサルデザイン」 講義＋実習「展示交流員の仕事」	講義＋見学＋実習 「企画展示への導入パネル製作」
8月24日(木) 企画展示 企画広報営業	実習＋講評「製作パネルの発表」 講義「企画・広報営業課の業務」	SNS発信をしよう コンテンツの発表と意見聴取、講評
8月25日(金) 環境学習 交流事業	講義「環境学習・交流事業について」 講義「FR/地域連携、はしかけ、質問コーナー」 講義・実習「学校連携関連」	環境学習関連実習 授与式・閉講式

・実習生の大学と人数：7大学9名

所 属	人 数	所 属	人 数
大阪芸術大学	1	京都芸術大学	3
京都先端科学大学	1	京都橘大学	1
滋賀県立大学	1	同志社女子大学	1
龍谷大学	1		
		合計	9

4. 共催事業

日時	タイトル	依頼者	担当	内容
5月28日	第22回「琵琶湖外来魚駆除の日」	琵琶湖を戻す会	川瀬	イベント
10月7日 ～10月9日	イナズマロックフェス2023 ファッションショー	成安造形大学	里口	イベント
11月12日	2023日野原重明記念新老人「滋賀の会」講演会	琵琶湖博物館展示室・セミナー室	山川、楊	講演会
11月26日	令和5年度ラムサールびわっこ大使事業「世代間交流会」	自然環境保全課	安達、渡邊	ワークショップ
2024年1月30日 ～2月25日	トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え～	生物多様性びわ湖ネットワーク	今田	展示
3月9日	環境保全セミナー	ライオンズクラブ国際協会	里口、半田	セミナー
3月9日	第5回動物園水族館大学シンポジウム	京都大学野生動物研究センター	松岡	シンポジウム
3月20日 ～4月7日	第48回「ごほん・お米とわたし」作文・図画コンクール図画作品展	滋賀県農業共同組合中央会	菅原	展示会

5. 地域発見！参加型移動博物館

移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

開催日	イベント名	会場	運営者
7月16日	ファミリーカーニバル2023	ボートレースびわこ	滋賀県総務部ボートレースびわこ局
7月19日～22日	ヤシの木広場琵琶湖博物館を知ろう	アルプラザ草津「ヤシの木広場」	ドリームポケット
7月29日～30日	読売テレビ鳥人間コンテスト2023 応援イベント	読売テレビ本社	読売テレビ放送株式会社 ESG 推進局
9月8日～9日	第3回たまゆらフェスタ	グランキューブ大阪	高島市環境政策課
10月7日～9日	おいでーな滋賀 体感フェア（イナズマロックフェス）	烏丸半島芝生広場	滋賀県環境政策課
11月11日	瀬田公園「たからの森フェスタ」	瀬田公園体育館・会議室	おおつ協会都市公園グループ瀬田公園体育館、西部造園株式会社大津市都市公園

Ⅱ 利用状況

1. 令和5年度入館者数

(1) 総入館者数

期 間： 2023年4月1日～2024年3月31日

合 計： 420,907人

開館日数： 308日

一日平均： 1,367人

月 平均： 35,076人

入館者区分別内訳

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	72,421	547	72,968	17.3
小学生・中学生	56,779	43,065	99,844	23.7
高校生・大学生	11,010	5,609	16,619	3.9
一般	206,684	24,792	231,476	55.0
合計	346,894	74,013	420,907	100.0

年月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)										総計(人)	1日当り平均(人)
		一般	高大学生	小中学生 (企画展示)	有料計	65歳以上	障害者	家族ふれあい サンデー	体験学習	こどもの日	学校行事	小中学生	その他	無料計			
2023.4	27	5,630	1,749	0	7,379	453	474	417	8	0	0	2,855	3,631	7,838	15,217	564	
5	27	11,954	1,088	0	13,042	706	727	877	6	384	0	8,474	7,148	18,322	31,364	1,162	
6	26	11,052	711	0	11,763	651	931	1,005	4	1	354	8,299	7,226	18,471	30,234	1,163	
7	28	19,744	1,589	769	22,102	1,138	1,595	1,316	26	0	146	8,111	12,901	25,233	47,335	1,691	
8	29	28,947	3,154	1,538	33,639	1,671	2,181	1,245	26	0	264	13,980	15,922	35,289	68,928	2,377	
9	23	14,865	1,190	474	16,529	697	1,399	1,424	22	0	1,742	8,228	9,136	22,648	39,177	1,781	
10	27	14,220	1,019	694	15,933	767	1,473	833	8	0	3,736	11,007	9,279	27,103	43,036	1,594	
11	26	10,653	716	464	11,833	672	1,277	3,461	3	0	1,980	100,80	7,948	25,421	37,254	1,433	
12	21	5,909	731	0	6,640	370	647	658	7	0	197	3,224	5,193	10,296	16,936	806	
2024.1	21	8,199	636	0	8,835	496	515	1,213	7	0	104	3,822	8,392	14,549	23,384	1,114	
2	25	12,640	1,141	0	13,781	656	726	1,213	13	0	101	5,246	10,465	18,420	32,201	1,288	
3	28	14,518	1,816	0	16,334	804	985	910	26	0	33	5,686	11,063	19,507	35,841	1,280	
計	308	158,331	15,540	3,939	177,810	9,081	12,930	11,111	156	385	8,657	89,012	108,304	243,097	420,907	1,367	

(2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2023 ・ 4	全 体	0	0	5	600	7	1,489	0	0	0	0	12	2,089
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	全 体	31	2,796	17	2,603	2	280	1	20	0	0	51	5,699
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	全 体	68	4,238	12	1,661	0	0	3	79	3	277	86	6,255
	県 内	47	2,526	1	109	0	0	1	17	1	168	50	2,820
7	全 体	10	601	10	741	11	603	3	30	1	27	35	2,002
	県 内	5	302	4	221	5	82	1	15	0	0	15	620
8	全 体	3	90	3	149	6	616	0	0	4	121	16	976
	県 内	1	7	1	25	0	0	0	0	1	24	3	56
9	全 体	46	3,544	6	706	4	38	6	161	4	114	66	4,563
	県 内	19	1,642	1	25	4	38	2	37	0	0	26	1,742
10	全 体	90	6,830	13	1,286	5	333	8	190	3	101	119	8,740
	県 内	43	3,059	5	548	2	50	2	21	1	28	53	3,706
11	全 体	85	6,720	2	391	2	58	1	8	3	49	93	7,226
	県 内	42	2,947	1	156	0	0	1	8	2	34	46	3,145
12	全 体	18	1,379	1	262	4	308	4	40	4	554	31	2,543
	県 内	14	1,038	0	0	1	105	4	40	3	514	22	1,697
2024 ・ 1	全 体	8	788	0	0	1	44	0	0	3	85	12	917
	県 内	6	547	0	0	1	44	0	0	3	85	10	676
2	全 体	18	1,118	1	50	0	0	5	63	2	137	26	1,368
	県 内	15	830	0	0	0	0	4	57	1	91	20	978
3	全 体	3	70	1	86	1	19	1	7	1	16	7	198
	県 内	3	70	0	0	1	19	1	7	0	0	5	96
合計	全 体	380	28,174	71	8,535	43	3,788	32	598	28	1,481	554	42,576
	県 内	195	12,968	13	1,084	14	338	16	202	12	944	250	15,536

(3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2023. 4	6,112	3,104	6,001	15,217
5	14,337	6,485	10,542	31,364
6	10,792	6,561	12,881	30,234
7	21,228	10,724	15,383	47,335
8	19,096	11,708	38,124	68,928
9	19,424	7,565	12,188	39,177
10	15,966	5,707	21,363	43,036
11	13,101	7,662	16,491	37,254
12	6,547	4,506	5,883	16,936
2024. 1	10,986	5,643	6,755	23,384
2	18,700	6,802	6,699	32,201
3	13,952	9,263	12,626	35,841
計	170,241	85,730	164,936	420,907
構成割合	40.4%	20.4%	39.2%	100.0%

2. 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズを的確に把握した博物館活動や運営を基盤とした利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケート調査を毎年8月および3月に実施している。本年度のアンケート調査は、1回目を8月の3日間、2回目は3月の3日間で連続して実施した。詳細は下記の通りである。なお、結果の分析には、過去の年報にまとめられている各年度の来館者アンケート調査結果を用いた。歴年の詳細な結果分析については今後の課題とする。

例年との相違点として、アンケート用紙での回答に加えて、Google フォームを使ったアンケートを導入した。Google フォームのアンケートはそのままデータとして出力できるため、回答用紙の入力作業の削減にもつながることが期待される。ただし、今年度に関して言えば、アンケート用紙での回答数に比べGoogle フォームからの回答数が伸びなかったことから、来館者への呼びかけ方法の検討等、回答数を増やす仕組みが必要であると考えられた。

1) 実施日時

年度ごとの比較を可能とするため、例年通り8月末および3月末の金曜日～日曜日の3日間実施した。

第1回 2023年8月25日(金)～27日(日)

第2回 2024年3月22日(金)～26日(日)

以前の調査時との違いについて、入館予約制は2022年10月18日に廃止したため、以後は事前予約なしで入館できた。2023年2月10日の水槽破損事故の影響で、水族展示室は展示再開しているものの、トンネル水槽、ピワコオオナマズ水槽、コアユ水槽の大型水槽は復旧していない状態だった。なお、8月調査時は、企画展示「おこめ展 -おこめがつなぐ私たちの暮らしと自然-」の開催中だった。

2) 方法

観覧券配布時にアンケート用紙を配布した。また、館内4か所(アトリウム出口付近、展示室内2か所)にアンケート用紙を置いた記入台を設置した。また、アンケート用紙および案内板にGoogle フォームでのアンケートのQRコードを表示した。展示交流員が協力を呼びかけ、観覧者が自ら回答した。

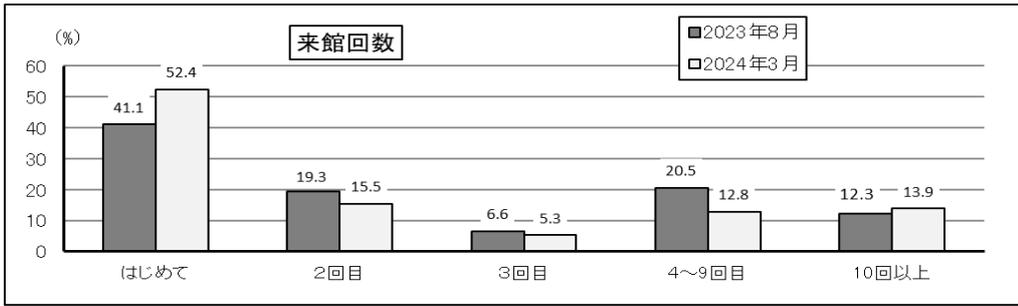
3) 回答数および回答率

回答数および回答率(2023年8月25日～27日)					回答数および回答率(2024年3月22日～24日)				
	25日(金)	26日(土)	27日(日)	計		22日(金)	23日(土)	24日(日)	計
入館者数	1,329	2,354	3,150	6,833	入館者数	442	2,464	3,426	6,332
回答数	56	97	91	244	回答数	32	63	92	187
(うちgoogleフォーム回答数)				9	(うちgoogleフォーム回答数)				1
回答率(回答数/入館者数)	4.2%	4.1%	2.9%	3.6%	回答率(回答数/入館者数)	7.2%	2.6%	2.7%	3.0%

4) 結果

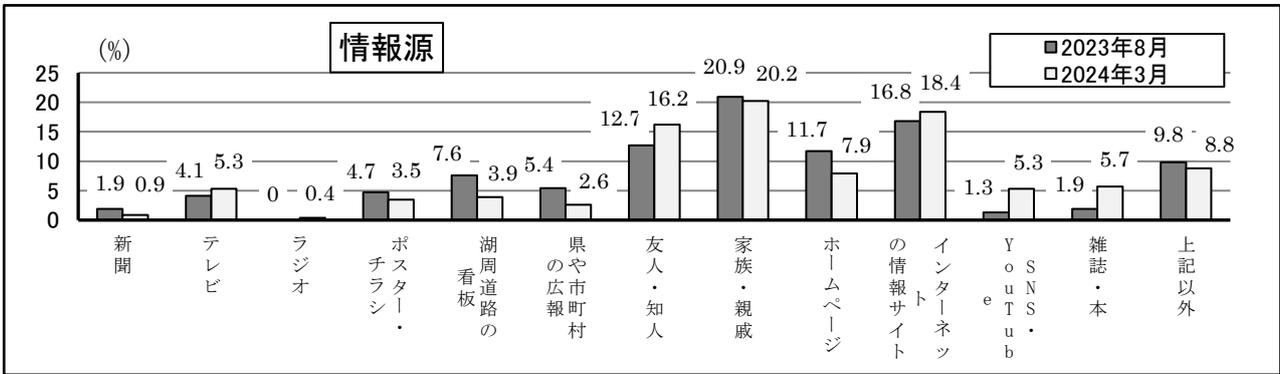
・来館回数

今年度調査の結果は別表のとおりである。「はじめて」訪れる来館者が4から5割、「4回以上」訪れているリピーターが2から3割を占めるというのが例年の調査からみられる大きな傾向である。また、開館以降減少傾向にあった「はじめて」の来館者割合が、2016年からの3期にわたるリニューアル以降横ばいもしくは微増傾向である。



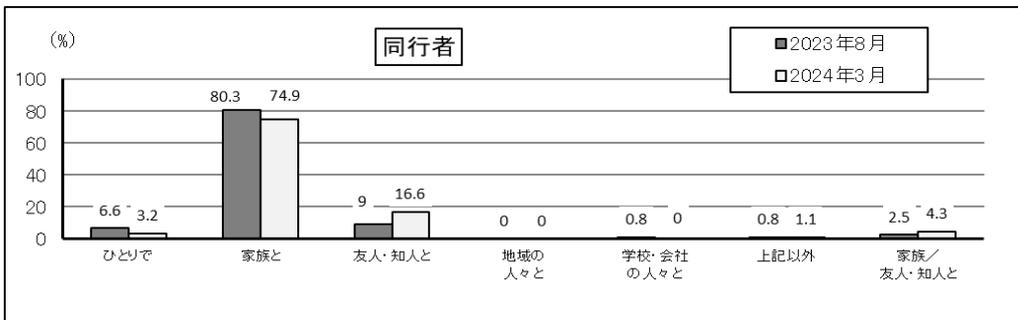
・琵琶湖博物館を知った情報源

今年度調査の結果は別表のとおりである。口コミ（「友人・知人」および「家族・親戚」）が4割程度、インターネット経由（「ホームページ」および「インターネットの情報サイト」）が3-4割を占める。「テレビ」や「雑誌・本」を情報源とする人は減少傾向にある一方、「インターネットの情報サイト」を情報源とする人が増加傾向で、2015年以降、約2割を占めている。口コミ（「友人・知人」および「家族・親戚」）は一貫して大きな割合を占める。



・同行者

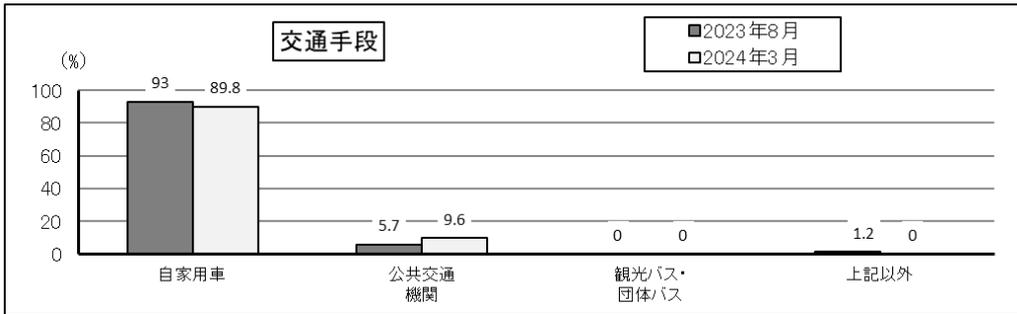
今年度調査の結果は別表のとおりである。データのある2008年以来、一貫して、「家族と」が7-8割を占める。「家族と」の詳細を見ると、家族と訪れた人のうち「配偶者・パートナー」および「子」（8月：33.8%、3月：18.2%）、「子」（8月：15.2%、3月：14.2%）、「配偶者」（8月：11.8%、3月：19.6%）の割合が高く、特に親子連れでの利用が多いことが示された。



・交通手段

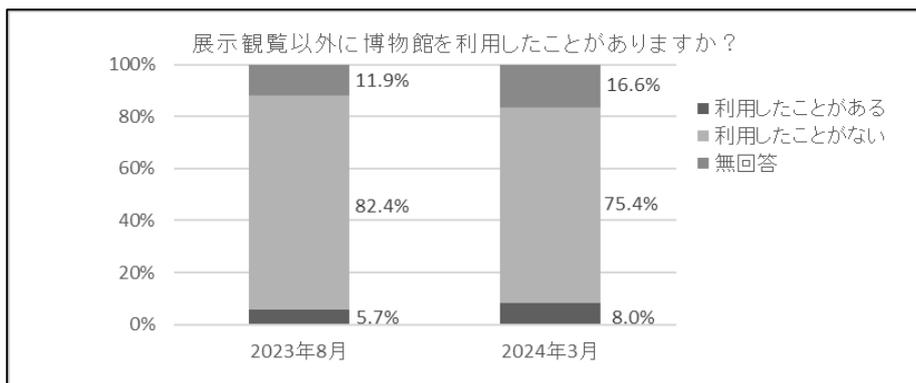
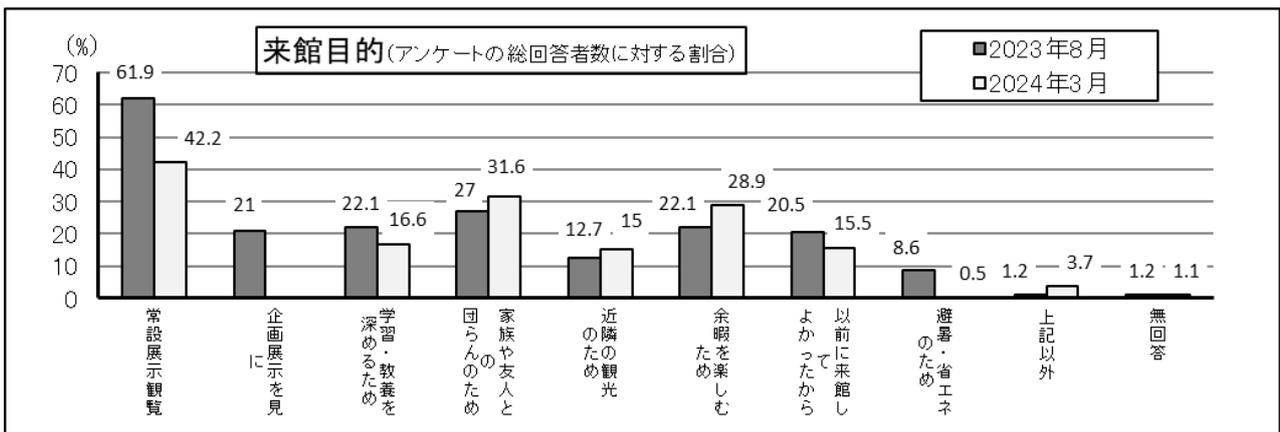
今年度調査の結果は別表のとおりである。自家用車での来館が約9割を占める。2008年以降、自家用車を交通手段とする回答割合は一貫して8割以上であり、多数を占めている。一方で、公共交通利用をする利用者が5-10%程度いることも例年の傾向であり、重要な点である。なお、本アンケート調査は週末に実施しているためこのような結果となったが、学校利用等が多い平日には団体バス等を交通手段とする割合が増える。

るものと考えられる。



・来館目的

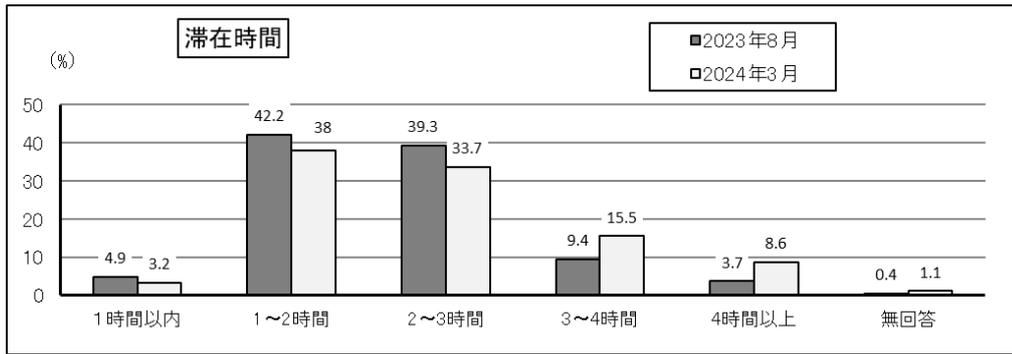
複数回答可の回答において、「常設展示を見に」を来館目的に挙げた人が61.9% (8月調査)、42.2% (3月調査)であった。「常設展示を見に」が50%を下回るのは例年の傾向である。なお、「展示観覧以外に琵琶湖博物館を利用したことがありますか」の問いに対しては、利用したことがあると回答した人は10～15%程度にとどまる。観察会等のイベント利用やはしかけ等の活動がその他の目的となっているとは考えづらい。博物館に「展示を見に」来るのではなく、アンケート回答にもあるように「団らんのため」や「余暇を楽しむため」に過ごす場として使う人も多い。



・滞在時間

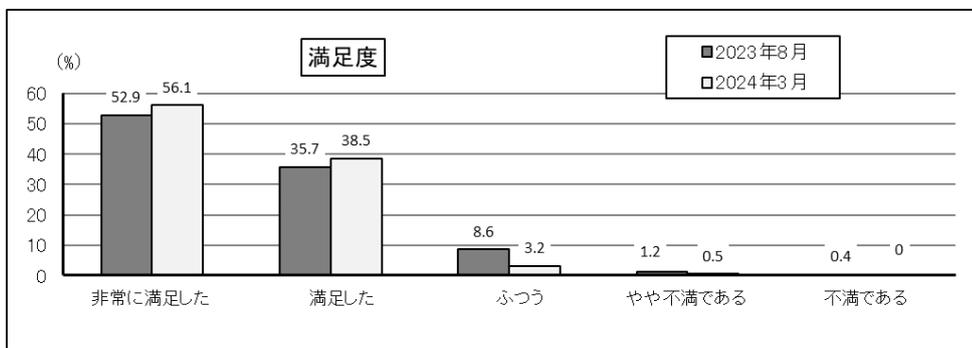
1～3時間程度で利用するとの回答が7～8割と多い。一方で、3時間以上の滞在との回答も1～2割に上る。1時間以内の滞在との回答は5%以下である。詳細な検討は別途必要であるが、第一期リニューアルが行われた2016年調査以降、1時間以内の滞在が減少し、4時間以上の滞在が増加した傾向にある。樹間トレイルや大人のディスカバリーなど、楽しみ方が増えたことが影響しているかもしれない。長時間滞在するにあ

たつて必要となる昼食場所やレストランは別項に挙げる「不満に思うこと」において回答が多い項目となっている。



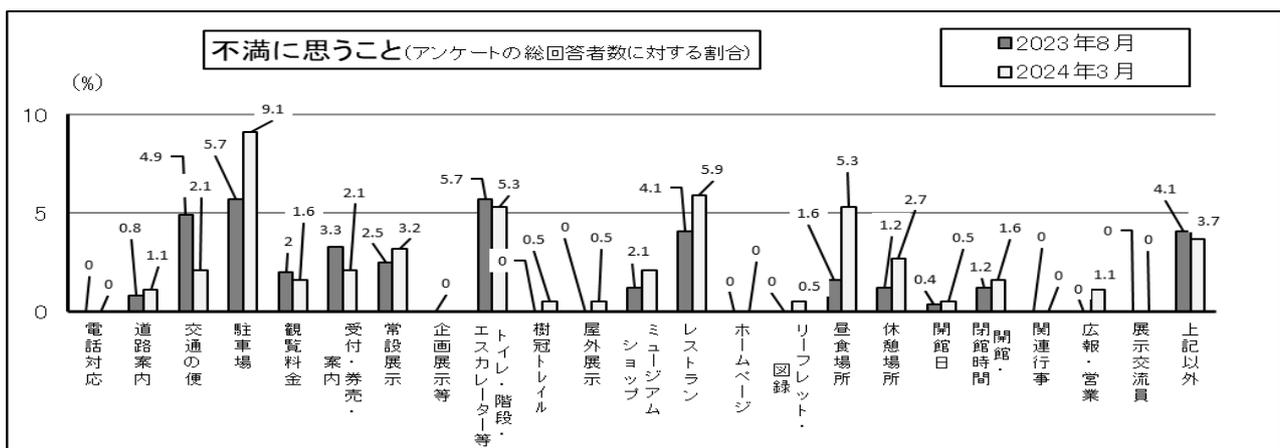
・満足度

「非常に満足した」および「満足した」を合計すると、8月調査で88.6%、9月調査で94.6%と多数を占めるものの、8月調査においては2018年以降最も低い評価となった。トンネル水槽を含む大型水槽の展示中止が影響している可能性が考えられる。



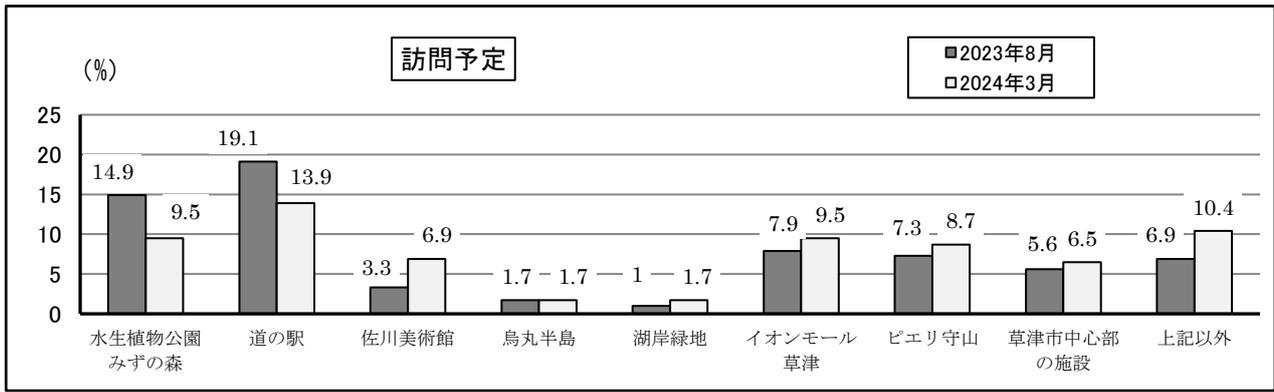
・不満に思うこと

5%以上の人が選択した項目として、駐車場、レストラン、昼食場所、トイレ・階段・エスカレーターがあった。具体的な意見については、別項で挙げる。



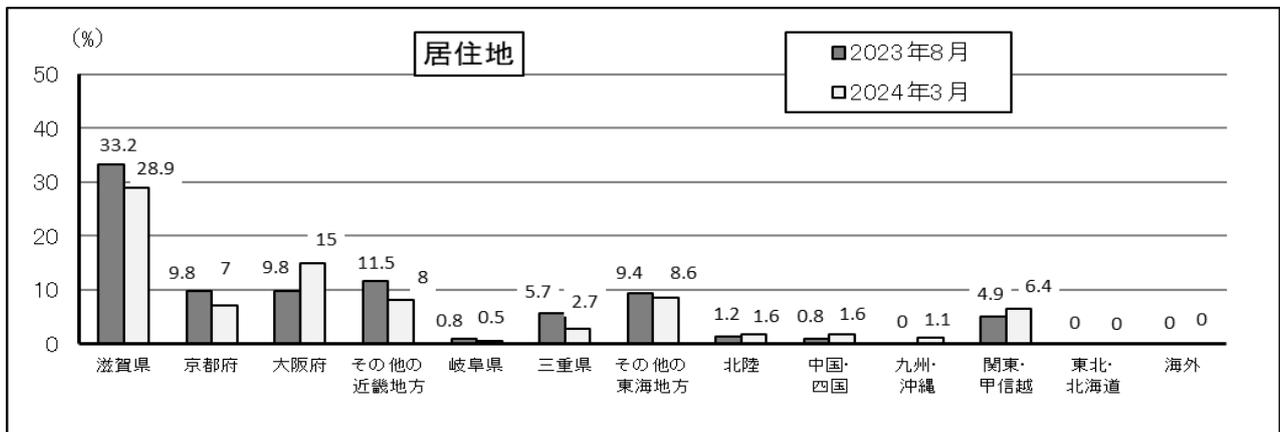
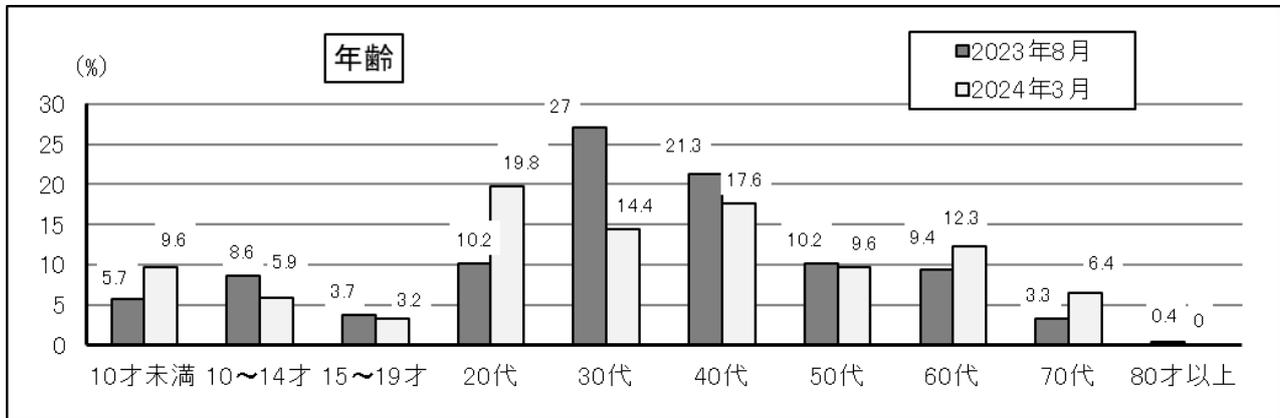
・訪問予定の近隣施設

「水生植物公園みずの森」や「道の駅」が上位であった。



・回答者の属性

回答者の年齢及び居住地は別表のとおりである。なお、令和5年度滋賀県観光統計調査に（総回答数 399）においては、琵琶湖博物館における来訪者の居住地は、滋賀県 39%、大阪府 19%、京都府 11%、愛知県 7%、兵庫県 5%、奈良県 5%となっており、近い傾向を示している。



・その他

自由回答欄には、良かった点をあげる意見が大勢であったが、以下では、今後の博物館運営に活かすため、同様の意見が複数みられた不満点や改善提案についてまとめる。

水槽の復旧：満足度の理由回答欄に「トンネル水そうが見れなくて残念」「水の入っていない水そうがあるのが、そんな気分です」との回答があり、トンネル水槽を含む大型水槽の展示中止が満足度を下げたと回答した来館者がいた。一方で、印象に残ったことの自由回答欄に、「押し企画や、破損を乗り越えての魚たちの救出、展示にみなさんの熱意を感じました」「ナマズ水槽破損後の取組み。イラストの展示。」「水槽がこわれたと聞いて、魚を早く見たいと思ったが、工夫して魚を展示してあり、良かった。」との声があり、

水槽破損以降の経緯の展示や、展示の工夫を感じ取る来館者がいた。また、自由回答欄に、「大水槽が一日も早く復活することをお祈りしています」「すいそうがはやくなおったらいね」「水槽がこわれてしまい、大変だったと思いますが、なまがが無事でよかったですと思います」「水槽復旧、応援しています」といった応援の言葉が多数あった。

駐車場：具体的には、駐車場が遠い点と、駐車場からの入り口までの経路がわかりにくい点が不満の内容として挙げられた。「雨の日は子どもの車のませ下ろしだけでも玄関前の屋根付きスペースでしたいです」との声があった。

レストラン：混雑により待ち時間が長いこと、また、待ち時間にその場にいる必要があること（待ち時間にトイレ等のためにその場にはいない場合にキャンセルとなり最後尾に並びなおしになった）への不満の意見が複数あり、スマホ等で呼んでほしいとの意見があった。

休憩場所：「弁当を食べるスペースが屋外のみ」であり、「暑い時期、室内でお弁当を食べれるエリアがあればいい」との意見があった。ペットボトルの自販機設置や食べ物の販売を望む意見もあった。繁忙日にレストランが混雑しがちであること、館に3時間以上滞在する来館者も増加傾向にあること、近隣に飲食可能な施設が限られること等を踏まえ、昼食休憩を含む休憩場所のあり方については検討が必要とされる。

空調：8月調査において、空調が十分効いておらず館内が暑すぎる、という声が複数あった。

ディスカバリールーム：「ディスカバリールームが面白く、時間があつという間だった」との意見があった。「前みたいに自由に入りたい。」「ディスカバリールームにはみんな入れてほしい。券がなくなって、子どもは入りたのに入れなかった」等、ディスカバリールームの入室に券が必要な事への不満の意見が複数あった。

窓の汚れ：1階アトリウムの大きな窓について、汚れが気になるとの意見が8月調査で複数あった。（「琵琶湖の見えるガラス貼りのところがくもの巣だらけで見苦しい」「窓ガラスのそうじをもっとすると、より良くなると思います。初めて来た時は、教会の様（結婚式をあげる）だと思ったほどでした」「レストラン近くの窓枠（外）とデッキがクモの巣で少し汚いので、客の目につく範囲だけでもざっと清掃していただけたら、より良いです」）

トイレ：トイレの手の乾燥機が使えない、トイレの荷物かけ用のフックの位置が高すぎるので低い位置にもほしい、オムツを捨てたい、トイレ内の子ども椅子からカギに手が届くので上部にカギを設置してほしい（ディスカバ横の女子トイレ）、という意見があった。

受付：「インターネットチケット専用の窓口を作ってほしい。今のままは事前購入の意味がない」との意見があった。混雑時の窓口対応に対する意見と思われる。

その他：0～2歳ころの乳児向けのスペースを望む声があった。（乳児が遊べるスペースが欲しいです。畳スペースをもう少し広くしていただけると嬉しい）「室内で子ども（特に0～2歳）が遊べるスペースがあったら嬉しいです」

3. 滋賀県公式LINEアカウントを通じたアンケート調査

博物館に来館したことのない人も含めて、現在の県民の博物館への認知度を広く把握するため、滋賀県公式LINEアカウントをもちいたアンケート調査を実施した。

滋賀県知事公室広報課県民の声係では、滋賀県公式LINEアカウントのお友達登録者を対象として年に複数回アンケート調査を行っている。2023年度は計8回のアンケートが実施され、博物館のアンケート調査はそのうちの一回で、2023年11月17日（金）～19日（日）の3日間実施された。質問項目は、回答者の居住域、年齢、性別、博物館の認知度、来館回数、博物館の満足度、博物館行事への参加、博物館に訪れたことがない理由、感想等の選択式9項目、記述式1項目の全10項目からなる。本アンケートは滋賀県公式LINEアカウントの登録者の構成が不明のため、それについて考慮する必要がある。

1) 実績

実施期間：2023年11月17日（金）～19日（日）

対象者：滋賀県公式LINEアカウント友だち登録者数（195,200人）

回答者数：11,065人

質問項目：感想等の選択式9項目、記述式1項目の全10項目

問1. お住まいの地域を選んでください。（回答チェックは1つ）

問2. あなたの年齢について教えてください。（回答チェックは1つ）

問3. あなたの性別について教えてください。（回答チェックは1つ）

問4. あなたは琵琶湖博物館を知っていますか。（回答チェックは1つ）

問5. どうやって琵琶湖博物館について学びましたか。（回答チェックはいくつでも）

問6. あなたはこれまでに琵琶湖博物館に何回訪れたことがありますか。（回答チェックは1つ）

問7. 琵琶湖博物館を訪れた感想をお聞かせください。（回答チェックは1つ）

問8. 展示観覧以外の行事に参加したことがありますか。（回答チェックはいくつでも）

問9. 琵琶湖博物館を訪れたことがない理由を教えてください。（回答チェックはいくつでも）

問10. その他、琵琶湖博物館についてご意見があればお聞かせください。

2) 結果

○居住地域（お住まいの地域を選んでください。）：

博物館のある草津市が含まれる湖南地域からの回答数が最も多かった。また、次いで大津地域の回答数が多かった。博物館から比較的離れた地域である湖東、湖北、湖西地域は回答数が少なかった。

○年齢：（あなたの年齢について教えてください。）：

60代と70歳以上が回答の半数近くを占めており、若い年代になるほど、回答数が少なくなった。

○性別：（あなたの性別について教えてください。）

女性の回答数がほぼ6割、男性が約4割であった。

○博物館の認知度：（あなたは琵琶湖博物館を知っていますか。どうやって琵琶湖博物館について知りましたか。）

博物館について認知している方は、97.2%と非常に高かった。博物館について知るきっかけとしては、「家族または知人から聞いた」が最も多く5195件、次いで「インターネット」が1811件であった。「その他」では、「郊外学習で知った」や「小学校の時にいった」などが挙げられていた。

○来館回数（あなたはこれまでに琵琶湖博物館に何回訪れたことがありますか。）：

「2-4回」が最も多く39.0%、次いで「5回以上」が35.2%であった。博物館に複数回訪れたことがある人が70%以上となった。

○博物館の満足度（琵琶湖博物館を訪れた感想をお聞かせください。）：

「やや満足」が最も高く50.8%、次いで、「とても満足」が29.3%であった。満足であるという意見が80%以上であった。

○博物館行事への参加（展示観覧以外の行事に参加したことがありますか。）：

「館内イベント」が最も多く1102件、次いで「セミナー・講座」が404件、「観察会（館外）」が402件であった。

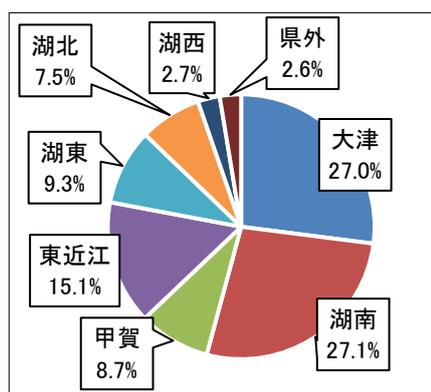
○博物館を訪れたことがない理由（琵琶湖博物館を訪れたことがない理由を教えてください。）：

「具体的な展示内容を知らない」が最も多く510件、次いで「交通手段が不便」が283件であった。「その他」では「興味がないが、行く機会がない」などが挙げられていた。

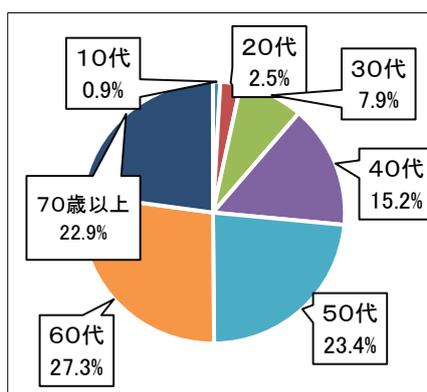
○自由記述（その他、琵琶湖博物館についてご意見があればお聞かせください。）：

意見は、大きく分けて「展示に関わるもの」、「レストランやミュージアムショップに関するもの」、「体験

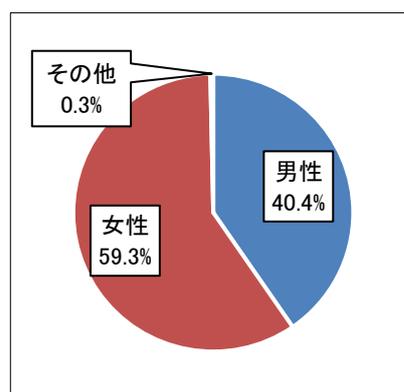
型設備に関するもの」、「情報発信に関するもの」、「イベントに関するもの」が挙げられた。「展示に関わるもの」では、琵琶湖や滋賀県についての展示を増やしてほしいという要望のほか、琵琶湖の固有生物の保全方法に関する展示に関する要望があげられていた。また、特に水族展示について多くの意見が寄せられており、トンネル水槽の展示再開を望む声や、水槽が修理されたら来館したいなどがあった。「レストランやミュージアムショップに関するもの」では、軽食やお弁当が食べられる場所の設置に関する要望や、レストランとミュージアムショップの充実に関する要望が挙げられた。「体験型設備に関するもの」では、生き物とのふれあいコーナーの再開に関する要望、ワークショップに気軽に参加できるような要望が挙げられた。「情報発信に関するもの」では、博物館の魅力をもっと発信してほしいといった要望の他、博物館のイベントの情報を何で知ったらいいかわからないという意見があった。「イベントに関するもの」では、大人でも楽しめるイベントが欲しいという要望の他、アニメとのコラボなどが挙げられていた。



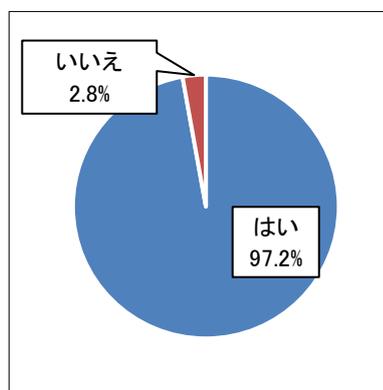
居住地



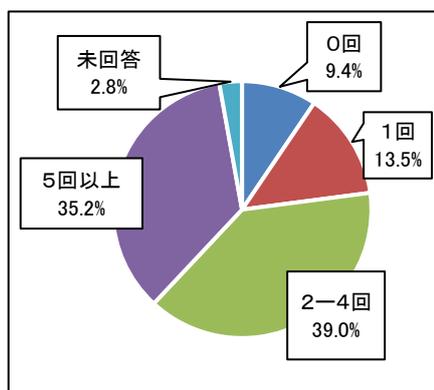
年齢



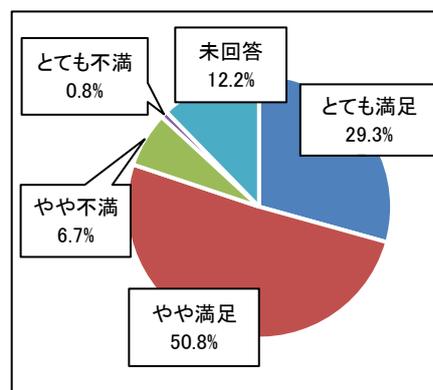
性別



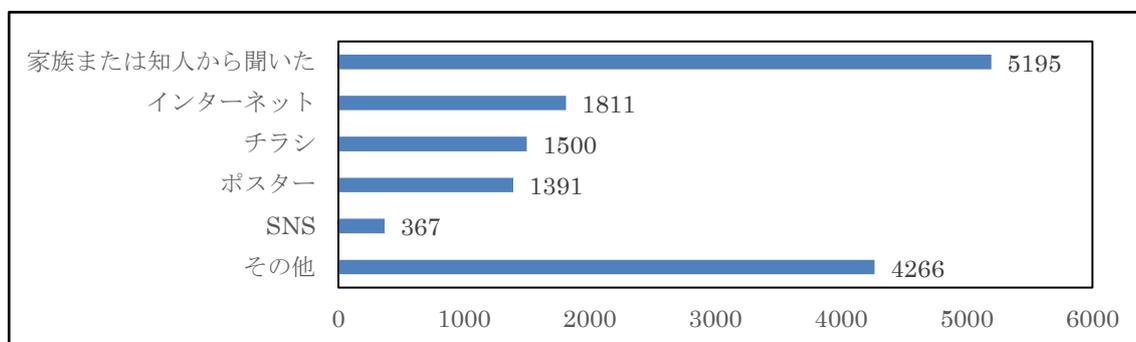
認知度



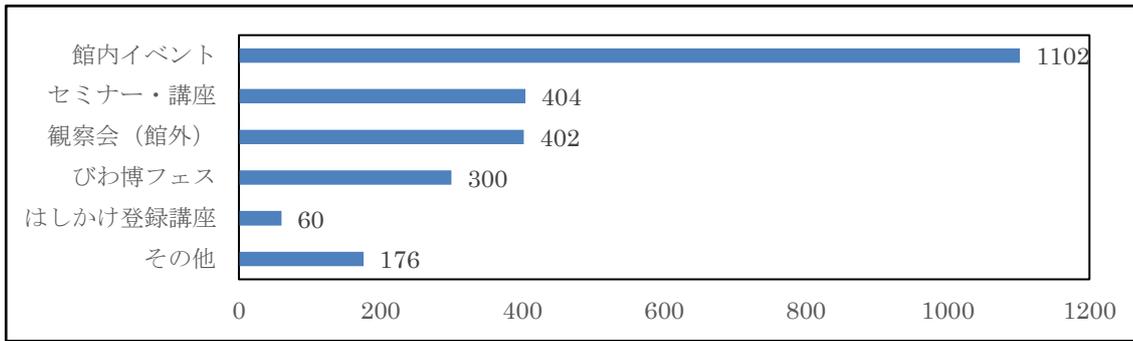
来館回数



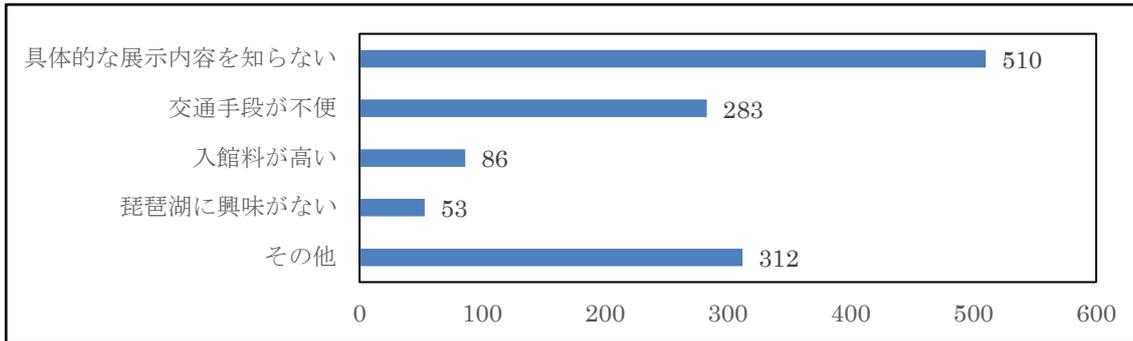
満足度



知ったきっかけ



行事への参加



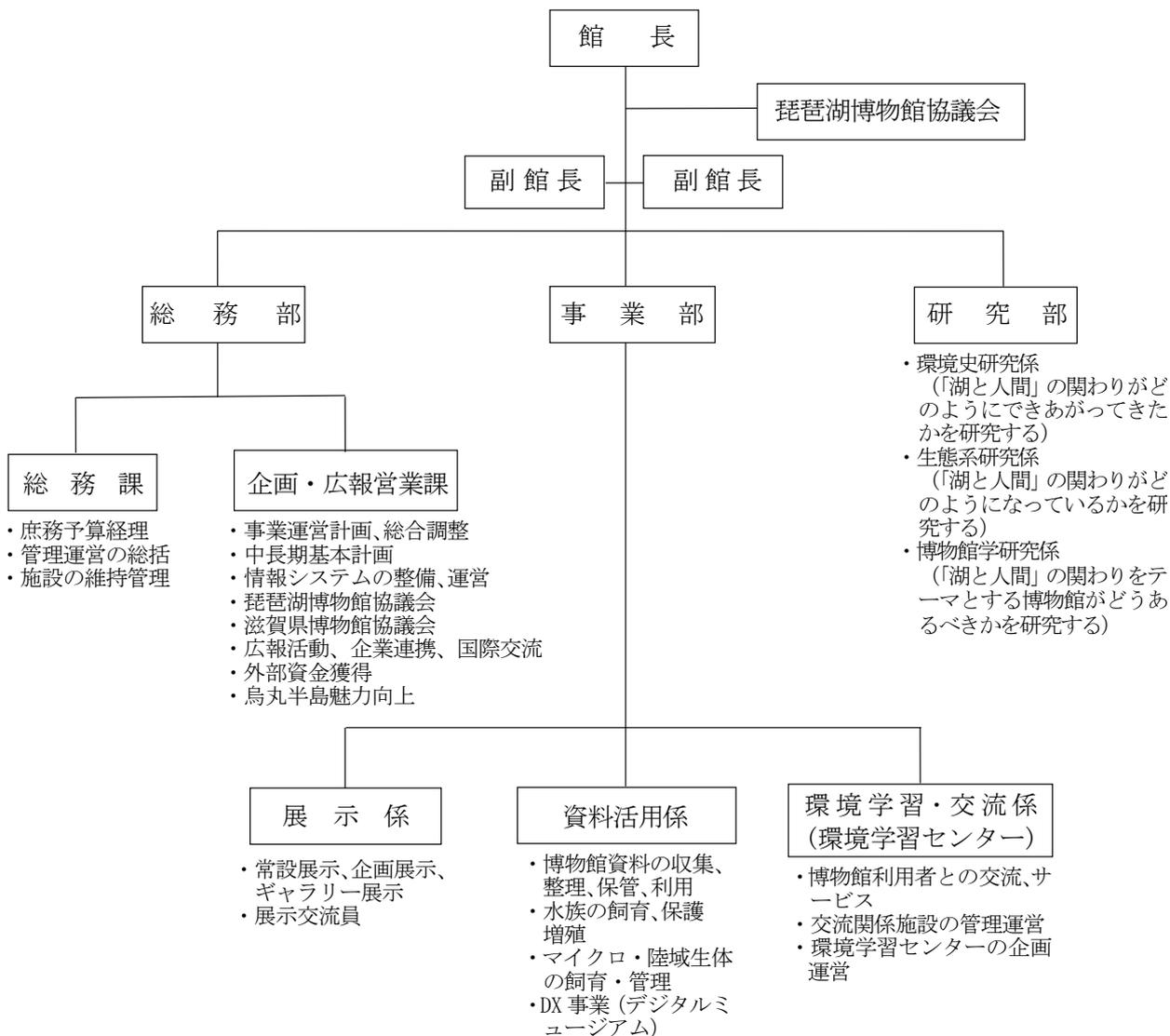
訪れたことがない理由

4. 利用者用施設の整備

全館に上水を供給している受水槽が故障したため、取り換え修繕を行うとともに、配管の破損により使用できなかった水族棟の来館者用トイレの修理を行い、来館者、施設スタッフの快適性の維持向上を図った。貴重な標本等を適切に保管するため、老朽化した冷凍収蔵庫等を更新した。また、老朽化した空調用冷却塔の改修を行い、施設の長寿命化を図った。

Ⅲ 組織および運営

1. 組織



職員構成 (2023年10月1日現在：兼務・併任職員を含む)

区分	館長	行政職	研究職	教育職	小計	会計年度 任用職員	合計
人数(名)	1	8	29	2	40	25	65

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数(名)	25	1	1	1	1	29

2. 職員

(2023年10月1日現在)

○館長	高橋 啓一
○副館長	杲 一哉
○副館長	亀田 佳代子
○上席総括学芸員	山川 千代美
○上席総括学芸員	里口 保文

総務部

○部長(事務取扱) 杲 一哉

◇ 総務課

課長	森 隆太郎
主幹	打田 拓也
副主幹	井関 知子
主任主事	岡本 慎也
主事	桑田 由紀子

◇ 企画・広報営業課

課長(兼)	里口 保文
課長補佐	初宿 文彦
(兼)	ロビン ジェームス スミス
(兼)	中村 久美子
(兼)	大槻 達郎
(兼)	大久保 実香
(兼)	川瀬 成吾
(兼)	島本 多敬
(兼)	半田 直人
(兼)	吉田 保裕

事業部

○部長(兼) 山川 千代美

◇ 展示係

係長(兼)	芦谷 美奈子
(兼)	林 竜馬
(兼)	中川 信次
(兼)	片山 大輔
(兼)	米田 一紀
(兼)	妹尾 裕介
(兼)	菅原 巧太朗

◇ 環境学習・交流係

(環境学習センター)

係長(兼)	楊 平
(兼)	橋本 道範
(兼)	金尾 滋史
(兼)	鈴木 隆仁
(兼)	松岡 由子
主任主事(併任)	安達 克紀
主任主事(併任)	渡邊 俊洋
(兼)	美濃部 諭子
主事	吉田 保裕

◇ 資料活用係

係長(兼)	大塚 泰介
(兼)	榊永 一宏
(兼)	田畑 諒一
(兼)	加藤 秀雄
(兼)	今田 舜介

研 究 部

○部長（兼） 芳賀 裕樹

◇ 環境史研究係

係長	専門学芸員	林 竜馬
	専門学芸員	橋本 道範
	専門学芸員	楊 平
	主任学芸員	大久保 実香
	主任学芸員	妹尾 裕介
	主任学芸員	田畑 諒一
	学芸員	島本 多敬
	学芸員	加藤 秀雄
	学芸員	半田 直人

◇ 博物館学研究係

係長	専門学芸員	金尾 滋史
	専門学芸員	芦谷 美奈子
	主任学芸員	中村 久美子
	主任学芸員	松岡 由子
	(兼)	安達 克紀
	(兼)	渡邊 俊洋
	学芸員	今田 舜介

◇ 生態系研究係

係長	総括学芸員	榎永 一宏
	総括学芸員	芳賀 裕樹
	総括学芸員	大塚 泰介
	専門学芸員	ロビン ジェームス スミス
	専門員（兼）	中川 信次
	主査（兼）	片山 大輔
	主査	米田 一紀
	主任学芸員	鈴木 隆仁
	主任学芸員	大槻 達郎
	主任学芸員	川瀬 成吾
	主任技師（兼）	美濃部 諭子
	学芸技師	菅原 巧太郎

会 計 年 度 任 用 職 員

田中 里美	館長秘書	黒田 正伸	資料標本整理
菊地 さとみ	電話受付・総務事務	小山 勝	資料標本整理
柳田 けいこ	電話受付・総務事務	細川 眞理子	資料標本整理
中山 法子	データ整理・刊行物	山岡 眞澄	資料標本整理
後藤 真帆	イベント情報	高木 成美	図書資料整理
梅村 徹	情報収集	中西 美智子	図書資料整理
山崎 剛	広報・集客	黒川 明	交流事業
横山 泰史	広報・集客	松田 征也	交流事業
中川 優	屋外展示運営	樋上 和史	交流事業
徳本 智美	展示室運営	鵜飼 菜香	環境学習
高部 千裕	展示室運営	武政 廣文	環境学習
高石 清治	展示物維持補修	鷺見 満智子	環境学習
		平野 文子	研究庶務

名誉館長

川那部 浩哉 篠原 徹

名誉学芸員

布谷 知夫 中島 経夫 前畑 政善 用田 政晴 マーク J. グライガー

特別研究員

寺本 憲之 廣石 伸互 柏尾 珠紀 山本 充孝 池田 勝 辻川 智代
天野 一葉 根来 健 今井 一郎 粕谷 健二 桑原 雅之 井内 美郎
増田 敬祐 戸田 孝 中井 克樹 山本 綾美 八尋 克郎 小松原 琢
上中 央子 藤岡 康弘 大久保 卓也 岩木 真穂

3. 決算

2023 年度歳入（博物館調定分） (円)

科目	決算額
使用料及び手数料	143,942,930
財産収入	816,360
諸収入	16,060,139
合計	160,819,429

2023 年度歳出（博物館執行分） (円)

事業名	事業内容	決算額
管理運営費	魅力創造発信、施設維持、設備修繕、烏丸半島整備、事務費、広報営業、企画調整	327,372,563
調査資料収集事業費	研究、資料整備、水族・陸域飼育管理、デジタルミュージアム推進事業	147,379,761
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、水族展示室復旧	148,135,133
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	12,431,097
環境学習推進費	環境学習センター運営	3,256,044
建築総務費	設備修繕	2,407,999
合計		640,982,597

(参考) 2023 年度歳出（建築課執行分） (円)

事業名	事業内容	決算額
管理運営費	本館空調設備改修、別館屋根改修、設計監理	52,189,500
合計		52,189,500

4. 寄付／びわ博サポーター

CSR や SDGs 等の環境保全の取り組みが大きな社会的役割を果たすようになり、これまで博物館においても企業・団体等を重視すべきパートナーと位置づけ、「リニューアルサポーター」や「メンバーシップ」、「水槽サポーター」「樹冠トレイルサポーター」「キャンパスメンバー」等の各制度を運用してきた。

年間 200 件以上の企業・団体訪問を行った結果、149 件 32,013 千円(3 月末申込ベース)という実績を残すことができた。また、対象者への感謝状の贈呈を行った。

寄付など

149件	32,013千円		
琵琶湖博物館応援寄附	20件	10,914千円	
水族展示再生支援寄附	14件	12,050千円	
水槽サポーター	46件	2,973千円	
樹冠トレイルサポーター	6件	600千円	
メンバーシップ	61件	5,270千円	
キャンパスメンバーズ	2件	205千円	

5. 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2023年8月3日(木) 14:30~16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 第三次中長期基本計画における令和4年度事業についての内部評価について

第2回

開催日時 2024年1月30日(火) 14:00~16:00

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 第三次中長期基本計画重点事業計画の見直しについて

第14期委員

(任期：2022年10月13日~2024年8月31日)

氏名	区分	職名
廣瀬 智彦	学校教育	草津市立常盤小学校校長
澤田 隆文	学校教育	米原市立双葉中学校校長
中野 栄美子	社会教育	NPO法人カーボンシンク代表理事
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
荒井 紀子	環境保全	ホテルの学校代表
村上 由美子	文化財保護	京都大学総合博物館研究部資料基礎調査系准教授(考古学)
手島 一宏	学識者	日本放送協会大津放送局局長(2023年6月30日まで)
野瀬 吉信	学識者	産経新聞社大津支局記者(2023年8月21日より)
布谷 知夫	学識者	全日本博物館学会会長 三重県総合博物館特別顧問
中川 毅	学識者	立命館大学 総合科学技術研究機構古気候学研究センター長(教授)
岡田 佳美	その他	(株)コクヨ工業滋賀開発グループ グループリーダー 次長
田淵 千恵子	その他	手話通訳士
遠藤 正一	その他	公募委員
井本 望夢	その他	公募委員

6. 企画・計画等

(1) 琵琶湖博物館第三次中長期基本計画

2021年度から10年の期間を対象として、琵琶湖博物館第三次中長期基本計画をもとに、最終目標を、「多くの人が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく」と設定し、そのために必要な事業目標として、次の6つを上げている。

- 事業目標 1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介
- 事業目標 2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備
- 事業目標 3 みんなで学びあう博物館へ
- 事業目標 4 もっと使いやすい博物館へ
- 事業目標 5 より多くの人が利用する博物館へ
- 事業目標 6 博物館の活動を安定して継続する

10年間の計画のうち、その前半となる5年間は、各事業目標に2つないし3つの重点事業を設定し、5年間の計画を立てて実行している。各年度終了時には、前年度の事業について、内部評価を行ったうえで、琵琶湖博物館協議会委員による外部評価が行われ、内部評価と外部評価および博物館の状況を踏まえて、計画の見直しを行っている。本年度は2022年度事業についての評価を実施し、計画の見直しを行った。その結果は、2022年度事業評価報告書としてまとめ、琵琶湖博物館インターネットページにて公表した。

(2) 水族展示室再生に向けた活動

2023年2月10日の開館時間前に、水族展示室のビワコオオナマズ水槽の破損が見つかった。それを受けて第三者委員会による破損原因調査が行われ、同年9月に報告書が提出された。また、破損後すぐに、展示室のすべての水槽についての安全確認を行い、複数の水槽で補修の必要性が認められたため、それらの水槽は水を抜き、展示していた生き物は別の水槽で展示するなどの対応を行った。また、ビワコオオナマズ水槽や同型のコアユ水槽を覆う壁では、来館者から応援メッセージを頂いて掲示する場所を設けたほか、3期に分けてイラストを募集して展示するなどを行った。

補修が必要であったトンネル水槽や他の水槽の再生を行うため「みんなで作る新水槽」とのクラウドファンディングを立ち上げて実施するなどを行った。

1) 滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会

水族展示室において発生した水槽破損事故に関し、その原因等の調査および今後の点検等安全管理の在り方を検討するために、6名の水族展示および水槽に関する専門家からなる第三者委員会として、2023年3月に設置され、2023年3月に2回の委員会が開催された。2023年度は以下の2回の委員会が実施され、9月1日に第三者委員会委員長より館長へ「滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故原因調査報告書」が提出された。この報告書は、琵琶湖博物館のインターネットページで公開をした。

第3回

- 開催日時 2023年6月7日(水)、13:30~16:00
- 開催場所 琵琶湖博物館セミナー室、水族展示室(現場検証)
- 議 題 破損したビワコオオナマズ水槽の現場検証、他水槽の状況観察
破損原因推定にかかる意見交換

第4回

- 開催日時 2023年8月10日(木)、13:30~16:30
- 開催場所 琵琶湖博物館セミナー室
- 議 題 滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故 原因調査報告書(案)について

(委員)

	氏名	職 / 役職
委員長	岡田 尚憲	日本動物園水族館協会 / 事務局長
副委員長	柴山 勇	株式会社 アクアート / アクアリウムシステム部 取締役 部長
委員	井口 博人	株式会社 VAN アクア・ティール / 代表取締役社長
委員	岡村 信也	一般財団法人日本建築総合試験所 / 技術アドバイザー
委員	中村 英博	エポキシ工業株式会社 / 代表取締役
委員	峰島 靖典	有限会社 富士アクリル工業 / 代表者

2) 水族展示室内での別水槽設置・イラスト展などの対応

ビワコオオナマズ水槽破損後に、すべての水槽について状態の確認を行ったところ、トンネル水槽を含む複数の水槽について修繕が必要なものがあつたため、トンネル水槽などの水槽から水を抜いた。水族展示室で紹介していた生き物の展示や展示室運営による来館者へのサービスを維持するために、別水槽の用意、水族トピック展、水族イラスト展などを開催した。

○別水槽などの用意

以下の魚の展示方法の変更をした。

- ・イタセンパラ、ツチフキ、アユモドキ ⇒ 内湖水槽前
- ・ニッポンバラタナゴ、ヨドゼゼラ ⇒ 内湖水槽前
- ・コアユ ⇒ トンネル水槽前 (12月～3月)
- ・オオクチバス、ブルーギル ⇒ はく製・液浸標本展示
- ・アオバラヨシノボリ、カゼトゲタナゴ (九州集団)、カゼトゲタナゴ (山陽集団)、ウシモツゴ、ヒナモロコ ⇒ 中流域水槽前
- ・アカヒレタビラ、ゼニタナゴ、シナイモツゴ ⇒ 水鳥水槽前
- ・ナイルパーチ ⇒ 液浸標本展示

○水族イラスト展「みんなでつくろう水族展示！水族イラスト展」

当館を応援してくれる人とともに今後の復旧を盛り上げていくために、閉鎖区域付近の空間を活用したイラスト展を実施した。また、プレ展示から第三期まで計画的に実施することにより、冬期の閑散期対策も兼ねることとした。

- ・プレ展示「黒川琉伊君のはじめてのびわこの魚展」

開催期間：2023年6月24日～7月30日

- ・第1期「琵琶湖の魚」

応募期間：2023年7月1日～7月26日

開催期間：2023年8月1日～10月29日

イラスト応募数：47名48点

- ・第2期「みんなが見たいびわ博水槽」

応募期間：2023年9月20日～10月20日

開催期間：2023年10月31日～1月21日

イラスト応募数：30名31点

- ・第3期「守りたい水辺の生き物」

応募期間：2023年12月20日～2024年1月19日

開催期間：2024年1月27日～4月7日

イラスト応募数：56名 57点

○水族トピック展「水族飼育員推し魚から見る琵琶湖と周辺の生き物たち」

水族飼育員の推しの魚を展示。展示パネルも飼育員が自ら手掛け、来館者に推し愛を伝えた。

開催期間：2023年5月9日～2023年9月3日

○「思い思いのカラーで彩ろう！塗り絵・イラスト展示室」

水族イラスト展を盛り上げる一環として塗り絵を行い、トンネル水槽、ビワコオオナマズ水槽やコアユ水槽の復旧に向けた応援者を増やすことを目的とした。

開催期間：2023年9月9日～2024年4月7日

○応援メッセージコーナー

トンネル水槽、ビワコオオナマズ水槽やコアユ水槽の復旧に向けた応援者を増やすことを目的として設置した。

開催期間：2023年8月1日～（開催中）

メッセージ総数（2024年3月31日現在）：4,913件

3) クラウドファンディング

応援してくださる多くの方々とともに、水族展示室の再生を行うためにクラウドファンディングを実施した。2023年度は10個の水槽の亚克力交換が必要だったが、そのうち最も水槽の規模が大きい「トンネル水槽」のドーム型小窓の亚克力交換費用の約半額を目標金額とした。

タイトル：「水族展示復活へ！トンネル水槽再生にご支援を | 琵琶湖博物館【第1弾】」

期間：2023年11月15日10:00～2024年1月31日23:00

支援者数：累計796人

支援金額：11,593,000円

対応：寄附受領証明書の作成・発送、特別感謝状や体験型の返礼（実施中）

返礼の内容：特別デスクトップ壁紙の調整、特別感謝状（お魚ポスター特別版・よみがえれ！日本の淡水魚）作成・発送、トンネル水槽特別内覧会の調整、保護増殖センターツアー・水族一通りツアーの調整・実施、学芸員の研究体験（プランクトン）の調整・実施、博物館オンラインツアー展示解説編・コレクション編の調整、学芸員による展示室のDEEP解説B展示室・C展示室、水族展示室・屋外展示の調整・実施、館長ツアー・副館長ツアーの調整・実施

4) 水族展示再生支援寄附

クラウドファンディングとは別の形で、企業や個人の方々から水族展示再生に向けた支援の制度として、従来行っている博物館の活動支援寄附とは別の制度として令和5年度から実施した。支援いただいた企業や個人の方々のお名前については、水族展示室出口付近に掲出させていただいた。

支援件数：14件

支援金額：1,205万円

琵琶湖博物館 年報
第 28 号 2023 年度（令和 5 年度）

2024 年 7 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地

電話 077-568-4811